財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第368集

横壁中村遺跡（3）

八ッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第7集

2006

国　土　交　通　省
財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

第368集「横壁中村遺跡(3)」正誤表

１９０頁　29区2号住居土器観察表

誤		正
遺物番号１１の観察	→	29区1号住居遺物番号１０の観察
遺物番号１２の観察	→	29区1号住居遺物番号１１の観察

横壁中村遺跡（3）

八ッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第７集

２００６

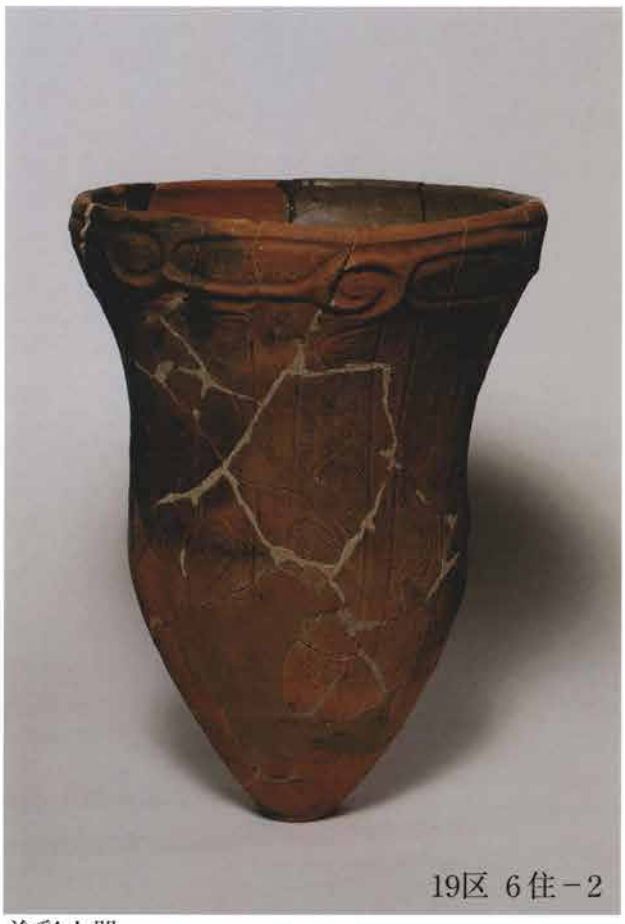
国　土　交　通　省
財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

18区 10住－1

19区 7住－1

19区 10住－9

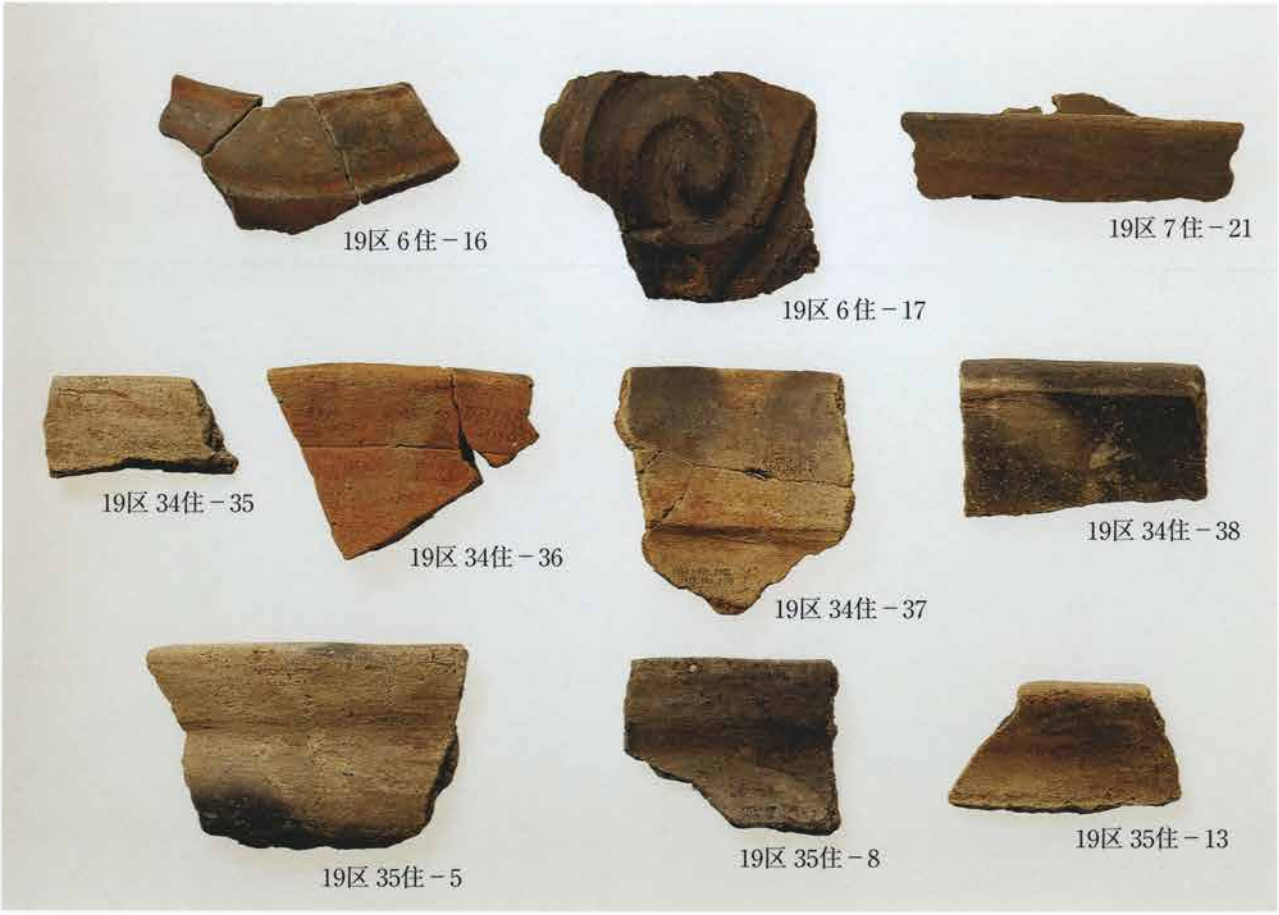
19区 10住－14


19区 6住－2

19区 4住－1

19区 34住－1

塗彩土器



序

八ツ場ダムは、首都圏の利水および治水を目的として計画され、現在は吾妻郡長野原町を中心に工事が進められています。

八ツ場ダムの建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査は、当事業団が平成６年度から実施し、本年度で12年目を迎えます。横壁中村遺跡は平成８年度から発掘調査が開始され、平成18年度以降も調査の継続が予定されており、長期にわたる大規模な調査となりました。また調査された遺構や遺物は本遺跡が縄文時代を中心とする、非常に大きく、また長く続いた集落であることを示しております。これら膨大な資料を整理し報告する作業は平成15年度から開始され、今回は縄文時代中期の住居跡50軒に関する報告を纏めることができました。本書は縄文時代の集落の構造を考える上で、また長野県、新潟県地域との広域な交流を考える上で重要な資料となると考えております。

発掘調査から報告書刊行に至るまで、国土交通省八ツ場ダム工事事務所、群馬県教育委員会、および長野原町教育委員会をはじめとする関係機関や地元関係者のみなさまには、多大なるご尽力を賜りました。本報告書を上梓するにあたり、衷心より感謝申し上げます。

また本書が吾妻郡内、ひいては群馬県の歴史を解明する上で末永く活用されることを願い序といたします。

平成18年２月

財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長　高　橋　勇　夫

例言

1　本書は、八ツ場ダム建設工事に伴う事前調査として、平成８年度から実施されている「横壁中村遺跡」の発掘調査報告書である。横壁中村遺跡の発掘調査報告書は財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第319集『久々戸遺跡・中棚Ⅱ遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡』として既に刊行されており、天明泥流堆積物下の遺構が報告されている。

本書は横壁中村遺跡18、19、29、30区で検出された縄文時代中期竪穴住居50軒を取り扱っており、横壁中村遺跡の発掘調査報告書３冊目である。

2　横壁中村遺跡は群馬県吾妻郡長野原町大字横壁字観音堂530他に所在し、長野原町教育委員会と協議の結果、本遺跡名が決定された。

3　本発掘調査は、群馬県教育委員会の調整に基づき、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が国土交通省（平成13年１月までは建設省）の委託を受けて実施した。実際の調査において、平成14年度からは財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団内に八ツ場ダム地域埋蔵文化財調査を目的に設置された八ツ場ダム調査事務所が担当した。

4　調査期間は平成８年４月１日から平成17年12月22日であるが、平成18年度以降も調査は継続する見込みである。今回報告する住居の調査年度は、第１章第１節内で住居ごとに記載しているが、平成９～11、13～15年度に調査されたものである。

5　発掘調査組織は下記の通りである。

（１）発掘調査担当者

平成８年度　主幹兼専門員　綿貫邦男、専門員　榛沢健二、主任調査研究員　関俊明

平成９年度　主幹兼専門員　小野和之、専門員　榛沢健二、主任調査研究員　関俊明、調査研究員　松原孝志

平成10年度　主幹兼専門員　小野和之、専門員　児島良昌、主任調査研究員　関俊明、調査研究員　松原孝志

平成11年度　主幹兼専門員　藤巻幸男、主任調査研究員　関俊明、調査研究員　松原孝志、久保学、石田真

平成12年度　主幹兼専門員　藤巻幸男、専門員　田村公夫、主任調査研究員　関俊明、調査研究員　松原孝志、久保学、石田真、小林大悟

平成13年度　主幹兼専門員　藤巻幸男、主任調査研究員　渡辺弘幸、池田政志、調査研究員　石坂聡、諸田康成、斎藤幸男

平成14年度　主幹兼専門員　藤巻幸男、専門員　池田政志、主任調査研究員　岡部豊、松原孝志、阿久津聡、唐沢友之、調査研究員　石田真

平成15年度　専門員　藤巻幸男、廣津英一、渡辺弘幸、池田政志、主任調査研究員　阿久津聡、唐沢友之、調査研究員　石田真

平成16年度　専門員　渡辺弘幸、主任調査研究員　阿久津聡

平成17年度　専門員　原雅信、金井武、今井和久、関俊明、調査研究員　山川剛史

（２）事務担当者

平成８年度　理事長　小寺弘之、常務理事　菅野清、事務局長　原田恒弘、管理部長　蜂巣実、

調査研究第１部長　赤山容造、調査研究第２課長　岸田治男、総務課長　小渕淳、総務課総務係長　笠原秀樹、経理係長　国定均、主任　須田朋子、吉田有光、柳岡良宏、主事　宮崎忠司

平成９年度　理事長　小寺弘之、常務理事　菅野清、事務局長　原田恒弘、副事務局長兼調査研究第１部長　赤山容造、管理部長　渡辺健、調査研究第２課長　能登健、総務課長小渕淳、総務課総務係長　笠原秀樹、経理係長　井上剛、主任　須田朋子、吉田有光、柳岡良宏、主事　岡島伸昌、宮崎忠司

平成10年度　理事長　菅野清、常務理事兼事務局長兼調査研究第１部長　赤山容造、管理部長　渡辺健、調査研究第２課長　能登健、総務課長　坂本敏夫、総務課総務係長　笠原秀樹、経理係長　小山建夫、係長代理　須田朋子、主任　吉田有光、柳岡良宏、岡島伸昌、主事　宮崎忠司

平成11年度　理事長　小野宇三郎、常務理事兼事務局長　赤山容造、管理部長　住谷進、調査研究第１部長　神保侑史　調査研究第１課長　能登健、総務課長　坂本敏夫、総務課総務係長　笠原秀樹、経理係長　小山建夫、係長代理　須田朋子、吉田有光、主任　柳良宏、岡島伸昌、主事　片岡徳雄

平成12年度　理事長　小野宇三郎、常務理事兼事務局長　赤山容造、管理部長　住谷進、調査研究第２部長　能登健、調査研究第５課長　飯島義雄、総務課長　坂本敏夫、総務課総務係長　笠原秀樹、経理係長　小山建夫、係長代理　須田朋子、吉田有光、主任　柳岡良宏、森下弘美、主事　片岡徳雄

平成13年度　理事長　小野宇三郎、常務理事　吉田豊、事務局長　赤山容造、管理部長　住谷進、調査研究部長　能登健、調査研究第４課長　下条正、総務課長　大島信夫、総務課総務係長　笠原秀樹、経理係長　小山建夫、係長代理　須田朋子、吉田有光、森下弘美、主事　片岡徳雄

平成14年度　理事長　小野宇三郎、常務理事　吉田豊、事業局長　神保侑史、管理部長　萩原利通、八ツ場ダム調査事務所長　水田稔、調査研究部長　津金澤吉茂、調査研究課長　下条正、庶務係長　野口富太郎、主事　矢嶋知恵子

平成15年度　理事長　小野宇三郎、常務理事　住谷永市、事業局長　神保侑史、管理部長　萩原利通、八ツ場ダム調査事務所長　水田稔、調査研究部長　津金澤吉茂、調査研究課長　斎藤和之、庶務係長　野口富太郎、主事　丸山知恵子

平成16年度　理事長　小野宇三郎、常務理事　住谷永市、事業局長　神保侑史、管理部長　矢崎俊夫、八ツ場ダム調査事務所長　巾隆之、調査研究部長　佐藤明人、調査研究課長　斎藤和之、庶務係長　野口富太郎、主事　富沢よねこ

平成17年度　理事長　小野宇三郎（７月まで）、高橋勇夫（７月から）、常務理事　木村裕紀、事業局長　津金澤吉茂、管理部長　矢崎俊夫、八ツ場ダム調査事務所長　巾隆之、調査研究部長兼整理課長　佐藤明人、調査研究課長　中沢悟、庶務係長　町田文雄、主事　富沢よねこ

6　整理期間は平成16年４月１日から平成17年12月31日である。

7　整理組織は下記の通りである。

（1）整理担当者

平成16、17年度　専門員　池田政志

（2）事務担当者は発掘調査組織と同一である。

8　本報告書作成の担当

編　　集　池田政志

本文執筆　池田政志

石材鑑定　渡辺弘幸

遺構写真撮影　各調査担当者

遺物写真撮影　佐藤元彦

機械実測　富沢スミ江　伊東博子　岸弘子　廣津真希子　田所順子

委託関係　遺構測量および空中写真　株式会社測研

遺構図デジタル編集　株式会社測研

整理補助　平成16年度　水出園江　吉澤新二郎　岡田隆行　茂木恵理子　武藤裕子　霜田順子

平成17年度　新山保和　足立やよい　篠原麻衣　霜田順子　宮沢直樹　湯本よし子

9　本報告書では群馬・埼玉両県教育委員会教育長が取り交わした「埋蔵文化財保護の協力に関する協定書」に基づき、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が八ツ場ダム建設工事に伴う横壁中村遺跡埋蔵文化財整理事業を担当している。

埼玉県埋蔵文化財調査事業団における担当者は、主席調査員　金子直行である。

10　出土遺物及び記録図・写真などの記録類は、すべて群馬県埋蔵文化財センターで保管している。

11　発掘調査及び本書の作成にあたっては、次の機関、諸氏から貴重なご教示やご指導をいただいた。記して感謝の意を表したい。（敬称省略、五十音順）

国土交通省関東地方建設局八ツ場ダム工事事務所、群馬県教育委員会文化課、長野原町教育委員会

飯島義雄　石田真　大竹幸恵　金子直行　小池岳史　佐藤雅一　白石光男　寺内隆夫　富田孝彦

能登健　萩原昭朗　平林彰　福島永　松島榮治　綿田弘実　渡辺清志

凡例

- 挿図中に使用した方位は、座標北を表している。本書で使用する測量図の座標はすべて、2002年４月改正以前の日本測地系を用いている。
- 遺構図の縮尺については、住居の全体にかかる図は１/60、住居内の炉等、個別の図は１/30である。
- 遺構番号は、調査時の番号を用いている。今回の報告は、縄文時代中期の竪穴住居を対象としているため、遺構番号は連続しない。また、発掘調査中、整理作業中に住居と認定できないものもあり、これらも欠番としている。
- 遺構図面中における遺物番号は遺物実測図の番号と一致する。また、●は土器、▲は石器の出土位置を表しており、図示した遺物でこの表示のない遺物、遺構図中に番号のない遺物は出土位置を記録しなかったものである。
- 遺物図の縮尺は土器実測図は１/４、土器拓本は１/３、石器１/３を原則としたが、これ以外の縮尺を用いている場合も多い。その場合は各遺物実測図に記したので参照していただきたい。
- 写真図版中の遺物の縮尺は、概ね遺物実測図と同縮尺とした。
- 遺物観察表、石器計測表の記載方法は下記の通りである。
  （１）土器の計測値の単位は㎝である。
  （２）石器の計測値の単位は㎜である。
  （３）石器類の重量はすべて残存値であり、単位はｇである。
  （４）色調については、農林水産省水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修の新版標準土色帖に基づいている。
- 石器実測図における白抜き部は、磨り面を表す。

目　次

序
例言
凡例
目次
挿図目次
図版目次
表目次

序章

第１節　調査に至る経緯 …… 1
第２節　調査の経過 …… 1
第３節　調査の方法 …… 4
第４節　遺跡の環境
（１）地理的環境 …… 4
（２）歴史的環境 …… 5
第５節　遺跡の概要 …… 11
第６節　基本土層 …… 12

第１章　発見された遺構と遺物

第１節　住居 …… 13
第２節　遺構図 …… 33
第３節　遺物図 …… 82
第４節　遺物観察表 …… 161
第５節　遺構土層説明 …… 195

抄録

写真図版

挿図目次

第 1 図　年度別調査区全体図
第 2 図　遺跡位置及び周辺遺跡図
第 3 図　横壁中村遺跡全体図
第 4 図　基本土層図
第 5 図　住居出土土器集計グラフ
第 6 図　18区　住居全体図
第 7 図　19区　住居全体図
第 8 図　29区　住居全体図
第 9 図　30区　住居全体図
第10図　18区　4号住居（1）
第11図　18区　4号住居（2）・5号住居（1）
第12図　18区　5号住居（2）
第13図　18区　8号住居（1）
第14図　18区　8号住居（2）
第15図　18区　10号住居
第16図　18区　17号住居（1）
第17図　18区　17号住居（2）
第18図　18区　18号住居
第19図　18区　22号住居・23号住居
第20図　19区　1号住居
第21図　19区　4号住居
第22図　19区　6号住居（1）
第23図　19区　6号住居（2）
第24図　19区　7号住居・18号住居
第25図　19区　7号住居
第26図　19区　8号住居
第27図　19区　9号住居（1）
第28図　19区　9号住居（2）
第29図　19区　10号住居（1）
第30図　19区　10号住居（2）
第31図　19区　14号住居
第32図　19区　16号住居
第33図　19区　17号住居
第34図　19区　19号住居・20号住居
第35図　19区　22号住居
第36図　19区　23号住居
第37図　19区　25号住居・26号住居
第38図　19区　29号住居
第39図　19区　30号住居
第40図　19区　34号住居
第41図　19区　35号住居
第42図　19区　38号住居・39号住居
第43図　19区　41号住居
第44図　19区　42号住居
第45図　19区　43号住居・46号住居
第46図　19区　47号住居
第47図　19区　51号住居
第48図　29区　1号住居・2号住居
第49図　29区　12号住居・15号住居
第50図　29区　16号住居・19号住居
第51図　29区　20号住居・22号住居
第52図　30区　26号住居・27号住居
第53図　30区　28号住居
第54図　30区　31号住居・37号住居
第55図　18区　4号住居出土遺物
第56図　18区　4号住居出土遺物
第57図　18区　4号、5号住居出土遺物
第58図　18区　8号住居出土遺物
第59図　18区　8号住居出土遺物
第60図　18区　8号住居出土遺物
第61図　18区　10号住居出土遺物
第62図　18区　10号住居出土遺物
第63図　18区　17号住居出土遺物
第64図　18区　17号住居出土遺物
第65図　18区　17号住居出土遺物
第66図　18区　17号住居出土遺物
第67図　18区　18号住居出土遺物
第68図　18区　18号住居出土遺物
第69図　18区　22号住居出土遺物
第70図　18区　23号住居出土遺物
第71図　19区　1号住居出土遺物
第72図　19区　1号、4号住居出土遺物
第73図　19区　4号住居出土遺物
第74図　19区　6号住居出土遺物
第75図　19区　6号住居出土遺物
第76図　19区　6号住居出土遺物
第77図　19区　6号住居出土遺物
第78図　19区　7号住居出土遺物
第79図　19区　7号住居出土遺物
第80図　19区　7号住居出土遺物
第81図　19区　7号、8号住居出土遺物
第82図　19区　9号住居出土遺物
第83図　19区　9号住居出土遺物
第84図　19区　10号住居出土遺物
第85図　19区　10号住居出土遺物
第86図　19区　10号住居出土遺物
第87図　19区　10号住居出土遺物
第88図　19区　10号住居出土遺物
第89図　19区　10号住居出土遺物
第90図　19区　14号、16号住居出土遺物
第91図　19区　17号、18号住居出土遺物
第92図　19区　19号、20号住居出土遺物
第93図　19区　22号住居出土遺物
第94図　19区　23号、25号住居出土遺物
第95図　19区　26号住居出土遺物
第96図　19区　29号住居出土遺物
第97図　19区　29号住居出土遺物
第98図　19区　30号住居出土遺物
第99図　19区　30号住居出土遺物
第100図　19区　30号住居出土遺物
第101図　19区　30号住居出土遺物
第102図　19区　30号住居出土遺物
第103図　19区　34号住居出土遺物
第104図　19区　34号住居出土遺物
第105図　19区　34号住居出土遺物
第106図　19区　34号住居出土遺物
第107図　19区　34号、35号住居出土遺物
第108図　19区　35号住居出土遺物
第109図　19区　35号住居出土遺物
第110図　19区　35号住居出土遺物
第111図　19区　35号住居出土遺物
第112図　19区　35号住居出土遺物
第113図　19区　38号、39号、41号住居出土遺物
第114図　19区　41号住居出土遺物
第115図　19区　41号、42号住居出土遺物
第116図　19区　42号住居出土遺物
第117図　19区　43号、46号住居出土遺物
第118図　19区　46号、47号住居出土遺物
第119図　19区　47号、51号住居出土遺物
第120図　29区　1号、2号住居出土遺物
第121図　29区　12号住居出土遺物
第122図　29区　12号住居出土遺物

第123図　29区　15号、16号住居出土遺物
第124図　29区　16号住居出土遺物
第125図　29区　19号、20号住居出土遺物
第126図　29区　22号住居出土遺物
第127図　29区　22号住居出土遺物
第128図　30区　26号、27号住居出土遺物
第129図　30区　27号住居出土遺物
第130図　30区　28号住居出土遺物
第131図　30区　28号、31号住居出土遺物
第132図　30区　37号住居出土遺物
第133図　18区　8号住居　19区　20号、34号、47号住居出土遺物

図版目次

ＰＬ１　1　18区　４号住居全景（東から）
2　18区　４号住居遺物出土状況（北から）
3　18区　４号住居炉全景（南から）
4　18区　４号住居１号埋甕検出状況（西から）
5　18区　４号住居２号埋甕検出状況（西から）
ＰＬ２　1　18区　５号住居全景（南西から）
2　18区　５号住居検出状況（南西から）
3　18区　５号住居堀り方（南から）
4　18区　５号住居１号炉検出状況（西から）
5　18区　５号住居１号炉全景（南西から）
6　18区　５号住居２号炉全景（北東から）
7　18区　５号住居２号炉全景（南東から）
8　18区　５号住居３号炉全景（南から）
ＰＬ３　1　18区　８号住居全景（南東から）
2　18区　８号住居内16号土坑（北から）
3　18区　８号住居炉全景（北から）
4　18区　８号住居１号埋甕検出状況（東から）
5　18区　８号住居１号埋甕セクション（南から）
ＰＬ４　1　18区　10号住居全景（東から）
2　18区　10号住居遺物・礫出土状況（南から）
3　18区　10号住居遺物出土状況（東から）
4　18区　10号住居遺物出土状況（東から）
5　18区　10号住居遺物出土状況（東から）
6　18区　10号住居遺物出土状況（北から）
7　18区　10号住居堀り方全景（東から）
8　18区　10号住居炉全景及び遺物出土状況（北から）
ＰＬ５　1　18区　17号住居全景（南から）
2　18区　17号住居確認状況（南東から）
3　18区　17号住居遺物出土状況（南から）
4　18区　17号住居堀り方全景（東から）
5　18区　17号住居堀り方全景（南西から）
ＰＬ６　1　18区　17号住居埋設土器出土状況（西から）
2　18区　17号住居石囲い炉（東から）
3　18区　17号住居埋設土器出土状況（西から）
4　18区　17号住居炉内埋甕近接（南から）
5　18区　18号住居全景（東から）
ＰＬ７　1　18区　18号住居遺物出土状況（南東から）
2　18区　18号住居遺物出土状況（南東から）
3　18区　18号住居石囲い炉全景（東から）
4　18区　18号住居炉堀り方全景（北から）
5　18区　22号住居全景（北から）
ＰＬ８　1　18区　22号住居礫出土状況（北から）
2　18区　22号住居遺物出土状況（北から）
3　18区　22号住居調査状況（北西から）
4　18区　22号住居石囲い炉全景（北から）
5　18区　23号住居全景（北から）
6　18区　23号住居炉全景（南西から）
7　18区　23号住居炉検出状況（南から）
8　18区　23号住居炉全景（南西から）
ＰＬ９　1　19区　１号住居全景（東から）
2　19区　１号住居遺物出土状況（南から）
3　19区　１号住居炉遺物出土状況（北東から）
4　19区　４号住居全景（南から）
5　19区　４号住居生活面（北から）
ＰＬ10　1　19区　４号住居全景（北から）
2　19区　４号住居礫出土状況（北から）
3　19区　４号住居出土土器（北から）
4　19区　４号住居炉全景（東から）
5　19区　６号住居遺物出土状況（北から）
ＰＬ11　1　19区　６号住居全景（北から）
2　19区　６号住居堀り方全景（北東から）
3　19区　６号住居炉全景（南から）
4　19区　６号住居埋甕セクション（北から）
5　19区　６号住居遺物（近撮）
ＰＬ12　1　19区　７号住居全景（南から）
2　19区　７号住居礫・遺物出土状況（東から）
ＰＬ13　1　19区　７号住居遺物出土状況（西から）
2　19区　７号住居礫出土状況（東から）
3　19区　７号住居遺物出土状況（南から）
4　19区　７号住居炉確認状況（北から）
5　19区　７号住居炉全景（南から）
6　19区　７号住居石組検出状況（南から）
7　19区　８号住居全景（北から）
8　19区　８号住居炉堀り方セクションＥＰＡ（北から）
ＰＬ14　1　19区　９号住居遺物出土状況（北から）
2　19区　９号住居確認状況（東から）
3　19区　９号住居遺物出土状況（北から）
4　19区　９号住居遺物出土状況（北から）
5　19区　９号住居炉全景（南から）
ＰＬ15　1　19区　10号住居生活面（北から）
2　19区　10号住居遺物出土状況（北から）
3　19区　10号住居遺物出土状況（南東から）
4　19区　10号住居貼床断ち割り状況（北から）
5　19区　10号住居炉全景（西から）
ＰＬ16　1　19区　14号住居全景（北から）
2　19区　14号住居遺物出土状況（北から）
3　19区　14号住居炉全景（北西から）
4　19区　16号住居堀り方全景（東から）
5　19区　16号住居炉全景（東から）
ＰＬ17　1　19区　17号住居全景（東から）
2　19区　17号住居配石確認状況（南東から）
3　19区　17号住居埋没土断面（南東から）
4　19区　17号住居壁石（東から）
5　19区　17号住居炉全景（東から）
ＰＬ18　1　19区　18号住居全景（北西から）
2　19区　18号住居遺物出土状況（北から）
3　19区　18号住居遺物出土状況（北から）
4　19区　18号住居ＥＰ・Ｄライン貼床セクション東端（南から）
5　19区　18号住居遺物出土状況（北から）
ＰＬ19　1　19区　19号住居遺物出土状況（北から）
2　19区　19号住居堀り方全景（北から）
3　19区　20号住居全景（北から）
4　19区　20号住居遺物出土状況（南から）
5　19区　20号住居炉全景（南から）
ＰＬ20　1　19区　22号住居全景（手前は20号住居）（北から）
2　19区　22号住居遺物出土状況（南から）
3　19区　22号住居炉検出状況（西から）
4　19区　22号住居炉遺物出土状況（南から）
5　19区　22号住居炉全景（西から）

ＰＬ21	1	19区	23号住居全景（北から）
	2	19区	23号住居全景（北西から）
	3	19区	23号住居堀り方全景（東から）
	4	19区	23号住居炉使用面（北から）
	5	19区	23号住居埋設土器出土状況（東から）
ＰＬ22	1	19区	25号住居全景（南から）
	2	19区	25号住居使用面全景（北から）
	3	19区	25号住居Ｐｉｔ確認状況（東から）
	4	19区	25号住居炉使用面全景（北から）
	5	19区	25号住居炉使用面（東から）
ＰＬ23	1	19区	26号住居全景（南から）
	2	19区	26号住居礫出土状況（北から）
	3	19区	26号住居遺物出土状況（南から）
	4	19区	26号住居セクション（北から）
	5	19区	29号住居全景（南東から）
ＰＬ24	1	19区	29号住居礫埋没状況（南から）
	2	19区	29号住居検出状況（北から）
	3	19区	29号住居炉使用面全景（南西から）
	4	19区	29号住居堀り方全景（南東から）
	5	19区	29号住居石組み全景（東から）
ＰＬ25	1	19区	30号住居全景（東から）
	2	19区	30号住居検出状況（南から）
	3	19区	30号住居遺物出土状況（東から）
	4	19区	30号住居炉確認状況（南から）
	5	19区	30号住居作業風景（東から）
ＰＬ26	1	19区	34号住居全景（南東から）
	2	19区	34号住居遺物出土状況（南東から）
ＰＬ27	1	19区	34号住居検出状況（北西から）
	2	19区	34号住居遺物出土状況（南東から）
	3	19区	34号住居遺物出土状況（南から）
	4	19区	34号住居遺物出土状況（北から）
	5	19区	34号住居埋甕検出状況（北東から）
	6	19区	34号住居柱穴２セクション（西から）
	7	19区	34号住居炉全景（南東から）
	8	19区	34号住居炉堀り方セクション（南東から）
ＰＬ28	1	19区	35号住居全景（東から）
	2	19区	35号住居遺物出土状況（南東から）
	3	19区	35号住居遺物出土状況（南東から）
	4	19区	35号住居遺物出土状況（東から）
	5	19区	35号住居炉全景（東から）
ＰＬ29	1	19区	38号住居全景（西から）
	2	19区	38号住居全景（東から）
	3	19区	38号住居柱穴１全景（南東から）
	4	19区	38号住居柱穴２全景（南東から）
	5	19区	39号住居全景（北から）
	6	19区	39号住居全景（南から）
	7	19区	39号住居礫検出状況（北から）
	8	19区	39号住居礫検出状況（南から）
ＰＬ30	1	19区	41号住居全景（北東から）
	2	19区	41号住居炉遺物出土状況（南東から）
ＰＬ31	1	19区	41号住居確認状況（東から）
	2	19区	41号住居遺物・礫出土状況（東から）
	3	19区	41号住居遺物出土状況（東から）
	4	19区	41号住居遺物出土状況（北東から）
	5	19区	41号住居炉確認状況（北から）
	6	19区	41号住居炉全景（北西から）
	7	19区	41号住居炉石復元状況（北から）
	8	19区	41号住居礫検出状況（南から）
ＰＬ32	1	19区	42号住居全景（東から）
	2	19区	42号住居遺物出土状況（東から）
ＰＬ33	1	19区	42号住居遺物出土状況（東から）
	2	19区	42号住居集石出土状況（北西から）
	3	19区	42号住居炉上面の配石（北から）
	4	19区	42号住居炉全景（東から）
	5	19区	43号住居全景（北から）
	6	19区	43号住居炉全景（北東から）
	7	19区	43号住居炉全景（北東から）
	8	19区	43号住居炉堀り方全景（南西から）
ＰＬ34	1	19区	46号住居遺物出土状況（東から）
	2	19区	46号住居遺物出土状況（東から）
	3	19区	46号住居遺物出土状況（東から）
	4	19区	46号住居遺物出土状況（東から）
	5	19区	46号住居全景（北から）
ＰＬ35	1	19区	47号住居セクション（西から）
	2	19区	47号住居全景（北から）
	3	19区	47号住居全景（北から）
	4	19区	47号住居炉全景（東から）
	5	19区	51号住居全景（北から）
	6	19区	51号住居炉全景（西から）
	7	19区	51号住居１号埋甕検出状況（南から）
	8	19区	51号住居１号埋甕（南西から）
ＰＬ36	1	29区	１・２号住居全景（北から）
	2	29区	１号住居全景（南西から）
ＰＬ37	1	29区	２号住居全景（北から）
	2	29区	１号住居炉全景（北から）
	3	29区	１号住居遺物出土状況（西から）
	4	29区	２号住居炉セクション（北から）
	5	29区	２号住居炉セクション（北から）
ＰＬ38	1	29区	12号住居礫出土状況（西から）
	2	29区	12号住居礫出土状況（北から）
	3	29区	15号住居検出状況（北東から）
	4	29区	15号住居炉全景（北東から）
	5	29区	15号住居堀り方全景（南西から）
ＰＬ39	1	29区	16号住居全景（東から）
	2	29区	16号住居全景（南から）
ＰＬ40	1	29区	16号住居全景（南から）
	2	29区	16号住居調査風景（北から）
	3	29区	16号住居張り出し部（東から）
	4	29区	16号住居張り出し部（南東から）
	5	29区	16号住居連結部（南から）
	6	29区	16号住居連結部（東から）
	7	29区	16号住居炉全景（南から）
	8	29区	16号住居埋甕検出状況（東から）
ＰＬ41	1	29区	19号住居全景（北から）
	2	29区	19号住居炉全景（北から）
	3	29区	20号住居全景（北東から）
	4	29区	20号住居炉確認状況（東から）
	5	29区	20号住居埋甕全景（南から）
	6	29区	20号住居石囲全景（北から）
	7	29区	22号住居全景（西から）
	8	29区	22号住居炉セクション（西から）
ＰＬ42	1	30区	26号住居全景（東から）
	2	30区	26号住居全景（南から）
	3	30区	26号住居１号埋甕近接（東から）
	4	30区	26号住居１号埋甕セクション（東から）
	5	30区	27号住居全景（南から）
	6	30区	27号住居炉検出状況（南から）
	7	30区	27号住居炉（南から）
	8	30区	27号住居埋甕セクション（南から）
ＰＬ43	1	30区	28号住居全景（北から）
	2	30区	28号住居全景（南から）
ＰＬ44	1	30区	28号住居出入口部敷石（南から）
	2	30区	28号住居出入口部敷石（東から）
	3	30区	28号住居埋甕全景（東から）

4　30区　28号住居埋甕セクション（東から）
5　30区　31号住居炉全景（南から）
6　30区　31号住居炉セクション（南から）
7　30区　37号住居出土状況（南から）
8　30区　37号住居堀り方（南から）
ＰＬ45　18区　４号住居出土遺物
ＰＬ46　18区　４号住居出土遺物
ＰＬ47　18区　４号、５号、８号住居出土遺物
ＰＬ48　18区　８号住居出土遺物
ＰＬ49　18区　10号住居出土遺物
ＰＬ50　18区　17号住居出土遺物
ＰＬ51　18区　17号住居出土遺物
ＰＬ52　18区　17号住居出土遺物
ＰＬ53　18区　18号住居出土遺物
ＰＬ54　18区　18号、22号住居出土遺物
ＰＬ55　18区　22号、23号住居出土遺物
ＰＬ56　19区　１号住居出土遺物
ＰＬ57　19区　４号住居出土遺物
ＰＬ58　19区　４号、６号住居出土遺物
ＰＬ59　19区　６号住居出土遺物
ＰＬ60　19区　６号住居出土遺物
ＰＬ61　19区　７号住居出土遺物
ＰＬ62　19区　７号住居出土遺物
ＰＬ63　19区　７号、８号住居出土遺物
ＰＬ64　19区　９号住居出土遺物
ＰＬ65　19区　10号住居出土遺物
ＰＬ66　19区　10号住居出土遺物
ＰＬ67　19区　10号住居出土遺物
ＰＬ68　19区　10号住居出土遺物
ＰＬ69　19区　14号、16号、17号住居出土遺物
ＰＬ70　19区　17～19号住居出土遺物
ＰＬ71　19区　20号、22号住居出土遺物
ＰＬ72　19区　22号、23号、25号住居出土遺物
ＰＬ73　19区　26号、29号住居出土遺物
ＰＬ74　19区　29号住居出土遺物
ＰＬ75　19区　30号住居出土遺物
ＰＬ76　19区　30号住居出土遺物
ＰＬ77　19区　30号住居出土遺物
ＰＬ78　19区　34号住居出土遺物
ＰＬ79　19区　34号住居出土遺物
ＰＬ80　19区　34号住居出土遺物
ＰＬ81　19区　35号住居出土遺物
ＰＬ82　19区　35号住居出土遺物
ＰＬ83　19区　35号住居出土遺物
ＰＬ84　19区　35号、38号住居出土遺物
ＰＬ85　19区　39号、41号住居出土遺物
ＰＬ86　19区　41号、42号住居出土遺物
ＰＬ87　19区　42号、43号住居出土遺物
ＰＬ88　19区　43号、46号住居出土遺物
ＰＬ89　19区　47号、51号住居出土遺物
ＰＬ90　29区　１号、２号住居出土遺物
ＰＬ91　29区　12号住居出土遺物
ＰＬ92　29区　12号、15号住居出土遺物
ＰＬ93　29区　16号住居出土遺物
ＰＬ94　29区　19号、20号、22号住居出土遺物
ＰＬ95　29区　22号住居出土遺物
ＰＬ96　30区　26号、27号住居出土遺物
ＰＬ97　30区　28号、31号住居出土遺物
ＰＬ98　30区　37号住居　18区　８号住居　19区　20号、34号、47号住居出土遺物

表目次

表１　周辺遺跡一覧表
表２　遺構集計表
表３　住居出土土器集計表

序章

第１節　調査に至る経緯

八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査は、建設省関東地方建設局（当時。現在は国土交通省関東地方建設局）と群馬県教育委員会、長野原町教育委員会、吾妻町教育委員会が、その実施に関する協議を重ね、建設省関東地方建設局長と群馬県教育委員会教育長が、平成６年３月18日に「八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財調査の実施に関する協定書」を締結し、八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査事業の実施計画が決定されたことによって開始されることとなった。実施計画書に示された調査組織等の役割は、調査実施機関は群馬県教育委員会で、調査機関は財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団である。

この協定をふまえて、平成６年４月１日に関東地方建設局長と群馬県教育委員会教育長により発掘調査受託契約を、同日に群馬県教育委員会教育長と群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長により発掘調査受委託契約を締結し、八ツ場ダム進入路関連遺跡を調査箇所とする八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査事業がスタートした。平成６年度から実施されている調査は、工事用進入路に関するものが主体となっている。これは、八ツ場ダム建設工事の大規模な工事を円滑に進めるため、機材や重機を搬入・搬出する進入路や仮設道路の整備が先行される状況にあったためである。

平成６年度に締結された協定によると、調査対象の遺跡は48遺跡であり、そのうち本遺跡の位置する長野原町横壁地区の遺跡は７遺跡であった。横壁地区でも工事用進入路を原因とする調査が先行され、平成６年度には協定対象遺跡である横壁勝沼遺跡の調査が実施された。

本遺跡も、平成６年度に締結された協定での対象遺跡であり、平成６、７年度に行われた横壁勝沼遺跡の調査が終了した後、平成８年度から調査が行われることになった。工事用進入路部分の調査は平成11年度に終了し、平成12年度からは横壁地区護岸工事部分の調査に着手した。詳しくは次節「調査の経過」に譲る。

なお、関東地方建設局長と群馬県教育委員会教育長と群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長は、平成11年４月１日に「八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財調査の実施に関する協定の一部を変更する協定書」を締結し、平成11年４月以降は調査実施機関を財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に変更し、現在の調査体制に至っている。

また、協定書の対象遺跡で、横壁地区に位置する７遺跡のうち、上野Ⅳ遺跡と観音堂遺跡は、長野原町教委との協議の結果、本遺跡に統合されることとなった。

第２節　調査の経過

横壁中村遺跡の調査は平成８年度より行われた。平成８年度から11年度までは工事用進入路部分、平成12年度からは横壁地区護岸工事部分を中心とした調査であるが、これら工事は一体のもので、調査は継続して行われてきた。各年度ごとの調査範囲は、図示したとおりであるが、年度をまたいで調査された範囲もあるので、図示した範囲は調査の終わった年度を表している。各年度ごとの調査の経過を調査日誌を元に抜粋する。

平成８年度　調査事務所の設置、調査区への進入路等の造成工事等を行ったため、本調査は７月１日開始となった。担当者は３名による１班での調査である。本年度は、中グリッドの18区、28区を中心とする調査である。進入路が狭く重機を導入できなかったため、人力による掘削を強いられ調査は困難であった。11月23日に現地説明会を開催し、見学者は157名であった。

平成９年度　前年度の継続である18、28区の調査とともに、その西側に当たる19、20、29、30区の表土掘削を実施し、調査に着手した。担当者は４名の配置であったが、７月から９月まで１名は久々戸遺跡

の調査にまわっている。調査面積は約5,000㎡である。11月3、4日に当事業団主催の平成9年度出土文化財巡回展示会を八ツ場地区で実施にあたり、遺物・パネルを出展した。

平成10年度　平成8、9年度の継続調査である。担当者は年度当初4名の配置であったが、うち1名は林地区及び横壁西久保遺跡の調査を担当することになったため、実質3名による1班体制による調査となった。本年度の調査面積は約6,200㎡であった。

平成11年度　前年までの継続調査と20、30区で調査区を拡張した。担当者は5名、2班の体制であったがうち2名が長野原地区の調査を担当することになったため、10月末までは3名、1班での調査となった。4月29日に前年度に検出された大型敷石住居、環状柱穴列等を現地説明会で公開し、153名の見学者を集めた。さらに、本年度は調査区西側にあたる11区でも調査を行ったが、試掘の結果、遺構は確認できなかった。

また、平成11年8月13日からの豪雨により横壁地区が被災したため、8月22日まで調査を休止した。本年度で工事用進入路部分の調査はすべて終了した。調査面積は約6,200㎡である。

平成12年度　工事用進入路の調査が終了したため、この南側の代替地護岸工事部分の調査を担当者7名による2班体制で開始する予定であったが、1班は林地区の調査に対応することとなり、残る1班も横壁西久保遺跡との掛け持ちとなったため、調査対象面積は当初予定よりも大幅に減少した。本年度の調査は20区の調査が中心となり、一部18区の試掘調査を行った。また、本年度は調査区南側にあるゲートボール場の東側にパンザマスト（気象用観測マスト）設置に伴って42㎡も併せて調査を行い、縄文時代後期の住居、中世の土坑を検出している。本年度の調査面積は約1,800㎡であった。

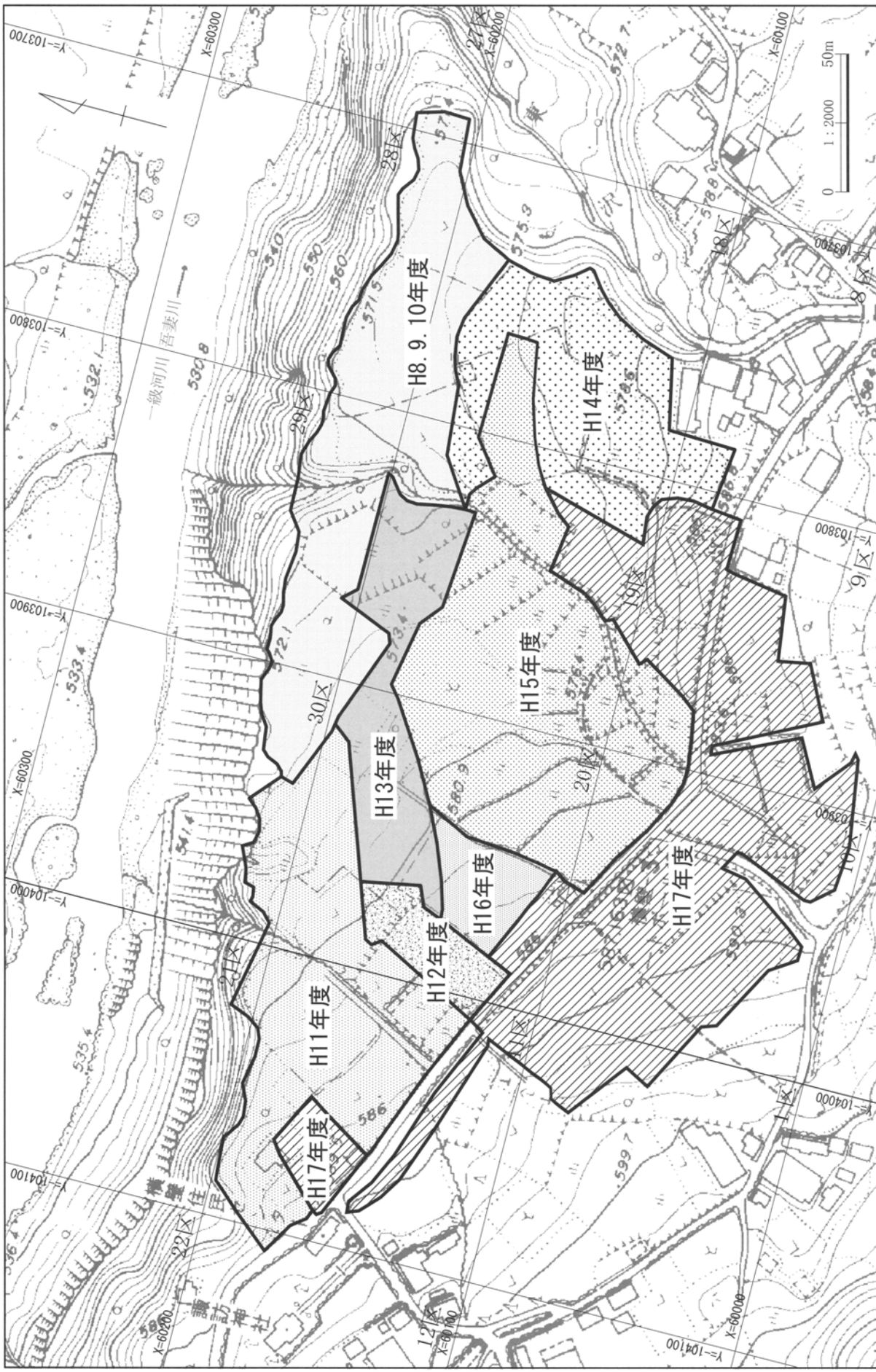
平成13年度　発掘作業員の雇用システム変更に手間取り、調査開始が6月4日となった。本年度の調査対象地は遺跡の中央を流れる山根沢の両側にあたり、18、19、20区にあたる。工事が予定されている山根沢の西側地区は、工事工程にあわせて調査が終了した地区を順次、工事側に引き渡しながら進められた。11月に国土交通省より希少猛禽類の保護のため対策を講じてほしいとの要請があり、12月1日から調査体制を縮小したため調査の一部は次年度に継続となり、調査面積は年度当初予定の6,100㎡から5,200㎡となった。

平成14年度　本年度より八ツ場ダム調査事務所が開所し、八ツ場地区の調査を管轄することになった。担当者は7名の2班体制での調査となり、前年度からの継続である18区を中心に行った。本年度は6月から8月にかけて担当者2名が西ノ上遺跡へ、10月からは担当者4名が上郷岡原遺跡へ異動している。また、前年度と同様に11月下旬からは希少猛禽類保護のため調査体制を縮小しての調査となった。調査面積は5,400㎡であった。

平成15年度　前年度の継続調査の18区と9、10、19、20区の調査を行った。担当者は年度当初6名の配置であったが、4～6月は担当者2名が久々戸遺跡の調査を行い、7月からは1名が整理事業に異動となった。また11月からは1名が増員となった。調査は前年度からの継続となった埋没河道の調査から開始して、その後19、20区の調査を行った。本年度は平成12、13年度の調査区まで終了する予定であったが、用地買収が遅れ、次年度に継続となった。本年度の調査面積は約8,000㎡であった。

平成16年度　前年度に調査未了となった20区の調査を行った。担当者2名による1班体制である。本年度で代替地護岸工事部分の調査は終了の予定であったが、調査区南側の道路沿いの一部が用地買収と墓地移転の遅れにより調査が未了となり、次年度以降に継続となった。本年度の調査面積は約1,400㎡であった。

平成17年度　国道145号線部分の調査を、担当者5名による2班体制で行った。調査区は、9、10区である。調査面積は14,000㎡であった。本年度で平成8年度より続いた横壁中村遺跡の調査は一旦終了となる。



第１図　年度別調査区全体図

第3節　調査の方法

(1)　調査の手順

調査は初めはバックフォーによる表土掘削を行い、順次作業員による遺構確認、遺構調査へと進んでいった。遺跡地の現況は畑、水田、道路であった。

出土遺物は遺構から出土したものは、その遺構番号を付し、さらに図面上に出土位置を記録したものについては番号を付し、標高を測定して取り上げた。遺構外から出土した遺物については後述するグリッド単位で取り上げた。さらに出土位置を記録したものは遺構出土のものと同様に取り上げた。遺構測量は作業員によるものと測量会社に委託して測量したものがある。縮尺については住居・土坑・配石等は1/20、炉・埋甕・埋設土器等は1/10、その他の遺構も1/20を原則としたが、溝・列石等規模の大きい遺構については1/40、全体図は1/100、1/200で作成した。また、列石の一部においては、バルーン撮影による空中写真測量も委託して実施した。

遺構の個別写真は、主に35㎜モノクローム及びリバーサル、6×7判モノクロームで撮影し、一部6×7判リバーサルも状況に応じて使用している。

(2)　遺跡の名称

本遺跡は、吾妻郡長野原町大字横壁字観音堂に位置する。発掘調査時の遺跡名称は、群馬県埋蔵文化財調査事業団で行っている遺跡命名の慣例に従うと遺跡所在地の大字名＋小字名となり、「横壁観音堂遺跡」となるべきであるが、国土地理院1/25000地形図「長野原」によると遺跡地には「中村」という小字名が記されているため、平成8年度の発掘調査開始時に「横壁中村遺跡」と命名した。しかし、この「中村」という小字名は行政的には用いられておらず、正確には前述の通り「観音堂」である。また、「長野原町の遺跡－町内遺跡詳細分布調査報告書－」(長野原町教委　1990) によると本遺跡は「観音堂遺跡」「上野Ⅳ遺跡」の範囲に入っている。さらに群馬県遺跡台帳には「横壁中村遺跡」が記載されているが、記述によるとこれは本遺跡の南西にあたり、位置がやや異なる。このように、本遺跡の遺跡名に関しては若干混乱があるが、長野原町教育委員会との協議により、「横壁中村遺跡」が本遺跡の正式名称として決定されている。

(3)　調査区の設定

調査区の設定に関しては「八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第1集『長野原一本松遺跡(1)』」に詳しいので、詳細はそちらを参照していただきたい。

本遺跡の調査区は、地区（大グリッド）と呼称する、発掘調査対象地全域に設定した1㎞グリッドでは「27地区」、その地区を1辺100mの正方形で100分割した「区」（中グリッド）では「9・10・17・18・19・20・27・28・29・30区」に相当している。本遺跡の遺構名称は、区ごとに連続する番号を付し、区をまたぐ遺構の場合は遺構の主体と考えられる区の番号を付している。

第4節　遺跡の環境

八ツ場地区の遺跡の立地する環境については、既刊の(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第287集「『長野原一本松遺跡』八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第1集」(諸田 2002) および同第303集「『八ツ場ダム発掘調査集成』八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第2集」(松原　2003) に詳細に記述されているのでそちらを参照していただきたい。ここでは、横壁中村遺跡の立地する地理的環境および今回報告する縄文時代に関しての歴史的環境について概観するにとどめたい。

(1)　地理的環境

横壁中村遺跡の位置する長野原町は群馬県の北西部に位置し、草津町、嬬恋村、六合村、吾妻町と接するとともに、長野県とも県境をなしている。本遺跡はこの長野原町の北東に位置し、吾妻川の右岸の崖上に立地する。吾妻川は長野県境の鳥居峠付近に源を発し、東流して渋川市付近で利根川と合流する

全長76.2㎞の１級河川である。本遺跡はこの合流点から約43㎞遡った地点である。また、本遺跡から約６㎞下流には「関東の耶馬渓」の異名を取る国指定名勝である吾妻渓谷がある。

横壁中村遺跡の標高は約570mを測る。吾妻川との比高差は40mほどであり、急峻な崖により隔てられている。調査区は、西は深沢、東に東沢という２本の沢によって形成された扇状地形上に立地する。吾妻川に向かって北東に緩く傾斜しており、調査区内での比高差は約15mである。調査区のほぼ中央を山根沢が北流しており、小さな谷を形成している。南側には山が迫っており、調査区内にはこの山から押し出されたと思われる夥しい数の礫が存在し、縄文時代の遺構面はこの礫に覆われている。

本遺跡の環境を語る上で欠かせないのが丸岩の存在である。調査区の南南西約1.5㎞に位置する標高1124mをはかる岩峰で、南側を除いた３方が100mにも達する垂直の崖に囲まれ、本遺跡から望むと巨大な円柱状にも見える特徴的な山容を呈している。この崖面には柱状節理による割れ目が顕著に現れており、山の形状と併せ見た独特の景観は、この遺跡に暮らした人々がランドマークとして仰ぎ見たであろうことを推測するに足る奇峰と言えよう。

また、浅間山も長野原町の自然を語る上で重要である。本遺跡の中心となる縄文時代中期から後期にかけては大きな活動はないと考えられているが、本遺跡の立地する吾妻川の段丘面は、浅間山の約２万年前の噴火によって発生した応桑泥流によって形成されたと考えられている。また、今後の報告になるが、本遺跡で検出された平安時代の住居の埋土の中には浅間山起源と思われる火山灰の堆積が認められるものも存在している。

(2)　歴史的環境

横壁中村遺跡のある長野原町は明治22年の町村制実施の際に、川原畑、川原湯、横壁、林、長野原、大津、羽根尾、古森、与喜屋、応桑の旧十ヶ村を合併して成立した。町内での遺跡の調査は、昭和29年に行われた勘場木遺跡の調査を嚆矢とし、昭和38、48年には群馬県による分布調査が行われ、昭和53年には石畑岩陰遺跡が発掘調査された。昭和62年からは八ツ場ダム建設に先行して、町教委による埋蔵文化財詳細分布調査が実施され、183の遺跡が確認された。(調査が進み、平成17年３月現在では214遺跡に増加している。) これ以降、町教委による発掘調査が行われている。さらに平成６年からは八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査事業が当事業団によって進められている。これらの調査をもとに横壁中村遺跡の歴史的環境を概観してみる。

旧石器時代　現在までの調査では旧石器時代の遺跡は確認されていない。吾妻川流域は前述したように応桑泥流堆積物や浅間－草津黄色軽石（As－YP k）によって厚く覆われており、この下位を調査することは掘削方法や安全上の問題などから難しいのが現状である。従って山間部の遺跡などでこれらの堆積物の下位の調査が可能になれば、当該期の遺跡が確認される可能性は否定できない。

縄文時代　長野原町による埋蔵文化財詳細分布調査によれば現在までに214の遺跡が確認されており、このうち、約半数の105遺跡で縄文時代の遺構、遺物の存在が確認されている。

まず、草創期の遺跡としては石畑岩陰遺跡(10)があげられる。奥行４m、幅40mをはかるかなり大規模な岩陰遺跡であり、草創期から前期、そして晩期にわたる遺物、獣骨が出土している。旧石器の遺跡は確認されていないが、縄文時代草創期には長野原町域に人間が生活していたことを証明する遺跡である。早期では、楡木Ⅱ遺跡(20)で多くの撚糸文系土器、表裏縄文土器、スタンプ形石器とともに、竪穴住居が31軒検出されている。この住居の中には石囲炉を持つものがあるとともに、重複関係を示すものもあることから、同時期の集落における定住性について新たな視点を与えるものと思われる。また、立馬Ⅰ遺跡(18)でも撚糸文期の住居と田戸下層式期の住居が検出されている。この立馬遺跡では早期から晩期までのほぼ全ての時期の遺物が出土している。山間の狭隘な谷に位置するこの遺跡からこのように

長い時期にわたって遺物が出土していることはこの地域の縄文時代の環境を復元する上で興味深い事実である。さらに同時期の遺物は坪井遺跡(9)、長野原一本松遺跡(5)、幸神遺跡(6)でも出土が確認されている。

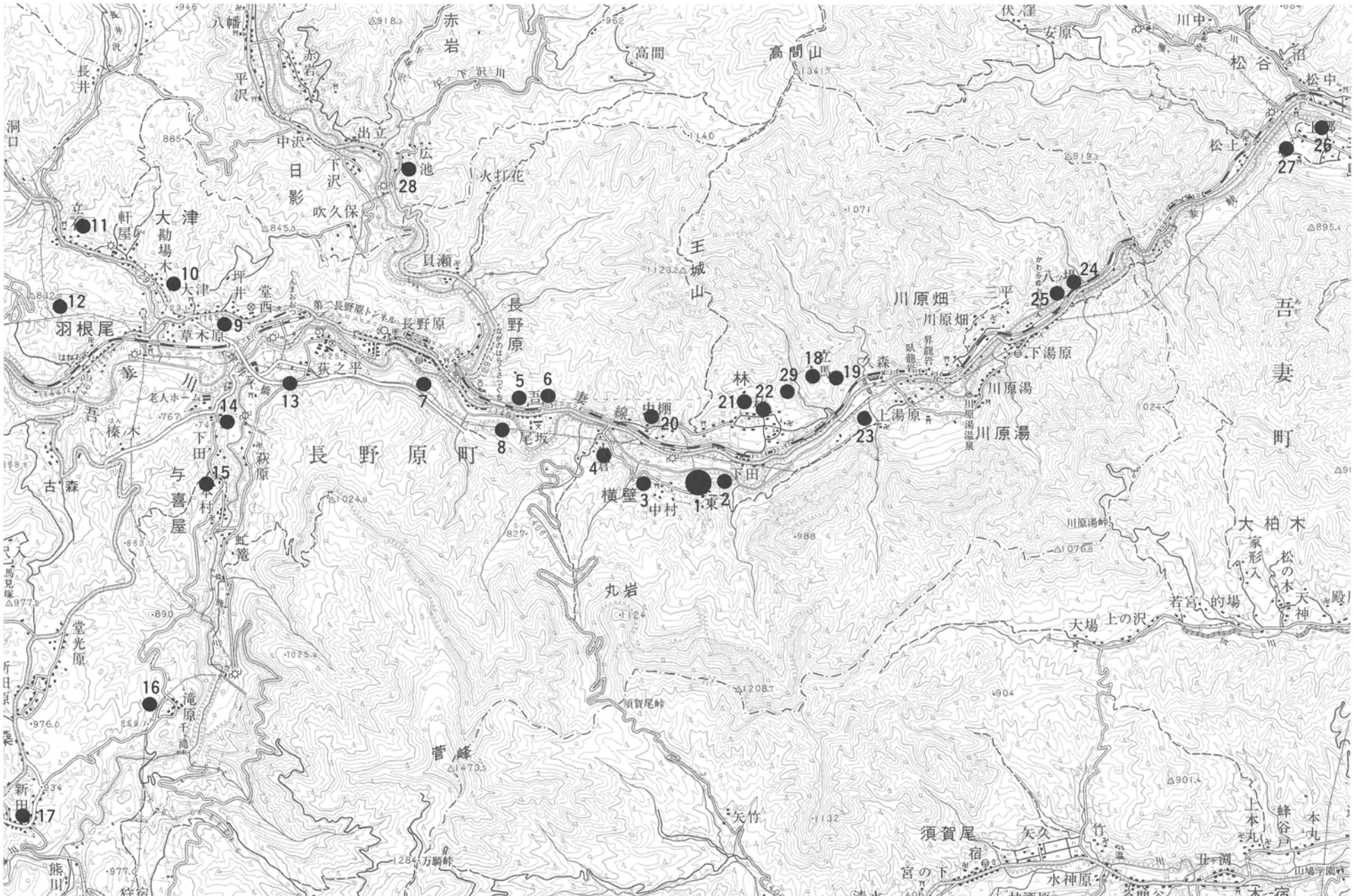
前期の遺跡は、坪井遺跡で花積下層式期の住居と土坑が検出されているほか、長野県域を主体とする塚田式、北陸地方の極楽寺式と関連すると思われる遺物が出土している。また、暮坪遺跡(12)では二ツ木式期の住居が検出されている。さらに長畝Ⅱ遺跡(13)では黒浜式期の住居が検出されている。本遺跡でも関山式、あるいは黒浜式期と思われる遺物が出土しているが、量は少なく、遺構も確認されていない。前期後半では、楡木Ⅱ遺跡で諸磯式期の住居が、川原湯勝沼遺跡(23)で同時期の土坑が検出されており、本遺跡でも同時期の土坑が確認されている。

中期になると遺跡数、遺構量とも大幅に増加する。本遺跡ではこれまでのところ、最も古い勝坂式期の住居から中期末までで200軒以上の住居が確認されている。長野原一本松遺跡でも本遺跡と同様に大集落が形成されている。ただ、その始まりは本遺跡よりも若干時期が下り、中期後半の加曽利E式期になってからと思われる。この時期の特徴としては他地域との密接な交流がうかがえる点である。本遺跡の出土遺物でも、関東系の土器とともに中部高地系、特に長野県東部との関連が強く感じられる土器が多く、さらに新潟県方面から持ち込まれたと思われる土器も少なくない。これは長野原一本松遺跡でも新潟県方面から伝播したと思われる大木系の土器が出土していることや、坪井遺跡でも新潟県域で主体的な「栃倉類型」などの資料が出土していることからも確認できよう。

後期になると長野原一本松遺跡の集落はやや縮小の傾向にあるが、本遺跡は加曽利B式期まで継続する。この時期の住居では、柄鏡形敷石住居の検出例が多く、本遺跡や長野原一本松遺跡の他、槲Ⅱ遺跡(11)、向原遺跡(7)、滝原Ⅲ遺跡(16)、古屋敷遺跡(17)、上原Ⅳ遺跡(21)、林中原Ⅰ遺跡(22)、上郷岡原遺跡(26)などで確認されている。

晩期になると遺跡数は減少する傾向にあり、前述した石畑岩陰遺跡以外ではほとんど確認されていなかったが、最近の調査により、検出例が増加している。本遺跡でも遺物は出土していたが、平成15年度の調査で晩期終末期から弥生時代初頭と思われる埋設土器、土坑が確認された。また川原湯勝沼遺跡では、氷Ⅱ式土器による再葬墓と思われる土坑が検出された。久々戸遺跡(8)では氷式土器の鉢形土器、立馬遺跡でも長野県北部を主体とする女鳥羽川式土器の浅鉢が出土している。

弥生時代になると、本遺跡では中期の遺物が少量出土しているほかは、立馬遺跡で前期から中期の住居と中期の甕棺墓が検出されている程度で、極めて希薄な状況を呈している。



第２図　遺跡位置及び周辺遺跡図（国土地理院　１／50000地形図「草津」使用）

周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	所在地	遺　跡　の　内　容	文献
1	横壁中村	長野原町横壁	本遺跡	
2	横壁勝沼	長野原町横壁	中期から後期の土器片、槍先形尖頭器が出土。事業団平成６.７年度調査。	1
3	山根Ⅲ	長野原町横壁	中期後半の住居、土坑。事業団平成10.13年度調査。	2
4	西久保Ⅰ	長野原町横壁	中期末葉の敷石住居、土坑。中期の水場遺構。事業団平成６.10.12年度調査。	1
5	長野原一本松	長野原町長野原	縄文時代中期後半から後期初頭にかけての拠点的集落。事業団平成６年度～調査中。	3
6	幸神	長野原町長野原	中期中葉から後半の住居。事業団平成８.９年度調査。	4
7	向原	長野原町長野原	中期後半から後期にかけての集落。敷石住居２軒。町教委平成５年度調査。	5
8	久々戸	長野原町長野原	晩期終末期（氷式期）の鉢形土器が出土。事業団平成15年度調査。	6
9	坪井	長野原町大津	前期前半、中期後半、中期末の住居。敷石住居３軒。町教委平成３.10年度調査。	7・8
10	勘場木石器時代住居	長野原町大津	中期後半の住居。昭和29年調査。	9
11	槲Ⅱ	長野原町大津	後期前半の敷石住居４軒。町教委昭和63年度調査。	10
12	暮坪	長野原町羽根尾	前期前半の住居。町教委平成12年度調査。	11
13	長畝Ⅱ	長野原町与喜屋	前期前半、中期後半の住居。町教委平成２年度調査。	7
14	外輪原Ⅰ	長野原町与喜屋	前期後半の土器出土。町教委平成７年度試掘調査。	12
15	上ノ平	長野原町与喜屋	中期・後期の土器、石器類出土。	12
16	滝原Ⅲ	長野原町応桑	中期後半の住居、中期末の敷石住居。町教委平成８年度調査。	13
17	古屋敷	長野原町応桑	後期前半の敷石住居。昭和34年発見。	12
18	立馬Ⅰ	長野原町林	早期初頭・晩期の住居。早期から晩期にかけての土器。事業団平成13.14年度調査。	2・14
19	立馬Ⅱ	長野原町林	中期初頭から中期後半の住居。中期中葉の土器。事業団平成14年度調査。	14
20	楡木Ⅱ	長野原町林	早期初頭の集落。前期前半、前期後半、中期初頭の住居。事業団平成12.13年度調査。	15・2
21	上原Ⅳ	長野原町林	後期前半の敷石住居。晩期後半の土器。事業団平成15年度調査。	16
22	林中原Ⅰ	長野原町林	後期前半の敷石住居。町教委平成15年度調査。	17
23	川原湯勝沼	長野原町川原湯	前期後半の土坑。晩期終末期の再葬墓。事業団平成９.16年度調査。	1・18
24	石畑Ⅰ岩陰	長野原町川原湯	草創期から晩期の遺物と獣骨が出土。県教委昭和53年度調査。	9
25	石畑	長野原町川原畑	前期後半の土坑。事業団平成９.10年度調査。	1
26	上郷岡原	吾妻町三島	中期後半の住居。後期前半の敷石住居。事業団平成14年度調査。	14
27	上郷Ａ	吾妻町三島	縄文時代のものと思われる陥穴。押形文土器片出土。事業団平成15年度調査。	6
28	広池	六合村赤岩	中期後半の住居。群馬大学昭和44年度調査。	19

参考文献

1．「『八ツ場ダム発掘調査集成』八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第２集」群埋文　2003
2．年報21　群埋文　2002
3．「『長野原一本松遺跡』八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第１集」　群埋文　2002
4．年報17　群埋文　1998
5．「向原遺跡」　長野原町教育委員会　1996
6．「『久々戸遺跡(2)・中棚Ⅱ遺跡(2)・西ノ上遺跡・上郷Ａ遺跡』八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第４集」群埋文2005
7．「長畝Ⅱ遺跡・坪井遺跡」　長野原町教育委員会　1992
8．「坪井遺跡Ⅱ」　長野原町教育委員会　2000
9．「群馬県史　資料編」１　群馬県史編纂委員会　1988
10．「槲Ⅱ遺跡」　長野原町教育委員会　1990
11．「暮坪遺跡」　長野原町教育委員会　2001
12．「長野原町誌」上巻　長野原町　1976
13．「滝原Ⅲ遺跡」　長野原町教育委員会　1997
14．年報22　群埋文　2003
15．年報20　群埋文　2004
16．年報23　群埋文　2005
17．「町内遺跡Ⅳ」　長野原町教育委員会　2004
18．「『川原湯勝沼遺跡』八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第６集」群埋文　2005
19．「六合村誌」　六合村　1973

第３図　横壁中村遺跡全体図

第５節　遺跡の概要

横壁中村遺跡は、縄文時代中期後半から後期後半を中心とする集落遺跡で、平成16年までの調査で竪穴住居230軒以上が確認されており、県内でも有数の大規模集落であることが判明しつつある。

遺跡は、その中央を流下する通称「山根沢」の両側に展開しており、東側は「丸岩」の足下から流れる「東沢」までを範囲としている。北側及び西側の範囲は今後の調査に負うところとなるが、冬には午後３時で日が山に入る北向きの台地に、これほどの大規模集落が維持されたのは、間近にこれらの沢があったからであろう。

この地で人々の生活が始まるのは縄文時代早期からで、19区の山根沢沿いで撚糸文土器が少量出土している。前期では、初頭の花積下層式から諸磯ｃ式までの土器が断続的に出土しているが、この時期の住居はまだ確認されていない。中期では、五領ヶ台式から勝坂式にかけての土器がかなり広範囲で出土しており、土坑はいくつか確認されているが、この時期も住居は未確認である。中期後半は集落が最大規模となり、その後も集落はやや規模を縮小しながら継続し、列石遺構や配石遺構、掘立柱建物等が伴う集落が後期前半まで認められる。後期後半になると、山根沢の西側に配石墓群が形成される。この時期の集落の構成はまだはっきりしない。後期後半以後の様子を示す材料はまだ少ないが、晩期終末期の遺物は多量に出土しており、本地域の主要遺跡の一つといって良いだろう。

弥生時代中期前半期の遺物も比較的多く出土しているが、県内で稲作農耕が始まる中期後半期になると、活動の痕跡は途絶えてしまう。この状況は本遺跡に限らず、西吾妻地域全体に認められる傾向であり、詳細は別稿に譲りたい。その後、本地域に集落が戻るのは約千年後の９世紀代からで、本遺跡でも平安時代の住居が数軒確認されている。

中世になると、本地域には海野一族が支配する「三原荘」が成立し、戦国時代にはその一系でもある真田氏が、甲斐武田氏の指示で本地域を掌握するようになる。本遺跡の南西には柳沢城と丸岩城があり、遺跡内では20区を中心に鍛冶場を伴う中世の館が確認されている。また、その他に中世～江戸期の墓や、天明３年の浅間山噴火に伴う泥流で埋没した畠も検出されている。

以上が本遺跡の概要であるが、遺跡の内容は多岐にわたるため、今回は平成14年度までに発掘調査された縄文時代の住居のうち、18・19・29・30区で確認された中期段階の住居50軒を対象とした報告であり、資料編的な内容と捉えて頂きたい。

表２　横壁中村遺跡遺構数集計表（平成８年度～16年度）

	９区	10区	18区	19区	20区	28区	29区	30区	合 計
竪穴住居	1	3	27	52	104	19	18	13	237
土坑	2	11	258	325	541	15	22	19	1193
掘立柱建物			3	2	9		1		15
埋設土器		2	23	9	24	6	1	2	67
配石遺構			42	17	28	17	53	15	172
列石遺構			7	4	5	12	4		32
集石遺構			1		4				5
柱穴列				1			1	1	3
埋没河道			1	5					6

第６節　基本土層（第４図）

本遺跡が乗る段丘面は、岩盤の上に吾妻川が運んだ段丘礫層を基盤としており、その上に南側の岩塊を核とする山地からの崩落土と礫が繰り返し堆積して形成された、北向きの緩傾斜地に遺跡は立地している。台地上の基本土層は、図に示したⅠ～Ⅹ層まで確認しているが、この10層が１箇所で全て揃う断面は今のところ認められない。また、各土層の層厚は地区によって異なっているため、敢えて記入していない。

今回の報告対象となる縄文時代中期の遺構は、土層としてはⅥ層に該当するが、第１章本文中で「地山の黄色砂質土」と呼んでいるのは、Ⅷ層に該当する。

Ⅰ	Ⅰ層	表土（耕作土）
Ⅱa	Ⅱａ層	浅間Ａ泥流
Ⅱb	Ⅱｂ層	浅間Ａ軽石
Ⅱc	Ⅱｃ層	浅間Ａ軽石下畠の耕作土
Ⅲ	Ⅲ層	淡褐色土　軟質で炭化物を含む。中世に比定される土壌で、20区１号館付近では炭化物を多量に含み、黒土化していた。
Ⅳ	Ⅳ層	灰黒褐色土　やや軟質で均質。古代に比定される土壌であるが、本遺跡では大半が混土化されて、層としてはほとんど残っていない。
Ⅴ	Ⅴ層	黄褐色土　やや軟質。縄文時代後期後半頃の土壌で、加曽利Ｂ式期の遺構と関連する。今のところ、山根沢周囲に認められることから、Ⅷ層ないしはローム層の２次堆積の可能性が高い。
Ⅵ	Ⅵ層	灰褐色土　締まりのある土壌で、黄色軽石や白色粒子を多く含む。縄文時代に比定される土壌で、中期から後期前半の遺構・遺物はこの土層中に含まれる。なお、下半部を中心に多量の礫（山石）を含む。
Ⅶ	Ⅶ層	西側縁辺に特有の土壌で、層位はⅧ層と同じであり、沢沿いに流れたものかもしれない。この土層の上層部には縄文時代前期前半の土器が包含され、この土層で埋没した土坑も確認されている。
Ⅷ	Ⅷ層	黄褐色粘質土　崩落したローム層の２次堆積土で、多量の礫・砂礫を含む部分が多い。本遺跡では20区の西半部でのみ確認されており、現在の山根地区集落はこの土層の高まりの上に立地していると考える。供給源は山根集落南側の沢上流部、つまり丸岩の北麓で、崩落時期は縄文時代早期後半頃と思われる。
Ⅸ	Ⅸ層	黒褐色粘質土　硬質で粘性が強く、黄色軽石と白色粒子を多量に含む。
Ⅹ	Ⅹ層	黄色砂礫層　吾妻川が運んだ段丘砂礫層で、本遺跡北側の崖面では15m以上の堆積が確認できる。この下層は基盤の岩塊となる。

第４図　横壁中村遺跡基本土層図

第１章　発見された遺構と遺物

第１節　住居

先述のとおり、ここでは18・19・29・30区で確認された縄文時代中期の住居50軒を対象に報告する。報告は、発掘調査時に認定した遺構名を使用しているため、調査時あるいはその後の検討で欠番になったものも多く、また今回は中期以外の住居は扱わないため、遺構番号がとんでいる。

本遺跡での住居の認定は、基本的には炉の確認をもって決定した。幸い本遺跡では後期に至るまで石囲い炉が主流であったが、炉内に焼土が残っていない住居が多く、また地山のなかにも組んだような状態の礫がかなり認められるため、炉石は水洗いし、変色・劣化・剥落・亀裂・煤付着等の被熱痕跡を確認した上で決定した。そのため、たとえ完形に近い土器等が出土しても、炉が確認できない場合はグリッド扱いにした。

また、本遺跡では地山の黒褐色土を切り込んで住居が構築されており、地山と住居覆土の見分けは困難であった。そのため、大半の住居は覆土上層がグリッド扱いになっており、整理作業で接合したものはその住居に帰属させた。

以下、住居毎に報告する。

18区４号住居

調査年度　平成10年度

位置　18区Ｓ－25グリッド

重複　５号住居。５号住居より新しい。

形状　掘り込みが確認できたのは、長軸4.2m、短軸3.4mの楕円形であるが、周囲に礫が巡っており、住居の時期からすると、柄鏡形を呈することも想定される。

壁高　南東壁で25㎝を測る。

埋没土　暗褐色土を主体とする。自然に堆積したと思われる。

床面　床面はほぼ平坦で、顕著な硬化面は確認できなかった。

周溝　検出できなかった。

柱穴　２基検出されているが、これが本住居の柱穴であるかは不明である。

炉　住居ほぼ中央に位置する。扁平な礫を用いた石囲炉で、１辺約60㎝正方形を呈する。使用面までは床面から25㎝を測る。炉石はほぼ原位置を保っていると思われ、被熱による亀裂、変色を生じている。

遺物　図示した遺物の他、加曽利Ｅ３式土器を中心とする土器片316点、黒曜石剥片６点が出土している。また、南東隅の床面付近から16の石冠状石器が出土している。

埋甕　南東の壁よりの地点で２基の埋甕が検出された。いずれも底部を打ち欠いた深鉢を正位に埋設している。２基ともが本住居に伴うものであるか、いずれかが本住居に伴うものであるかは不明である。

時期　出土遺物、埋甕の様相から、加曽利Ｅ３式期新段階の住居であると考えられる。

18区５号住居

調査年度　平成10年度

位置　18区Ｓ－25グリッド

重複　４号住居。４号住居より本住居が古い。

形状　東半分を４号住居によって攪乱を受けているため全体の形状は明らかでないが、直径約4.1mの円形を呈するものと思われる。

壁高　壁はほとんど検出できなかった。

床面　確認できた範囲ではほぼ平坦である。特に硬化した面は確認されなかった。

柱穴　検出された柱穴は１基のみであるが、これは位置から本住居の柱穴とは考えにくい。２号炉、３号炉とした配石の掘り方が柱穴に相当すると思われる。本遺跡では、このような柱穴の根固め状の配石が他でも検出されている。

炉　住居ほぼ中央に位置する。大きめの角礫と小礫を用いた方形石囲炉である。規模は長軸80㎝短軸75

cm床面からの深さは30cmを測る。角礫３石は原位置を保っていると思われるが、南西と北東の礫は抜き取られている。被熱による亀裂、変色を生じている。東隅に埋甕が設置される。埋甕は底部を打ち欠いた深鉢である。

遺物　出土が少なく、図示した遺物の他、加曽利Ｅ３式土器を含む縄文時代中期土器14片と黒曜石剥片３点が出土している。

時期　炉内埋甕の様相から加曽利Ｅ３式期新段階の住居であると考えられる。

18区８号住居

調査年度　平成10年度

位置　18区Ｘ－23グリッド

重複　７号住居。本住居が７号住居より古い。

形状　北側を７号住居による攪乱で失い、また明瞭な壁を検出できなかったため、全体の形状は明らかでないが、推定直径約７ｍのややいびつな円形を呈するものと考えられる。

壁高　壁はほとんど検出できなかった。

床面　ほぼ平坦で、顕著な硬化面は確認できなかった。

柱穴　柱穴に相当するようなピットは検出されなかった。

炉　住居ほぼ中央に位置する。大形の扁平礫４石を用いた石囲炉である。１辺約90cm正方形で、埋甕底部までの掘り込みは床面から45cmを測る。炉石は南東辺のみ２石を用いている。すべての礫が被熱による亀裂を生じており、特に北東の礫は上部が剥落している。ほぼ中央に埋甕が設置されている。底部を打ち欠いた小形の深鉢である。使用面と思われる面よりもさらに下位で検出された。

埋甕　炉東側と南東壁付近の２カ所で検出された。南東壁付近で検出された遺物番号11の埋甕は蓋石を持ち、底部を打ち欠いた深鉢を正位に埋設している。12はピット底部に据えたような状態で検出された。口縁と底部を打ち欠いた小形の深鉢で、正位に埋設されていた。

遺物　図示した遺物の他、加曽利Ｅ３式土器と曽利３式期併行の在地系土器を中心とする土器片131点と黒曜石剥片４点が出土している。

時期　炉体土器、埋甕、出土土器の様相から加曽利Ｅ３式期中段階の住居であると考えられる。

18区10号住居

調査年度　平成13年度

位置　18区Ｕ－15グリッド

重複　なし。

形状　長軸3.9ｍ、短軸3.4ｍの楕円形である。

壁高　東壁で25cm南壁で20cmを測る。

床面　東から西への斜面に立地するため、確認された床面も西に向かってやや傾斜している。特に硬化した面は確認されなかった。

柱穴　掘り方面で柱穴６基が検出された。そのうち、１、２、４、５が主柱穴に相当すると思われる。

炉　住居ほぼ中央に礫と土器が集中する地点が確認されたが、明瞭な石囲炉は検出されていない。この礫と土器の集中点では皿状の掘り込みが確認できているので、ここが炉であると思われる。

遺物　図示した遺物の他、勝坂式、井戸尻式、焼町タイプの土器片107点、チャート剥片６点が出土している。

時期　出土遺物の様相から、勝坂式終末段階の住居であると考えられる。

18区17号住居

調査年度　平成13年度

位置　18区Ｕ－８グリッド

重複　なし。

形状　北向きの斜面に立地するため、北側の壁が確認できなかったので、全体の形状は不明だが、掘り方調査による確認では、長径5.1ｍ、短径4.5ｍのやや不整な円形になるものと思われる。

壁高　北壁で15cmを測る。

床面　全体を通したエレベーションを実測していないため、詳細は不明だが床面の標高測定によると斜

面に沿って、やや北側に向かって低くなっている。炉の周辺で、３基の住居内土坑が検出された。礫が混入しており、重複していることから、炉の作り替えの痕跡とも考えられる。

柱穴　６基の柱穴が検出された。北側の確認できなかった部分とあわせて、壁に沿った柱穴が想定される。

炉　ほぼ中央に位置する。大形の扁平礫４石を用いた石囲炉である。炉石のうち、３石はほぼ原位置を保っていると思われるが、南東の１石は抜き取られている。南東側に散在する礫が炉石であったことも考えられる。炉石は被熱による亀裂、変色が認められる。東隅には埋甕が設置される。底部を打ち欠いた深鉢で、口縁部には２次的な被熱が認められる。

埋甕　南東壁際で１の深鉢が埋設されたような状況で出土した。口縁と底部を打ち欠いた深鉢を正位に埋設する。

遺物　住居確認段階で遺物や礫の集中が確認されており、覆土中に多くの遺物が含まれていた。図示した遺物の他、加曽利Ｅ３式土器を中心とした土器285点と、黒曜石剥片３点、チャート剥片10点を含む石器類20点が出土している。

時期　炉体土器、埋甕、出土土器の様相から加曽利Ｅ３式期中段階の住居であると考えられる。

18区18号住居

調査年度　平成14年度

位置　18区Ｔ－12グリッド

重複　105号土坑。本住居が古い。

形状　長径4.6m、短径4.0mの楕円形を呈する。

壁高　東壁で27㎝を測る。

床面　ほぼ平坦で、特に硬化した面は確認されなかった。

柱穴　６基が検出された。105号土坑によって失われた部分をあわせて、壁に沿った柱穴が想定される。

炉　中央よりやや北西によった地点に位置する。角礫７石を用いた石囲炉。やや扁平な面を表にした状態で検出されているので、扁平な礫を立てて構築していたものが倒れた可能性もあるが、浅い炉なので炉石は原位置を保っているとも考えられる。炉内、中央に埋甕が設置される。口縁を打ち欠いた小形の深鉢で、上部は２次的に被熱している。

遺物　図示した遺物の他、勝坂式終末段階を中心とする土器150点と、黒曜石剥片12点を含む石器類20点が出土している。

時期　炉体土器、出土土器の様相から、勝坂式期終末段階の住居であると考えられる。

18区22号住居

調査年度　平成14年度

位置　18区Ｒ－12グリッド

重複　23号住居　本住居が新しい。

形状　長軸4.6m、短軸3.7mの楕円形を呈する。

壁高　最も残存のよい東壁で12㎝を測る。

床面　ほぼ平坦で、特に硬化した面は確認できなかった。

柱穴　５基が検出されているが、柱穴５は位置から見て柱穴には相当しないと思われる。

炉　中央からやや北寄りに位置する。扁平な礫を花びら状に平置きした、石囲炉である。形状は長径76㎝、短径70㎝の楕円形で、床面からの深さは14㎝を測る。炉石７石は原位置を保っていると思われるが、南側の１石は失われている。被熱の痕跡は明瞭ではない。ほぼ中央に埋甕が設置されている。口縁と底部を打ち欠いた小形の深鉢を使用している。

遺物　出土状況は散漫な状況を呈している。図示した遺物の他、勝坂式期の土器34点と、黒曜石剥片８点を含む石器類10点が出土している。

時期　勝坂式期終末段階の住居であると考えられる。

18区23号住居

調査年度　平成14年度

調査に至る経過　22号住居の掘り方調査を行っていたところ、埋甕を持つ石囲炉が検出された。22号住居の床面とのレベル差が少なく、本住居の炉石が22号住居の床面と変わらない位置にあったため、単純

に重複と捉えず、住居内に２基の炉があることも想定して精査を続けたところ、南西側の壁がわずかながら確認され、遺物も出土したことから、22号住居の下位に位置する、別住居と認定した。

位置　18区Ｒ－12グリッド

重複　22号住居　本住居が古い。

形状　ほとんどの部分を22号住居によって失っているため不明であるが、直径３ｍ程の円形を呈する小形の住居ではないかと思われる。

壁高　南西の壁で３㎝ほどの比高差が確認できた。

床面　ほぼ平坦である。

柱穴　確認できなかった。

炉　中央か、やや北東寄りに位置すると思われる。22号住居掘り方調査のためのトレンチにより北半を失う。扁平な礫を用いた石囲炉で、短径60㎝の楕円形もしくは長方形を呈するものと思われる。床面からの深さは14㎝を測る。炉の南隅に埋甕が設置される。残存は底部のみである。これは22号住居による削平のためと考えると、南西側の炉石も原位置を保っていないと考えられる。被熱の痕跡は明瞭ではない。

遺物　図示した遺物の他、勝坂式期の土器２点が出土している。

時期　出土土器の様相から勝坂式期終末段階の住居であると考えられる。

19区１号住居

調査年度　平成10年度

位置　19区Ｕ－25グリッド

重複　なし。

形状　推定直径５ｍほどの円形を呈するものと思われる。

壁高　壁は検出できなかった。

床面　ほぼ平坦で特に硬化した面は検出されなかった。

柱穴　確認できなかった。

炉　住居ほぼ中央に位置する。大形の扁平礫４石を用いた石囲炉で、形状は、長軸1.1ｍ、短軸１ｍのほぼ正方形を呈する。床面からの掘り込みは25㎝を測る。すべての礫が被熱による亀裂を生じており、炉内の礫は北西側の炉石が崩れたものと思われる。４石の各隅には小礫を詰めている。被熱による欠損の他は、炉石は原位置を保っていると思われる。東隅に埋甕が設置されている。埋甕は底部と口縁部の突起を欠いた小形の深鉢で、上部は２次的に被熱している。炉内からは２の鉢形土器も出土している。

遺物　図示した遺物の他、曽利Ⅲ式期併行の在地系土器を中心とする土器片144点と、石器類14点が出土している。

時期　出土遺物の様相から加曽利Ｅ３式期新段階の住居であると考えられる。

19区４号住居

調査年度　平成11年度、13年度

調査に至る経過　平成11年度に北側の大半を調査し、遺物のほとんどと炉の調査も終了した。南側の一部が当該年度の調査区からはずれていたため、調査が未了となった。平成13年度に南側の未了部分を調査した。

位置　19区Ｘ－23グリッド

重複　５号住居、26号土坑、19号住居。５号住居と26号土坑に対しては本住居が古い。19号住居については新旧関係は不明である。

形状　平成11年度の調査では壁を確認できなかったが、13年度の調査では壁が確認できたため、そこから推定されるラインと遺物の出土状態等から想定すると、推定長径６ｍ、推定短径4.8ｍの楕円形を呈するものと思われる。

壁高　13年度調査範囲の東壁で30㎝を測る。

床面　ほぼ平坦で特に硬化した面は確認できなかった。

柱穴　掘り方調査で南壁付近から１基の柱穴を検出した。

周溝　掘り方調査で、南壁に沿って周溝が検出された。幅15～30㎝で連続していない。

炉　住居中央から北西よりの地点に位置する。亜角

礫を用いた石囲炉で、形状は長軸90㎝、短軸80㎝の長方形を呈する。北西の炉石は抜き取られている。４辺にやや大形の礫を用い、各隅にやや小形の礫を詰めている。炉石は被熱による剥離、亀裂を生じている。使用面で焼土粒、炭化物粒がわずかに認められる。掘り方の調査中に、石囲炉の南東で焼土、炭化物が確認できたため断ち割って調査したところ、わずかに使用された痕跡を持つ炉が検出された。そのため、はじめに検出された炉を１号炉、後から検出された炉を２号炉とした。２号炉は使用されてまもなく１号炉に作り替えられたものと思われる。

遺物　図示した遺物の他、曽利Ⅲ式期併行の在地系土器を中心とする土器片869点と黒曜石剥片56点を含む石器類103点が出土している。

時期　出土遺物の様相から加曽利Ｅ３式期の住居であると考えられる。

19区６号住居

調査年度　平成11年度、13年度

調査に至る経過　４号住居と同様に平成11年度に北半の調査を行い、13年度に炉を含む南側の未了部分の調査を行った。

位置　19区Ｙ－23グリッド

重複　なし。

形状　平成11年度の調査では壁が検出できず、形状は確定できなかったが、13年度の調査では壁が確認できた。それによると、東西6.3m、南北は推定６ｍのほぼ円形を呈するものと思われる。

壁高　南壁で24㎝を測る。

床面　東側でやや凹凸が見られるが、ほぼ平坦で特に硬化した面は確認できなかった。

柱穴　10基を検出した。そのうち、１、４、６、８、10が柱穴に相当するのではないかと思われる。

炉　住居ほぼ中央に位置する。扁平な礫５石と丸みを持つ川原石２石を用いた石囲炉である。形状は１辺80㎝のほぼ正方形を呈する。丸石は南隅と西隅に立てたように設置されている。扁平な礫は被熱による亀裂、剥離を生じている。ほぼ中央に埋甕が設置されており、埋甕は胴下半を打ち欠いた深鉢を用いている。上部は２次的に被熱している。

埋甕　東壁から約70㎝内側の地点で、埋甕が検出された。口縁と底部を打ち欠いた深鉢を正位に埋設している。被熱の痕跡は見られない。

遺物　２の深鉢は床面につぶれたような状況で出土している。図示した遺物の他、加曽利Ｅ３式を中心とする土器片355点と黒曜石剥片60点を含む石器類82点が出土している。

時期　加曽利Ｅ３式期中段階の住居であると考えられる。

19区７号住居

調査年度　平成13年度

位置　19区Ｕ－20グリッド

重複　18号住居。本住居が新しい。

形状　直径3.5ｍの円形を呈する。

壁高　北壁で27㎝を測る。

床面　ほぼ平坦で特に硬化した面は確認できなかった。北西の壁付近で柱の根固め状の小石囲いが検出されている。被熱痕跡は認められなかったので、炉ではないと思われる。

柱穴　確認できなかった。

炉　住居ほぼ中央に位置する。大形の扁平礫２石と角礫６石を用いた石囲炉である。形状は内径65㎝の不整５角形で、炉石はやや間隔が空くがほぼ原位置を保っていると思われる。扁平礫は被熱による亀裂を生じている。使用面で焼土を少量確認した。ほぼ中央に埋甕が設置され、埋甕は口縁と底部を打ち欠いた小形の深鉢19と深鉢１の胴下半が入れ子状態で設置されていた。

遺物　１は炉内埋甕と入れ子で検出されているが、それ以外にも広い接合関係を示している。また、緑色片岩製の石棒34が南壁付近の床面から出土している。図示した遺物の他、曽利Ⅱ式期併行の在地系土器を中心とする土器片1402点と、黒曜石剥片64点を含む石器類162点が出土している。

時期　加曽利Ｅ２式期併行段階の住居であると考え

られる。

19区８号住居

調査年度　平成13年度

調査の経過　平成11年度の調査で炉が確認されていたが、遺物も検出されず、壁も確認できなかった。その後、平成13年度に改めて炉の周囲を精査したところ、柱穴が確認できた。

位置　19区Ｔ－18グリッド

重複　25号住居、26号住居、３号溝。いずれも本住居が古い。

形状　推定直径4.5ｍの円形を呈するものと思われる。

壁高　壁は検出できなかった。

床面　明瞭な床の面は確認できなかった。南半の床のラインは炉の位置からの推定の床面である。

柱穴　４基が確認された。いずれも主柱穴に相当すると思われる。

炉　住居ほぼ中央に位置しているものと思われる。扁平な礫を用いた石囲炉で、西辺と南辺の３石が残るが、他は抜き取られている。形状は１辺70㎝のほぼ正方形を呈する。原位置を保っていると思われる３石はいずれも被熱による亀裂を生じており、上部は被熱か削平によって欠損している。使用面で焼土が確認されている。

遺物　図示した遺物の他、勝坂式期と思われる土器２点と中期土器片13点が出土している。

時期　時期を決定する材料を欠くが、縄文時代中期の住居と考える。

19区９号住居

調査年度　平成13年度

位置　19区Ｘ－21グリッド

重複　20号住居。本住居が新しいと思われる。

形状　明瞭な壁が検出されていないため、詳細は不明だが、推定直径６ｍの円形を呈するものと思われる。

壁高　明瞭な壁は検出されなかった。

床面　ほぼ平坦で特に硬化した面は確認されなかった。

柱穴　掘り方調査において７基の柱穴が確認された。そのうち、１、２、６、７が主柱穴に相当すると思われる。２には根固め状の配石が確認された。

炉　住居ほぼ中央に位置する。扁平な礫４石を用いた石囲炉である。形状は長方形で、長軸1.4ｍ、短軸１ｍと大形の石囲炉である。床面からの掘り込みは20㎝を測る。被熱による亀裂、剥離が著しいが、４石とも原位置を保っていると思われる。焼土・炭化物等は確認できなかった。

遺物　図示した遺物の他、曽利Ⅳ式期併行の在地系土器を中心とする土器片529点と石器類32点が出土している。２の深鉢はやや広範な接合関係を示す。

時期　出土遺物の様相から加曽利Ｅ３式期併行段階の住居であると考えられる。

19区10号住居

調査年度　平成13年度

調査の経過　遺構確認中に、礫および土器が径２ｍ程の範囲に集中しているのが確認できたため、住居の存在を推定して調査を行ったところ、炉が確認できたので、住居として確定した。

位置　19区Ｕ－21グリッド

重複　13号住居、21号土坑、24号土坑、42号土坑、66号土坑。13号住、21、24、42号土坑については本住居が古い。66号土坑には本住居が新しい。その他、水田の造成による攪乱を受ける。

形状　攪乱や重複により、全体の形状は不明だが、推定直径７ｍほどの円形を呈するものと思われる。

壁高　壁が確認できた南壁では最大34㎝を測る。

床面　ほぼ平坦である。炉の周辺で黄褐色ローム土の貼り床が確認できた。この貼り床は断面を記録した範囲においては固く締まっている。

柱穴　７基が確認された。４、５、６は主柱穴に相当すると思われるが、他は不明である。

炉　ほぼ中央に位置している。角礫を用いた石囲炉で、形状は１辺１ｍ程度の正方形を呈するものと思われる。６石が残存するが、東辺と北西辺の炉石は

抜き取られている。残存する礫はいずれも被熱による亀裂、剥離を生じており、炉内に投げ込まれたように検出された礫の中には、炉石が欠損したものも含まれているものと思われる。

遺物　図示した遺物の他、曽利Ⅱ式期併行の在地系土器を中心とする土器片2764点と黒曜石剥片408点を含む石器類516点が出土している。

時期　出土遺物の様相から加曽利Ｅ２式期併行段階の住居であると考えられる。

19区14号住居

調査年度　平成13年度

位置　19区Ｗ－21グリッド

重複　なし。

形状　長軸4.2ｍ、短軸3.9ｍの楕円形を呈する。

壁高　南壁で50㎝を測る。北東の壁は確認できなかった。

床面　ほぼ平坦である。柱穴の付近で黄褐色ローム土の貼り床が確認された。

柱穴　５基が確認された。いずれも主柱穴に相当すると思われる。

炉　中央からやや北寄りに位置する。小形の角礫を用いた石囲炉で、形状は長軸88㎝、短軸60㎝の涙滴形を呈する。10数石を並べているが、西側の数石は抜き取られている。礫は平置きに近く、あまり深く設置されていない。焼土、炭化物等は確認できなかった。

遺物　図示した遺物の他、曽利Ⅱ式期併行の在地系土器を中心とする土器片99点と石器類14点が出土している。

時期　出土遺物の様相から加曽利Ｅ２式期併行段階の住居であると考えられる。

19区16号住居

調査年度　平成13年度

位置　19区Ｒ－23グリッド

重複　27号、28号、29号、43号土坑。29、43号土坑に対しては、本住居が古い。27、28号土坑に対しての新旧関係は不明。

形状　長軸5.7ｍ、短軸5.1ｍの楕円形を呈する。北壁の一部が内側にくぼんでいるが、北辺は壁がはっきり検出できなかったため、平面形を誤認している可能性もある。

壁高　南壁で６㎝を測る。

床面　ほぼ平坦で、特に硬化した面は確認できなかった。

柱穴　西壁付近で１基の柱穴状のピットを確認した。他の柱穴は不明である。

炉　住居ほぼ中央に位置する。原位置を保っていると思われる炉石は１石のみであるが、これが被熱による剥離を生じているため、石囲炉と判断した。炉内では使用面で少量の焼土が確認できた。形状は、長軸94㎝、短軸80㎝の長方形を呈するものと思われる。

遺物　図示した遺物の他、曽利Ⅲ式期併行の在地系土器を中心とする土器片518点と黒曜石剥片65点を含む石器類80点が出土している。

時期　出土した遺物は小片が多く、器形を復元できる遺物がないため、時期を決定する材料に乏しいが、加曽利Ｅ３式期の住居であると考えられる。

19区17号住居

調査年度　平成13年度

位置　19区Ｓ－19グリッド

重複　26号住居。本住居と26号住居は重複しており、遺物を比較するとほぼ同時期であると考えられる。また、26号住居の推定平面プランは17号住居をほぼ中央とするラインとなり、本住居の炉は、26号住居から見てもほぼ中央に位置することになる。したがって、本住居と26号住居は同一の住居と考えることもできそうである。しかし、後述するように本住居は敷石住居であるため、床面の標高がはっきりと求められるが、これが26号住居の床面よりも10㎝ほど低いこと、また、本住居では推定される壁に沿って板石を立てたように並べていること、などから、本住居が26号住居を切って構築していると考えた。

形状　床面が敷石であるため、柄鏡形を呈すると思われるが、水田造成による削平を受けているため残存は主体部の1/4程である。主体部は北西隅でコーナーが検出されているため、１辺が３ｍほどの方形を呈すると思われる。

壁高　南西と北西の壁で板石を立てて壁にしている状況が確認できた。床面からの高さは10～15㎝を測る。

床面　敷石が施される。大形の板石が南東部に残存する。

柱穴　敷石下面の調査で、壁に沿って小ピットが3基確認されたが、柱穴に相当するかは不明である。

炉　住居主体部と同様に3/4を水田による削平で失う。炉は住居ほぼ中央に位置していたと思われる。炉も東辺と南辺を失っているが、角礫を用いた石囲炉で、形状は１辺40㎝を測る長方形を呈するものと思われる。炉石は被熱による亀裂、変色を生じており、使用面に焼土が確認できた。

遺物　図示した遺物の他、加曽利Ｅ３式土器を中心とする土器片1301点と黒曜石剥片87点を含む石器類99点が出土している。

時期　出土遺物の様相から加曽利Ｅ３式期新段階の住居であると考えられる。

19区18号住居

調査年度　平成13年度

位置　19区Ｕ－20グリッド

重複　７号住居。本住居が古い。

形状　７号住居の重複によって北側の半分ほどを失うが、推定直径５ｍの不整円形を呈すると思われる。

壁高　西壁で15㎝を測る。

床面　残存する床面の半分ほどの面積で、黄褐色ローム土による貼り床を確認した。硬化の度合いはあまり強くなく、ローム土の厚みは１～５㎝である。

柱穴　２基検出されている。いずれも主柱穴に相当すると思われる。

周溝　北半で検出された。幅12～20㎝、深さ10㎝を測る。

炉　７号住居の重複によって失う。

遺物　図示した遺物の他、曽利Ｉ式期併行の在地系土器を中心とする土器片413点と黒曜石剥片１点を含む石器類18点が出土している。

時期　出土遺物の様相から、加曽利Ｅ１式期併行の住居であると考えられる。

19区19号住居

調査年度　平成13年度

位置　19区Ｗ－22グリッド

重複　４号住居、26号土坑。４号住居との新旧関係は不明。26号土坑に対しては本住居が古い。

形状　北側の2/3は平成11年度の調査区に入っているが、当時の調査では上部の攪乱が多く、確認できなかった。残存する部分から推定すると、直径４ｍ程の円形を呈するものと思われる。

壁高　残存の良い南壁で16㎝を測る。

床面　ほぼ平坦である。特に硬化した面は確認されなかった。

柱穴　住居南東でピット１基を検出した。

炉　確認できなかった。

遺物　図示した遺物の他、曽利Ⅱ式期併行の在地系土器を中心とする土器片76点と打斧破片、スクレイパー破片が出土している。

時期　出土遺物の様相から加曽利Ｅ２式期併行の住居であると考えられる。

19区20号住居

調査年度　平成13年度

位置　19区Ｙ－20グリッド

重複　９号住居、22号住居。９号住居に対しては本住居が古い。22号住居に対しての新旧関係は不明。

形状　直径5.4ｍの円形を呈する。

壁高　南壁で20㎝を測る。

床面　はっきりした床面が確認できないまま、掘り下げてしまったため、炉が浮いた状態まで床面が下がってしまった。このような状態であるので、はっきりした床面は作られていないと思われる。炉の標

高から推定すると、エレベーション図の南壁付近で検出されている礫が床直上にあると推定される。

柱穴　７基が確認された。いずれも主柱穴に相当すると思われる。

炉　住居ほぼ中央に位置する。扁平な礫を用いた石囲炉であるが、北辺の１石をのぞいて抜き取られているため、形状は確認できないが方形を呈するものと思われる。南側の１石は動いているが炉石であると思われる。床面が確認できないまま、周囲を掘り下げてしまったため、掘り方も確認できなかった。炉石は被熱による亀裂が顕著で、南側の炉石も同様である。ほぼ中央に埋甕が設置されている。底部と口縁を打ち欠いた小形の深鉢で上端は２次的に被熱している。

遺物　図示した遺物の他、曽利Ⅲ～Ⅳ式期併行の在地系土器を中心とする土器片161点と、打製石斧破片、スクレイパー破片を含む石器類６点が出土している。

時期　炉内埋甕の様相から、加曽利Ｅ３式期併行段階の住居であると考えられる。

19区22号住居

調査年度　平成13年度

位置　19区Ｙ－19グリッド

重複　20号住居と重複するが、新旧関係は不明である。

形状　北半は削平のためはっきりした壁を検出できなかったが、推定直径5.1ｍの円形を呈するものと思われる。

壁高　残存の良い南壁で20㎝を測る。

床面　南から北への緩い傾斜地に立地するため、床面もわずかに北側が低くなっている。特に硬化した面は確認できなかった。

柱穴　８基が検出された。このうち、１、３、５、７が主柱穴に相当すると思われる。

炉　住居ほぼ中央に位置する。扁平な礫を用いた石囲炉で、炉石の残存が悪いため、形状は不明である。掘り方は長軸84㎝、短軸76㎝の長方形を呈している。北側の１石はほぼ原位置を保っていると思われるが、これを含め、炉石と思われる礫は被熱による亀裂を生じており、掘り方面では焼土が少量確認されている。

遺物　曽利Ⅳ式期併行の在地系土器を中心とする土器片310点と、打斧片、礫石器を含む石器類18点が出土している。

時期　出土遺物の様相から、加曽利Ｅ３式期中段階併行期の住居であると考えられる。

19区23号住居

調査年度　平成13年度

位置　19区Ｒ－25グリッド

重複　なし。

形状　北から東にかけての壁を削平によって失うが、推定直径3.8ｍの円形を呈するものと思われる。

壁高　最も残存の良い南東壁で20㎝を測る。

床面　南西から北東に向かって緩やかに傾斜している。特に硬化した面は確認されなかった。

柱穴　４基が検出されている。いずれも主柱穴に相当すると思われる。

埋甕　北西の壁から30㎝ほど内側で検出された。底部を打ち欠いた加曽利Ｅ３式期の深鉢を逆位に埋設する。

炉　住居中央に位置する。扁平な礫４石を用いた石囲炉で形状は長軸75㎝、短軸64㎝の方形を呈する。北・西・南辺の３石は原位置を保っていると思われ、東辺の炉石はやや動いているものと思われる。いずれの炉石も被熱による亀裂、剥離を生じている。炉内には礫が敷かれたような状態で出土している。これらの礫は被熱の痕跡が見られないため、使用面よりも下位に存在していたか、炉廃絶後に投棄されたものと思われる。

遺物　図示した遺物の他、加曽利Ｅ３式土器を中心とする土器片364点と黒曜石剥片２点を含む石器類９点が出土している。

時期　埋甕の様相から加曽利Ｅ３式期中段階の住居であると考えられる。

19区25号住居

調査年度　平成13年度

位置　19区Ｔ－19グリッド

重複　８号住居、26号住居。26号住居については本住居が古い。８号住居については、本住居が新しいと思われる。

形状　26号住居による重複と削平のため、北側の壁を失うが、推定直径3.6ｍの円形を呈するものと思われる。

壁高　残存の良い西壁で13㎝を測る。

床面　ほぼ平坦で、特に硬化した面は確認されなかった。

柱穴　２基が検出されている。

炉　住居中央に位置する。扁平な円礫を用いた石囲炉である。東西の辺に小さめの礫が連なるように並ぶため、長方形と思われるが、南辺には炉石が抜き取られたような痕跡が確認できていない。南側で重なっている礫までは掘り込みが確認できるため、ここを南辺と考えるとほぼ正方形となる。正方形と考えると１辺は55㎝を測る。北、東辺の炉石は被熱による亀裂、剥離を生じている。焼土は確認できなかった。

遺物　図示した遺物の他、勝坂式、焼町タイプを中心とする土器片203点と石器類10点が出土している。

時期　出土遺物の様相から、勝坂式期終末段階の住居であると考えられる。

19区26号住居

調査年度　平成13年度

位置　19区Ｔ－19グリッド

重複　17号住居、25号住居。25号住居に対しては本住居が新しく、17号住居に対しては本住居が古い。

形状　水田による削平のため、２/３程度を失うが、推定直径4.5ｍの円形を呈するものと思われる。

壁高　25号住居との重複部分において、30㎝の壁高を測る。

床面　確認できた面が少ないが、その範囲においてはほぼ平坦で、特に硬化した面は確認されなかった。

柱穴　６基が検出されたが、そのうちどのピットが柱穴に相当するかは不明である。

炉　炉は確認できなかった。17号住居の重複によって失われているものと思われる。

遺物　図示した遺物の他、加曽利Ｅ３式、曽利Ⅳ式期併行の在地系土器を中心とする土器片227点と、石器類２点が出土している。

時期　出土遺物の様相から、加曽利Ｅ３式期中段階の住居であると考えられる。

19区29号住居

調査年度　平成14年度

位置　19区Ｗ－16グリッド

重複　なし。

形状　長軸4.5ｍ、短軸4.2ｍの楕円形を呈する。

壁高　南西の壁で35㎝を測る。

床面　Ｃラインの断面で、床がやや凹んだ状況が看取できるが、それ以外はほぼ平坦で、特に硬化した面は確認されなかった。

柱穴　４基が確認されている。いずれも主柱穴に相当すると思われる。

炉　中央よりやや北東寄りに位置する。扁平な礫を用いた石囲炉で、幅40㎝の長方形を呈するものと思われるが、北西辺と南東辺以外の炉石は抜き取られているため、詳細は不明である。炉石には被熱の痕跡は見られなかったが、使用面で少量の焼土が確認されている。

遺物　覆土上位で投げ込まれたような礫が確認されている。５と６はやや広範囲な接合関係を示す。図示した遺物の他は、曽利Ⅱ式期併行の在地系土器を中心とする土器片322点と、黒曜石剥片49点、チャート剥片７点を含む石器類90点が出土している。

時期　出土遺物の様相から加曽利Ｅ２式期併行段階の住居であると考えられる。

19区30号住居

調査年度　平成14年度

位置　19区Ｖ－15グリッド

重複　31号住居、146、155、157号土坑。いずれも本住居が古い。31号住居は平安時代の住居である。

形状　南西から北東に向かう斜面に立地するため、北から南東にかけての壁は検出されなかった。また、南側では平安時代の31号住居による重複のため、壁を失っている。そのため、詳細な形状は不明だが、推定直径4.7mの円形を呈するものと思われる。

壁高　わずかに確認できた西側の壁も２～５㎝程度を測るのみである。

床面　南東から北西にかけては遺構確認段階ですでに床面を失っているものと思われる。残存する西側では床面はほぼ平坦で、特に硬化した面は確認されなかった。

柱穴　10基が検出された。このうち、６と10は主柱穴に相当すると思われるが、他は不明である。

炉　住居中央に位置する。扁平な礫を用いた石囲炉であるが、155号、157号土坑が重複し、半分近くを失っているため、形状は不明である。南辺と北辺の炉石は原位置を保っている可能性が高いので、長方形を呈するかもしれない。炉石には顕著な被熱痕跡は見られないが、炉内で検出された礫は被熱による亀裂を生じている。焼土は確認できなかった。

遺物　図示した遺物の他、曽利Ⅱ式期併行の在地系土器を中心とする土器片595点と、黒曜石剥片149点を含む石器類184点が出土している。

時期　出土遺物の様相から加曽利Ｅ２式期併行段階の住居であると考えられる。

19区34号住居

調査年度　平成14年度、15年度

位置　19区Ｘ－12グリッド

重複　20区80号住居。土層による新旧関係は不明であり、遺物の様相からも同時期と思われる。

形状　長軸5.2m、短軸4.6mの楕円形を呈する。

壁高　南壁で38㎝を測る。

床面　ほぼ平坦で、住居北側の床面に黄褐色ローム土による貼り床を確認した。黄褐色ローム土はあまり硬化しておらず、厚さは0.5～２㎝ほどである。

柱穴　７基が検出された。１、４、６、７が主柱穴に相当すると思われる。

炉　住居中央に位置する。扁平な礫と棒状の礫を用いた石囲炉である。西辺の炉石は緑色片岩であり、欠損しているが石棒を再利用しているものかもしれない。形状は長軸1.4m、短軸50㎝を測る長方形で、今回報告する住居の中では、比較的大型の炉である。床面からの掘り込みは20㎝である。炉石は被熱による変色、亀裂を生じており、使用面で少量の焼土が確認されている。

遺物　図示した遺物の他、加曽利Ｅ２式土器を中心とする土器片1449点と黒曜石剥片87点を含む石器類151点が出土している。

時期　出土遺物の様相から、加曽利Ｅ２式期併行段階の住居であると考えられる。

19区35号住居

調査年度　平成15年度

位置　19区Ｙ－14グリッド

重複　32号住居、52号住居。32号住居については本住居が古く、52号住居より新しい。

形状　32号住居の重複により北側の壁の一部を失うが、推定長軸4.2m、短軸3.7mの楕円形を呈するものと思われる。

壁高　南壁で28㎝を測る。

床面　多少の凹凸を持つが、ほぼ平坦で特に硬化した面は確認されなかった。

柱穴　５基が確認された。そのうち、２、４、５が主柱穴に相当すると思われる。

炉　中央からやや北寄りに位置する。扁平な礫を用いた石囲炉で形状は１辺75㎝のほぼ正方形を呈する。南、東、西辺の炉石、各１石は原位置を保っていると思われる。炉石は被熱による亀裂、剥離を生じており、炉内で検出された礫は炉石が崩れたものと思われる。焼土、炭化物等は確認できなかった。掘り方調査中に52号住居の炉を検出した。

遺物　遺構確認の時点で、直径４mほどの範囲で遺物の集中が確認された。覆土上層から遺物を多く含

み、埋没土が単一土層であることから、遺物を投棄した人為的な埋没が想定される。遺物は図示したものの他、加曽利Ｅ３式土器を中心とする土器片2072点と石器類330点が出土している。

時期　出土遺物の様相から、加曽利Ｅ３式期中段階の住居であると考えられる。

19区38号住居

調査年度　平成15年度

位置　19区Ｒ－14グリッド

重複　なし。

形状　水田による削平を受けて、住居本体の2/3を失うが、推定直径3.8mの円形を呈するものと思われる。

壁高　西壁で42㎝を測る。

床面　南から北に向かって緩やかに傾斜する。床面で多くの礫が検出されているため、敷石が施されていたことも想定される。

柱穴　６基が検出されている。壁に沿って検出されているので、この柱穴配置も敷石住居を想定させるものである。

炉　水田による削平のため、失われていると思われる。

遺物　図示した遺物の他は縄文時代中期と思われる小破片41点と石器類９点が出土している。

時期　数は少ないが出土遺物の様相と、敷石住居が想定されることから、縄文時代中期後半の住居であると考えられる。

19区39号住居

調査年度　平成15年度

位置　19区Ａ－18グリッド

重複　なし。

形状　明瞭な壁は検出できていないが、推定直径4.8mの不整円形を呈するものと思われる。

壁高　明瞭な壁は確認できなかった。

床面　南東から北西に向かう斜面上に位置するため、その方向に緩やかに傾斜しているが、斜面下位の床面はすでに失われているものと思われる。

柱穴　３基が確認された。いずれも主柱穴に相当すると思われる。

炉　住居ほぼ中央に位置する。削平のために炉石は失われているものと思われる。80㎝×70㎝の範囲で焼土が確認された。

遺物　図示した遺物の他、縄文時代中期と思われる土器の小破片が７点出土している。

時期　時期を決定する材料に乏しいが、縄文時代中期の住居と考える。

19区41号住居

調査年度　平成15年度

位置　19区Ｕ－15グリッド

重複　なし。

形状　南西から北東に向かう傾斜地に立地するため、東から北にかけての壁を失うが、直径5.1mの円形を呈する。

壁高　斜面上部の西壁で35㎝を測る。

床面　傾斜方向の北東に向かって緩やかに傾斜する。北東部では本来の床面は失われているものと思われる。

柱穴　３基が検出されている。２、３が主柱穴に相当すると思われる。

炉　ほぼ中央に位置する。扁平な円礫を用いた石囲炉で、形状は長軸1.3m、短軸70㎝を測る長方形を呈する。34号住居の炉と形状が似るが、一回り大きい。炉石は被熱による剥離、亀裂が顕著で、試みに炉内で検出された礫と炉石を接合してみたところ、多くの炉石が復元できた。このことから、長方形を呈している炉石の多くは原位置を保っていることになる。

遺物　炉内から多くの遺物が出土している。図示した遺物の他は曽利Ⅱ式期併行の在地系土器を中心とする土器片658点と黒曜石剥片219点を含む石器類264点が出土している。

時期　加曽利Ｅ２式期併行段階の住居であると考えられる。

19区42号住居

調査年度　平成15年度

位置　19区Ｙ－11グリッド

重複　なし。

形状　長軸4.5m、短軸4.2mのやや楕円形を呈する。

壁高　南壁で26cmを測る。

床面　床面の半分ほどで黄褐色ローム土による貼床を確認した。あまり硬化していないが、今回報告する住居の中では最も広い面積で貼床が施されている。

柱穴　４基が検出されている。いずれも主柱穴に相当すると思われる。

炉　ほぼ中央に位置する。扁平な礫を用いた石囲炉で、形状は長軸１m、短軸50cmの長方形を呈する。炉石はほぼ原位置を保っていると思われる。被熱による亀裂、剥離を生じており、埋土中に少量の焼土が認められる。

この炉の上位で円形の炉状の配石が検出されている。小形の炉とも考えられるが、被熱痕跡は認められないため、炉ではないと思われる。参考までに図を掲げるが、本住居よりも新しい別遺構として、後の報告とする。

遺物　図示した遺物の他、曽利Ⅱ式期併行の在地系土器を中心とする土器片334点と石器類185点、骨片19点が出土している。

時期　出土遺物の様相から、加曽利Ｅ１式期新段階併行期の住居であると考えられる。

19区43号住居

調査年度　平成15年度

位置　19区Ｓ－17グリッド

重複　なし。

形状　明瞭な壁が検出されていないが、推定直径4.5mの円形を呈するものと思われる。

壁高　壁を検出できなかった。

床面　南西から北東に向かう傾斜地に立地するため、傾斜方向に向かって緩やかに傾斜する。北東部では本来の床面は失われているものと思われる。

柱穴　検出されなかった。

炉　ほぼ中央に位置する。扁平な礫を用いた石囲炉で、南辺以外の炉石は残存が悪いが、形状は長軸80cm、短軸50cmの長方形を呈するものと思われる。炉石は被熱による剥離がわずかに認められる。埋没土中に焼土、炭化物が少量認められる。

遺物　図示した遺物の他、曽利Ⅱ式期併行の在地系土器を中心とする土器片83点と石器類20点、骨片１点が出土している。

時期　出土遺物の様相から加曽利Ｅ１式期新段階併行期の住居であると考えられる。

19区46号住居

調査年度　平成15年度

調査の経過　遺構確認中に直径２mほどの範囲で遺物の集中が確認されたため、住居を想定して調査を進めた。床面と思われる面でも炉が検出できなかった。本遺跡では炉が検出されないと住居と認定できない場合が多いが、本住居では比較的明瞭な壁と柱穴２基が検出できたので住居と認定した。

位置　19区Ｖ－７グリッド

重複　178号土坑。本住居が新しい。

形状　長軸3.2m、短軸2.7mの楕円形を呈する小形の住居である。

壁高　南西壁で21cmを測る。

床面　ほぼ平坦で、特に硬化した面は確認されなかった。

柱穴　２基が検出されている。いずれも主柱穴に相当すると思われる。

炉　検出されなかった。

遺物　図示した遺物の他、曽利Ⅱ式期併行の在地系土器を中心とする土器片151点と石器類48点が出土している。

時期　出土遺物の様相から加曽利Ｅ１式期新段階併行期の住居であると考えられる。

19区47号住居

調査年度　平成15年度

位置　19区Ｘ－９グリッド

重複　なし。

形状　南西から北東に向かう傾斜地に立地するため、北東部分では壁が検出できなかったが、直径4.0mの円形を呈するものと思われる。

壁高　残存の良好な南西壁で25cmを測る。

床面　傾斜方向に向かって緩やかに傾斜する。北東部分では床面は失われているものと思われる。

柱穴　４基が検出されている。いずれも主柱穴に相当すると思われる。

炉　ほぼ中央に位置する。角礫を用いた石囲炉である。当初、炉石が三角形に検出されたため、これが炉になると思われたが、長方形の掘り方が確認できたため、南西の隅の炉石が残存し、動いた炉石が連なって三角形を呈したものと判断した。掘り方の規模は長軸１m、短軸70cmを測る。炉石は被熱による亀裂を生じている。炉内からは焼土は確認できなかった。

遺物　図示した遺物の他、曽利Ⅱ式期併行の在地系土器を中心とする土器片74点と石器類14点が出土している。

時期　出土遺物の様相から、加曽利Ｅ１式期新段階併行期の住居であると考えられる。

19区51号住居

調査年度　平成15年度、16年度

調査の経過　遺構確認中、遺物番号11の埋甕が検出されたので、周辺の精査を行ったところ、焼土と柱穴を検出したため、住居と判断した。

位置　19区Ｙ－16グリッド

重複　28号住居。本住居が古い。

形状　南側の壁のみの検出であるが、推定直径3.9mの円形を呈するものと思われる。

壁高　残存の良好な南壁で25cmを測る。

床面　ほとんどの部分で床面は失われているものと思われる。

柱穴　３基が検出されている。いずれも主柱穴に相当すると思われる。

炉　住居ほぼ中央において、45cm×25cmの範囲で焼土の集中が確認された。床面まで削平を受けているため、炉石は失われているものと思われる。

埋甕　推定される北壁付近で検出された。出入り口部埋甕が想定される位置である。底部を打ち欠いた深鉢を逆位に埋設する。埋甕内からは丸石１点と黒曜石剥片14点とチャート剥片４点、骨片少量が出土している。

遺物　埋甕と図示した遺物の他、加曽利Ｅ３式を中心とする土器片110点と石器類６点が出土している。

29区１号住居

調査年度　平成11年度

位置　29区Ａ－３グリッド

重複　２号住居。本住居が古い。

形状　直径3.8mのほぼ円形を呈する。

壁高　残存の良好な南壁で18cmを測る。

床面　北から南に向けて緩やかに傾斜する。特に硬化した面は確認されていない。

柱穴　２基が検出されている。２号住居による重複の部分とトレンチによって失われた部分にも存在することが推定される。

炉　住居中央に位置する。扁平な礫と亜角礫を用いた石囲炉。北東と南東の２辺にしか炉石が残存しないが、１辺が50cmの方形を呈するものと思われる。東隅の１石は被熱による変色が確認できる。焼土は確認できなかった。

遺物　図示した遺物の他、曽利Ⅱ式期併行の在地系土器を中心とする土器片34点が出土している。

時期　加曽利Ｅ２式期併行段階の住居であると考えられる。

29区２号住居

調査年度　平成11年度

位置　29区Ａ－３グリッド

重複　１号住居。本住居が新しい。

形状　南東から北西に向かう傾斜地に立地するため、北半の壁を失うが、推定直径3.5m程の円形を呈するものと思われる。

壁高　１号住居との重複部分で、１号住居との比高差は18㎝を測る。

床面　傾斜方向に緩やかに傾斜しているが、北西部の床面は失われているものと思われる。

柱穴　６基が検出されている。いずれも主柱穴に相当すると思われる。

炉　住居中央に位置する。板状の礫を用いた石囲炉。形状は直径70㎝のほぼ円形を呈する。西辺と南東隅の炉石を失うが、他はほぼ原位置を保っていると思われる。炉石は被熱による亀裂が顕著で、上部はほとんど被熱によって失われているものと思われる。炉内ほぼ中央に埋甕が設置される。埋甕は口縁と底部を打ち欠いた小形の深鉢で、上部は２次的な被熱が認められる。

遺物　図示した遺物の他、曽利Ⅲ式期併行の在地系土器を中心とする土器片38点が出土している。

時期　加曽利Ｅ３式期併行段階の住居であると考えられる。

29区12号住居

調査年度　平成12年度

位置　29区Ｃ－３グリッド

重複　なし。

形状　直径4.1ｍの円形を呈する。

壁高　北壁で42㎝を測る。

床面　トレンチによって失われた部分も多いが、ほぼ平坦で、特に硬化した面は確認されなかった。

柱穴　検出されなかった。

炉　住居中央に位置する。扁平な礫を用いた石囲炉で、形状は方形を呈するものと思われる。被熱痕跡は不明である。

遺物　図示した遺物の他、加曽利Ｅ３式土器を中心とする土器片222点と石器類12点が出土している。

時期　加曽利Ｅ３式期新段階の住居であると考えられる。

29区15号住居

調査年度　平成11年度

位置　29区Ｄ－５グリッド

重複　なし。

形状　北東の一部しか壁が検出されていないが、推定直径3.5ｍの円形を呈するものと思われる。

壁高　残存する北東の壁で18㎝を測る。

床面　ほぼ平坦で、特に硬化した面は確認されなかった。

柱穴　４基が検出されている。いずれも主柱穴に相当すると思われる。

炉　住居中央に位置すると思われる。板状の礫を用いた石囲炉で、形状は１辺40㎝の方形を呈する。北東の１石はほぼ原位置を保っていると思われるが、他の３辺はやや動いているものと思われる。炉石はいずれも被熱しており、亀裂、変色が確認できる。焼土は確認できなかった。

遺物　記録されている限りでは図示した３点が出土しているのみである。

時期　時期を決定する材料に乏しいが、規模、炉の構造などから、縄文時代中期の住居であるとしておく。

29区16号住居

調査年度　平成11年度

位置　29区Ｅ－３グリッド

重複　なし。後述する19号住居が重複している可能性はあるが、確認できなかった。

形状　全長6.3ｍ、主体部長径3.9ｍ、短径3.5ｍの柄鏡形を呈する。張り出し部は長さ2.4ｍ、幅1.7ｍが推定される。

壁高　主体部南壁で42㎝を測る。

床面　柄鏡形の形状であるため、敷石床が想定されるが、明瞭な敷石は残存していない。炉の北側で扁平な礫が確認できるが、これが残存する敷石であると思われる。張り出し部は主体部より一段高く構築されている。その比高差は15㎝ほどである。張り出し部はほぼ全面に敷石が施されている。

柱穴　主体部下面で５基が検出されている。いずれも主柱穴に相当すると思われる。柄鏡形敷石住居に

特徴的に見られる、主体部と張り出し部の連結部（以下連結部）２基１対のピット（対ピット）は検出されていない。

埋甕　炉と連結部のほぼ中間地点で検出された。口縁部を欠いた無文の深鉢を正位に埋設する。扁平な石が上位で確認されているため、蓋石の存在も想定される。この埋甕の位置は柄鏡形敷石住居としては例の少ないものである。*1また、本住居は連結部に石囲施設を持つ。扁平な礫を左右に立てて設置し、下面に石を敷くものであるが、これを筆者は「連結部石囲施設」と呼称しており、*2加曽利Ｅ４式期から称名寺式期の敷石住居で多く見られる連結部埋甕に相当する施設であると考えるものである。

炉　主体部中央からやや西よりに位置する。板状の礫４石を用いた石囲炉で、形状はほぼ正方形を呈する。東辺の炉石は被熱による亀裂が著しく、上部を失うが、他の炉石はほぼ原位置を保っていると思われる。東辺以外の炉石も被熱による亀裂を生じている。北東隅に埋甕が設置される。ほぼ完形の深鉢でわずかに被熱している。

遺物　図示した遺物の他、加曽利Ｅ３式新段階を中心とする土器片173点、石器類７点が出土している。

時期　加曽利Ｅ３式期新段階の住居であると考えられる。

29区19号住居

調査年度　平成11年度

位置　29区Ｅ－３グリッド

重複　16号住居と重複する可能性はあるが、確認できなかった。

形状　炉のみの検出に留まったため、住居としての形状等は不明である。

炉　板状の礫を用いた石囲炉で、形状は方形を呈する。炉石はほぼ原位置を保っており、被熱による変色、剥離が確認された。

遺物　確認できたのは図示した１点のみである。

時期　時期を決定する材料はないが、遺構確認面の状況等から、縄文時代中期の住居であるとしておく。

29区20号住居

調査年度　平成11年度

位置　29区Ｅ－４グリッド

重複　16号住居と隣接するが、重複は確認できなかった。

形状　明瞭な壁を検出できなかったが、推定直径4.2ｍの不整円形を呈するものと思われる。

壁高　確認できなかった。

床面　東から西に向かって緩やかに傾斜する。特に硬化した面は確認されなかった。

柱穴　２基検出されている。いずれも主柱穴に相当すると思われる。

炉　住居中央に位置すると思われる。角礫を用いた石囲炉で、形状は不明だが、円形の掘り方が確認されている。炉石は被熱による剥離を生じている。中央に埋甕が設置される。口縁と底部を打ち欠いた小形の深鉢を用いる。上部は２次的な被熱の痕跡が認められる。

炉の北西に炉状の石組みが検出されているが、被熱痕跡が確認できていないため、炉ではないと思われるが性格は不明である。

埋甕　推定される北壁付近で検出された。出入り口部埋甕が想定される位置である。口縁を打ち欠いた深鉢を正位に埋設するものであるが、この土器は所在不明となっている。明らかになり次第報告する。

遺物　図示した遺物の他、加曽利Ｅ３式土器を中心とする土器片28点が出土している。

時期　加曽利Ｅ３式期の住居であると考えられる。

29区22号住居

調査年度　平成11年度

位置　29区Ｙ－１グリッド

重複　なし。

形状　明瞭な壁を検出できなかったため、不明である。

壁高　平面図には壁のプランが記録されていないが、Ｂラインの断面図によると、南壁で18cmを測ることができる。

床面　南から北に向かって緩やかに傾斜している。

柱穴　検出できなかった。

炉　住居中央に位置すると思われる。扁平な礫４石を用いた石囲炉で、形状は１辺が70㎝の正方形を呈する。いずれの炉石も被熱による亀裂が生じており、上部を欠いている。炉石はほぼ原位置を保っていると思われる。

遺物　図示した遺物の他、加曽利Ｅ３式土器を中心とする土器片219点と石器類９点が出土している。

時期　加曽利Ｅ３式期新段階の住居であると考えられる。

30区26号住居

調査年度　平成11年度

調査の経過　遺構確認中に焼土と埋甕が確認され、さらに板状の礫が検出された。これが、柄鏡形敷石住居の炉、連結部埋甕、張り出し部の敷石の残存と考えられるため、住居と判断した。

位置　30区Ｎ－１グリッド

重複　なし。

形状　柄鏡形敷石住居が想定されるが、主体部、張り出し部の規模、形状は不明である。

床面　柄鏡形敷石住居が想定されるが、張り出し部の敷石の一部が残存するのみで、主体部では敷石床を想起させる礫は確認できていない。焼土が検出された標高から考えると、床面は失われているものと思われる。

柱穴　検出されなかった。

炉　埋甕の南側に45㎝×30㎝の範囲で焼土の集中を確認した。中心部はより焼土化が進んでいる。床面は削平されていると考えられるため、炉石は確認できなかった。掘り方も確認できていない。

遺物　図示した遺物の他、加曽利Ｅ３式期新段階を中心とする土器片42点と石器類２点が出土している。

時期　出土遺物の様相から、加曽利Ｅ３式期新段階の住居であると考えられる。

30区27号住居

調査年度　平成11年度

位置　30区Ｎ－２グリッド

重複　なし。

形状　明瞭な壁が検出されていないため不明であるが、張り出し部が調査区外へ延びる柄鏡形を呈するものと思われる。推定される規模は、主体部で径4.2ｍ程と思われる。

床面　柄鏡形敷石住居が想定されるが、敷石床を想起させるような礫は確認されていない。検出された床面はほぼ平坦で、特に硬化した面は確認されていない。

柱穴　８基が検出されている。７と８は連結部対ピットであると思われる。１、２、３、４が主柱穴に相当すると思われる。

埋甕　連結部で検出された。底部を打ち欠いた深鉢を逆位に埋設する。埋甕内からは扁平な礫２点が出土している。

炉　住居中央に位置すると思われる。埋甕の上に角礫が囲っているような状況で検出されたため、炉と判断した。形状は不明。埋甕は底部を打ち欠いた大形の深鉢。炉石に被熱の痕跡は認められなかった。

遺物　図示した遺物の他、加曽利Ｅ３式新段階を中心とする土器片51点と石器類２点が出土している。

時期　出土遺物の様相と柄鏡形敷石住居が想定されることから、加曽利Ｅ３式期新段階の住居であると考えられる。

30区28号住居

調査年度　平成11年度

位置　30区Ｏ－２グリッド

形状　敷石と埋甕が検出されていることから、柄鏡形敷石住居が想定されるが、この２基の埋甕と敷石を住居内のどの部分と考えるか、判断の分かれるところである。柱穴３、４を対ピットと考え、埋甕２を連結部埋甕、埋甕１を張り出し部先端部の埋甕と考えることが配置からすると自然であるが、炉が存在しないこととなる。埋甕２を炉内埋甕と考え、１を連結部埋甕とすると柱穴３と４の位置関係に整合

性を欠く。埋甕２はやや斜位に埋設されていることから、炉内埋甕とは考えにくいので、埋甕２を連結部埋甕、埋甕１を張り出し部先端部埋甕、残存する敷石は張り出し部に施された敷石と考えたい。

床面　主体部の床面は確認できていない。張り出し部は板状の礫を敷き詰めた敷石床で、やや凹凸を持つ。

柱穴　３、４は前述したように対ピットと考えられる。１、２は切り合い関係が見られないことから、本住居の柱穴には相当しないのではないかと思われる。

埋甕　１は連結部埋甕で、口縁と底部を打ち欠いた小形の深鉢を正位に埋設する。２はほぼ完形の深鉢を住居主体部方向に向けてやや斜位に埋設する。

炉　前述したように考えると、炉は検出されていないと思われる。

遺物　図示した遺物の他、加曽利Ｅ３式期新段階を中心とする土器片31点と、石器類６点が出土している。

時期　埋甕の様相、柄鏡形敷石住居が想定されることから、加曽利Ｅ３式期新段階の住居であると考えられる。

30区31号住居

調査年度　平成11年度

調査の経過　炉のみ確認に留まった。埋設土器の可能性も考えられるが、ここでは住居炉として判断した。

位置　30区Ｎ－２グリッド

形状　不明である。

炉　底部を打ち欠いた深鉢を正位に埋設した埋甕炉である。焼土は確認できていない。

遺物　図示した深鉢以外は出土していない。

時期　加曽利Ｅ３式期の住居であると考えられる。

30区37号住居

調査年度　平成９年度

位置　30区Ｅ－５グリッド

形状　住居の約２/３が調査区外になるため、不明の部分が多いが、推定直径5.4mの円形を呈するものと思われる。

壁高　南壁で30cmを測る。

床面　やや凹凸を持つが、ほぼ平坦で特に硬化した面は確認されなかった。

柱穴　検出されなかった。

炉　炉は検出されなかった。調査区外に存在するものと思われる。

遺物　図示した遺物の他、勝坂式、阿玉台式を中心とする土器片78点と石器類５点が出土している。

時期　阿玉台Ⅱ式期の住居であると考えられる。本遺跡では最も古い時期の住居の一つである。

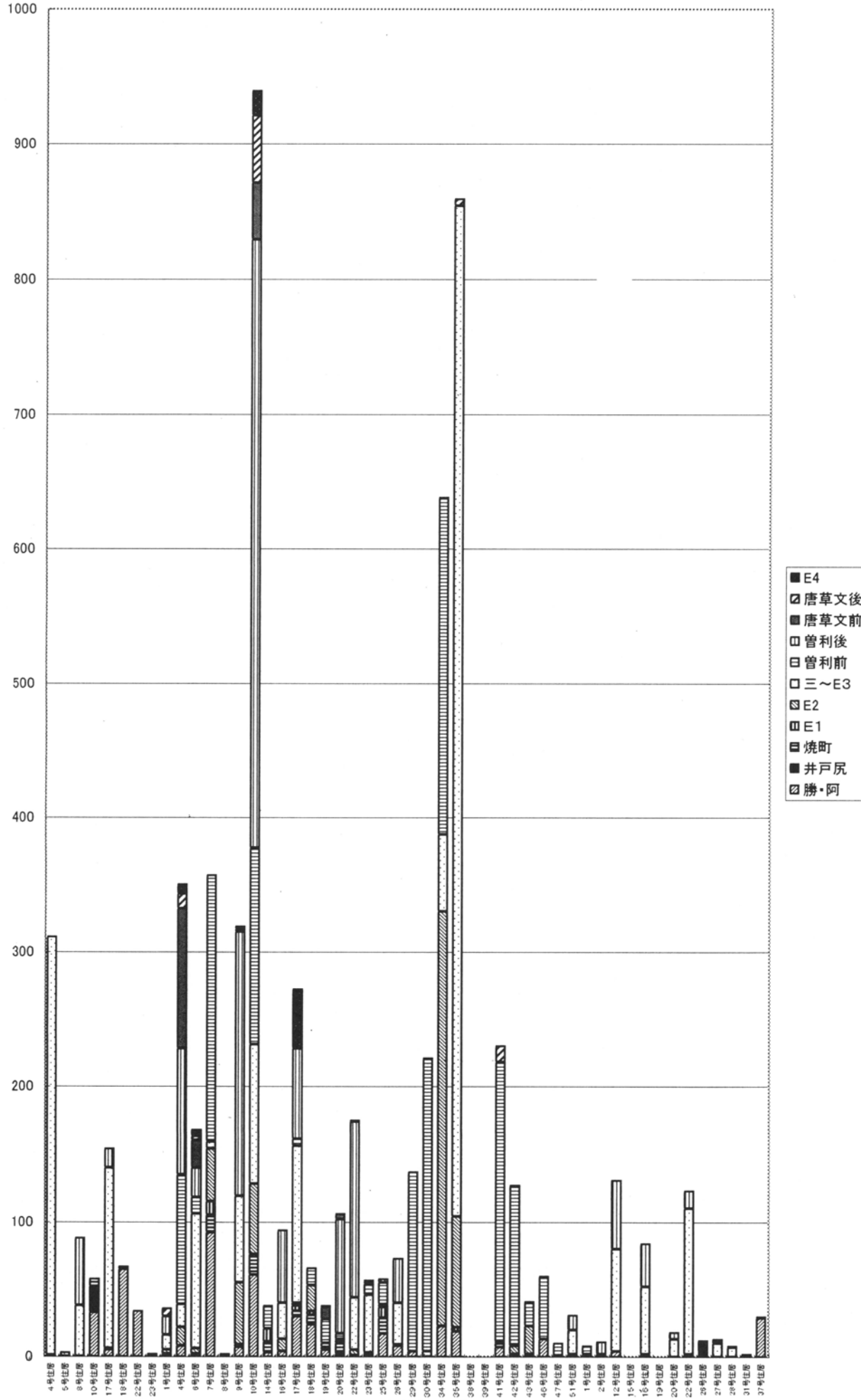
＊１　池田政志「三ッ子沢中遺跡の敷石住居　－群馬県内検出の敷石住居の集成を通して－」『三ッ子沢中遺跡』群埋文　2000

＊２　１と同じ

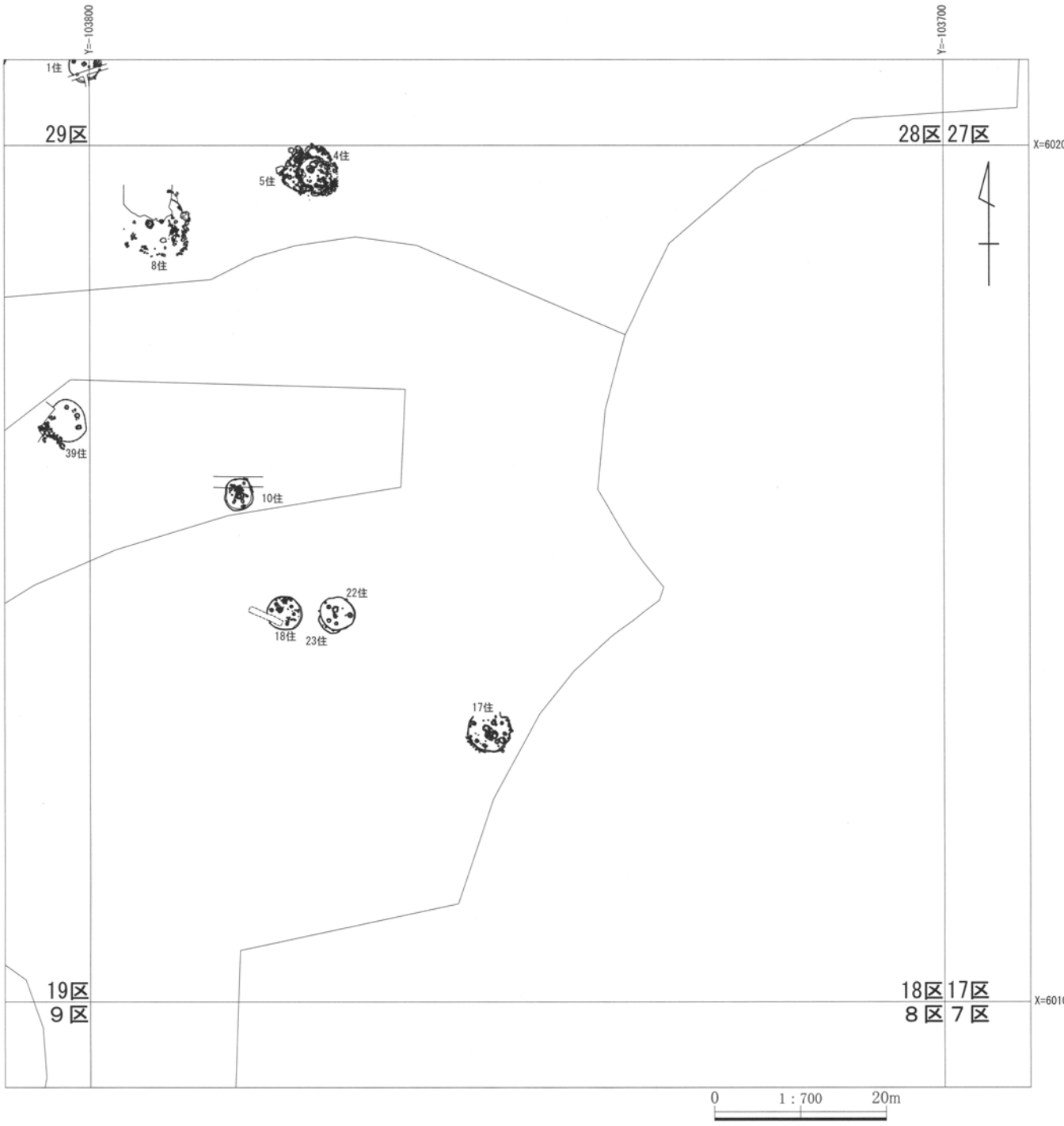
表３　住居出土土器集計表（単位は個）

		勝・阿	井戸尻	焼町	Ｅ１	Ｅ２	三～Ｅ3	曽利前	曽利後	唐草文前	唐草文後	Ｅ４	不明・その他	合　計
18区	４号住居	1					319		5				5	330
	５号住居						3		1				11	15
	８号住居						41	1	52				43	137
	10号住居	37	19	10	2								49	117
	17号住居	5	1				159		39				140	344
	18号住居	71		2	4		1	6					85	169
	22号住居	44						2					0	46
	23号住居	5											0	5
19区	１号住居	2				3	11		14		6		115	151
	４号住居	8				14	17	96	93	104	11	7	530	880
	６号住居	2				4	100	12	22	20	3	5	207	375
	７号住居	92		13	10	39	5	198					1068	1425
	８号住居	2											13	15
	９号住居	7		2		46	64		196	2		2	220	539
	10号住居	61		15		52	103	146	452	42	50	18	1864	2803
	14号住居	3		8	10			17					66	104
	16号住居	4				9	27		54				432	526
	17号住居	30		4	4	2	116	5	67			44	1037	1309
	18号住居	24		7	3	19		13					353	419
	19号住居	5				2	3	18		9		1	43	81
	20号住居	2		8		2	1	4	85	4			62	168
	22号住居	1				4	39		130			1	145	320
	23号住居	2		1			43	8	2	1			308	365
	25号住居	17		12	8		2	16	3				149	207
	26号住居	8		1			31		33				161	234
	29号住居	4				2		145					188	339
	30号住居						4	239					376	619
	34号住居	26		1	4	308	58	265		9			815	1486
	35号住居	19		2	3	82	762	1	10		5		1223	2107
	38号住居						1		1				43	45
	39号住居												7	7
	41号住居	7		5	2			219		3	12		430	678
	42号住居	2				6		129		3			208	348
	43号住居	2			1	23		25					43	94
	46号住居	15						51		2			93	161
	47号住居							13					66	79
	51号住居	2					23		17				79	121
29区	１号住居					3		13					28	44
	２号住居					1	2	8	9	1			64	85
	12号住居	8					85	2	64				93	252
	15号住居	1					2						0	3
	16号住居					2	55		40			1	94	192
	19号住居												1	1
	20号住居						15		10				11	36
	22号住居	2					117	1	17				97	234
30区	26号住居						2	1	1			8	30	42
	27号住居						10					3	40	53
	28号住居						7		1				25	33
	31号住居						2						0	2
	37号住居	29					1						48	78

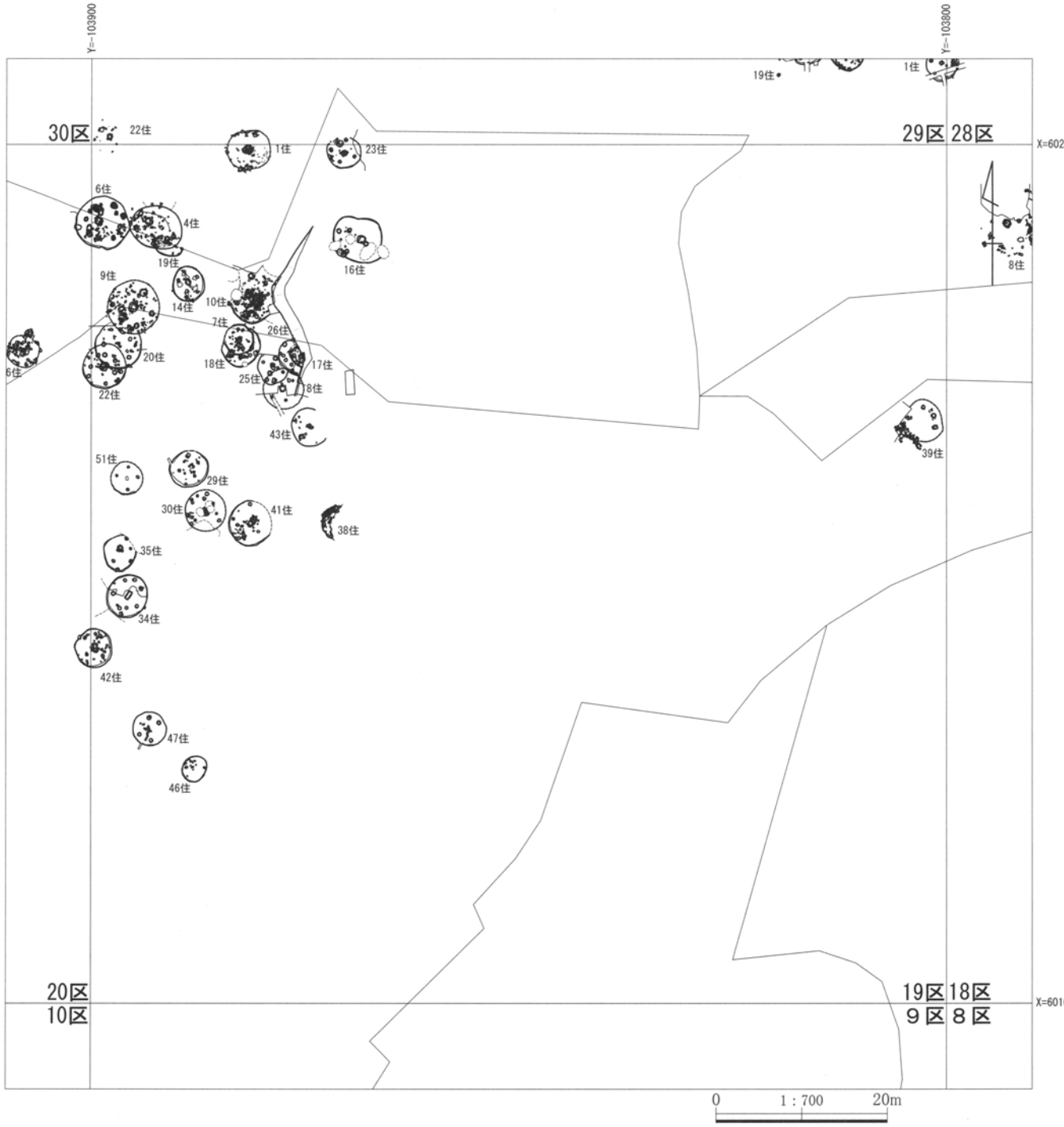
「勝・阿」は勝坂式・阿玉台式、「三～Ｅ３」は三原田式～加曽利Ｅ３式（中峠式を含む）、「曽利前」は曽利Ⅰ・Ⅱ式、「曽利後」は曽利Ⅲ～Ⅴ式、「唐草文前」は唐草文Ⅰ・Ⅱ式、「唐草文後」は唐草文Ⅲ・Ⅳ式を表す。また、時期不明の土器片数は次項のグラフには掲載していない。



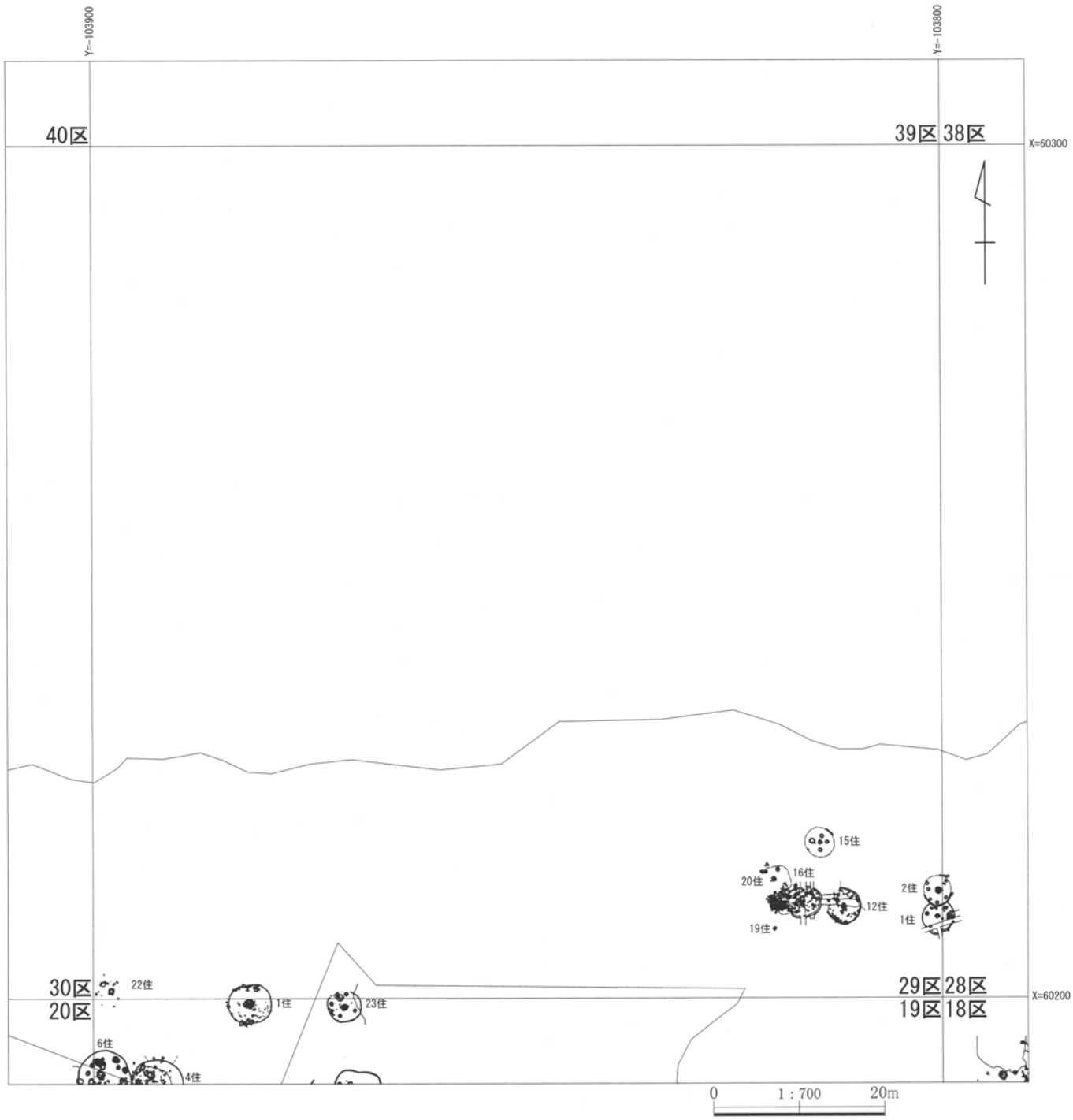
第５図　住居出土土器集計グラフ



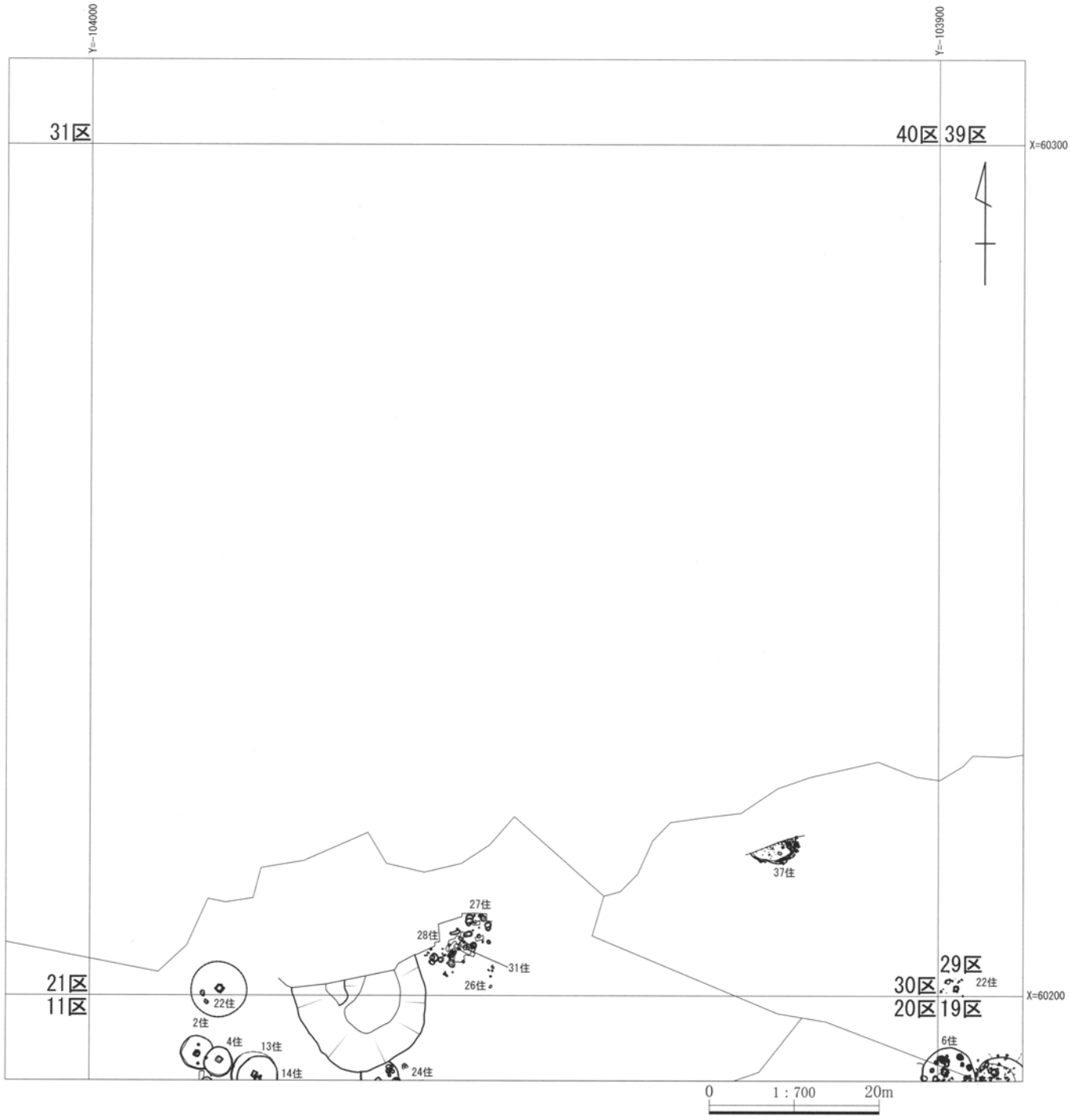
第６図　18区住居全体図



第７図　19区住居全体図

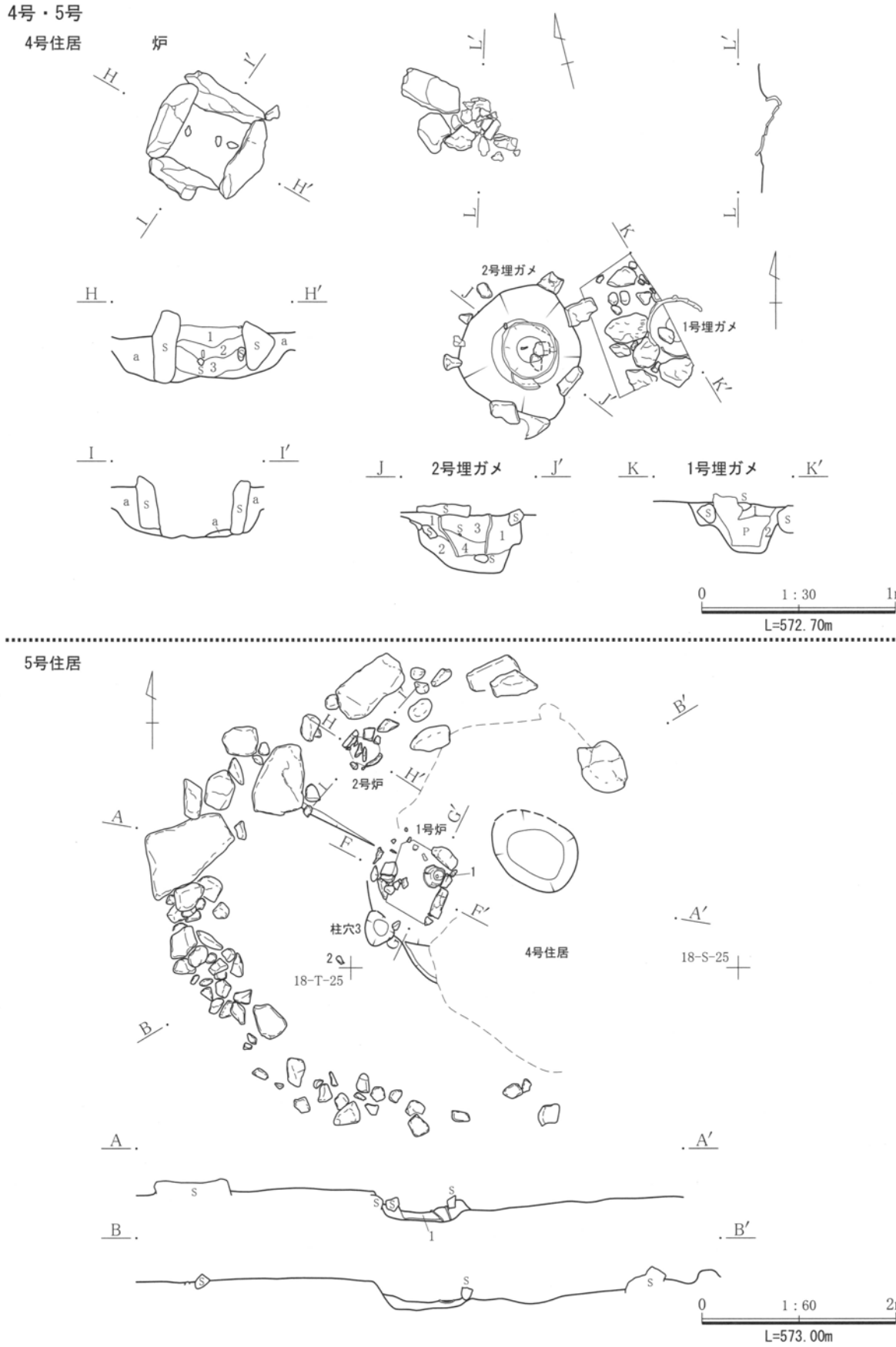


第８図　29区住居全体図

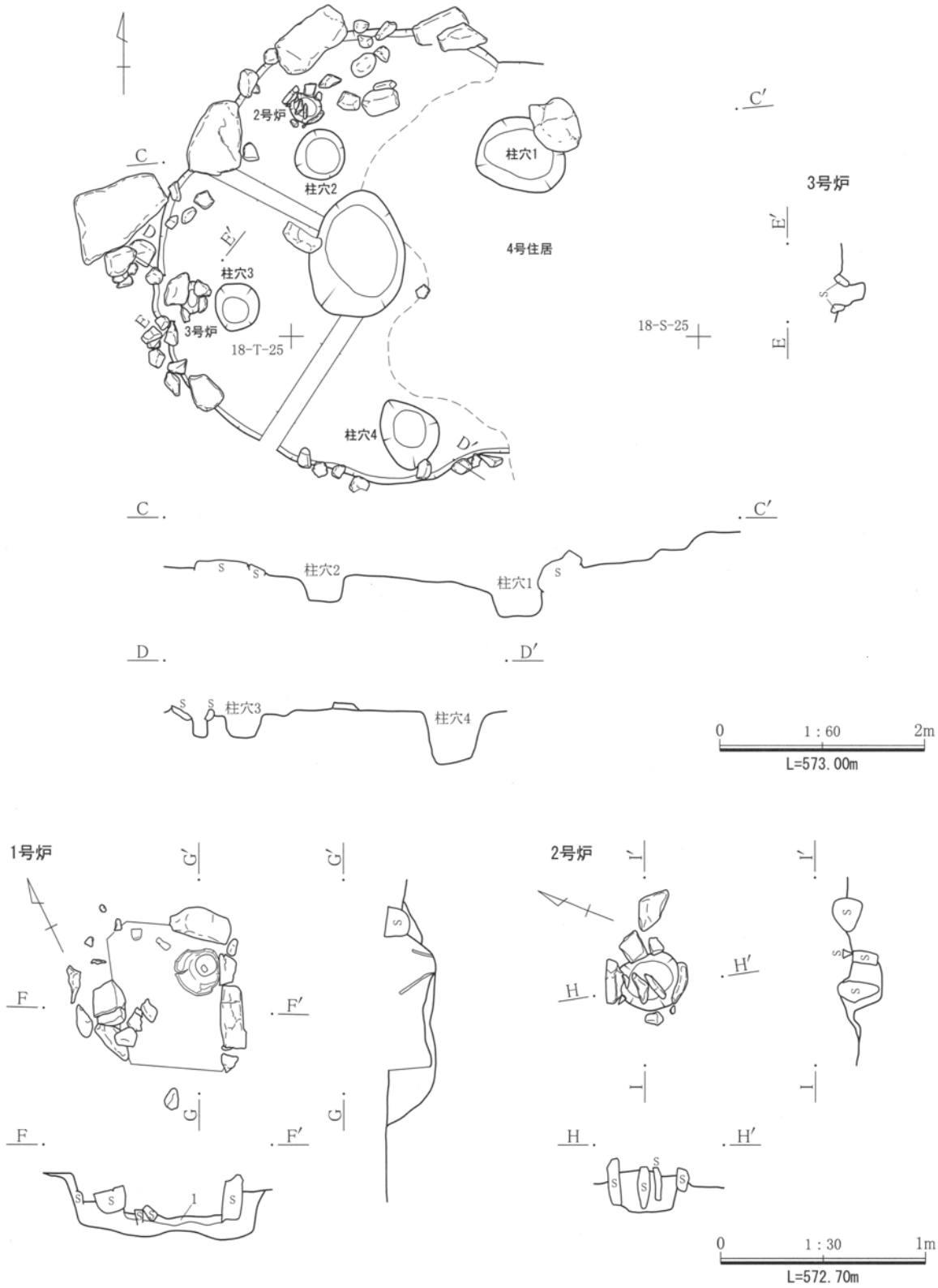


第９図　30区住居全体図

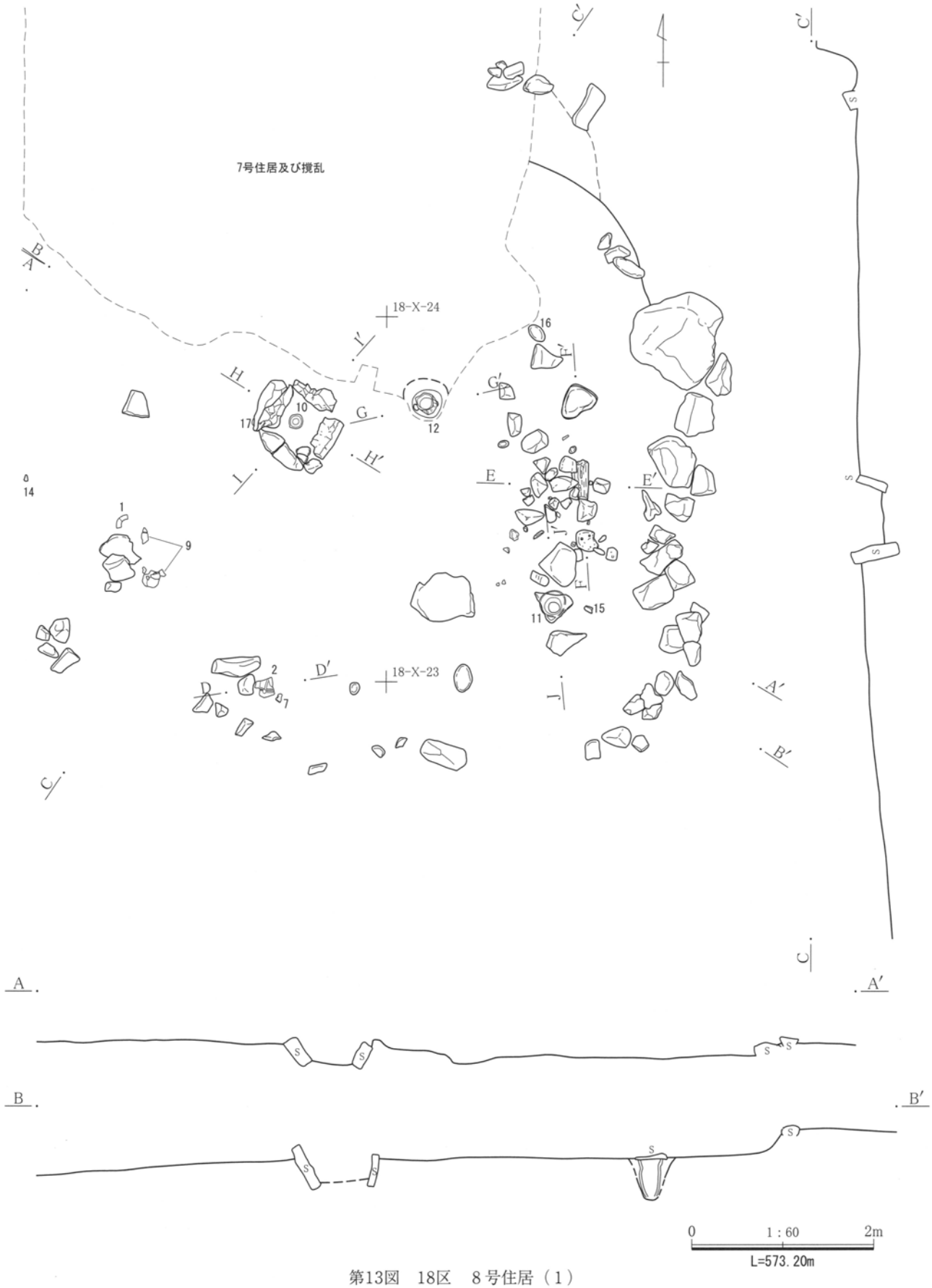
第10図　18区　４号住居（１）



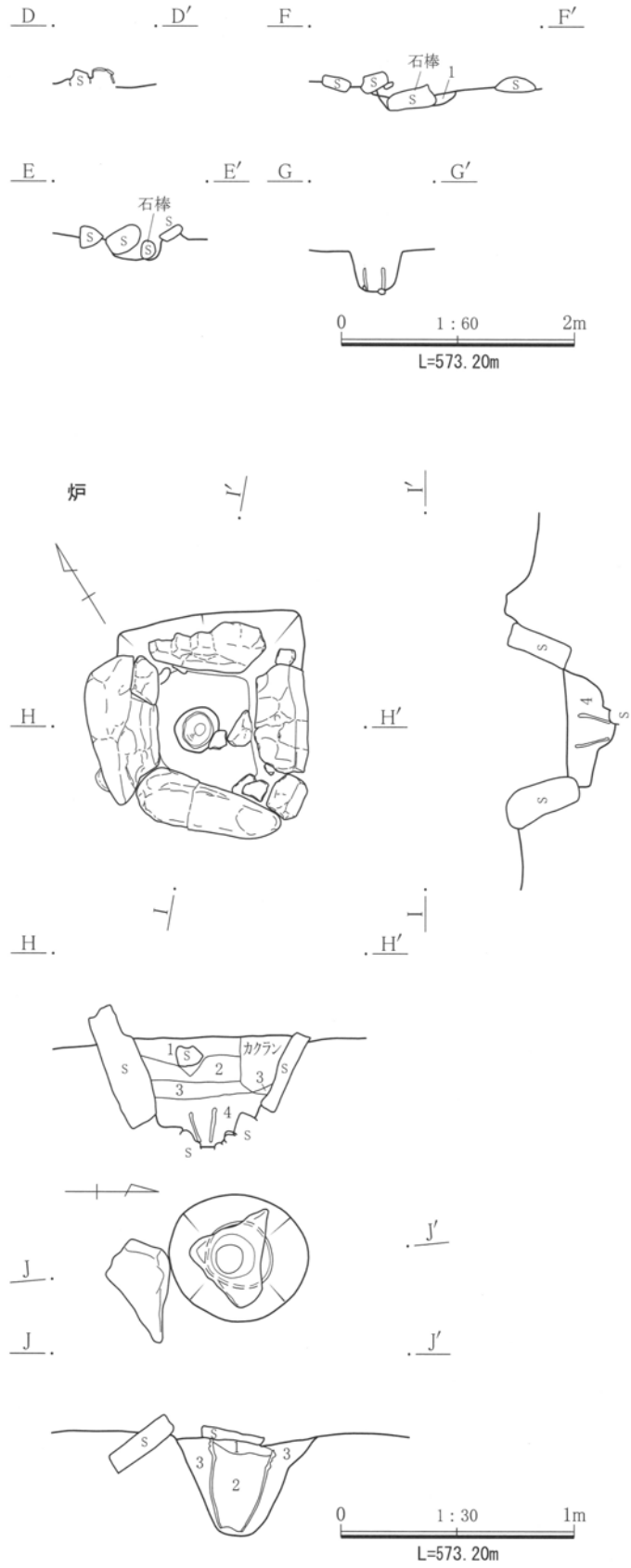
第11図　18区　４号住居（２）・５号住居（１）



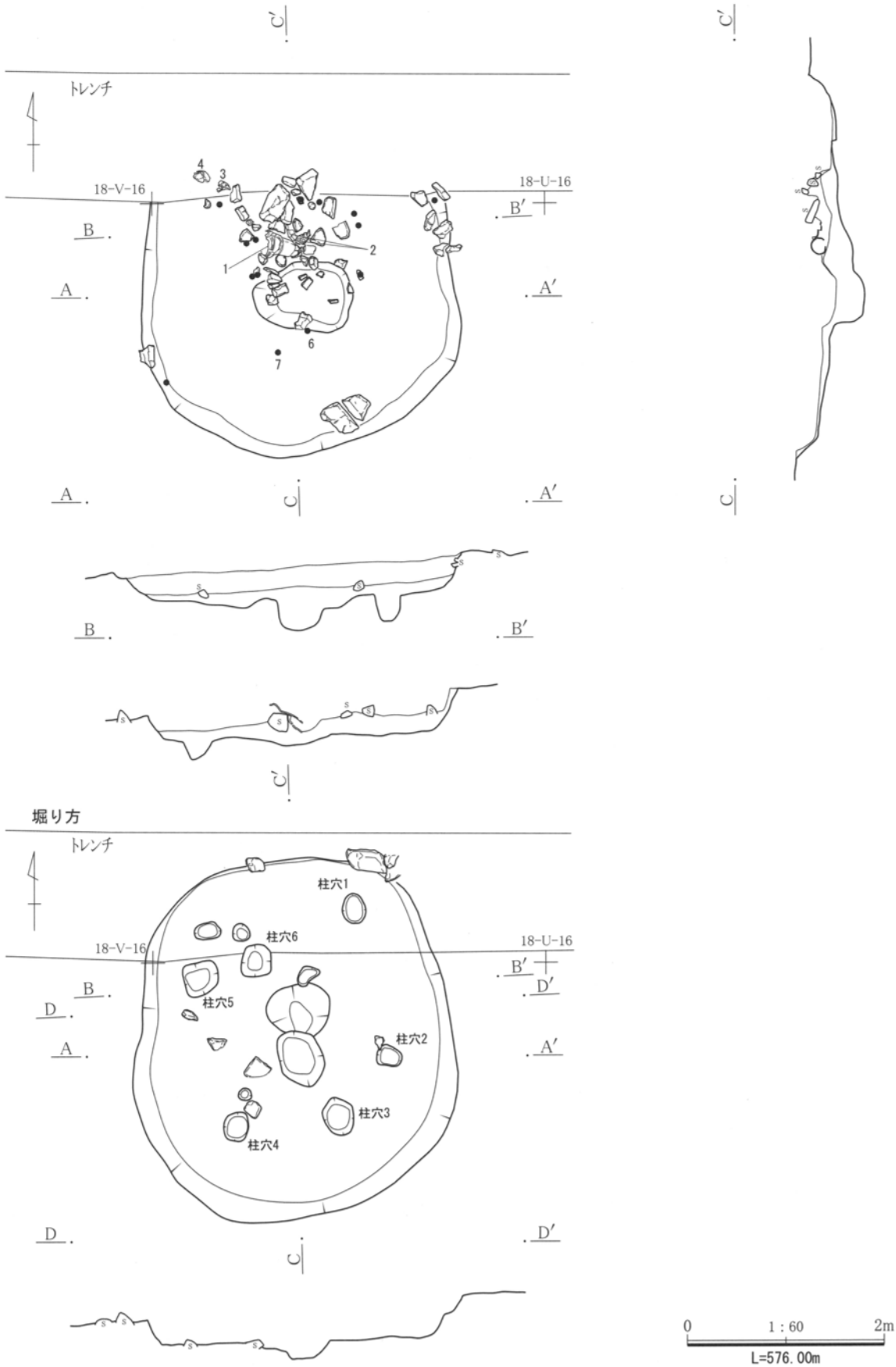
第12図　18区　５号住居（２）



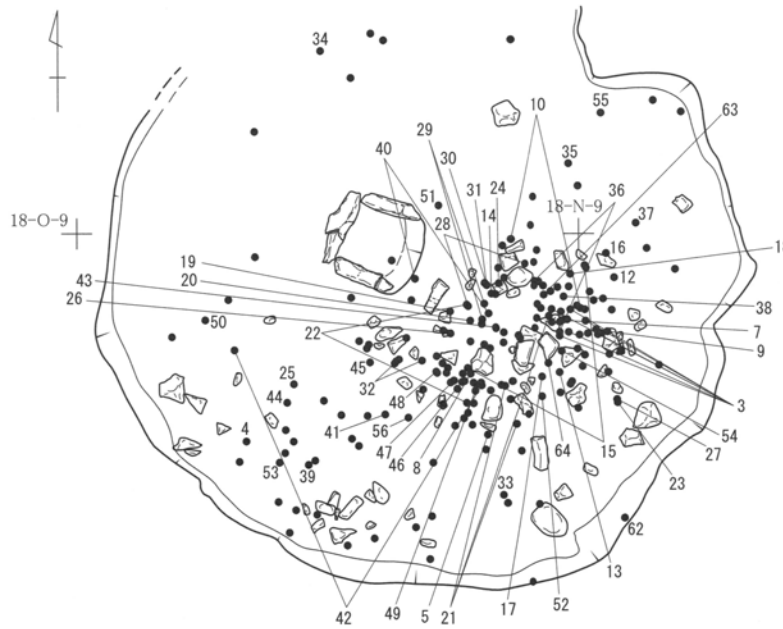
第13図　18区　８号住居（１）

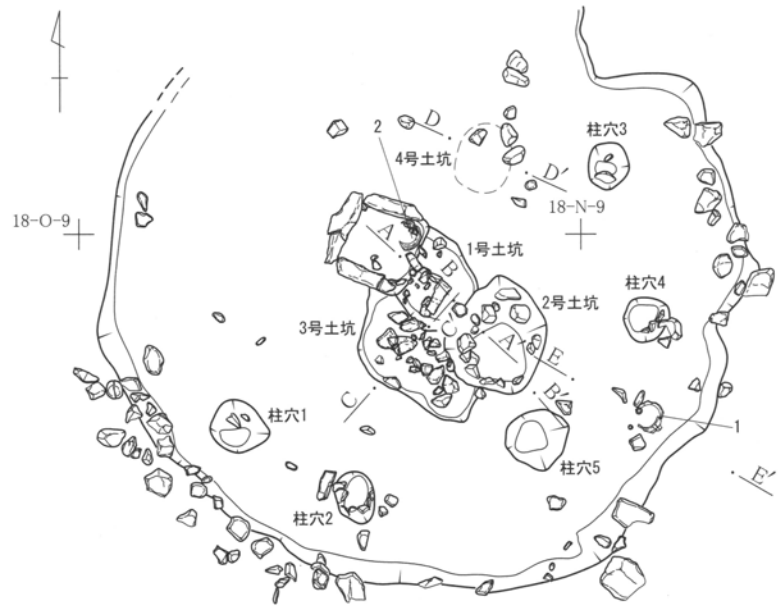


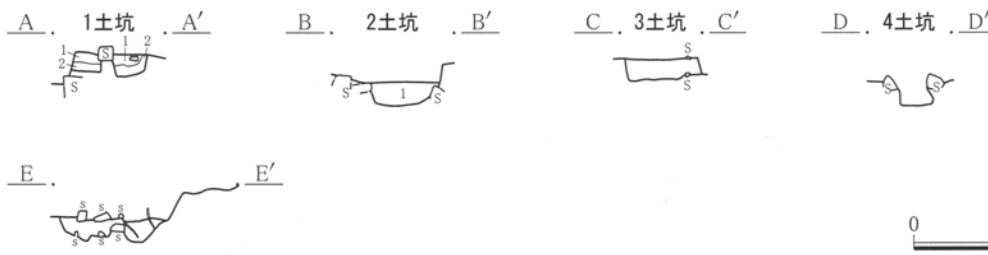
第14図　18区　８号住居（２）

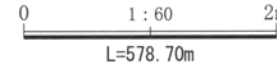


第15図　18区　10号住居

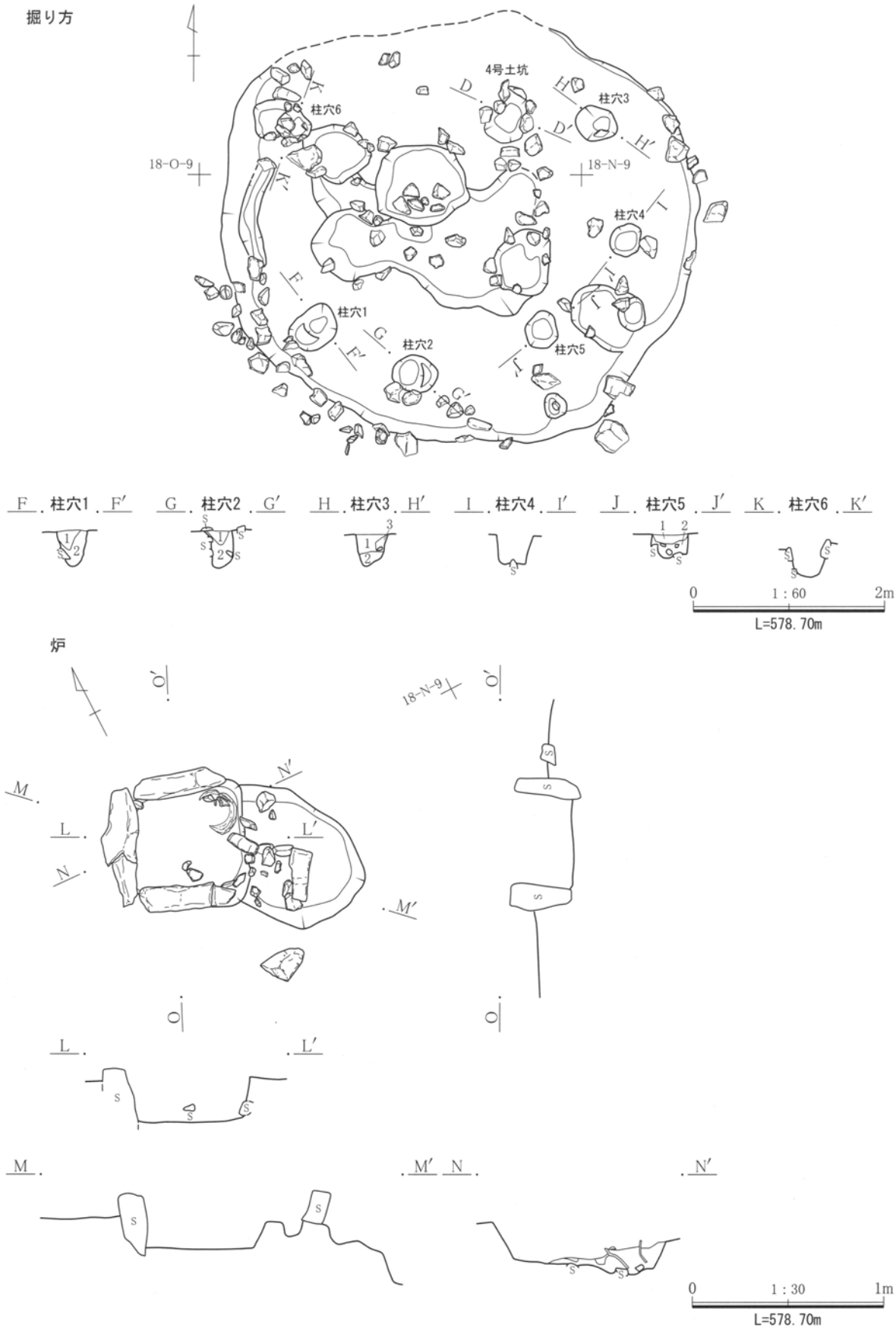




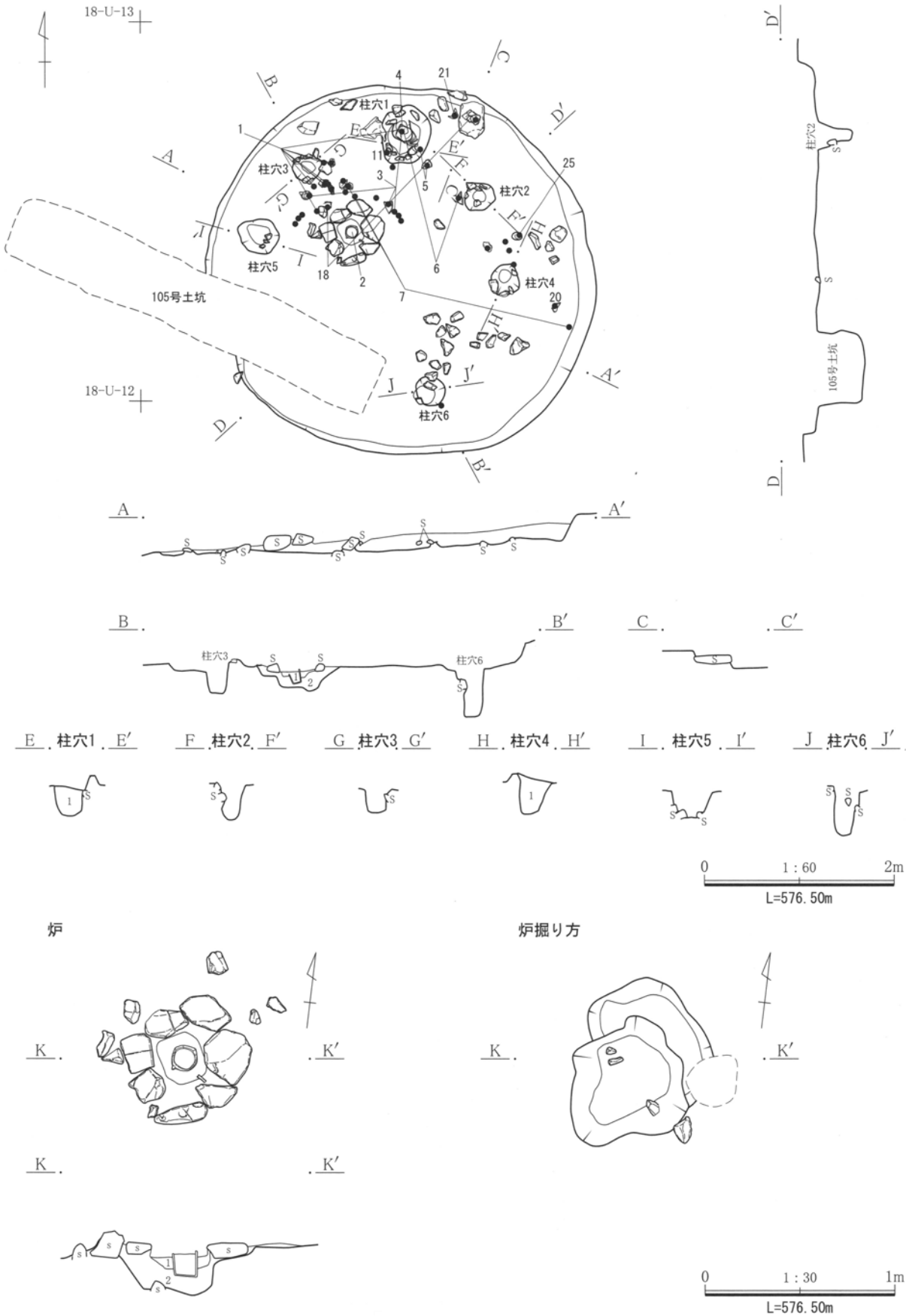




第16図　18区　17号住居（１）

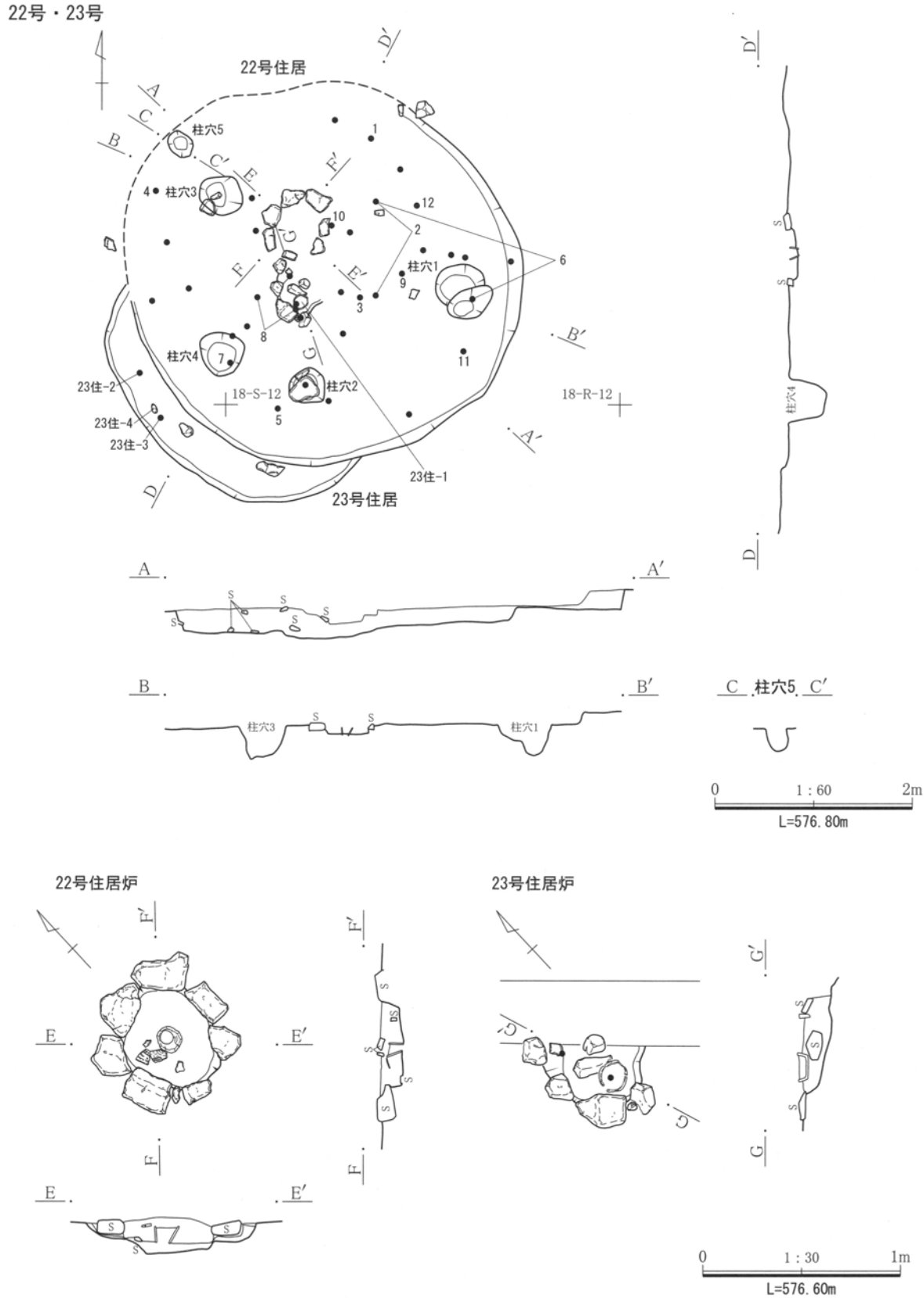


第17図　18区　17号住居（２）

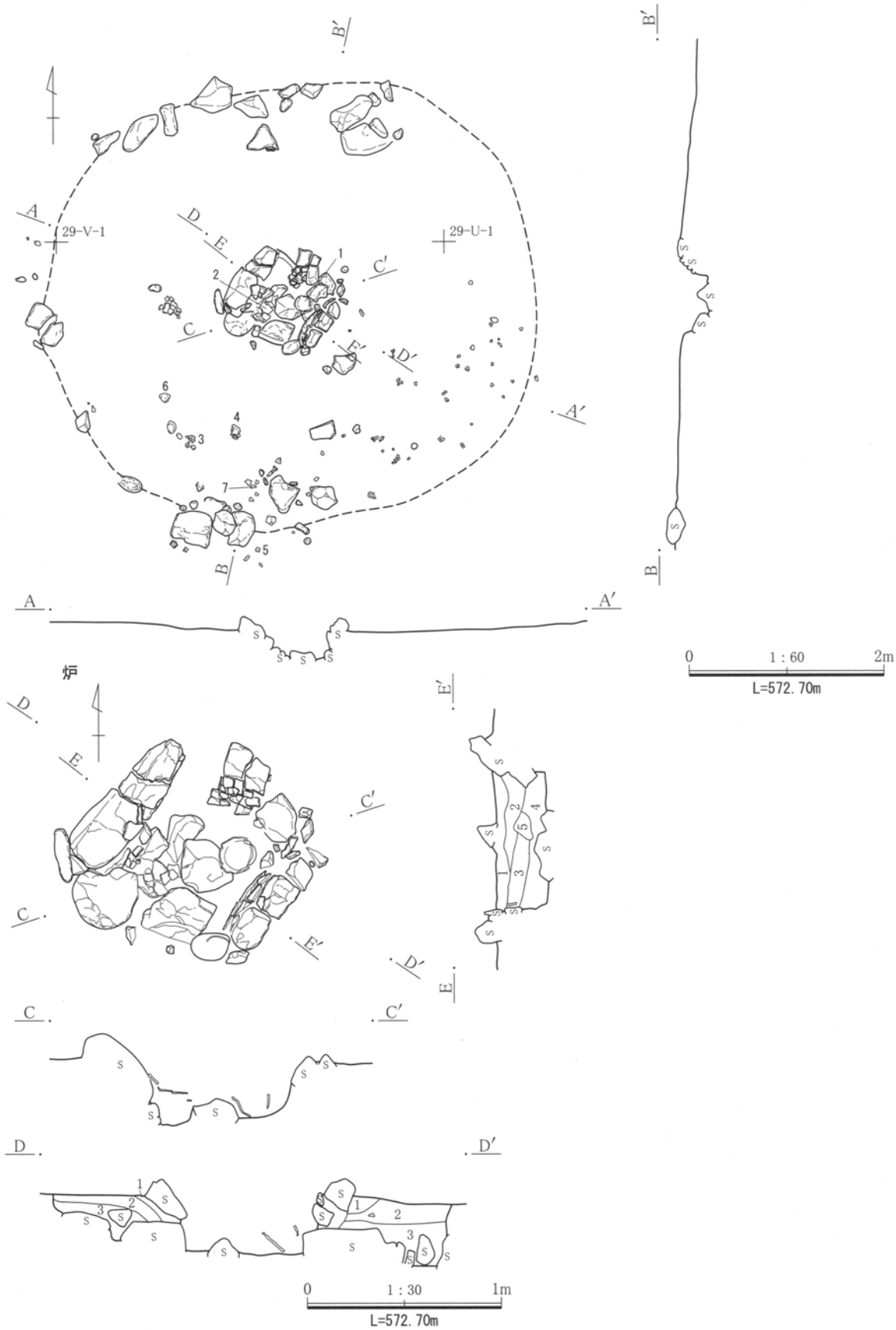


第18図　18区　18号住居

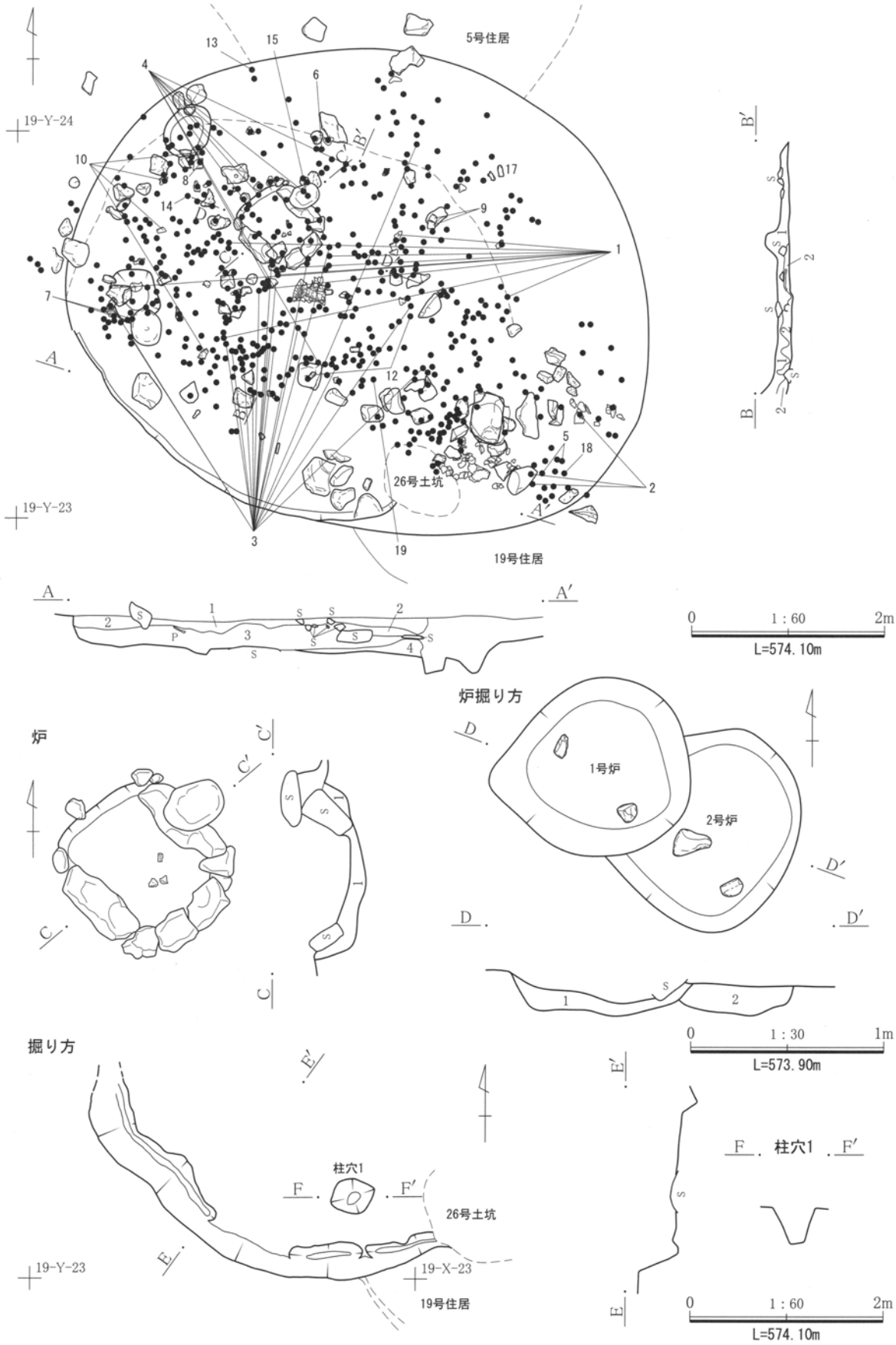
22号・23号



第19図　18区　22号住居・23号住居

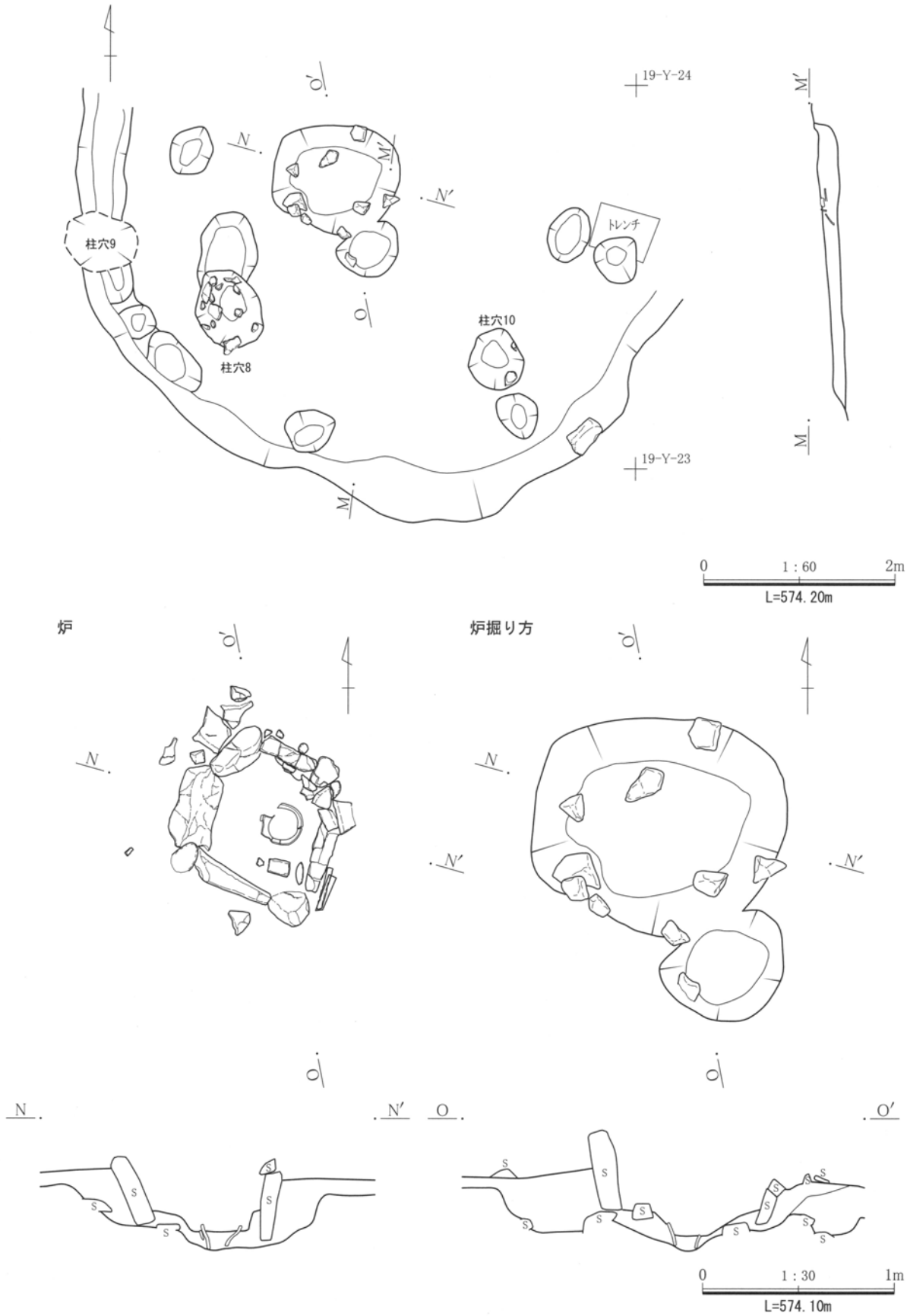


第20図　19区　１号住居

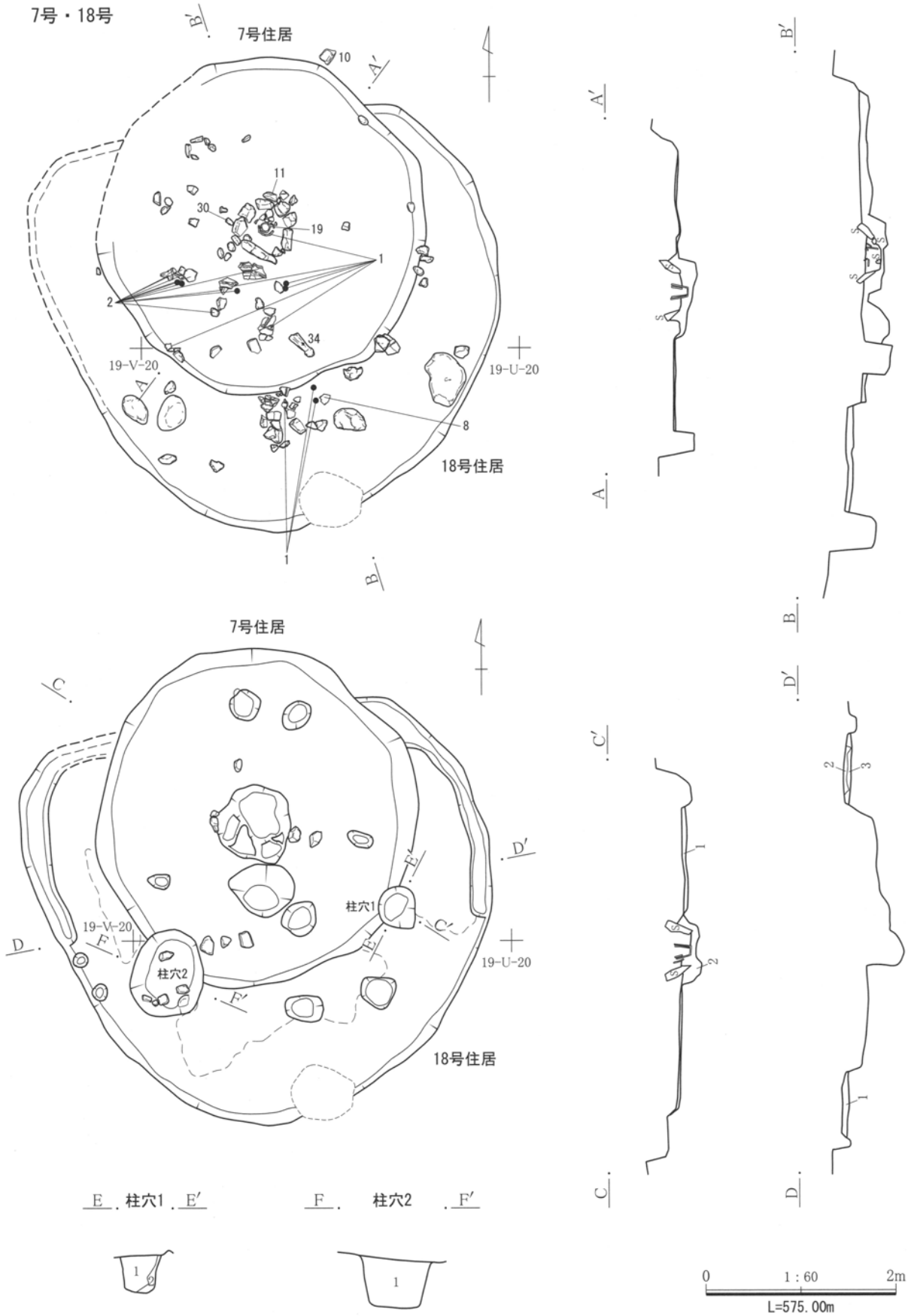


第21図　19区　４号住居

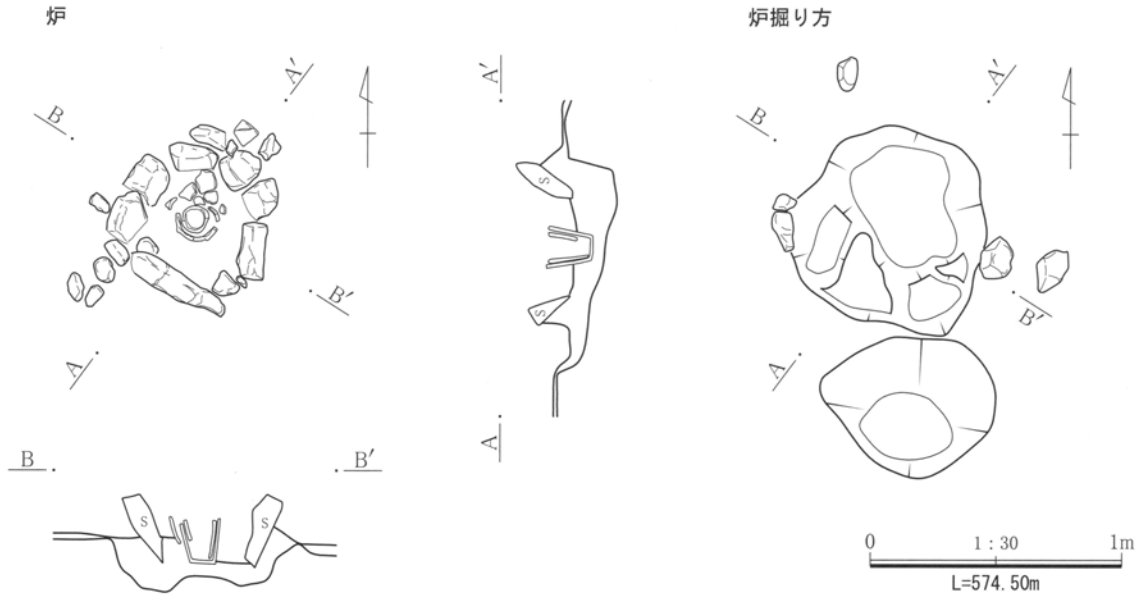
第22図　19区　６号住居（１）



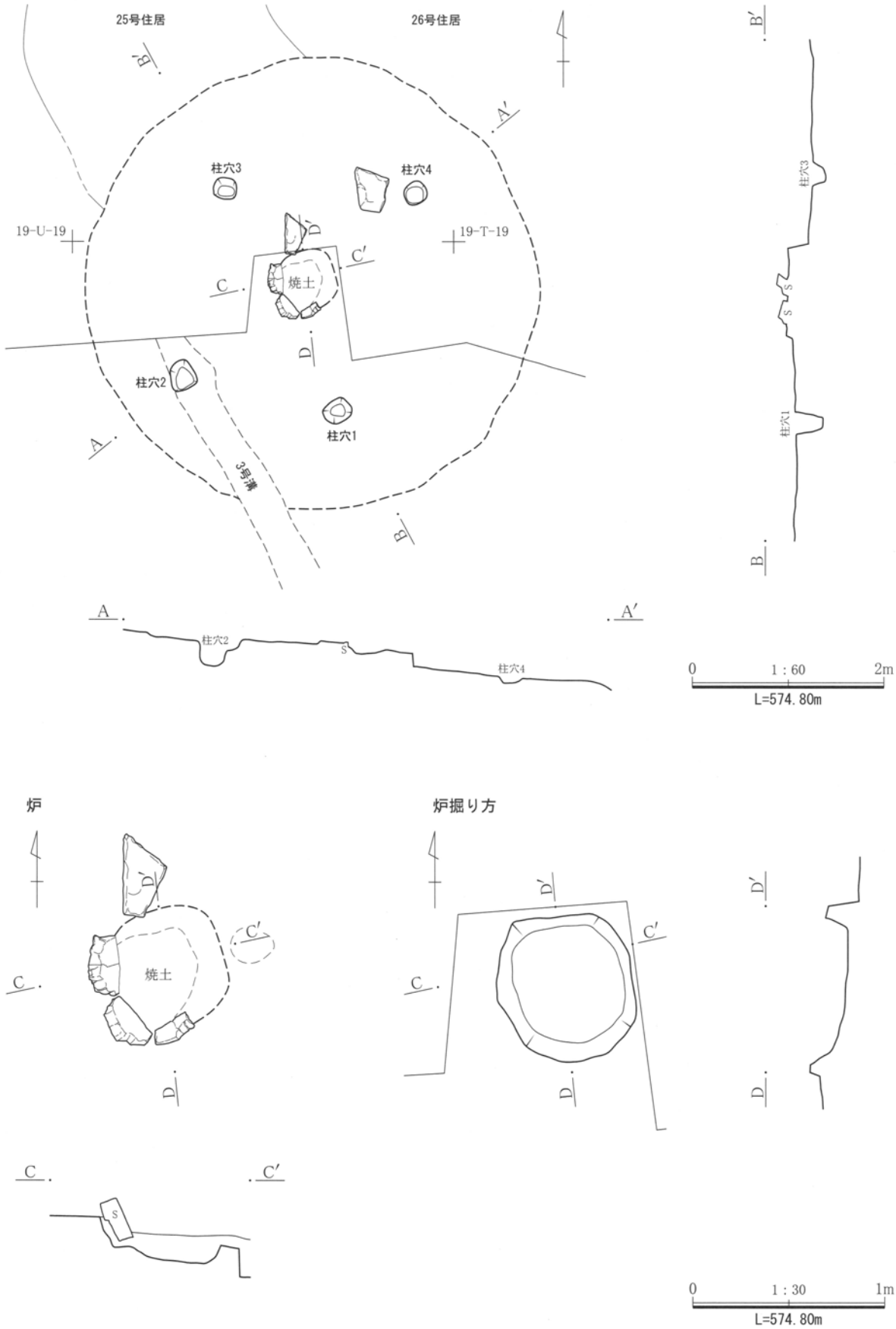
第23図　19区　６号住居（２）



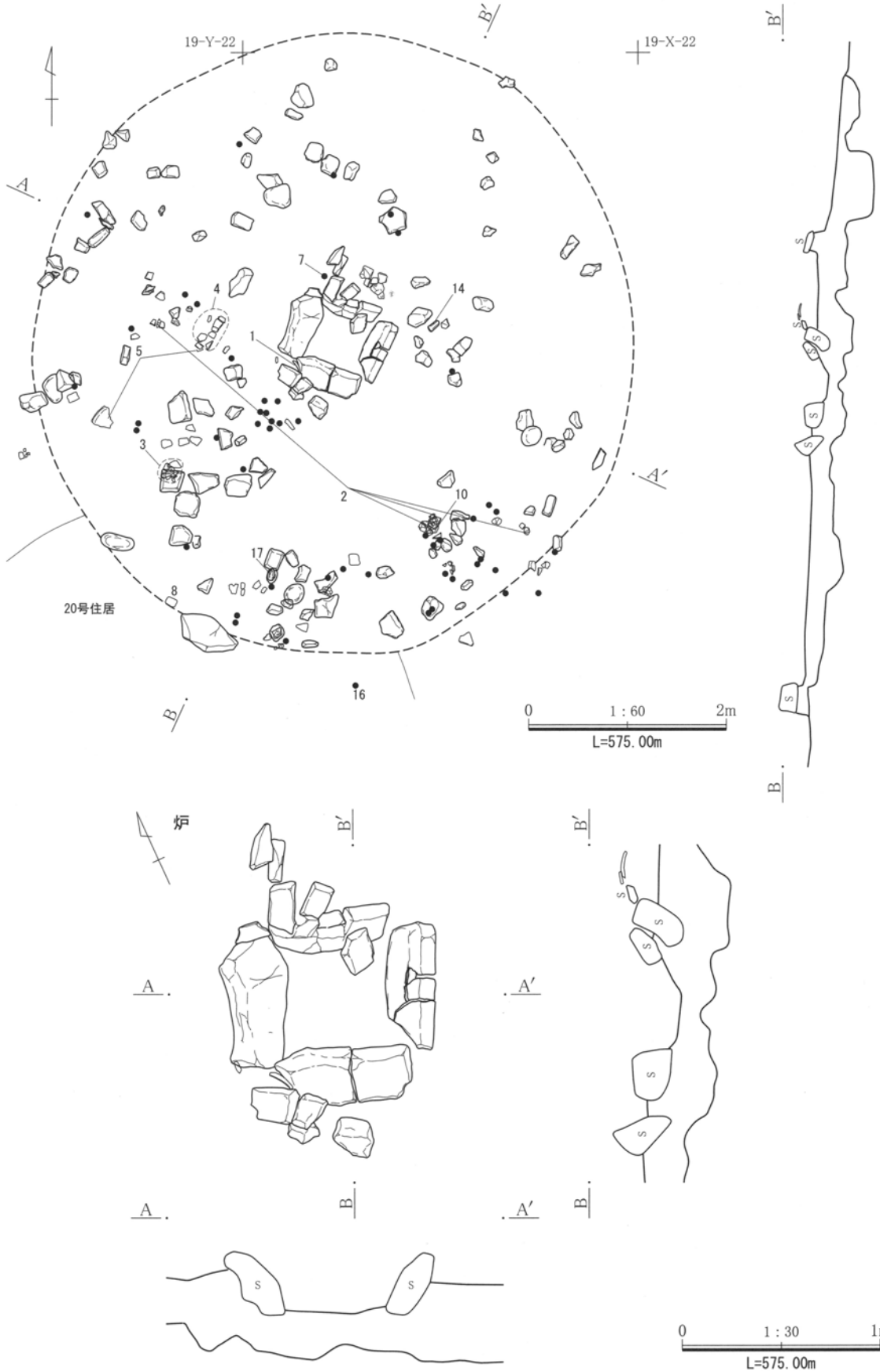
第24図　19区　７号住居・18号住居



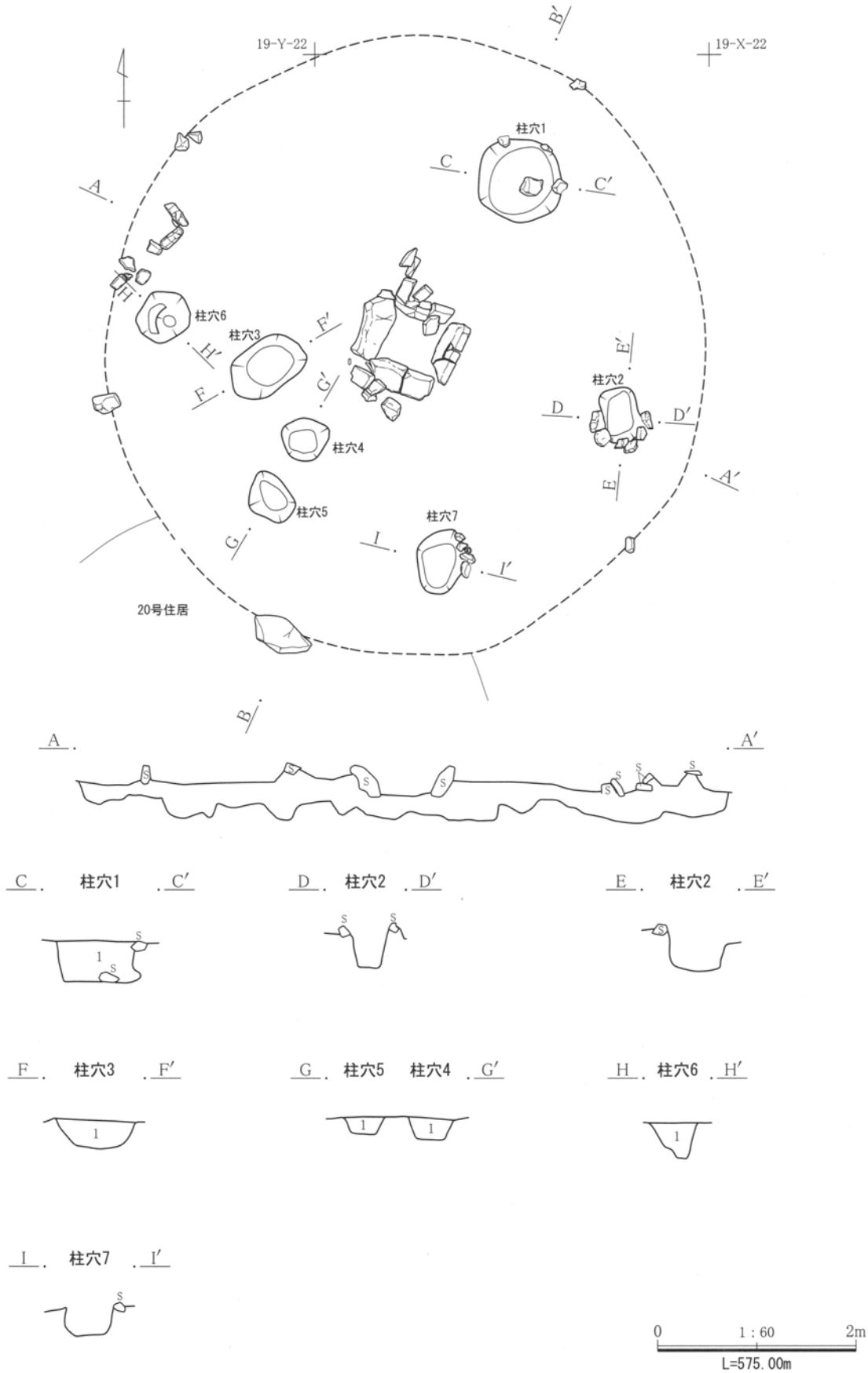
第25図　19区　７号住居



第26図　19区　８号住居

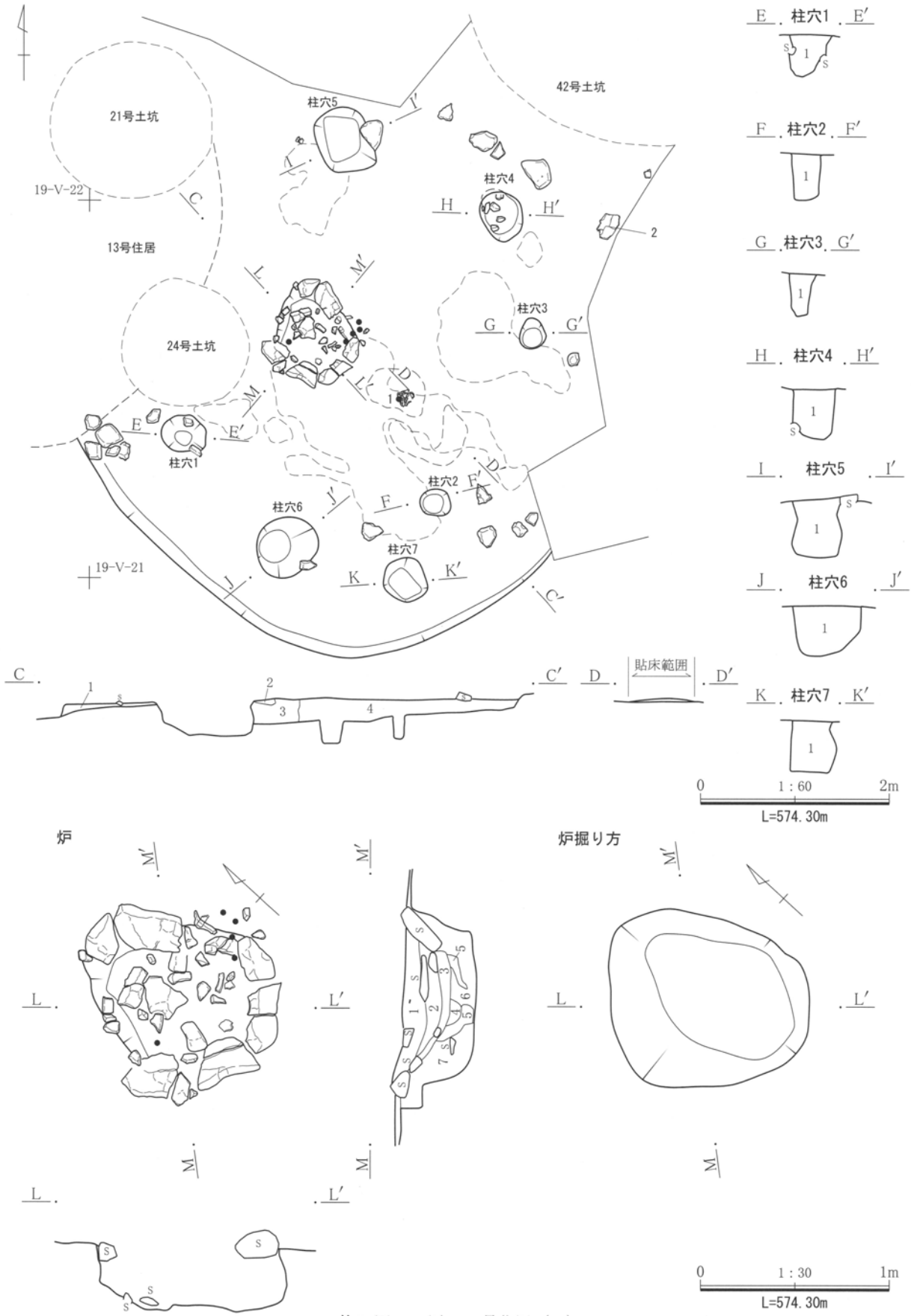


第27図　19区　９号住居（１）

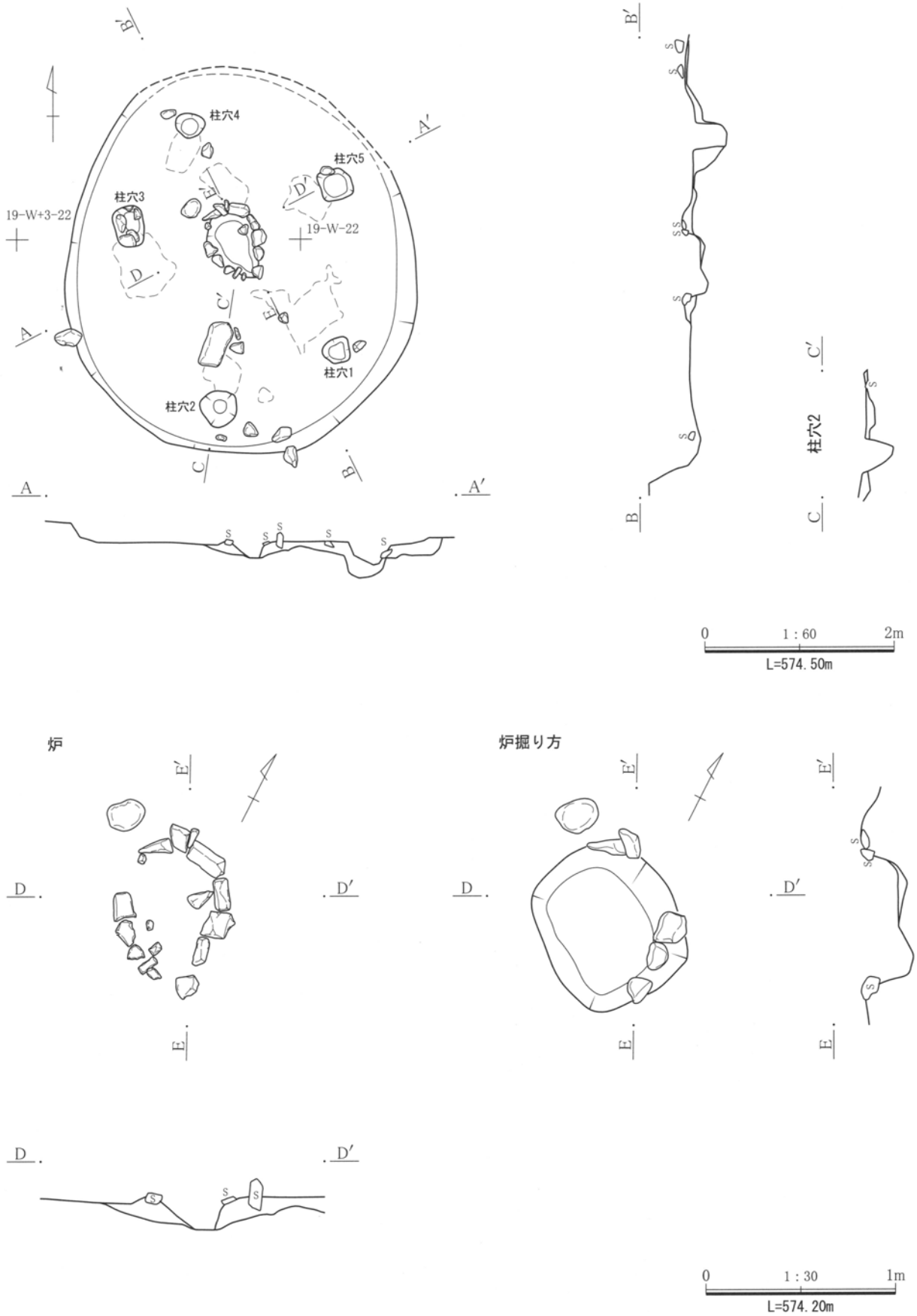


第28図　19区　９号住居（２）

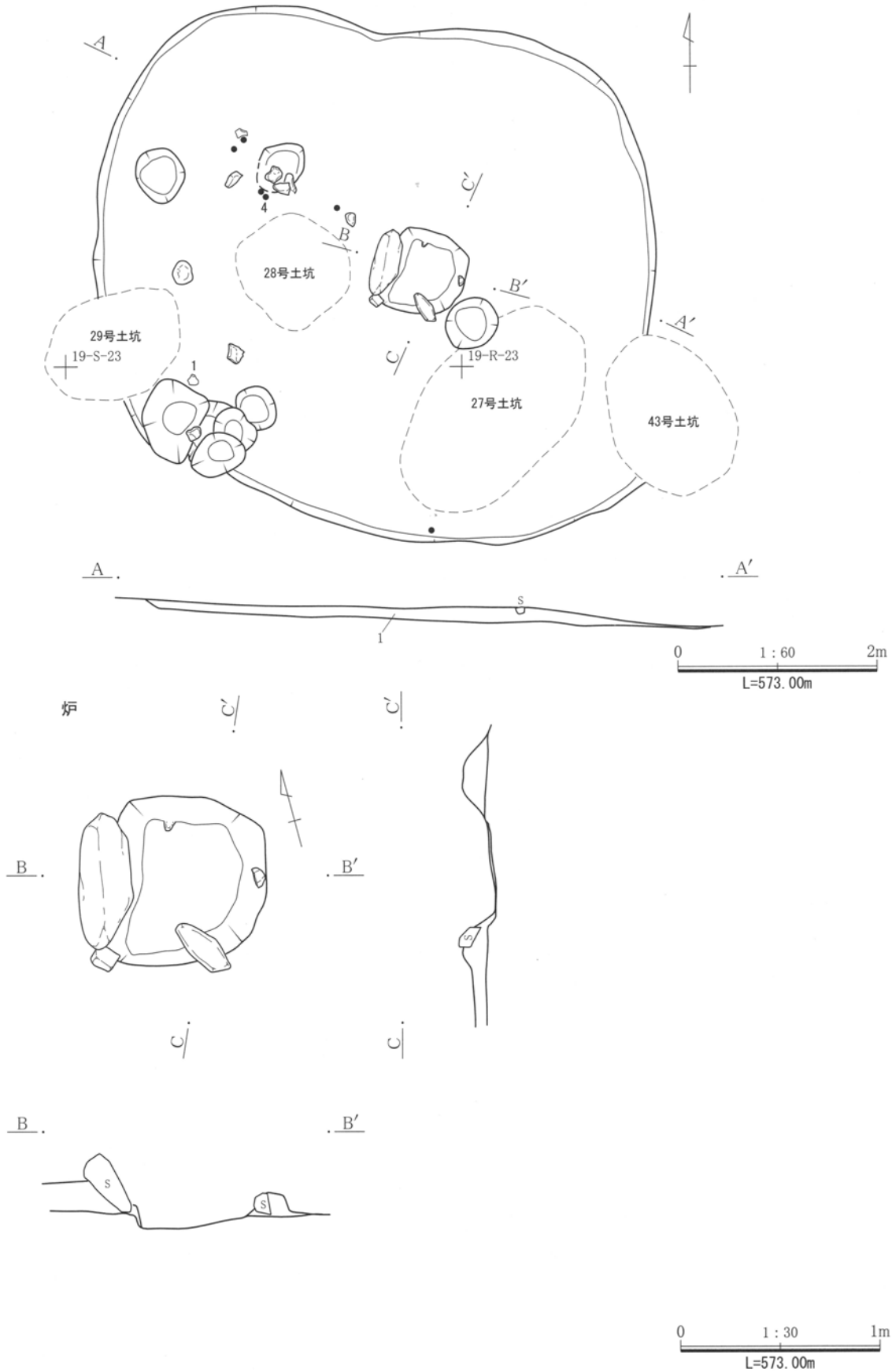
第29図　19区　10号住居（1）



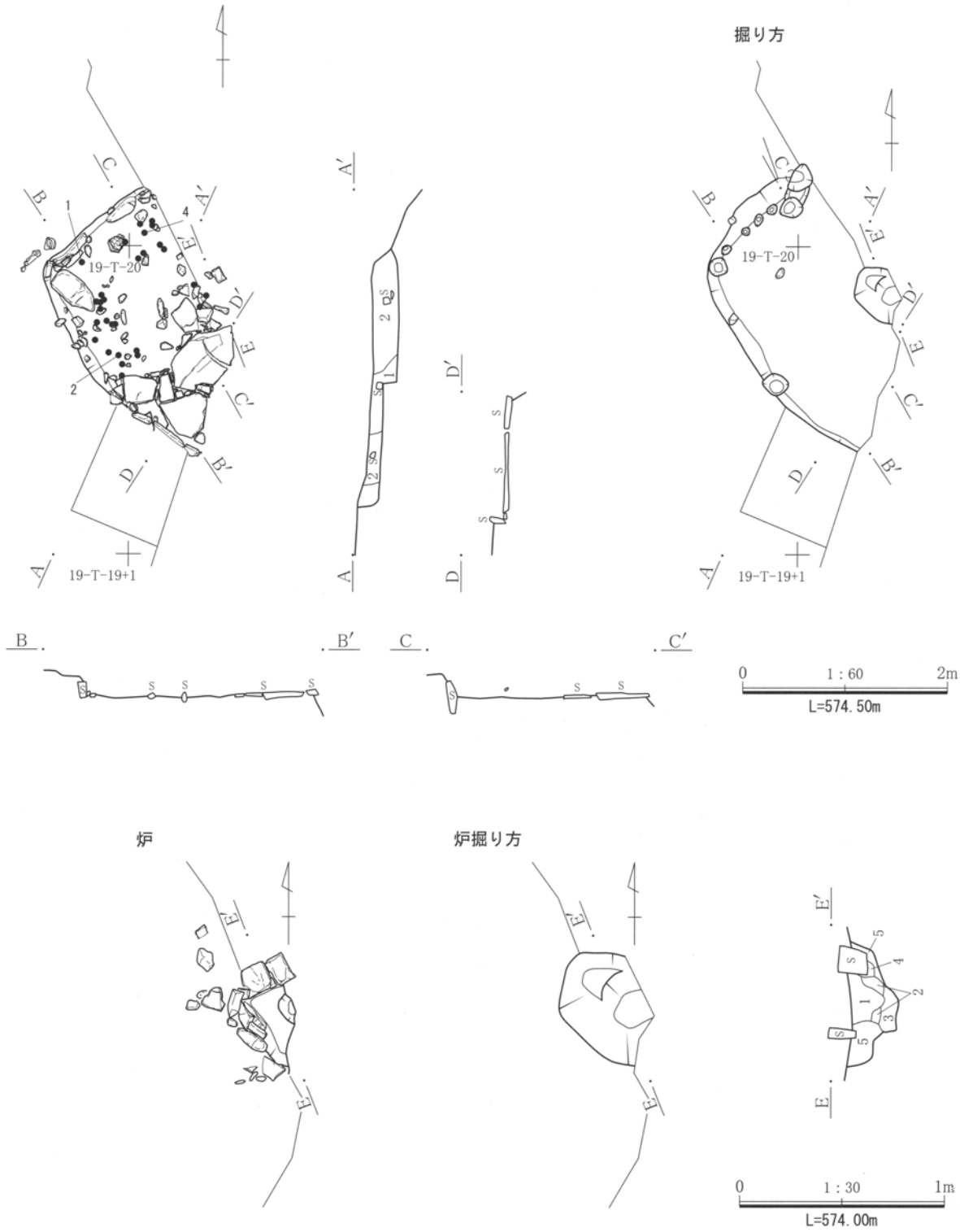
第30図　19区　10号住居（２）



第31図　19区　14号住居



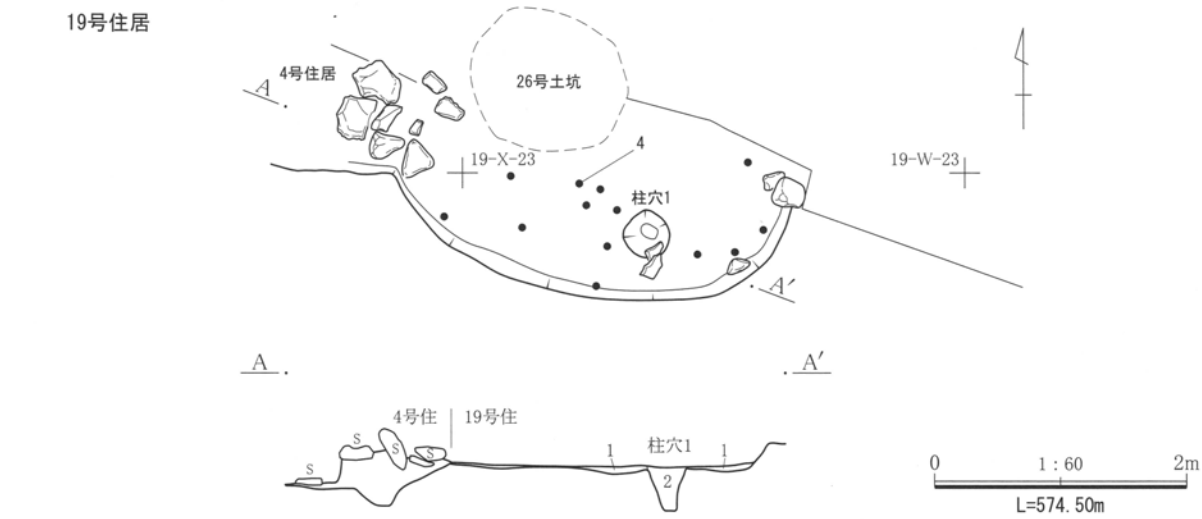
第32図　19区　16号住居



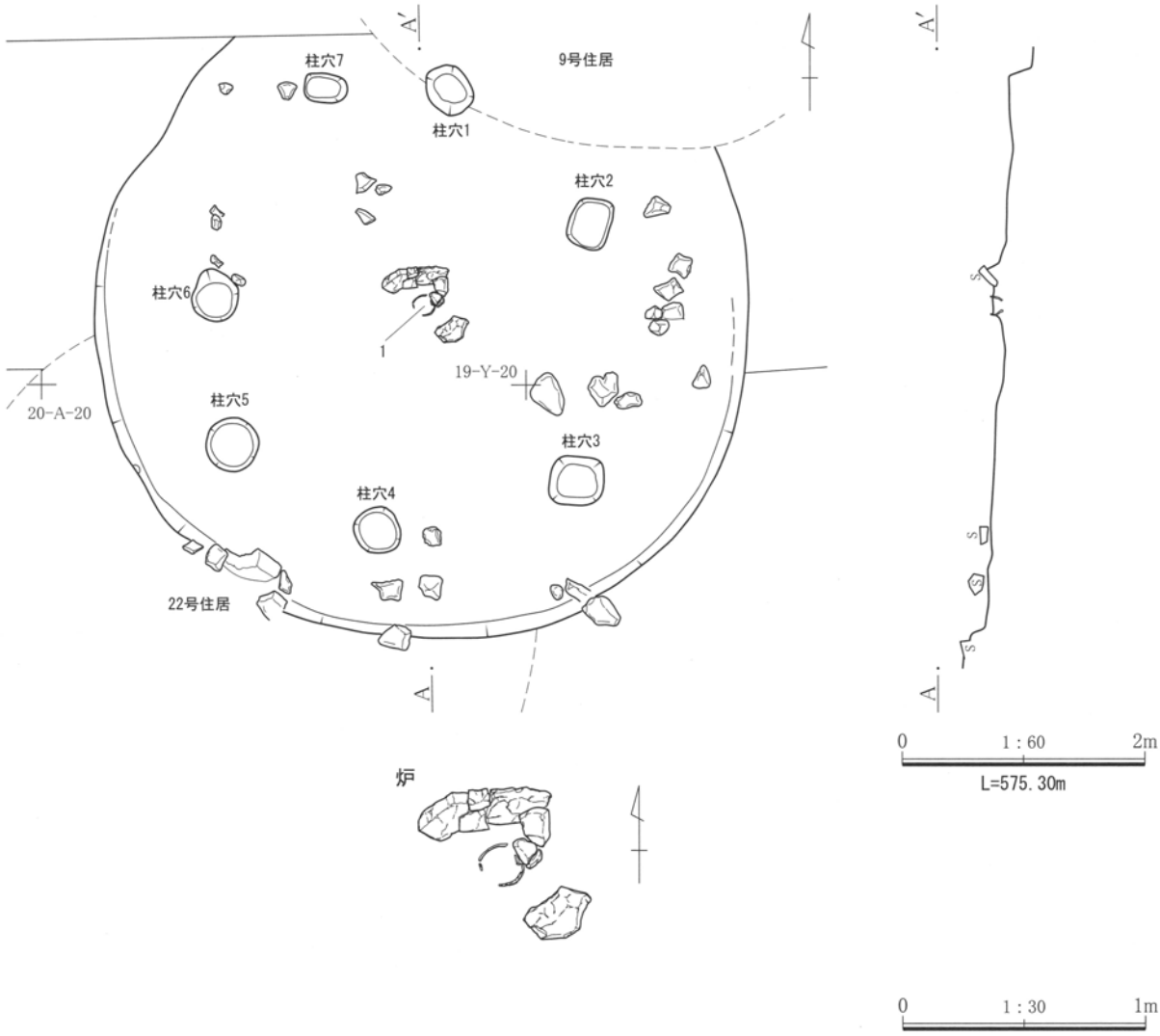
第33図　19区　17号住居

19号・20号

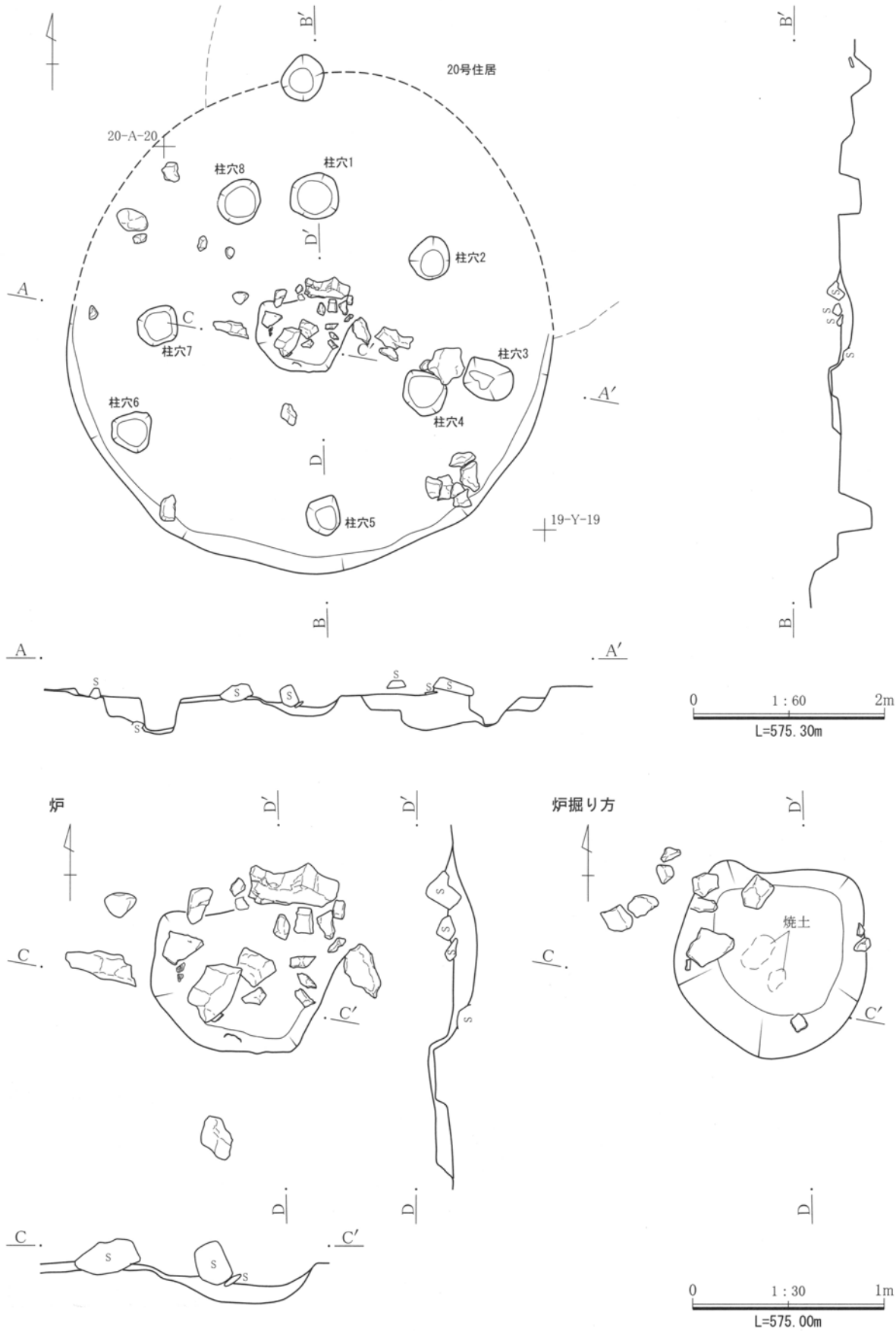
19号住居



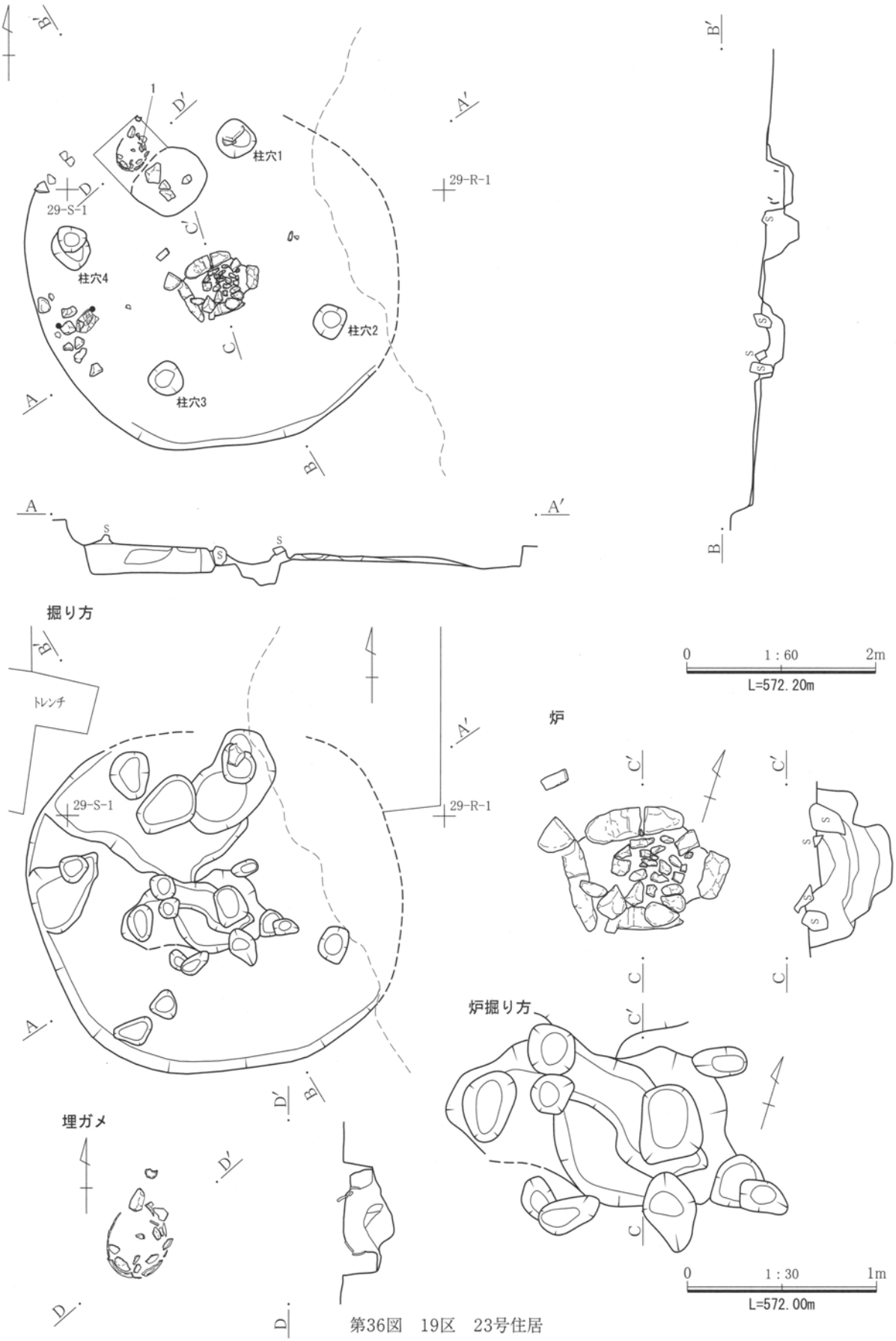
20号住居



第34図　19区　19号住居・20号住居

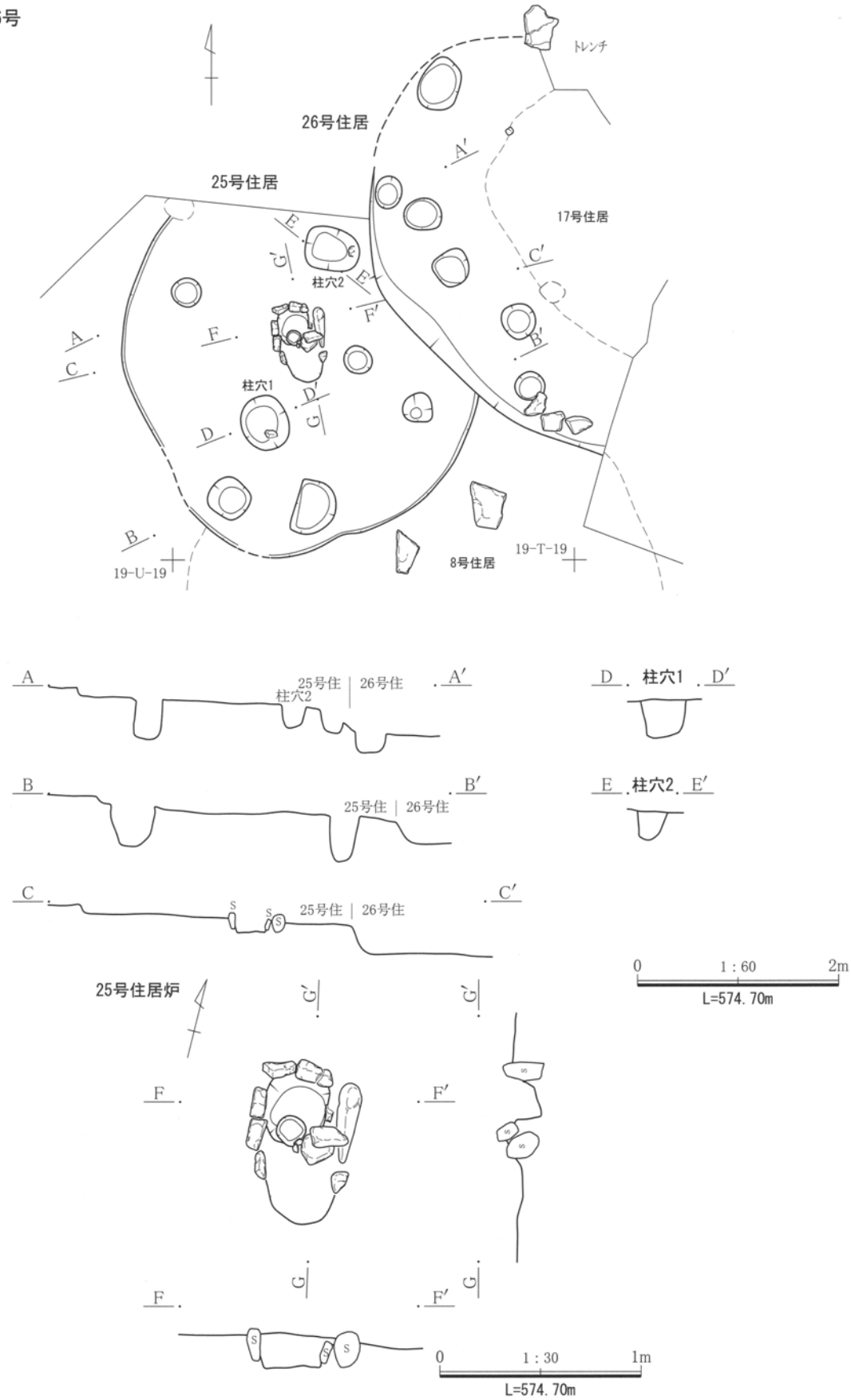


第35図　19区　22号住居

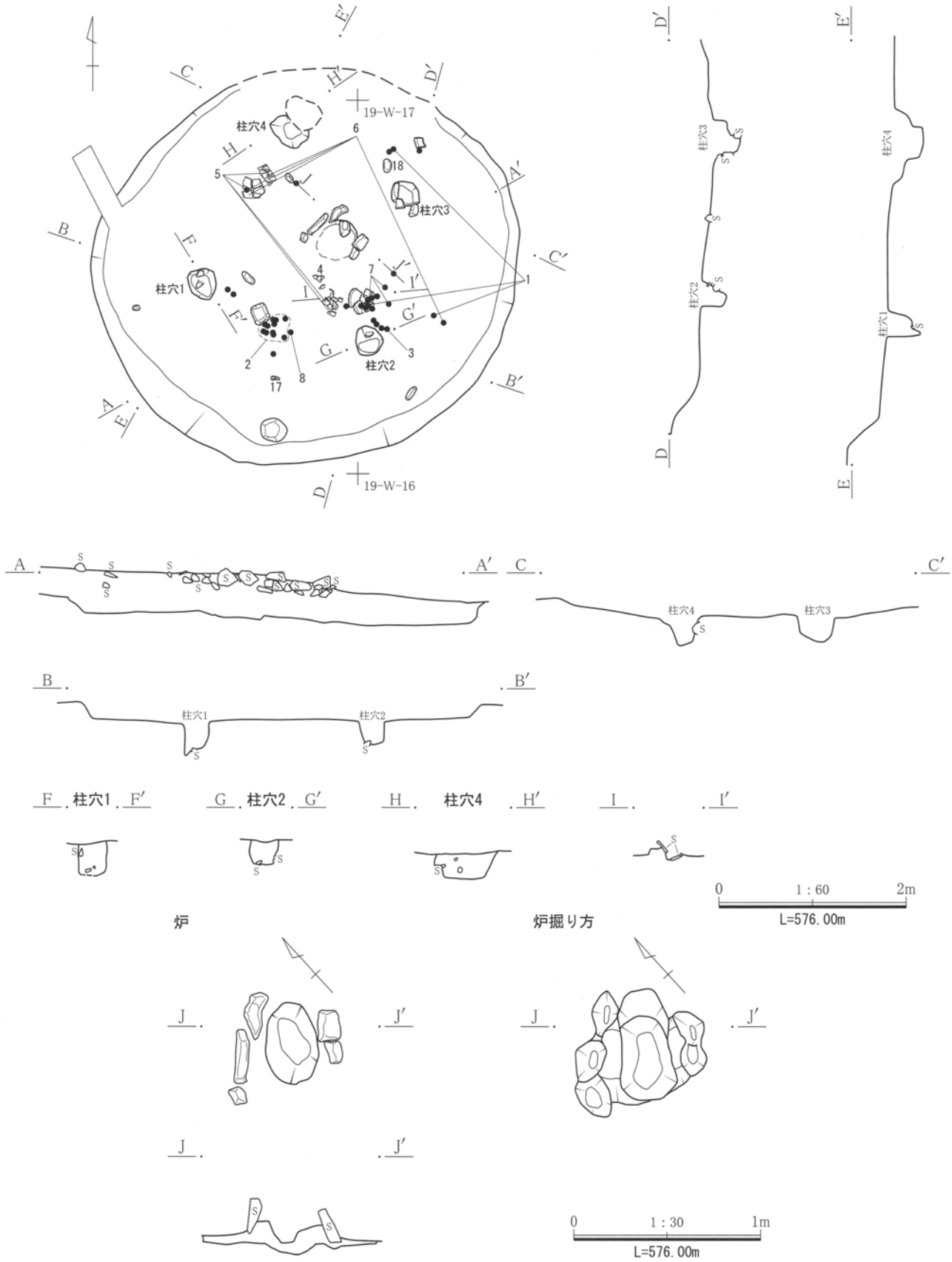


第36図　19区　23号住居

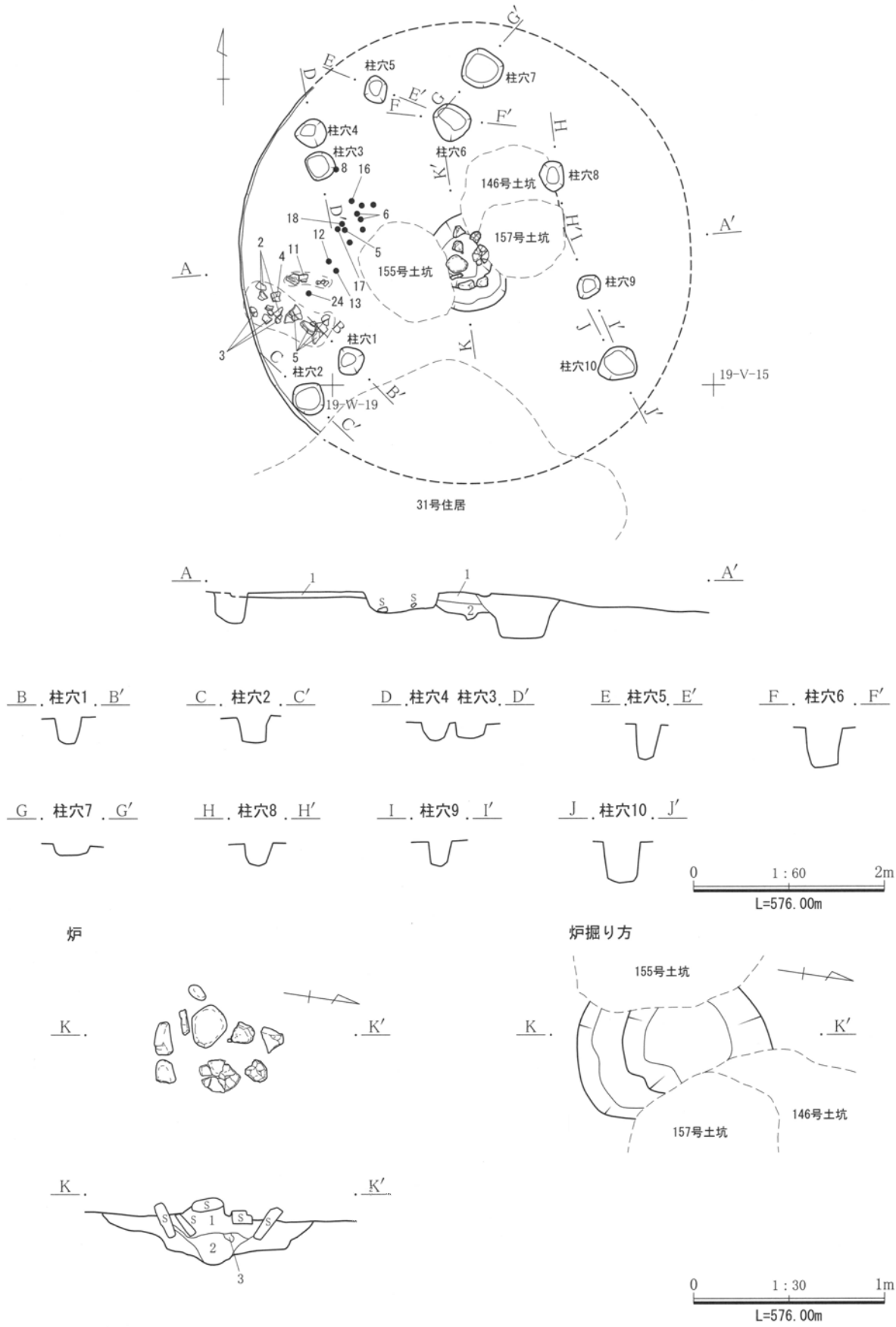
25号・26号



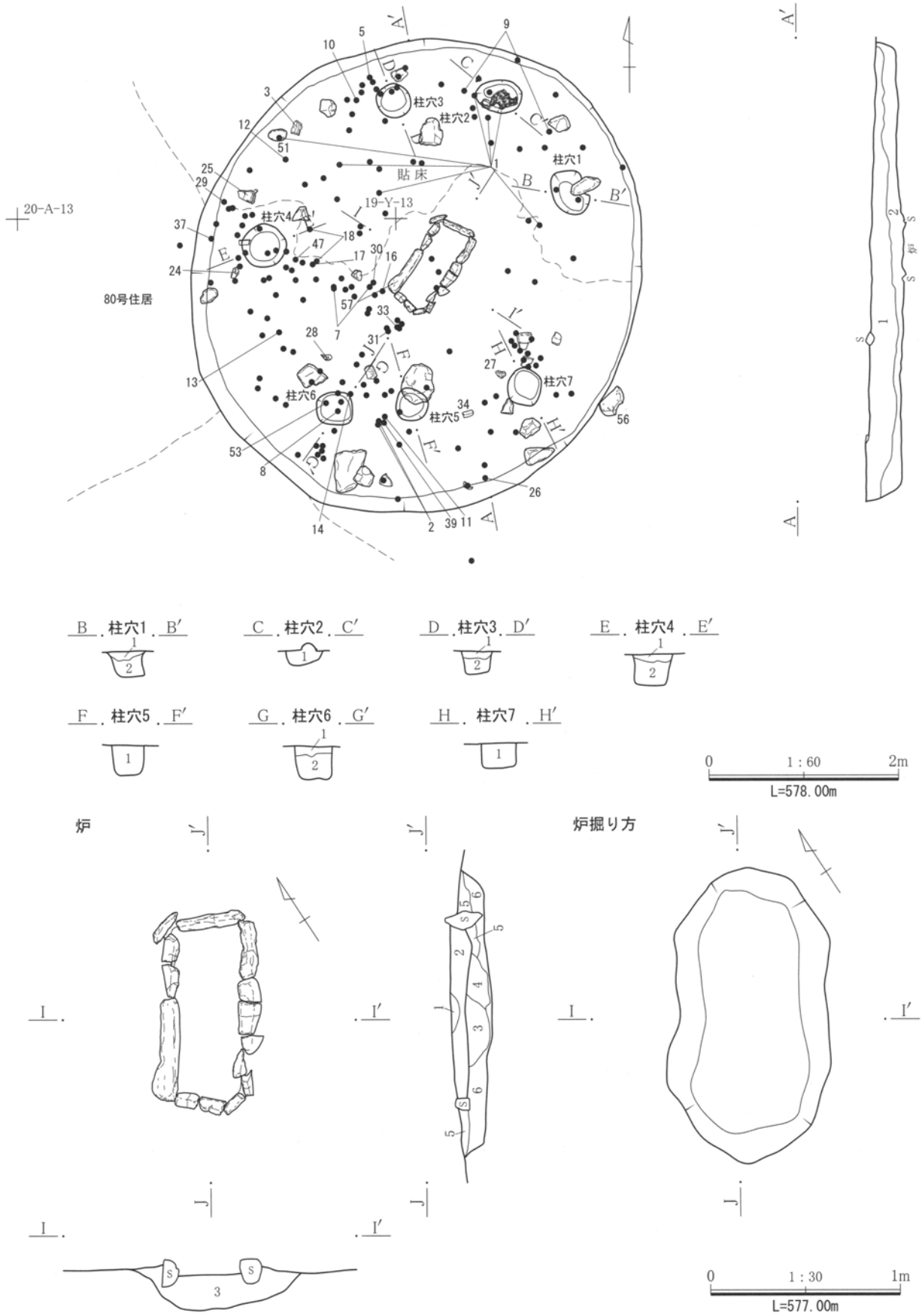
第37図　19区　25号住居・26号住居



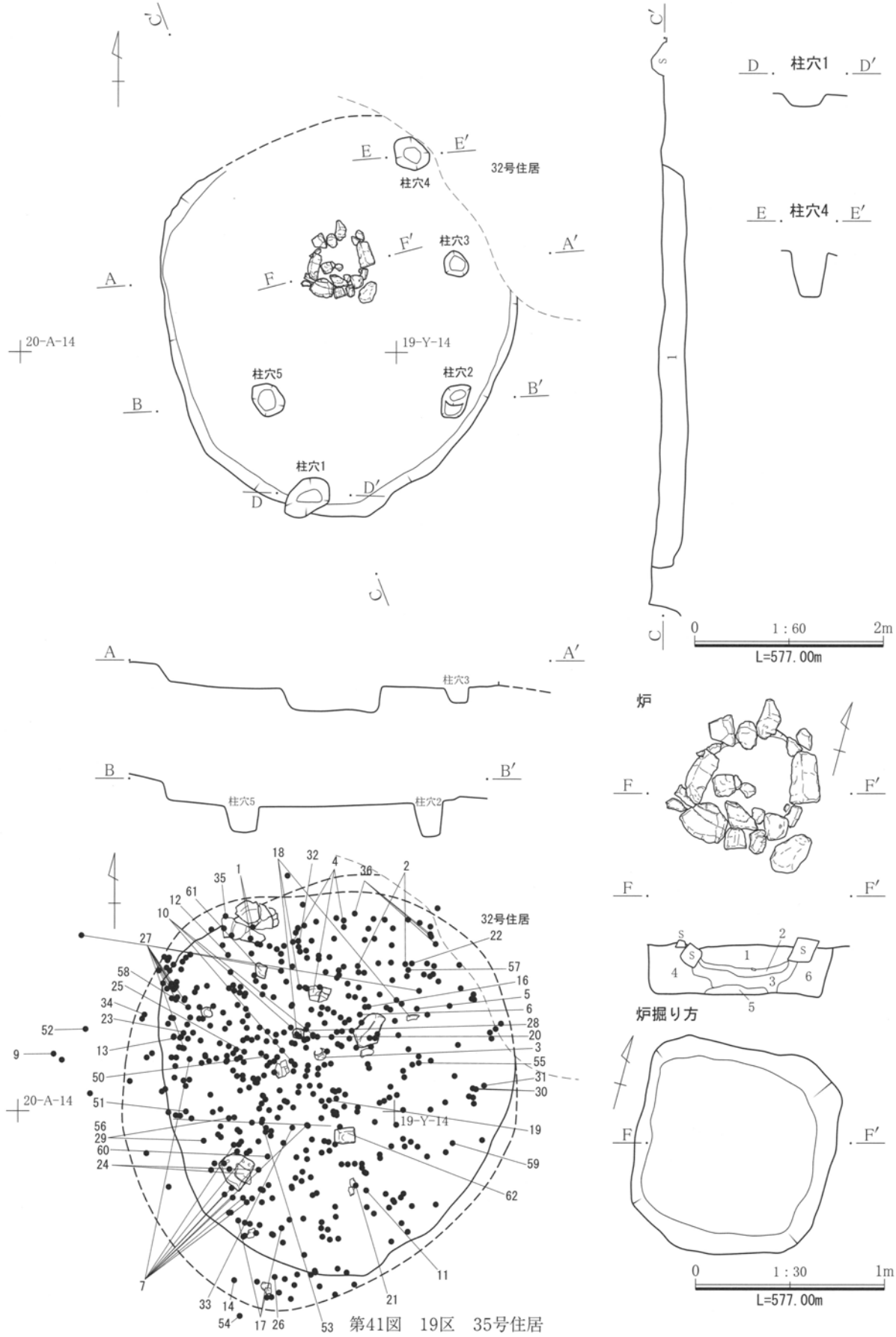
第38図　19区　29号住居



第39図　19区　30号住居



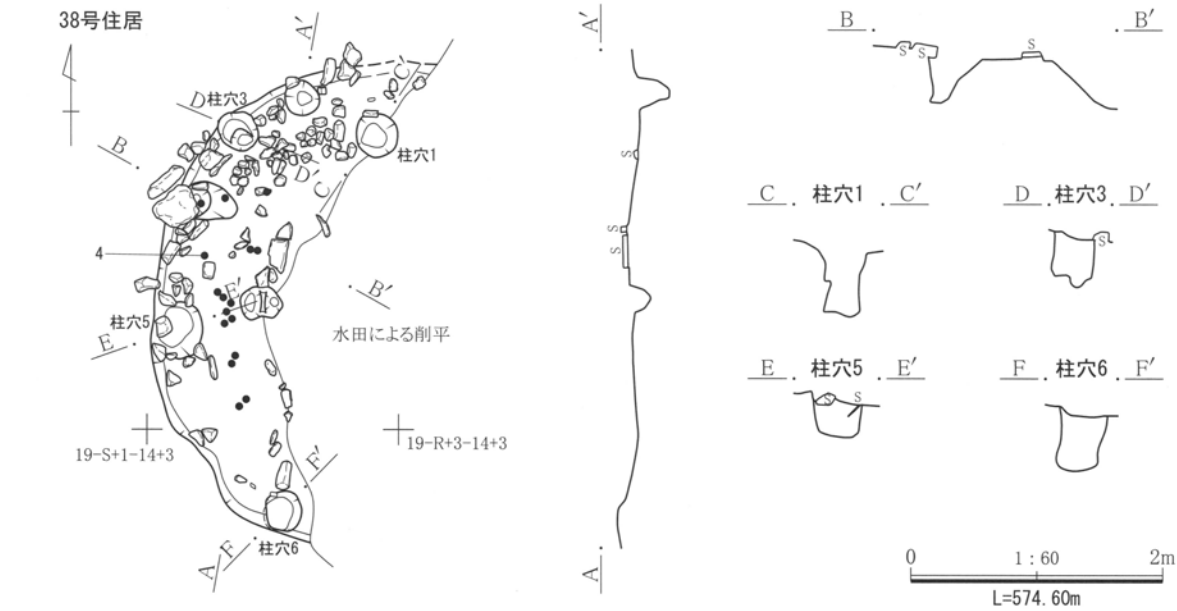
第40図　19区　34号住居



第41図　19区　35号住居

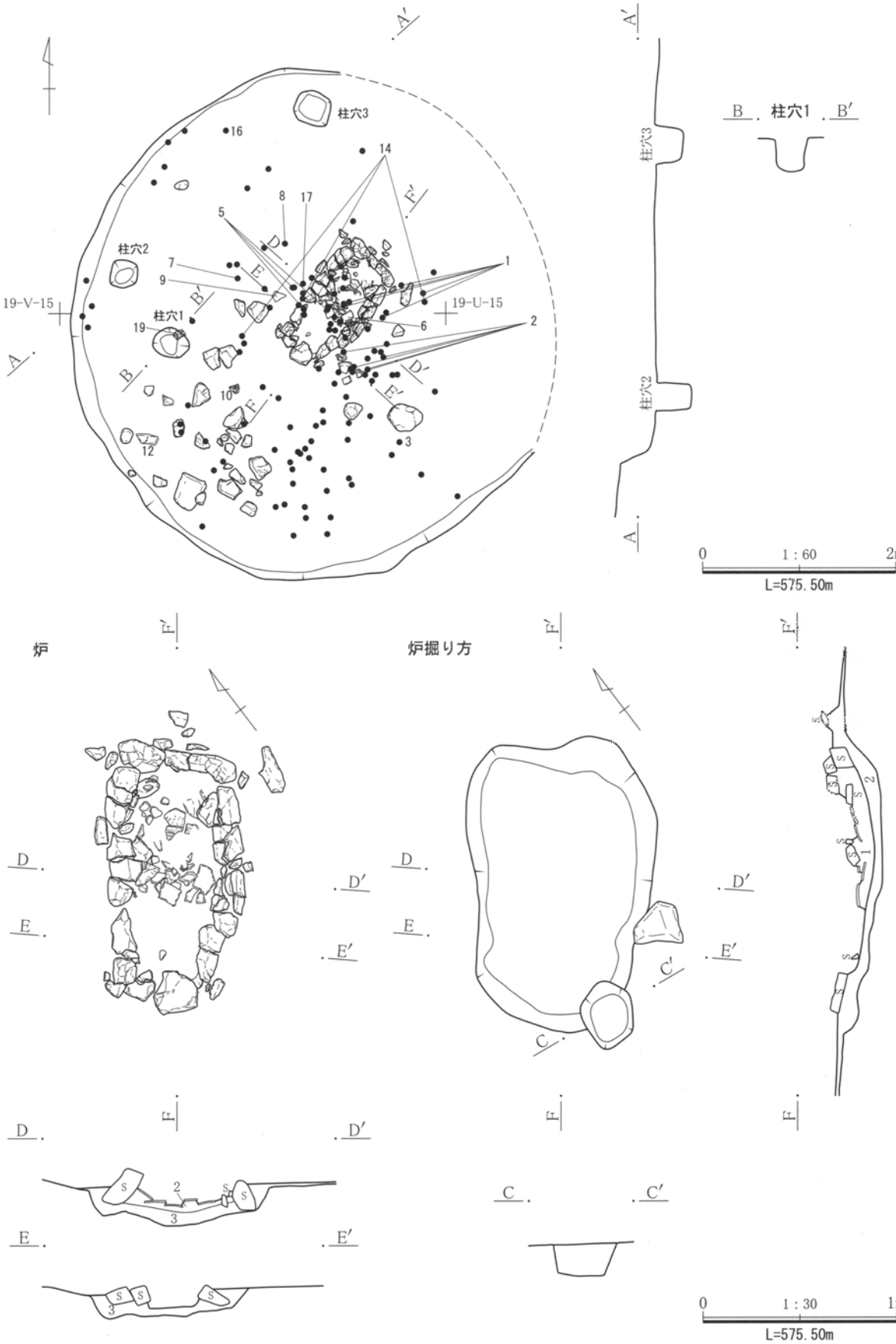
38号・39号

38号住居

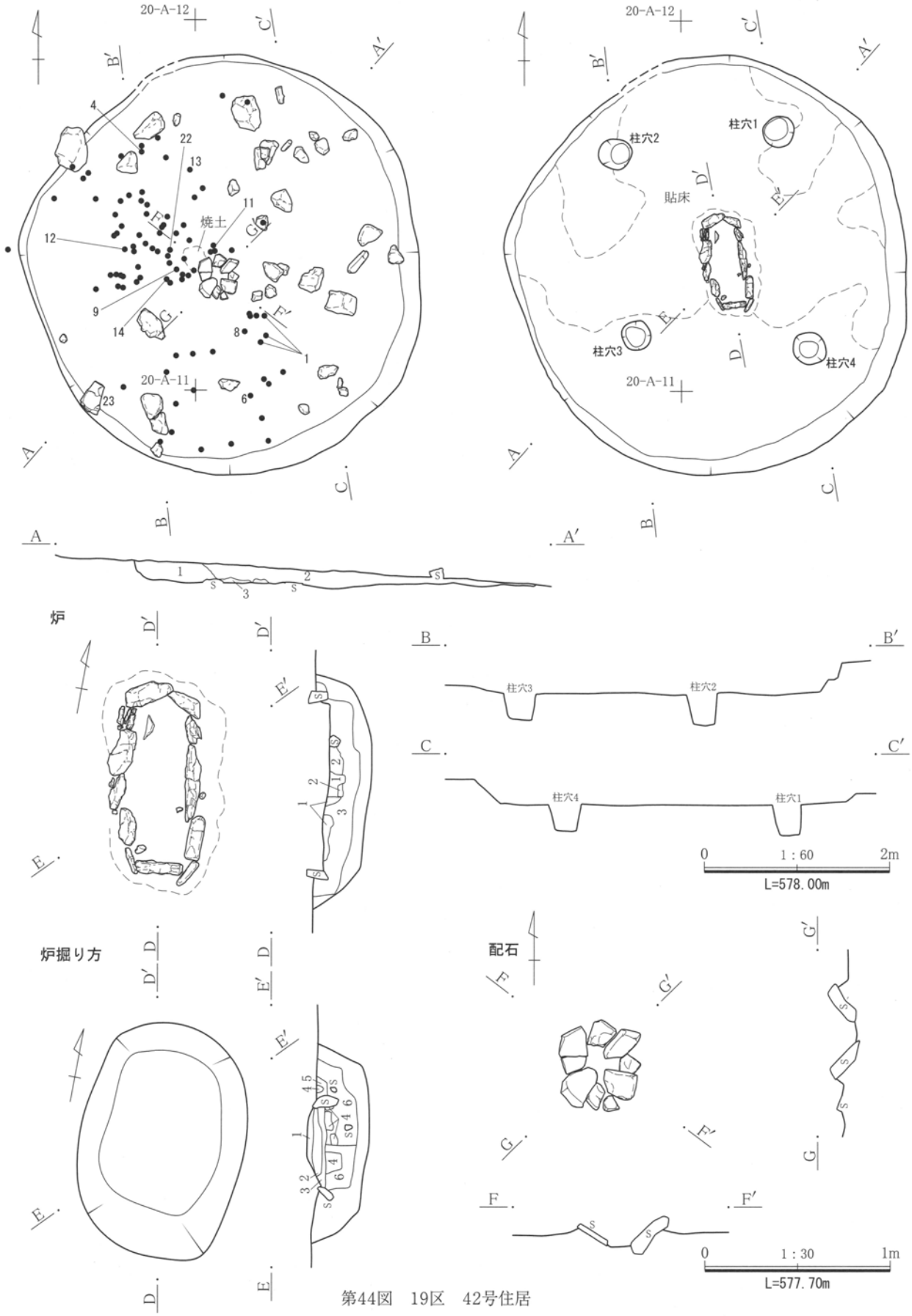


39号住居

第42図　19区　38号住居・39号住居

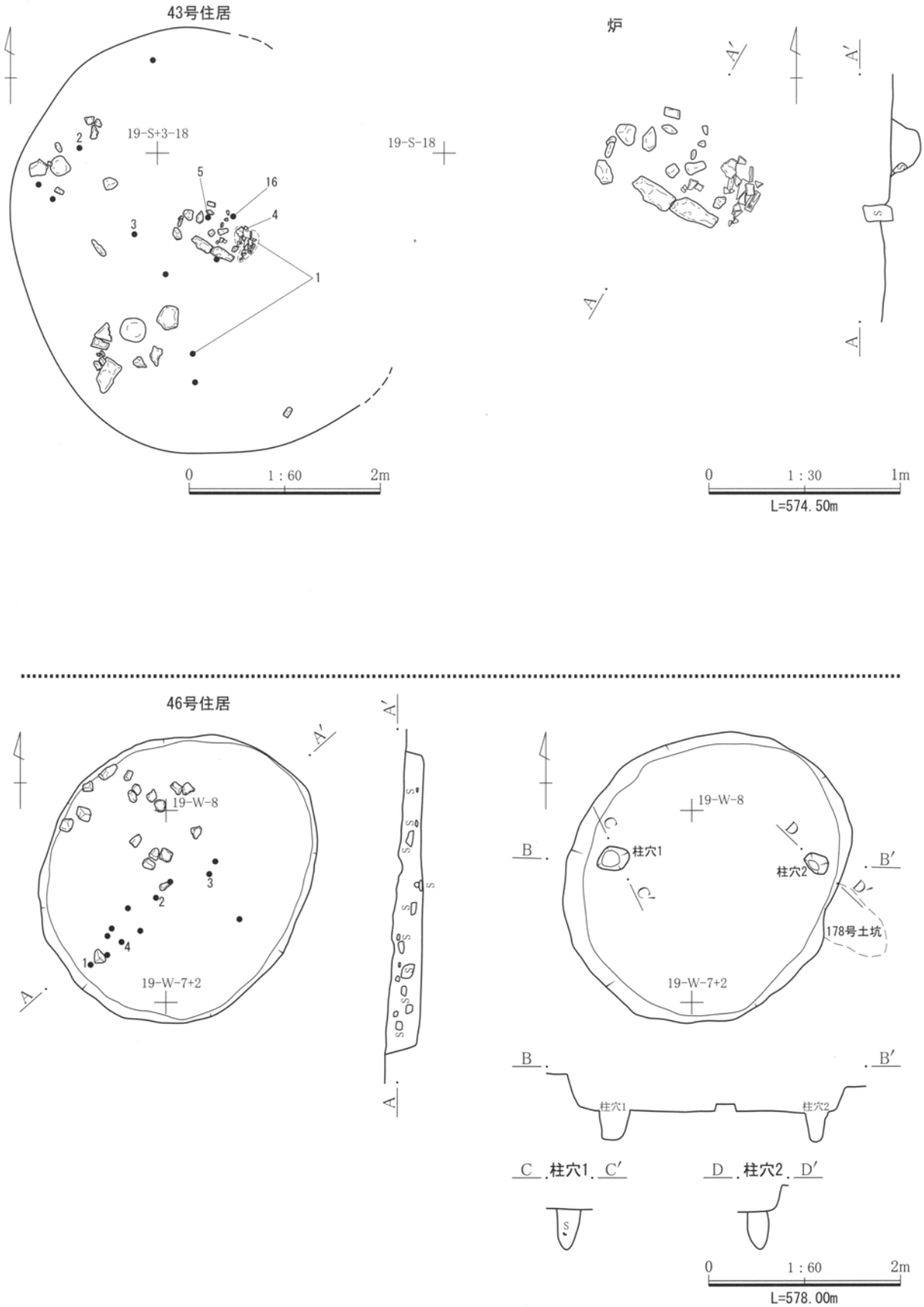


第43図　19区　41号住居

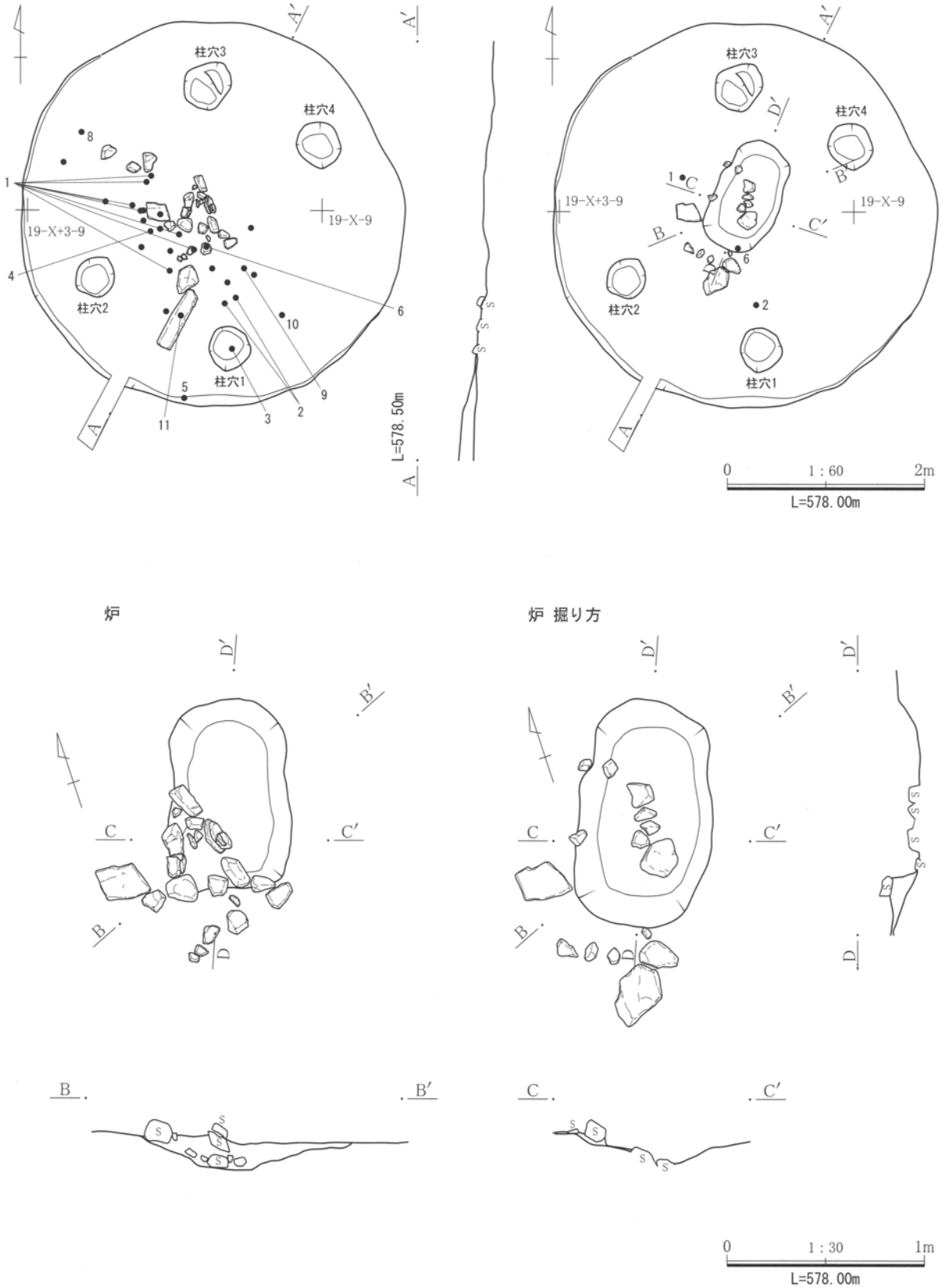


第44図　19区　42号住居

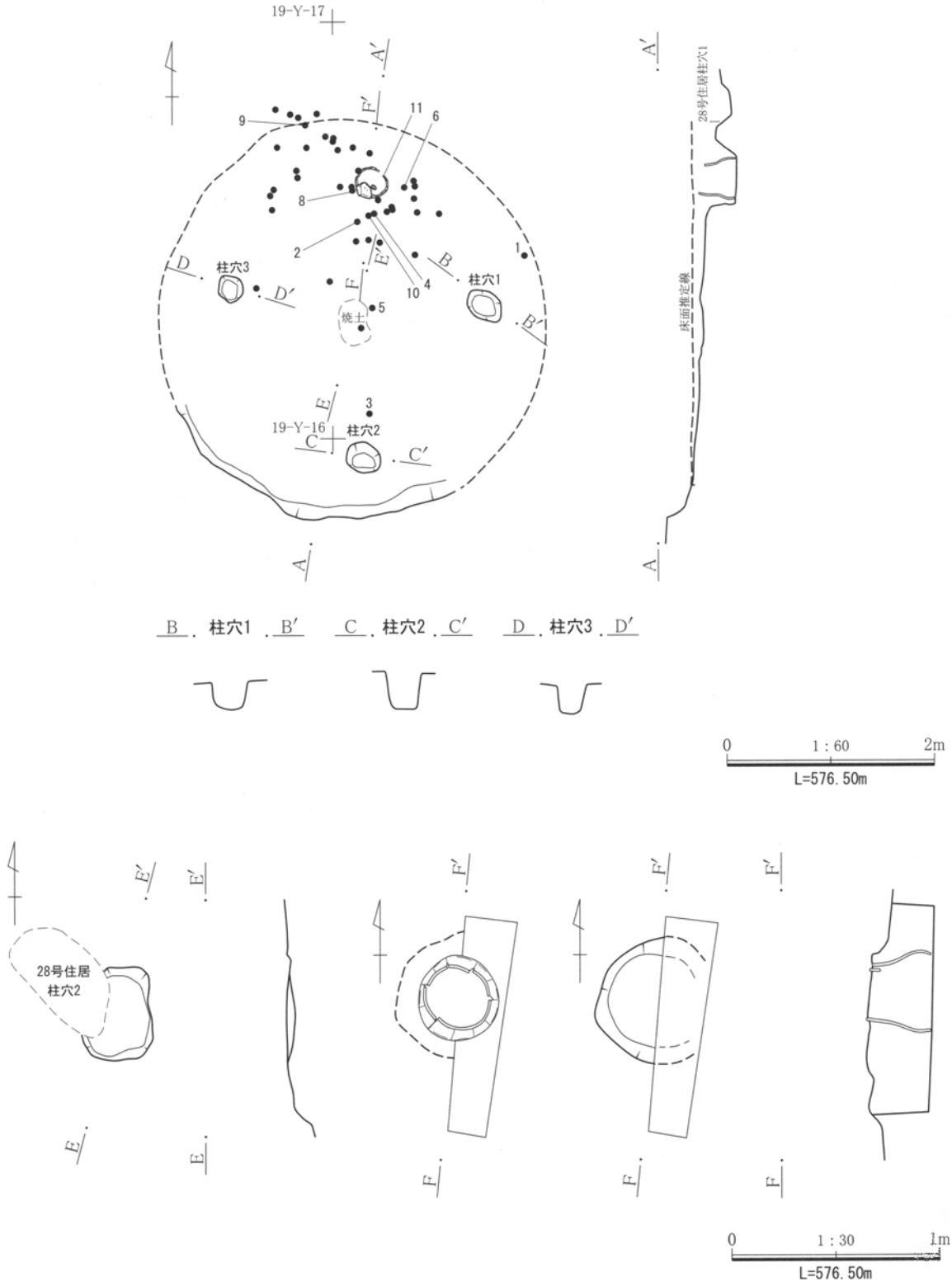
43号・46号



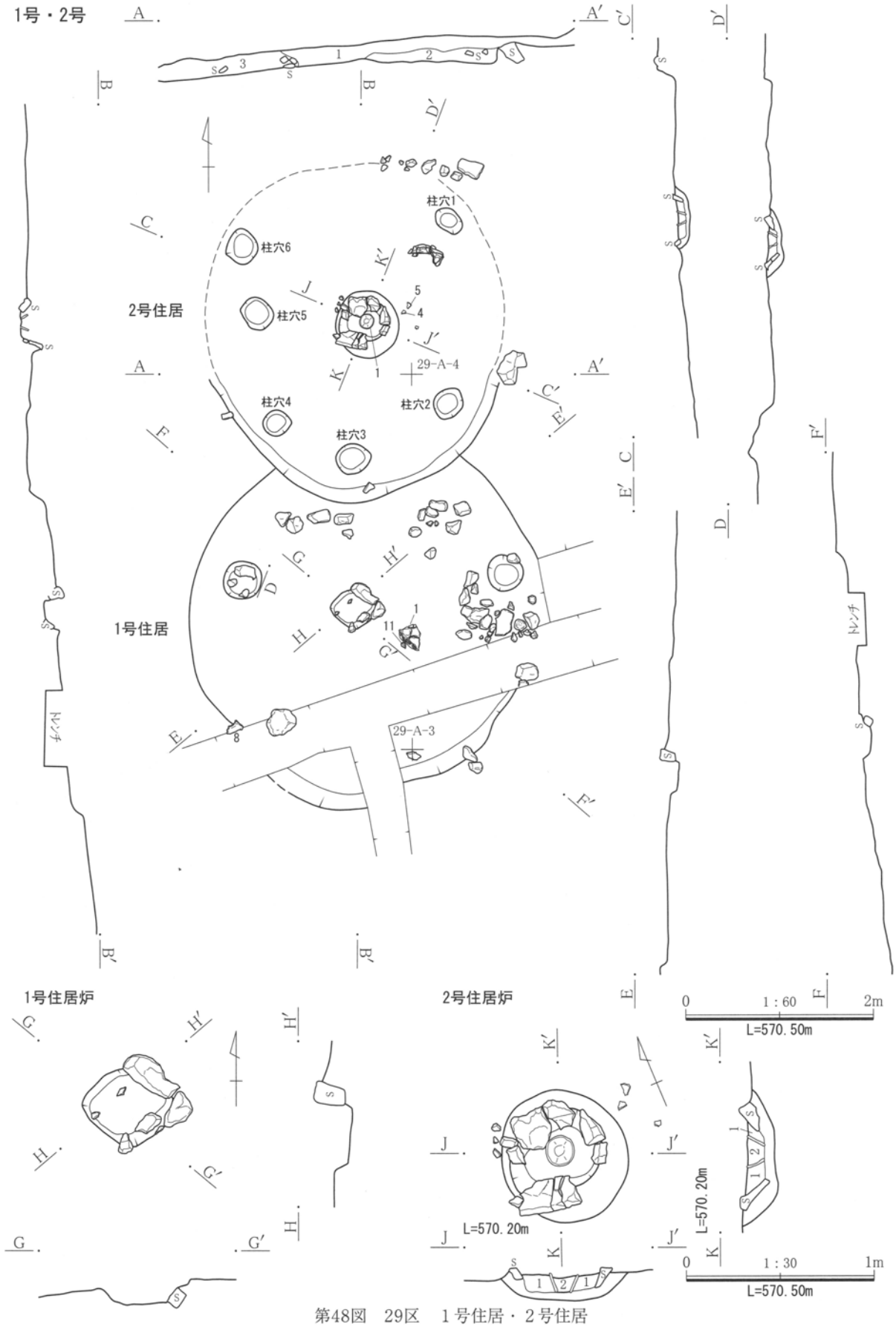
第45図　19区　43号住居・46号住居



第46図　19区　47号住居



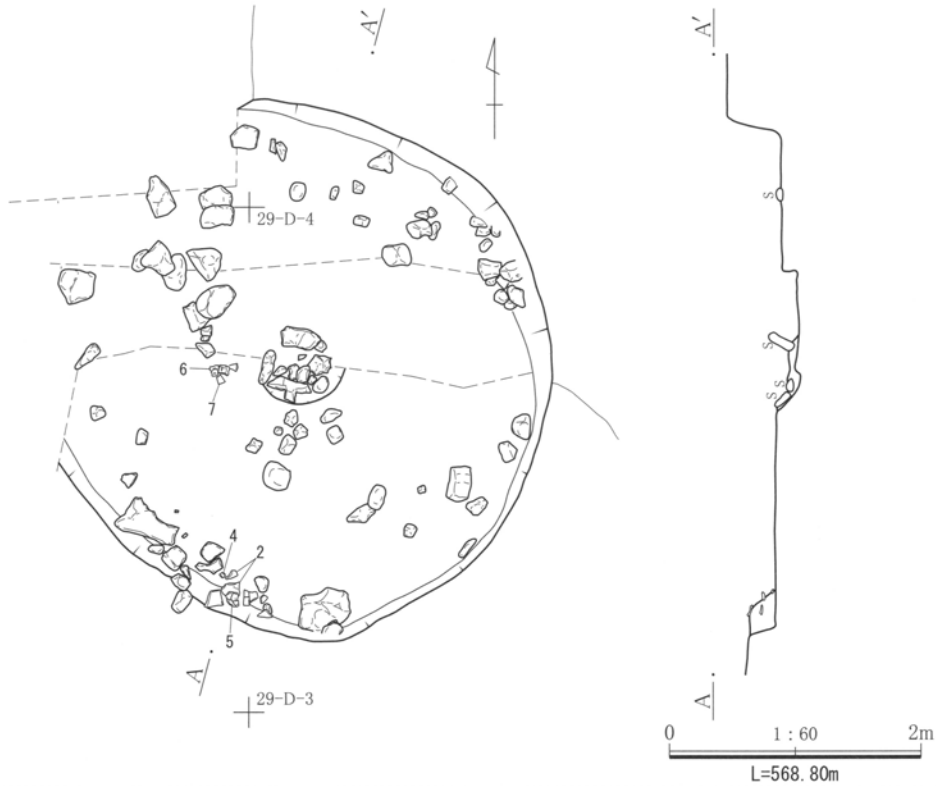
第47図　19区　51号住居



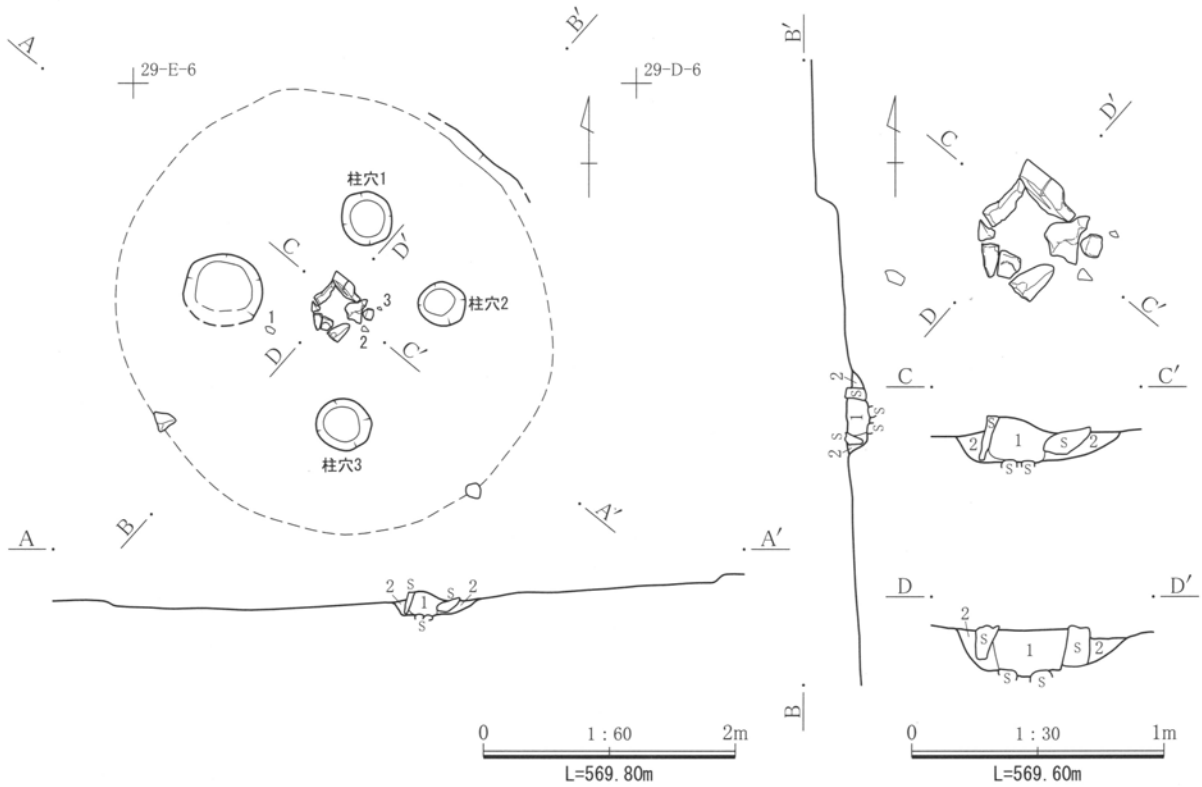
第48図　29区　１号住居・２号住居

12号・15号

12号住居



15号住居



第49図　29区　12号住居・15号住居

16号・19号

16号住居

下面

柱穴3
柱穴2
柱穴4
柱穴1
柱穴5

29-E-4
29-F-4

0　1：60　2m
L=568.40m

19号住居

炉

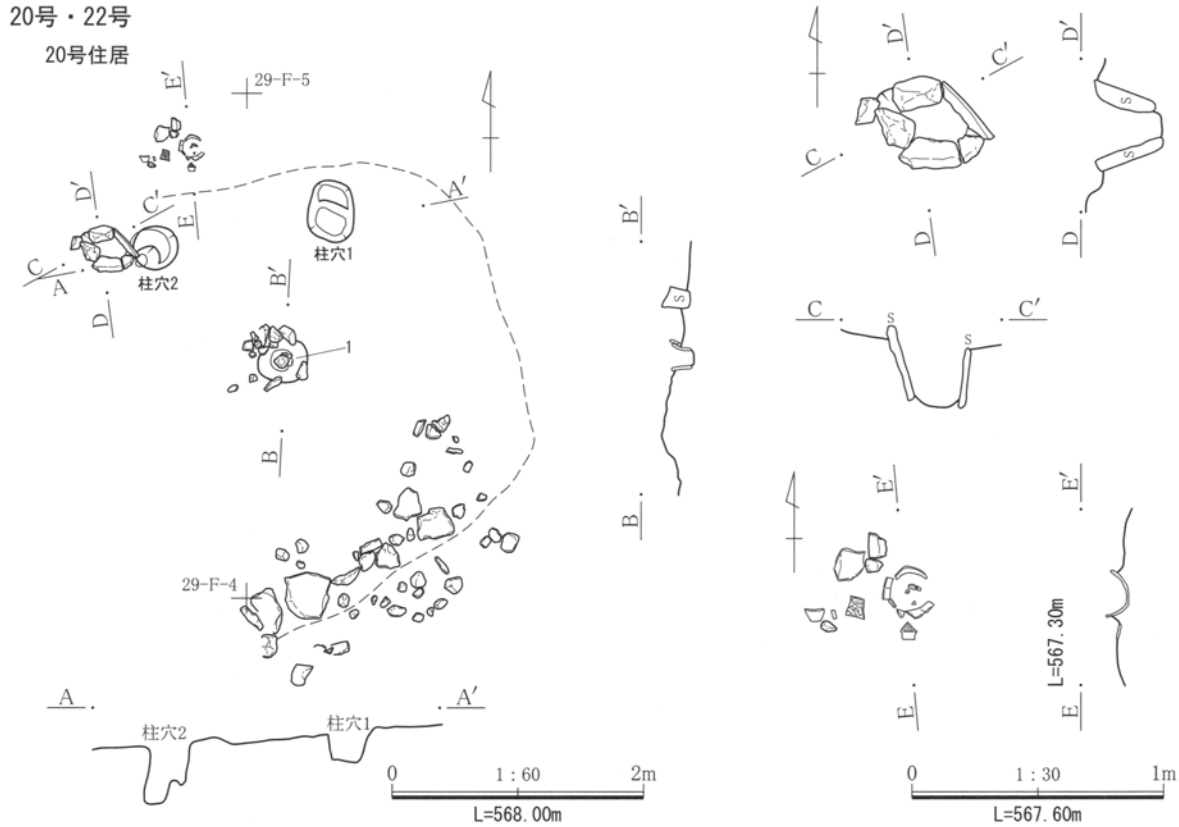
29-F-3

0　1：30　1m
L=568.00m

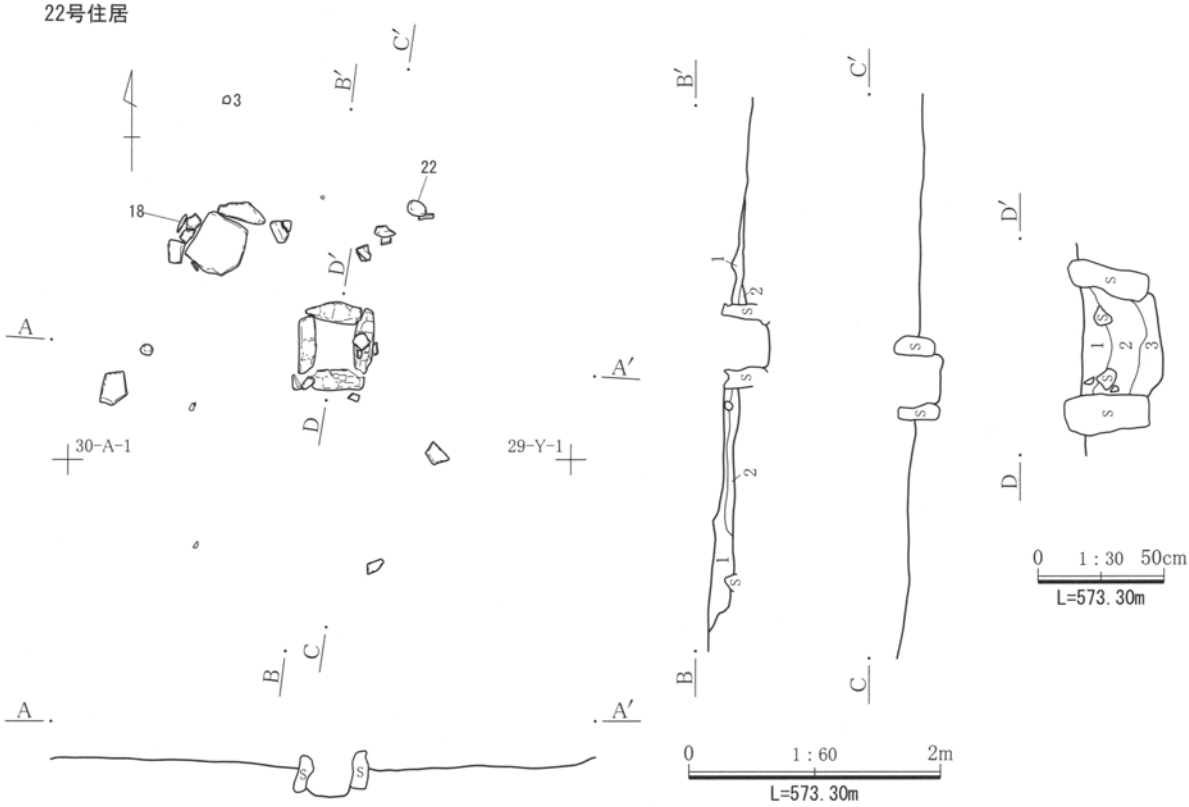
第50図　29区　16号住居・19号住居

20号・22号

20号住居



22号住居



第51図　29区　20号住居・22号住居

26号・27号

26号住居

27号住居

1号埋ガメ

焼土

柱穴1　柱穴2　柱穴3　柱穴4　柱穴5　柱穴6　柱穴7　柱穴8

30-N-2　30-N-1　30-O-3　30-N-3

0　1：60　2m

L=574.00m

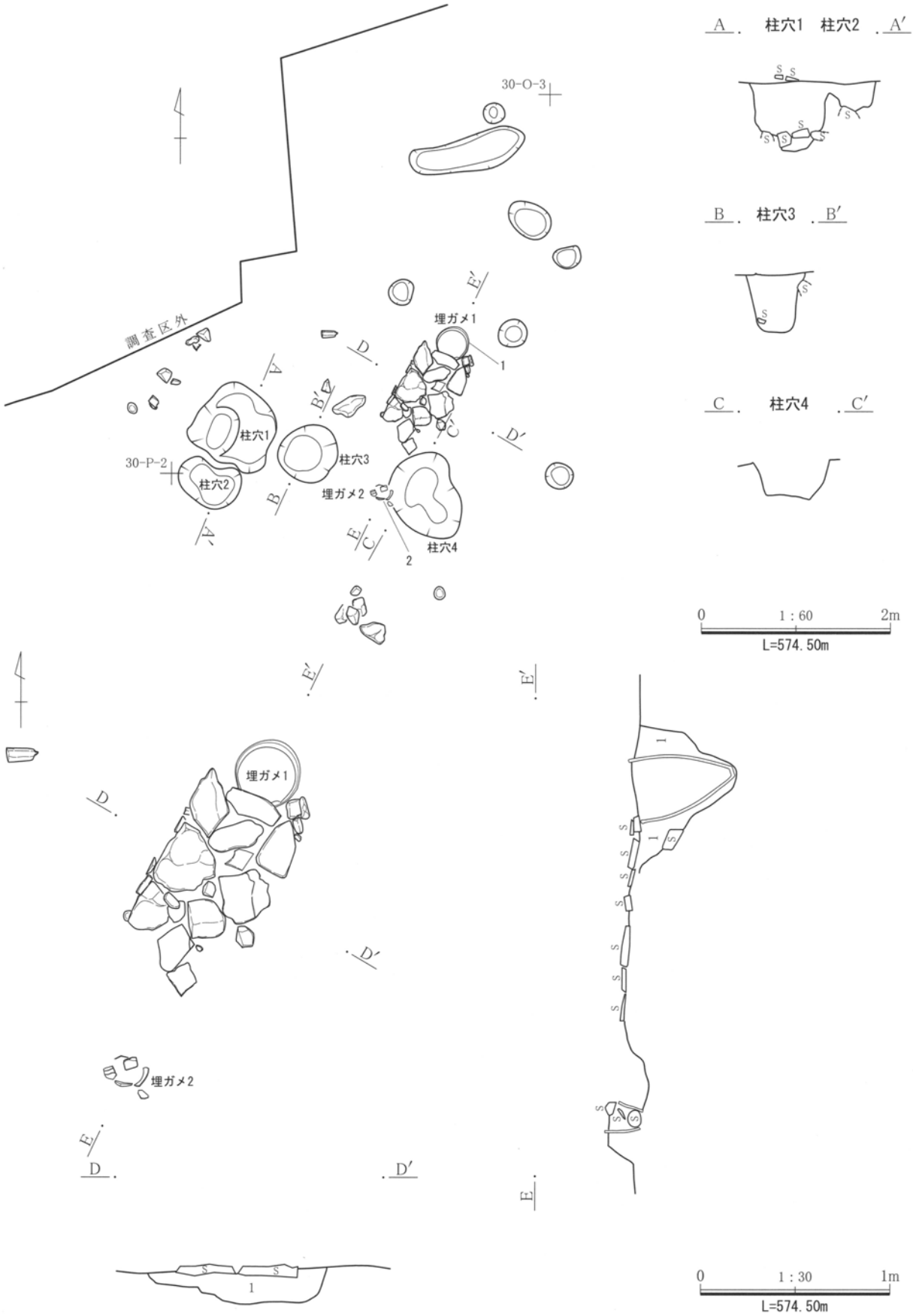
埋ガメ

炉

0　1：30　1m

L=573.00m

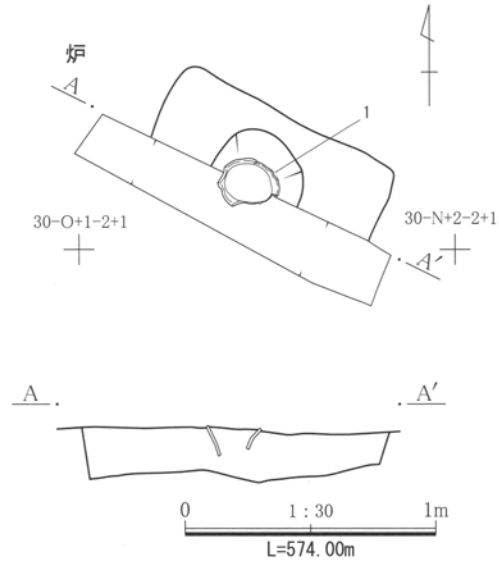
第52図　30区　26号住居・27号住居



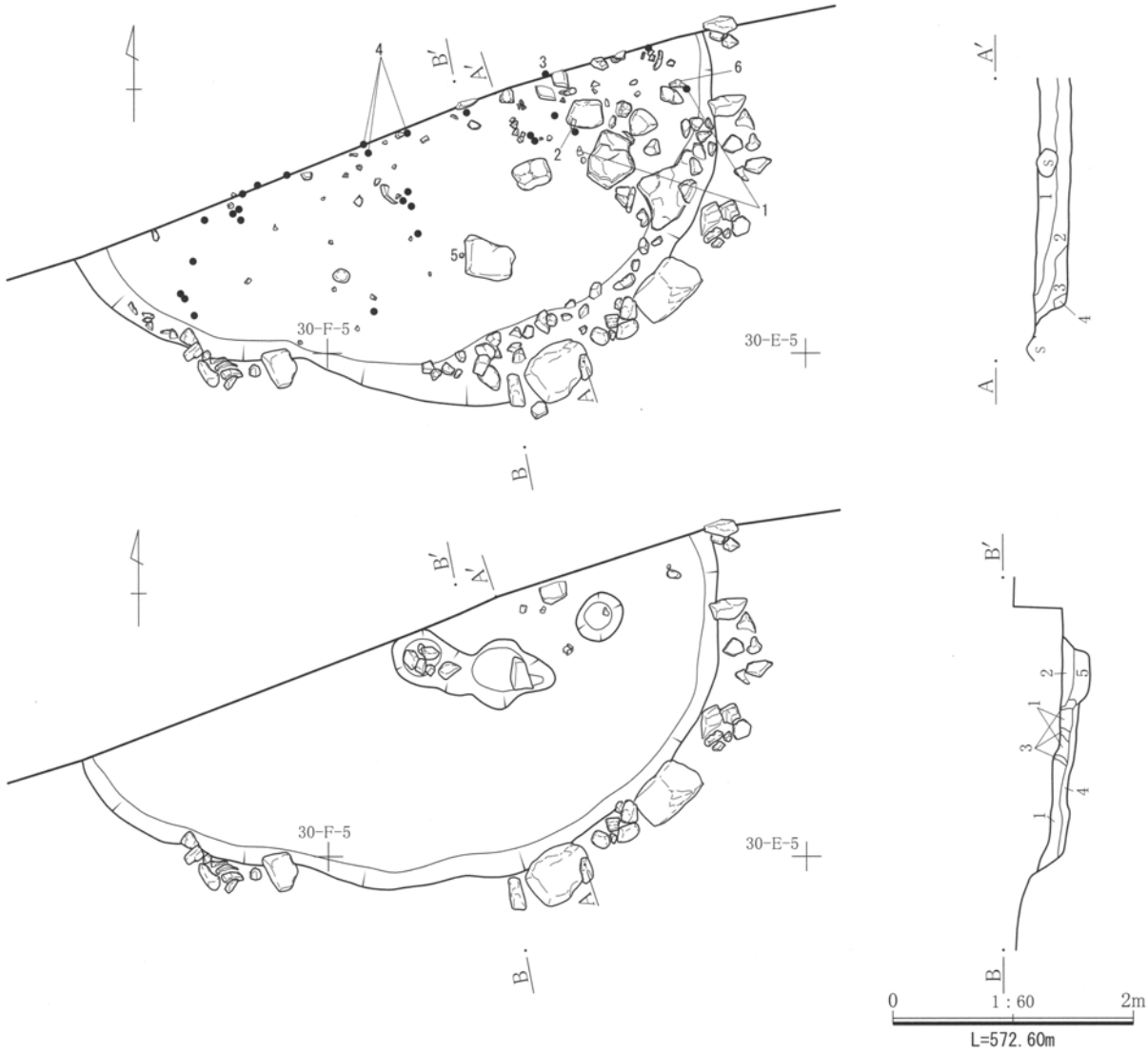
第53図　30区　28号住居

31号・37号

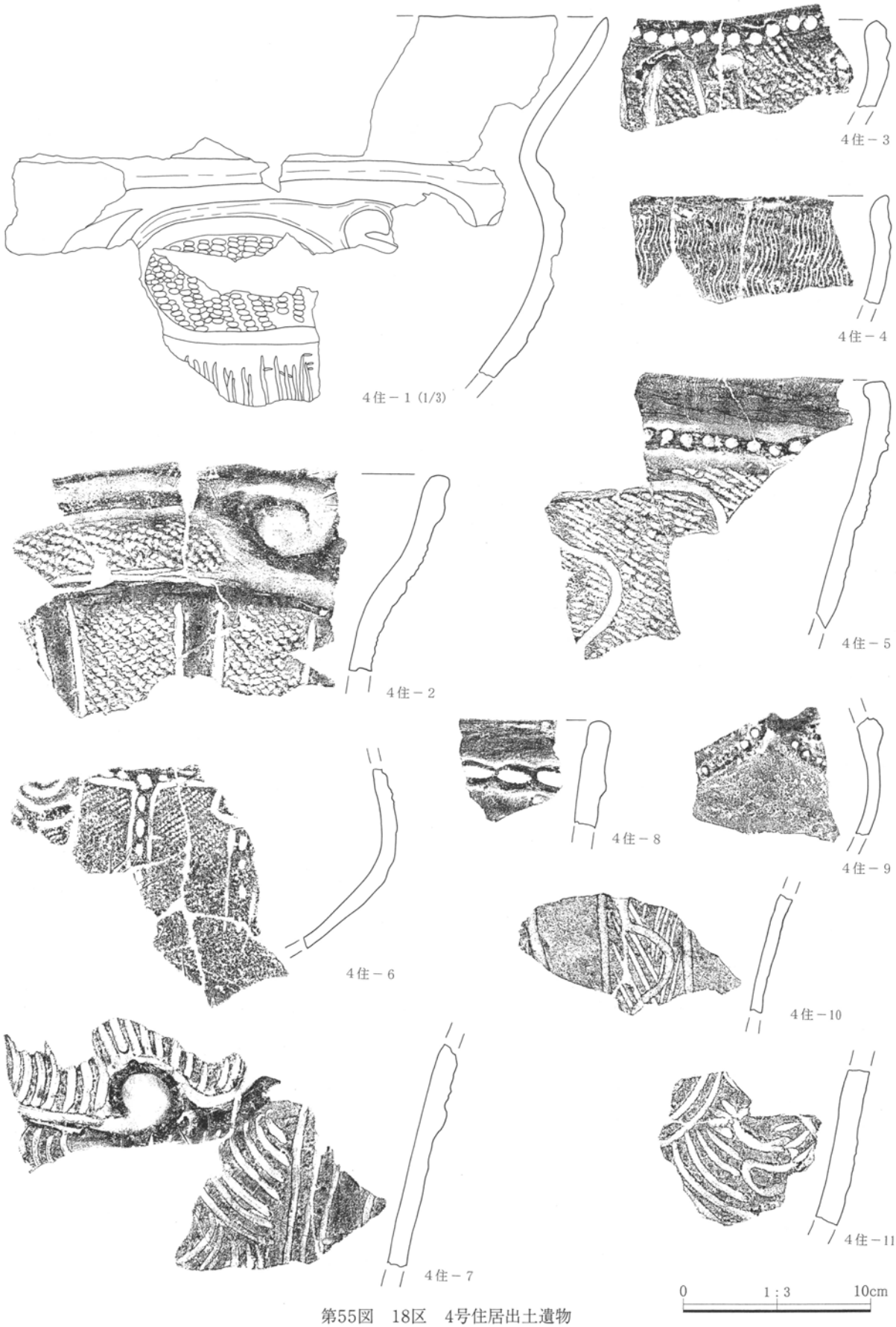
31号住居



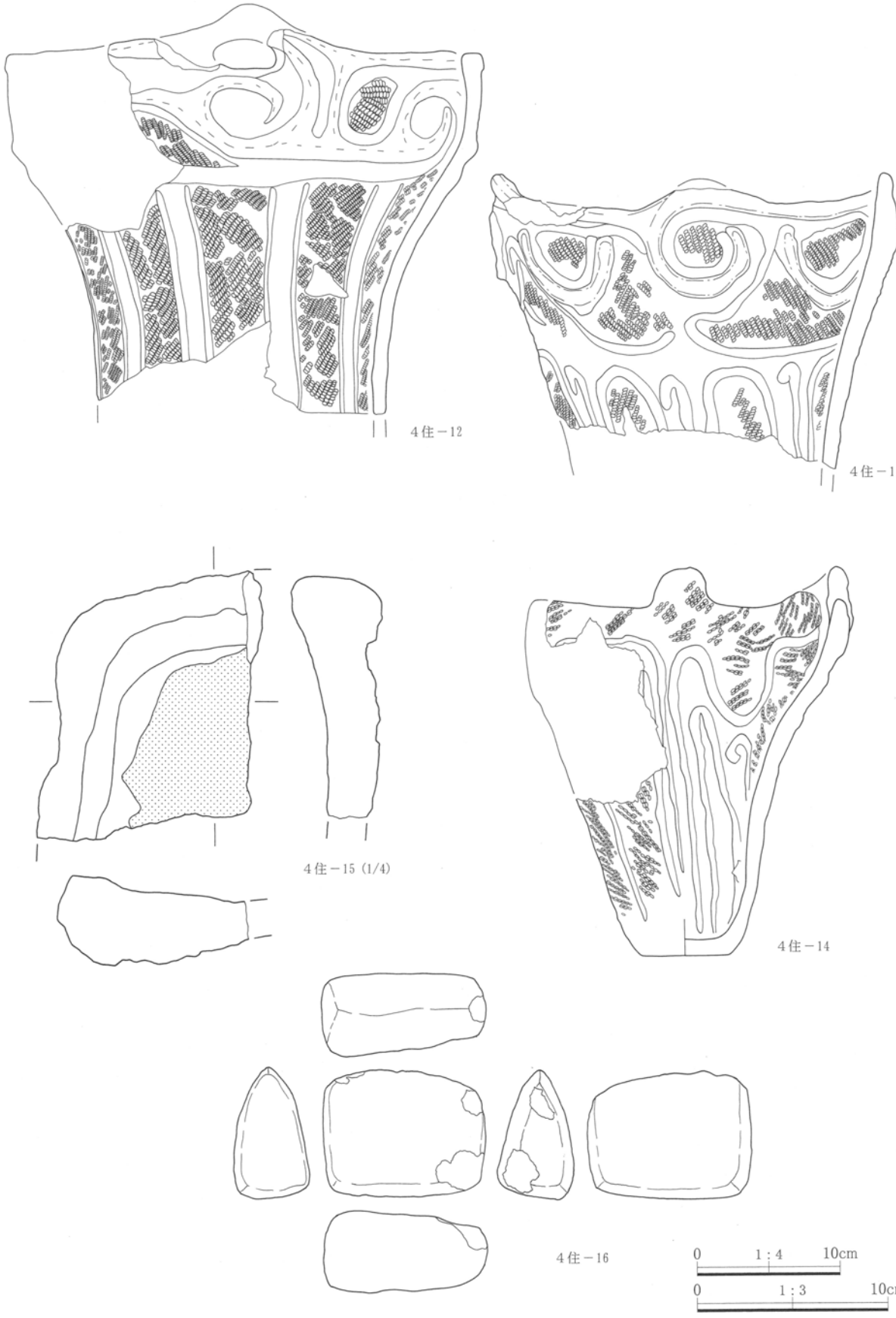
37号住居



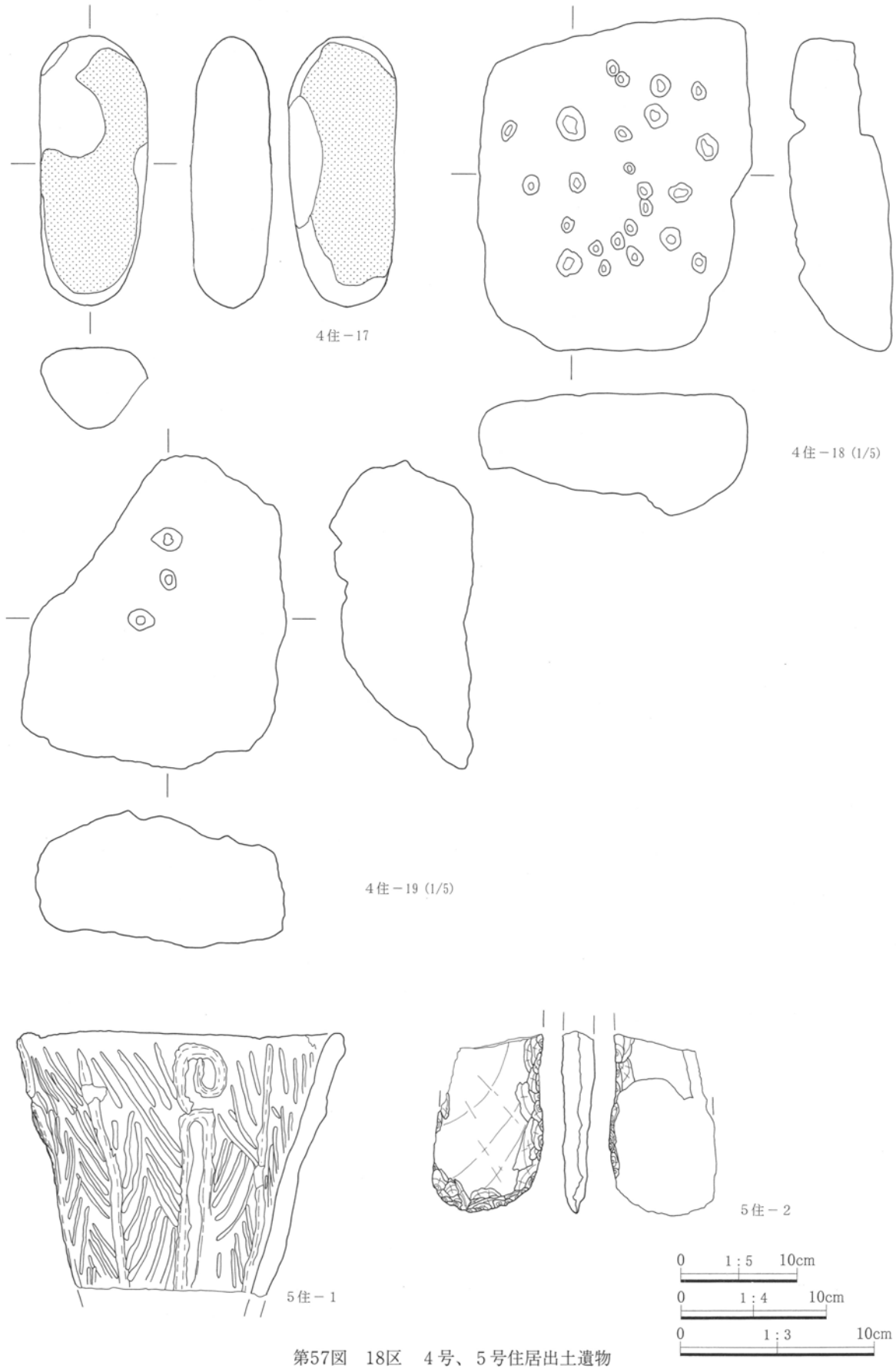
第54図　30区　31号住居・37号住居



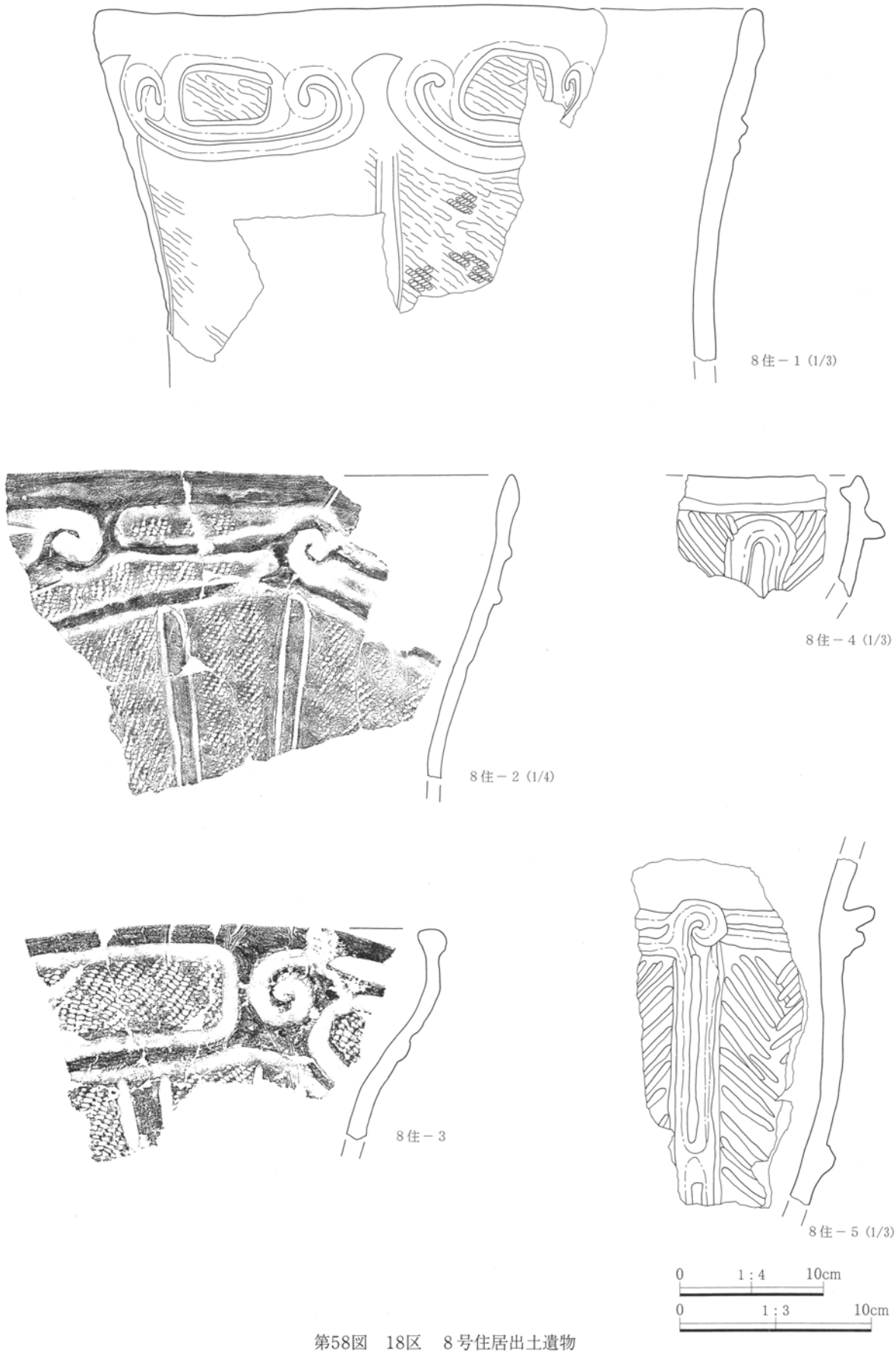
第55図　18区　4号住居出土遺物



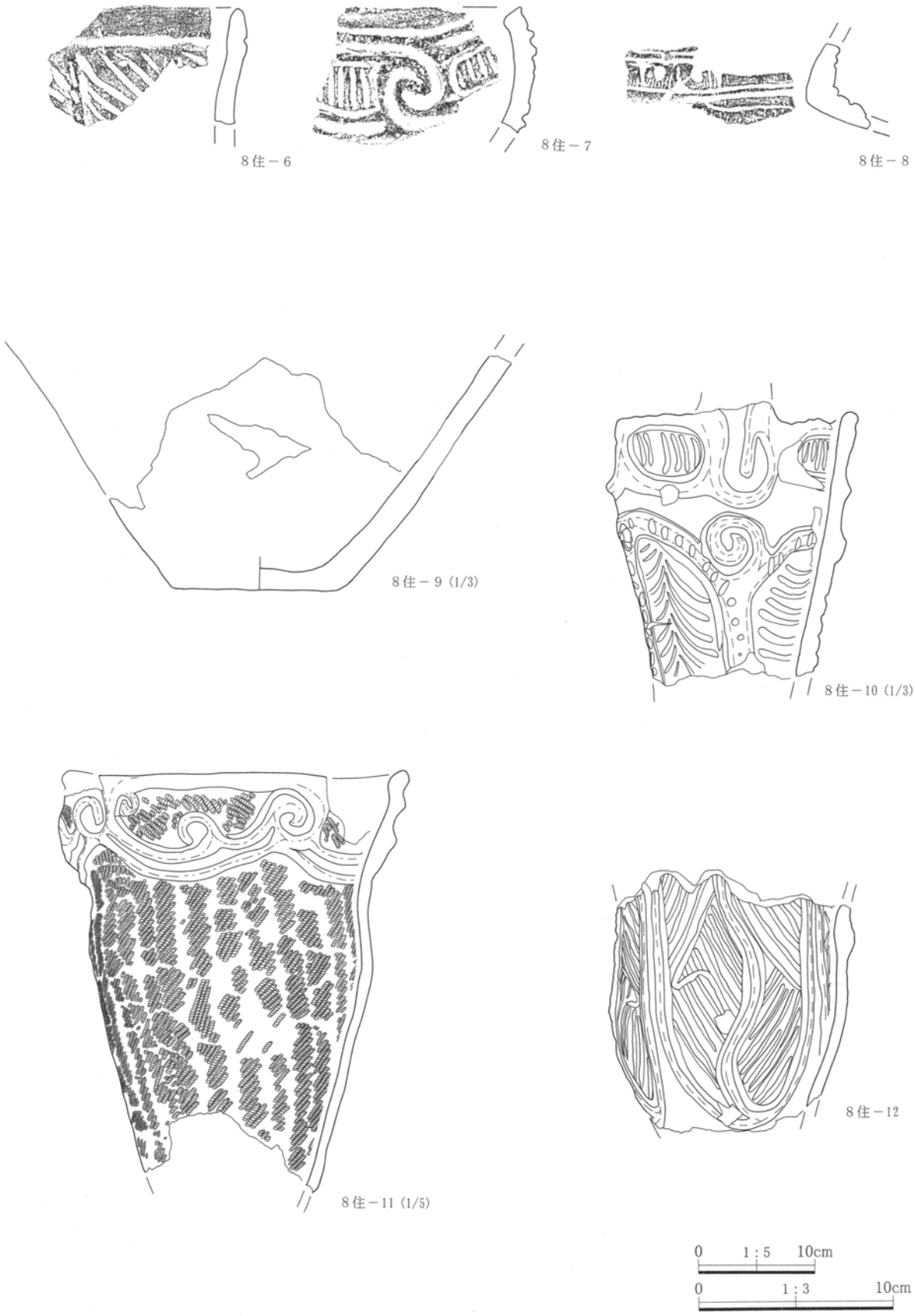
第56図　18区　４号住居出土遺物



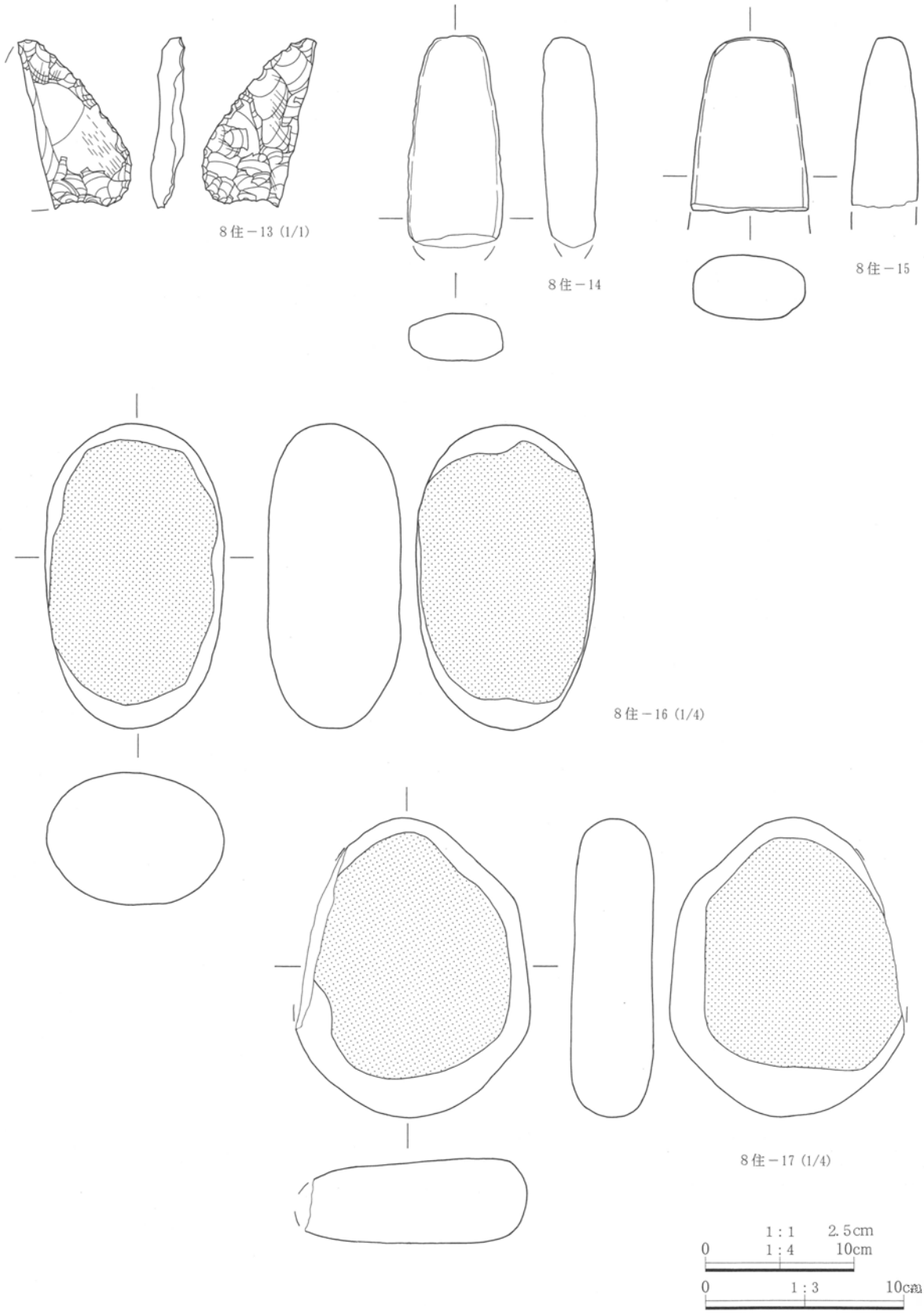
第57図　18区　４号、５号住居出土遺物



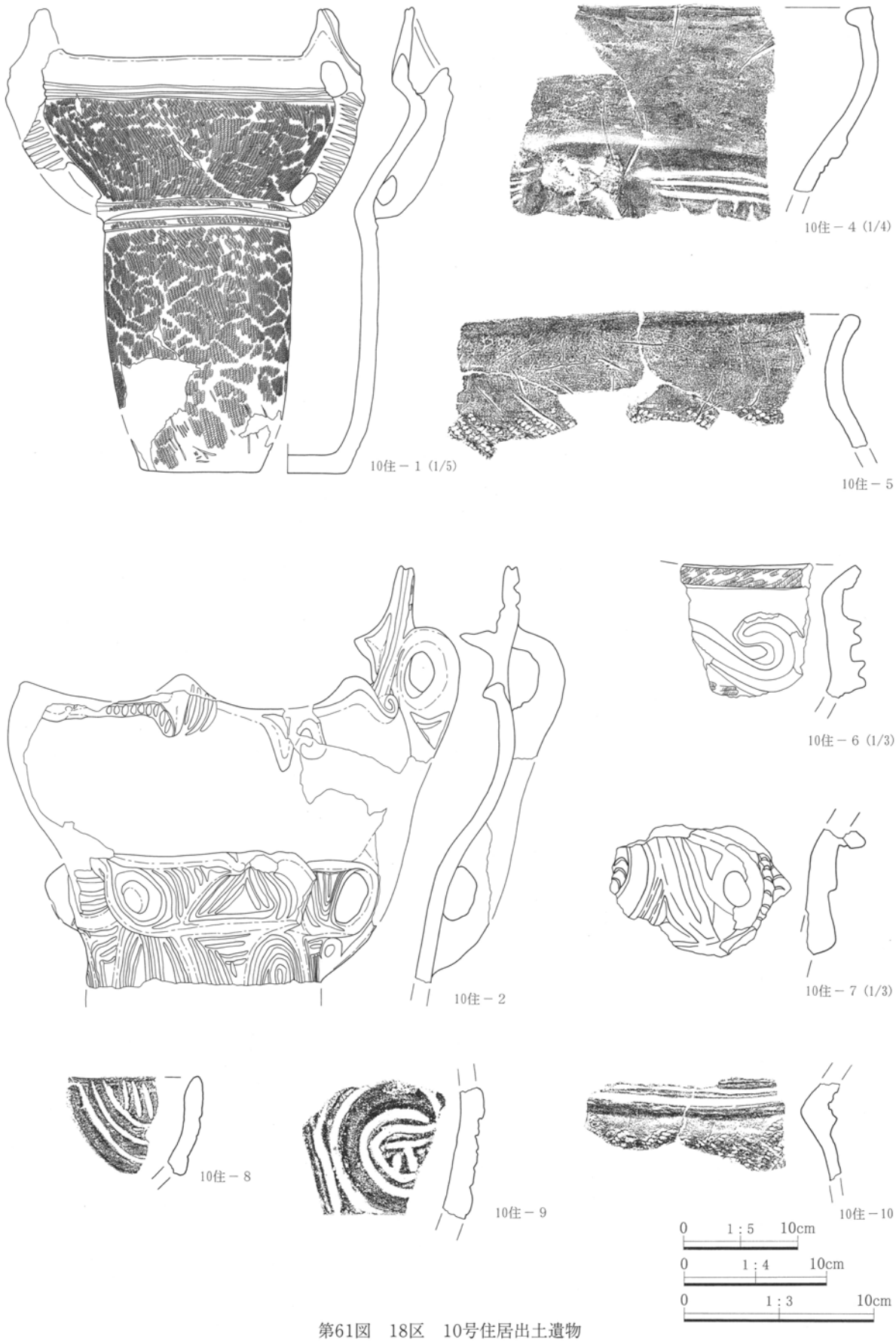
第58図　18区　８号住居出土遺物



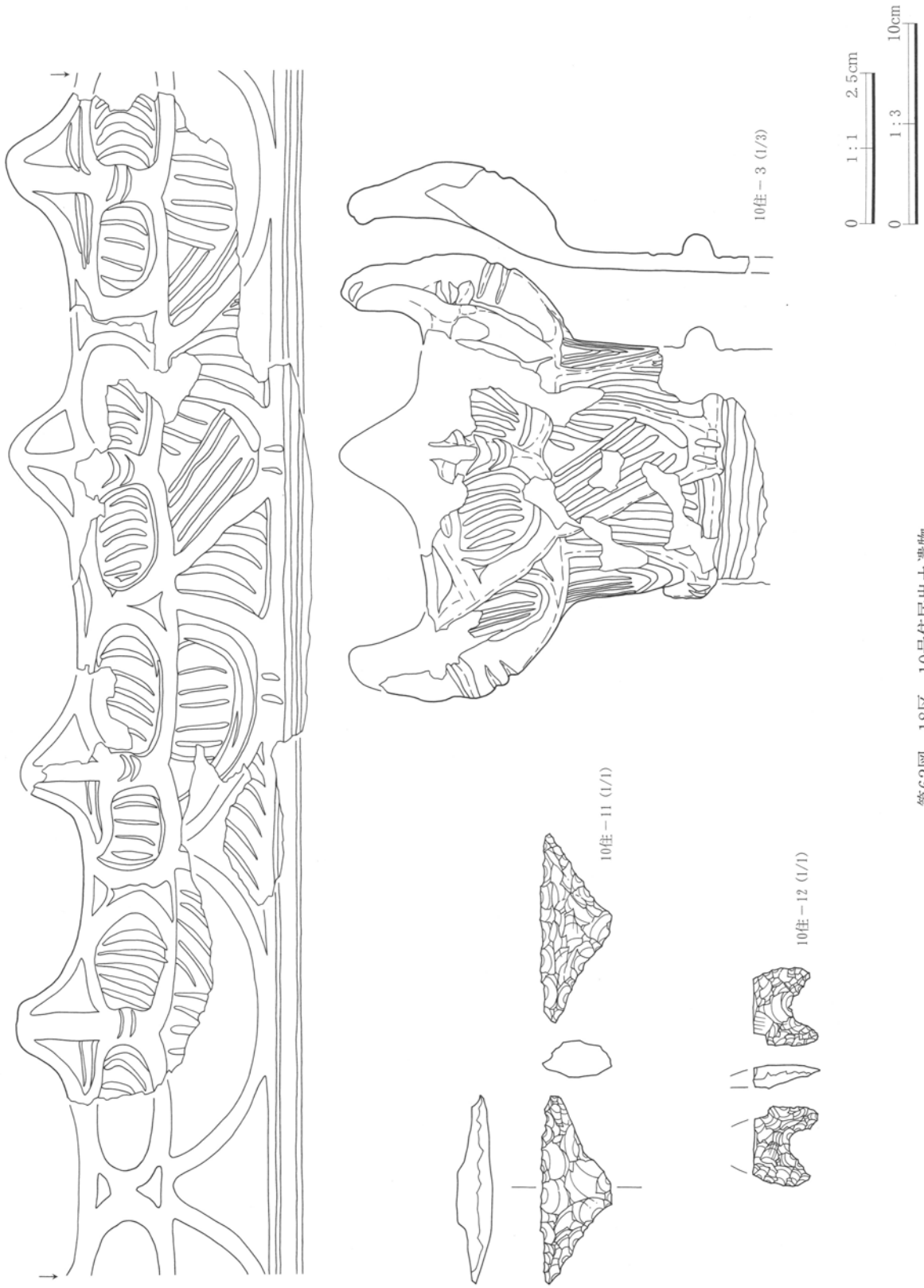
第59図　18区　８号住居出土遺物



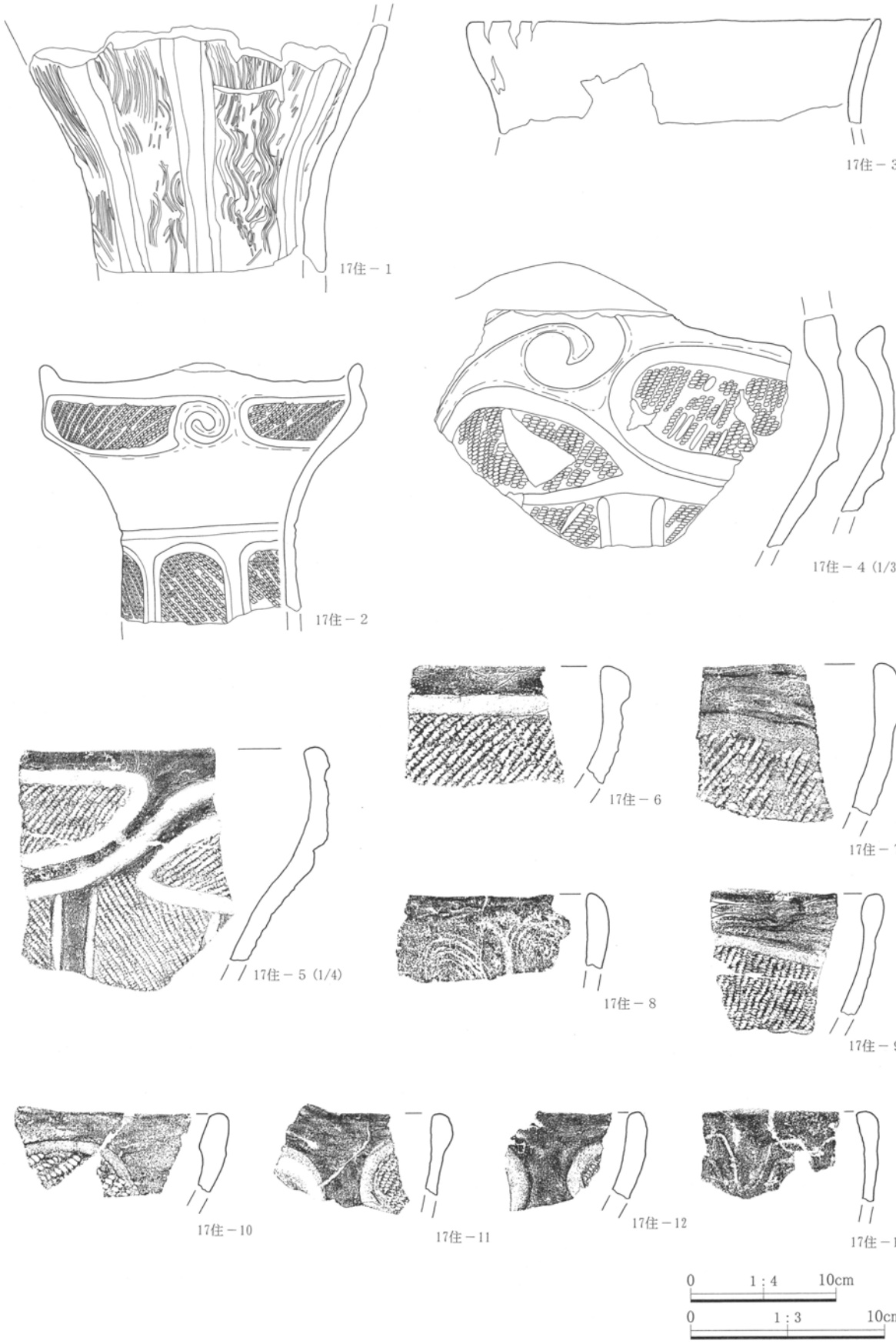
第60図　18区　８号住居出土遺物



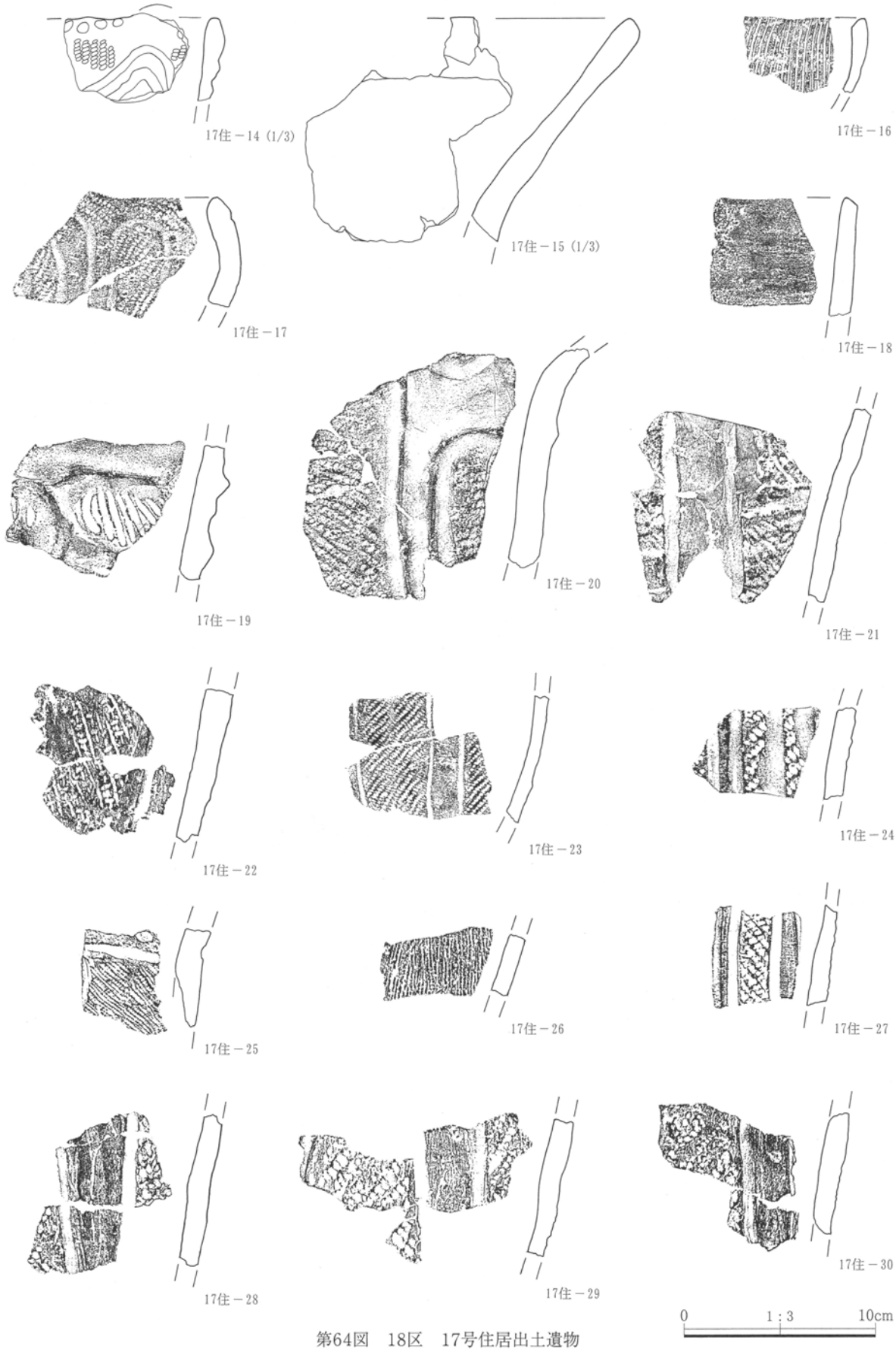
第61図　18区　10号住居出土遺物



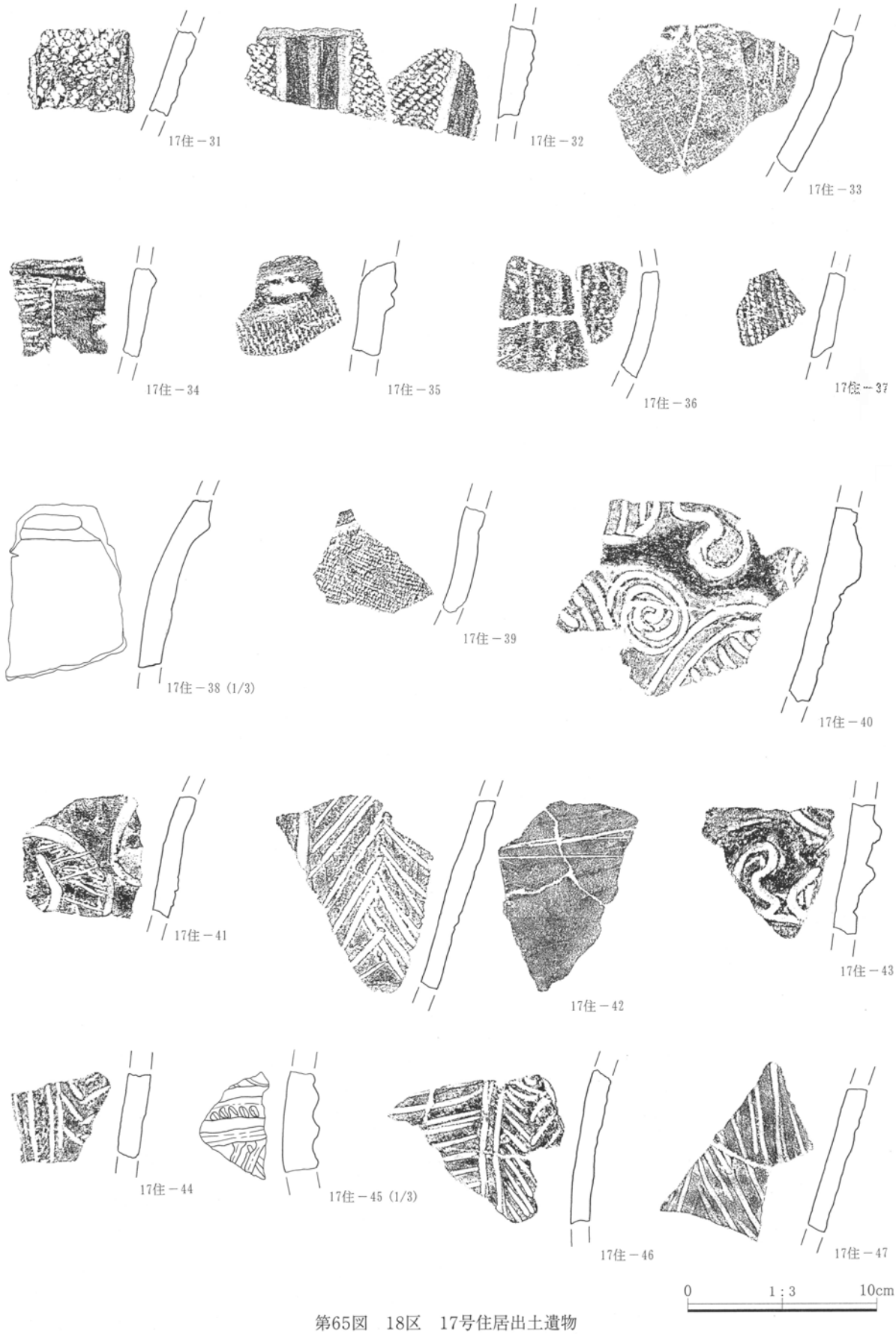
第62図　18区　10号住居出土遺物



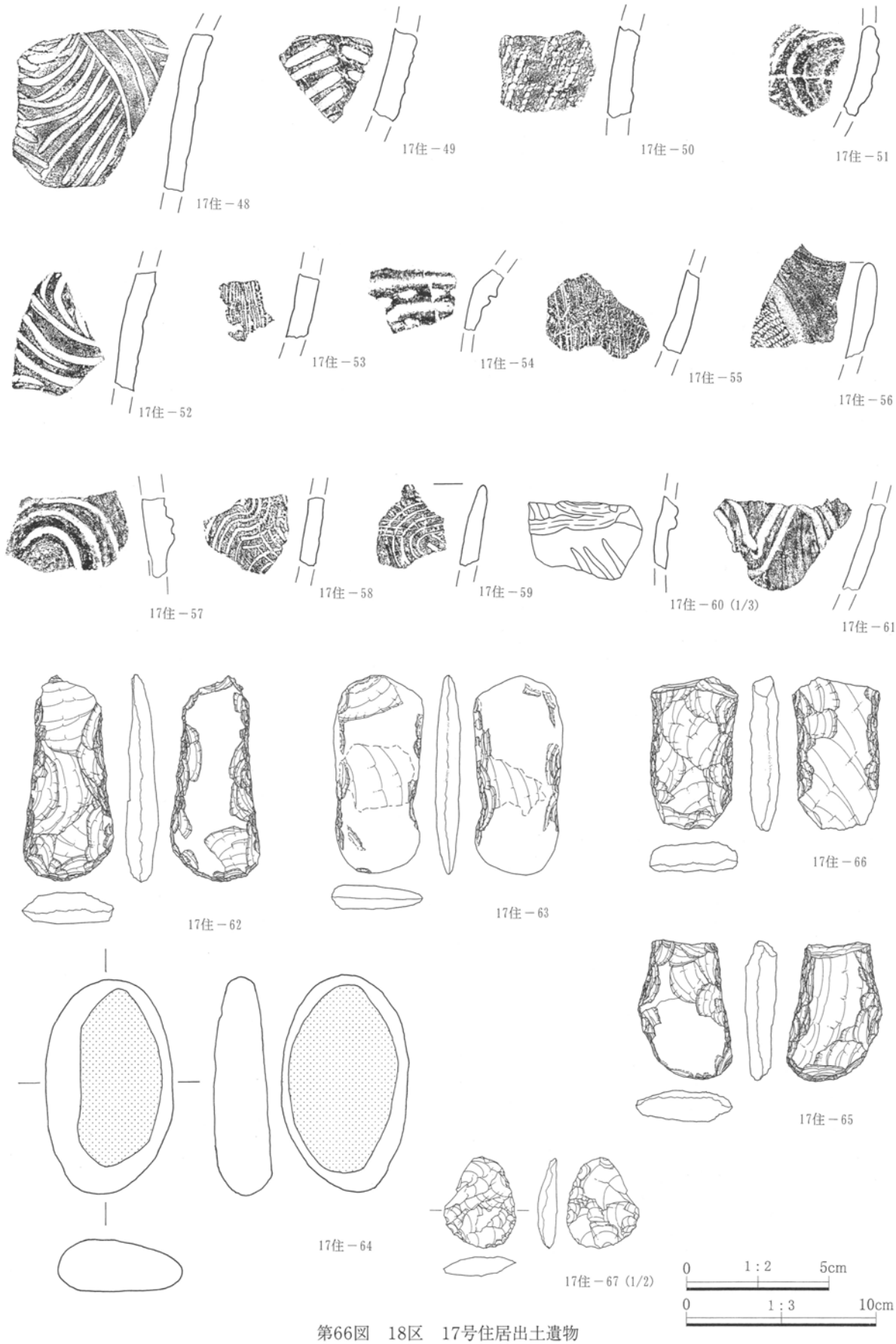
第63図　18区　17号住居出土遺物



第64図　18区　17号住居出土遺物

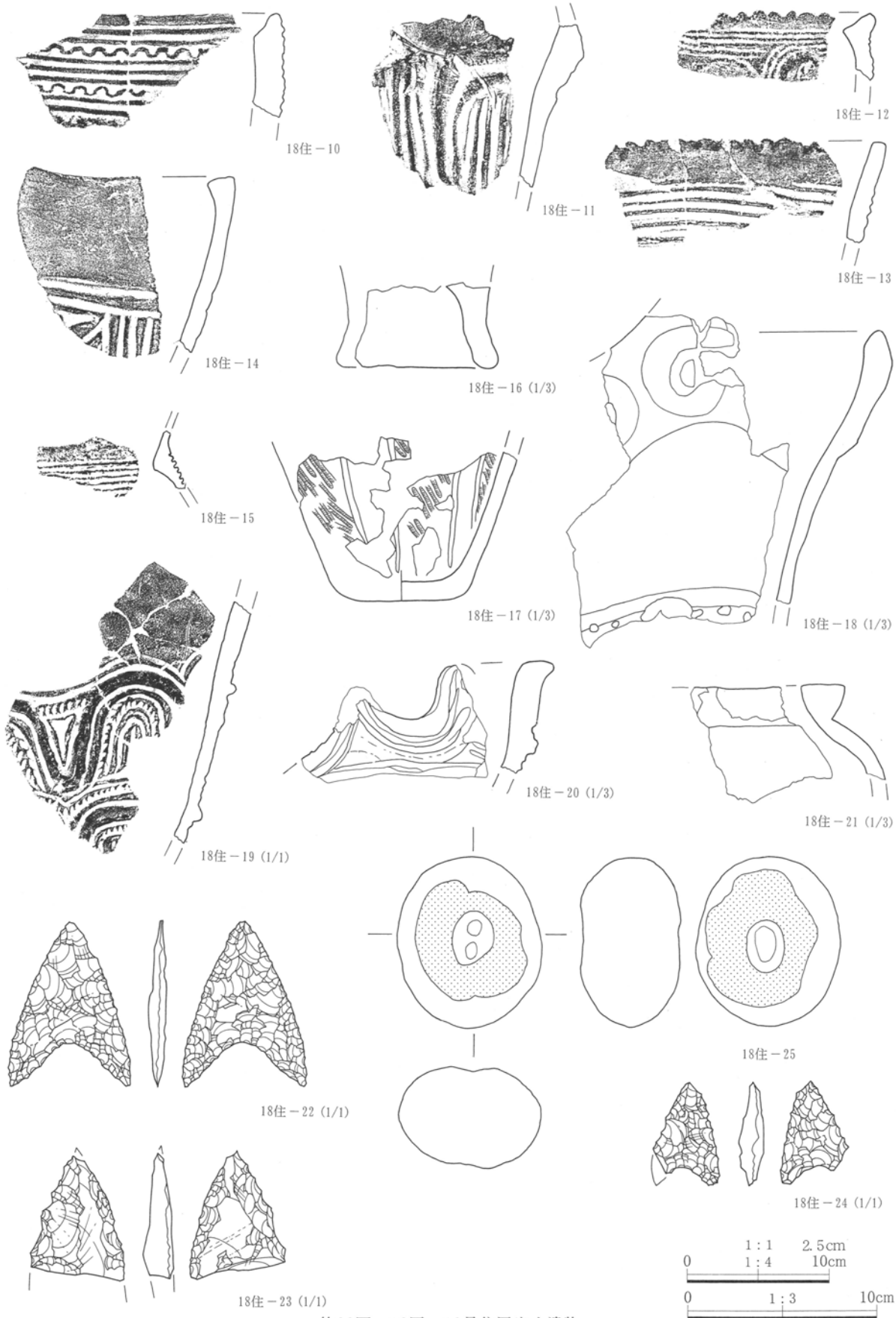


第65図　18区　17号住居出土遺物

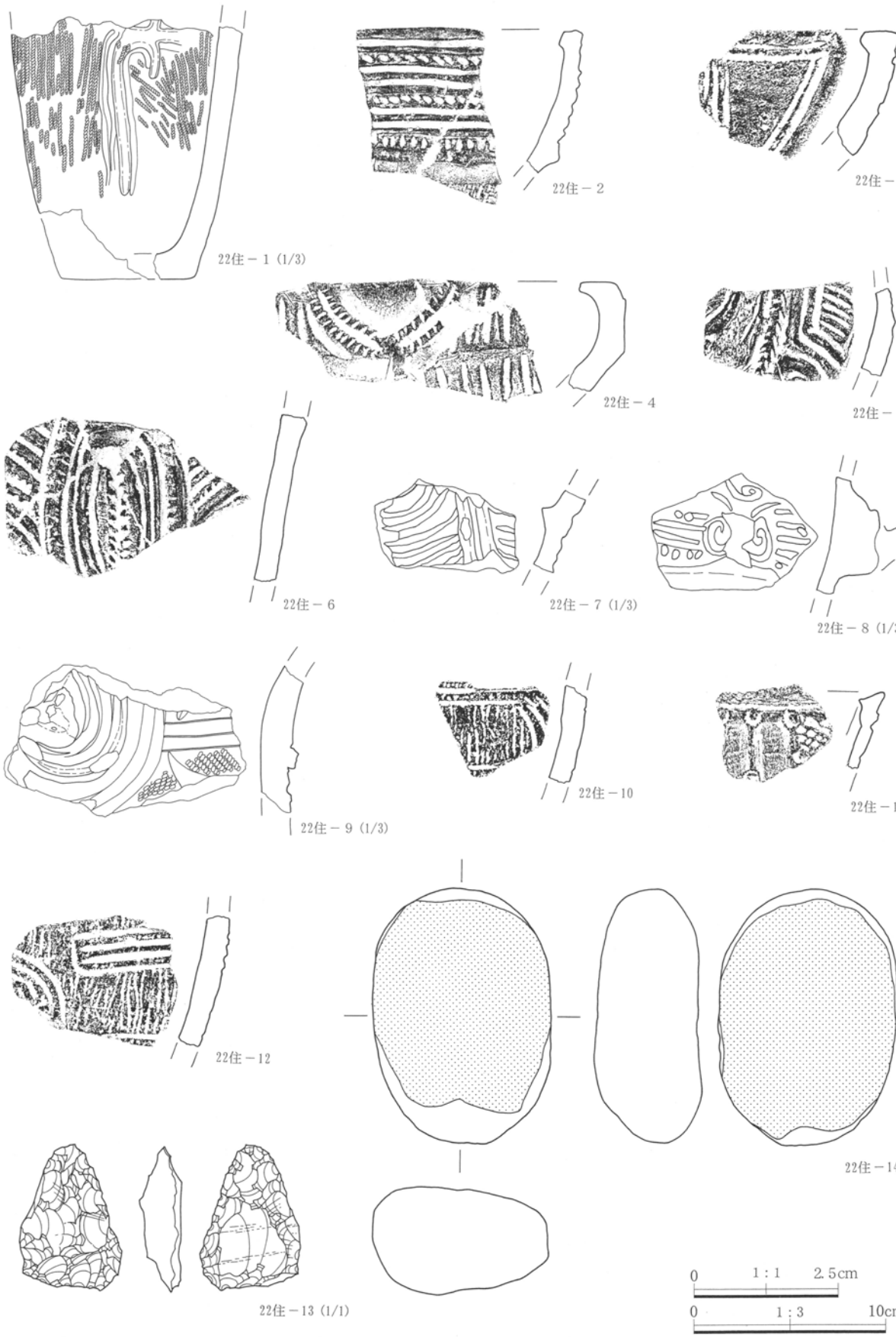


第66図　18区　17号住居出土遺物

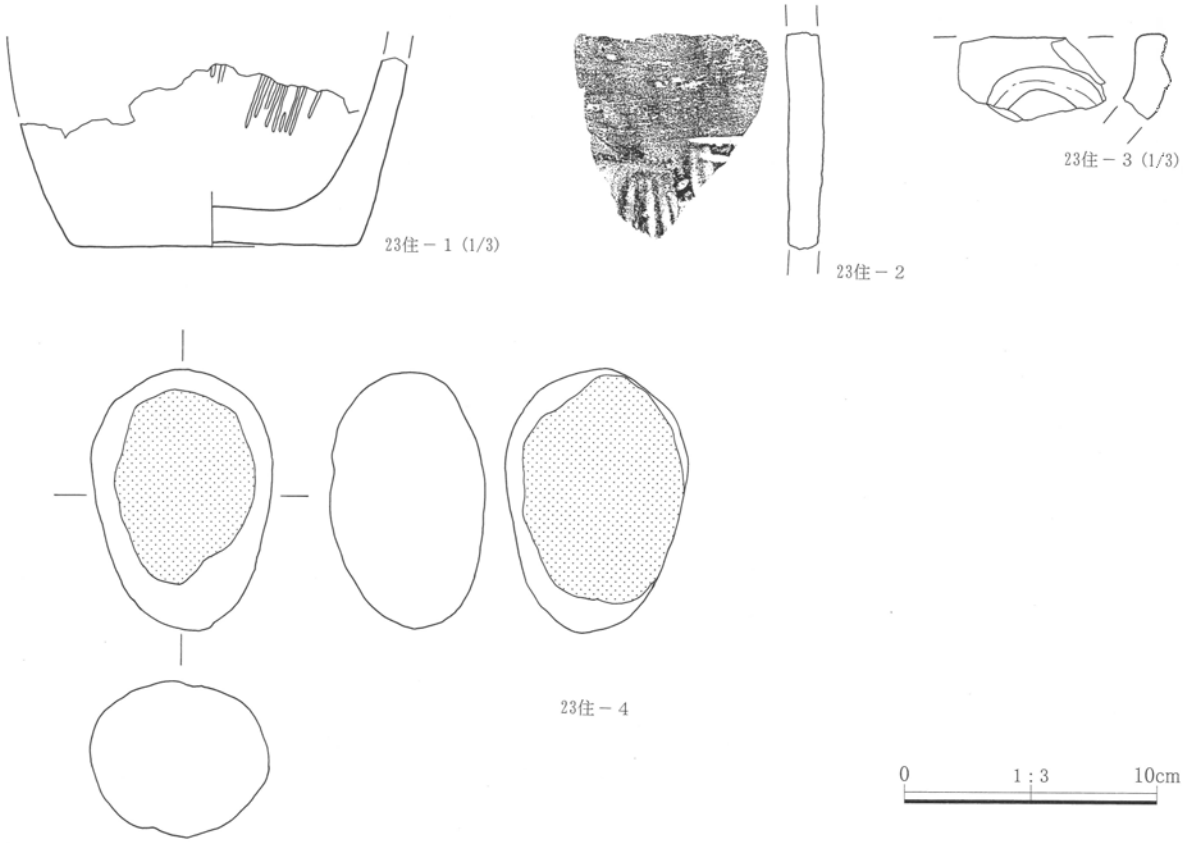
第67図　18区　18号住居出土遺物



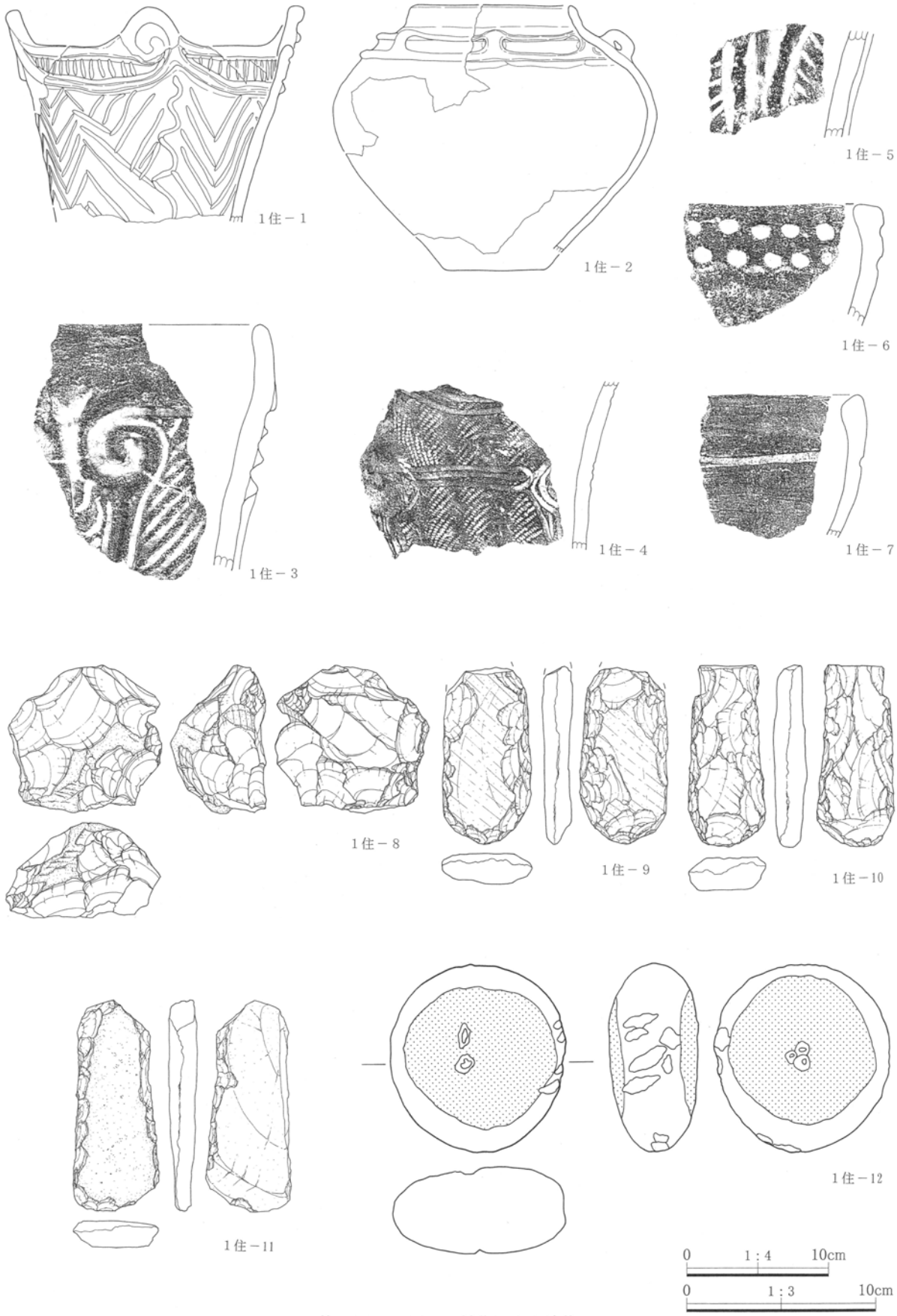
第68図　18区　18号住居出土遺物



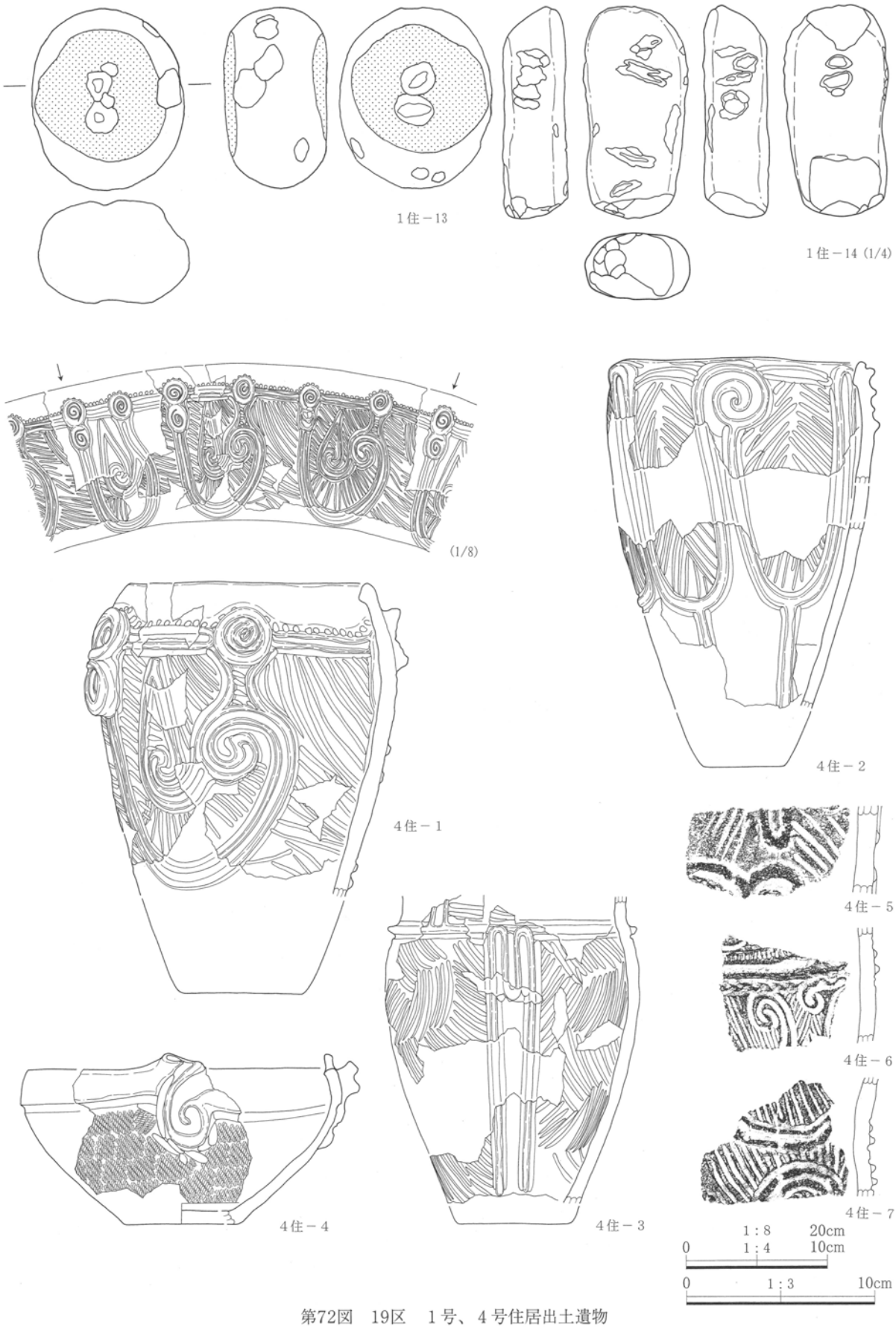
第69図　18区　22号住居出土遺物



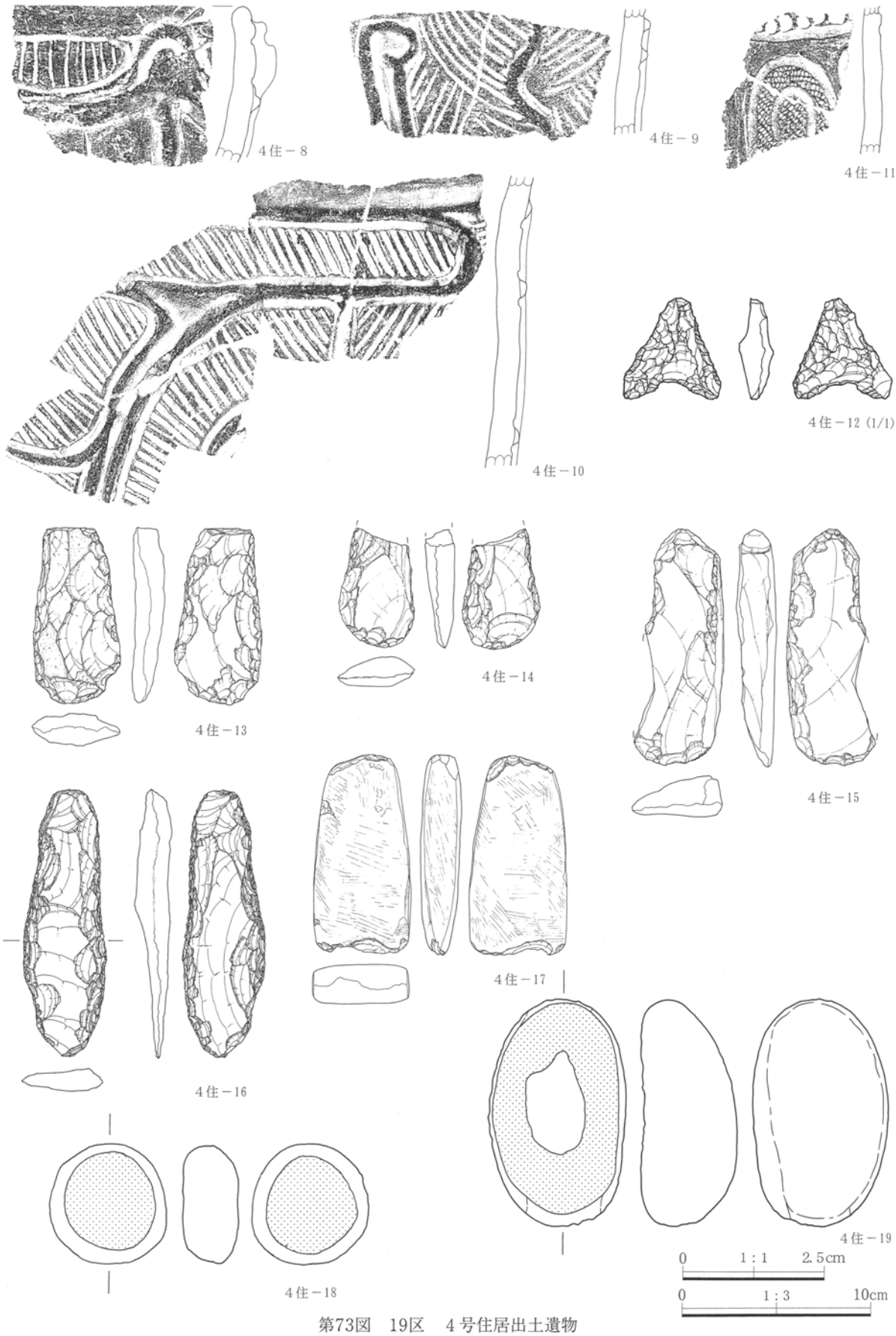
第70図　18区　23号住居出土遺物



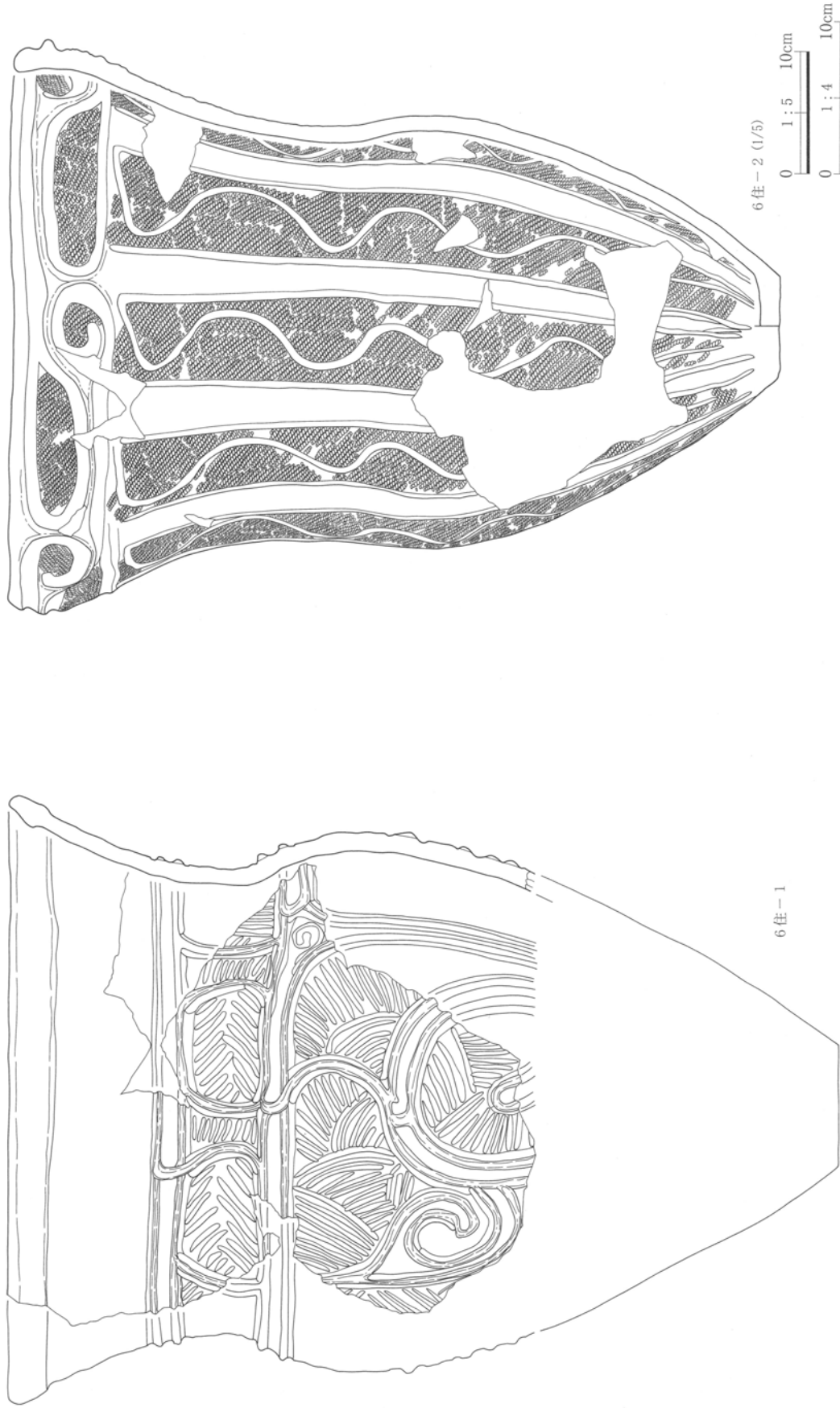
第71図　19区　１号住居出土遺物



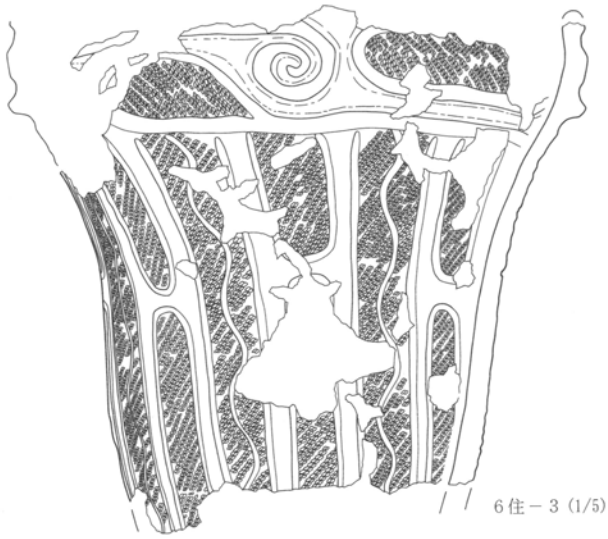
第72図　19区　１号、４号住居出土遺物

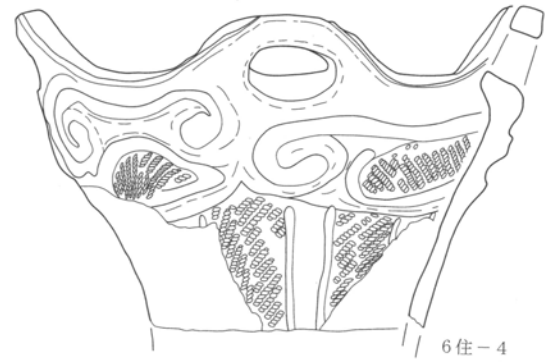


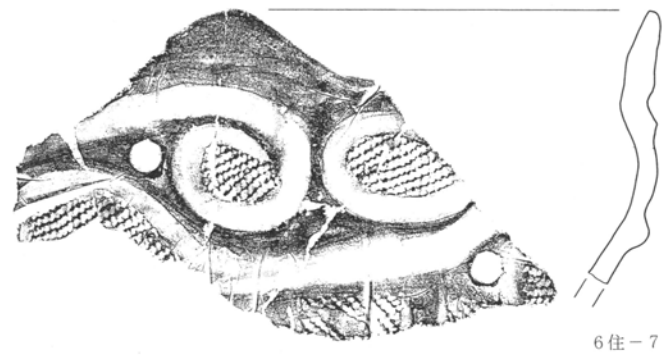
第73図　19区　４号住居出土遺物

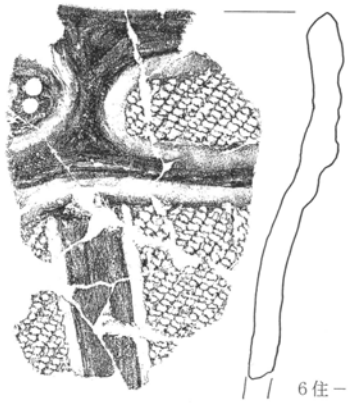


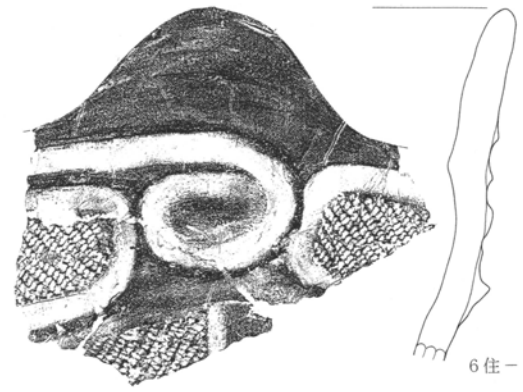
第74図　19区　６号住居出土遺物

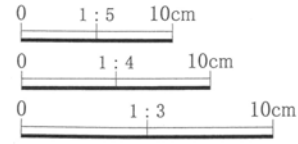








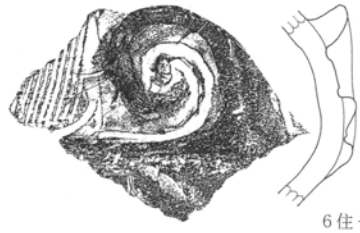


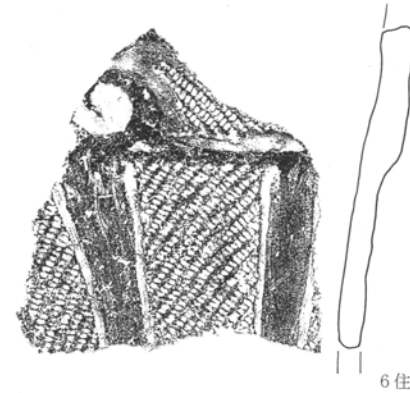


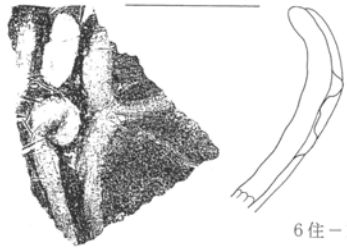
第75図　19区　６号住居出土遺物

6住－9

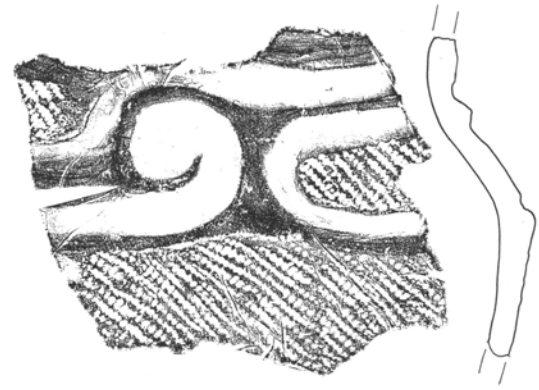
6住－10

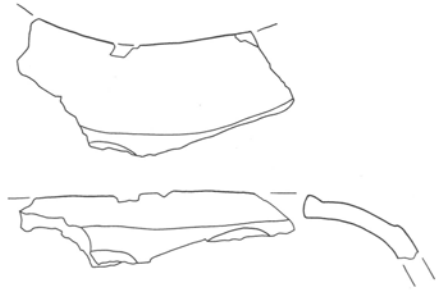

6住－11


6住－13


6住－12

6住－14

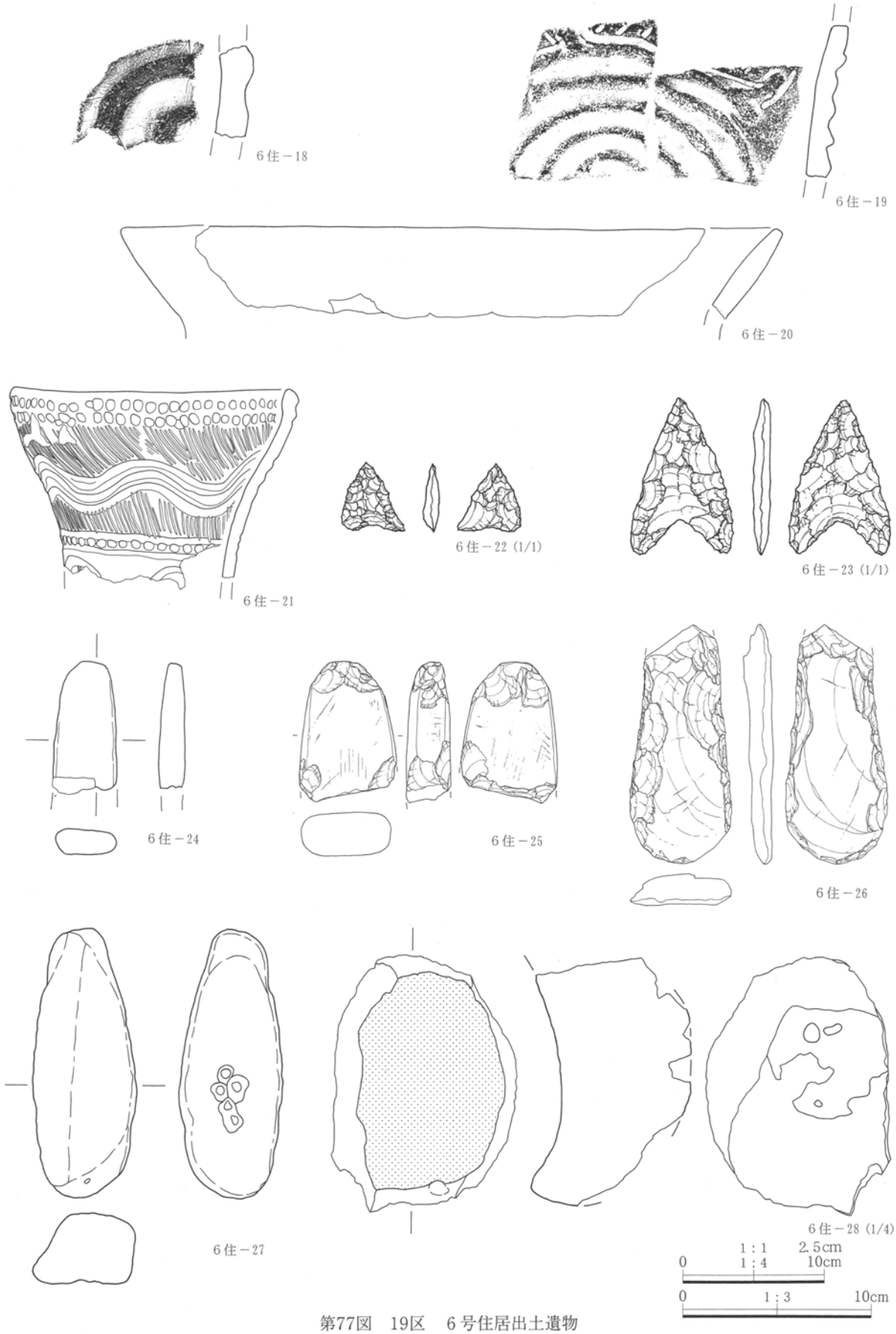

6住－15


6住－16 (1/3)

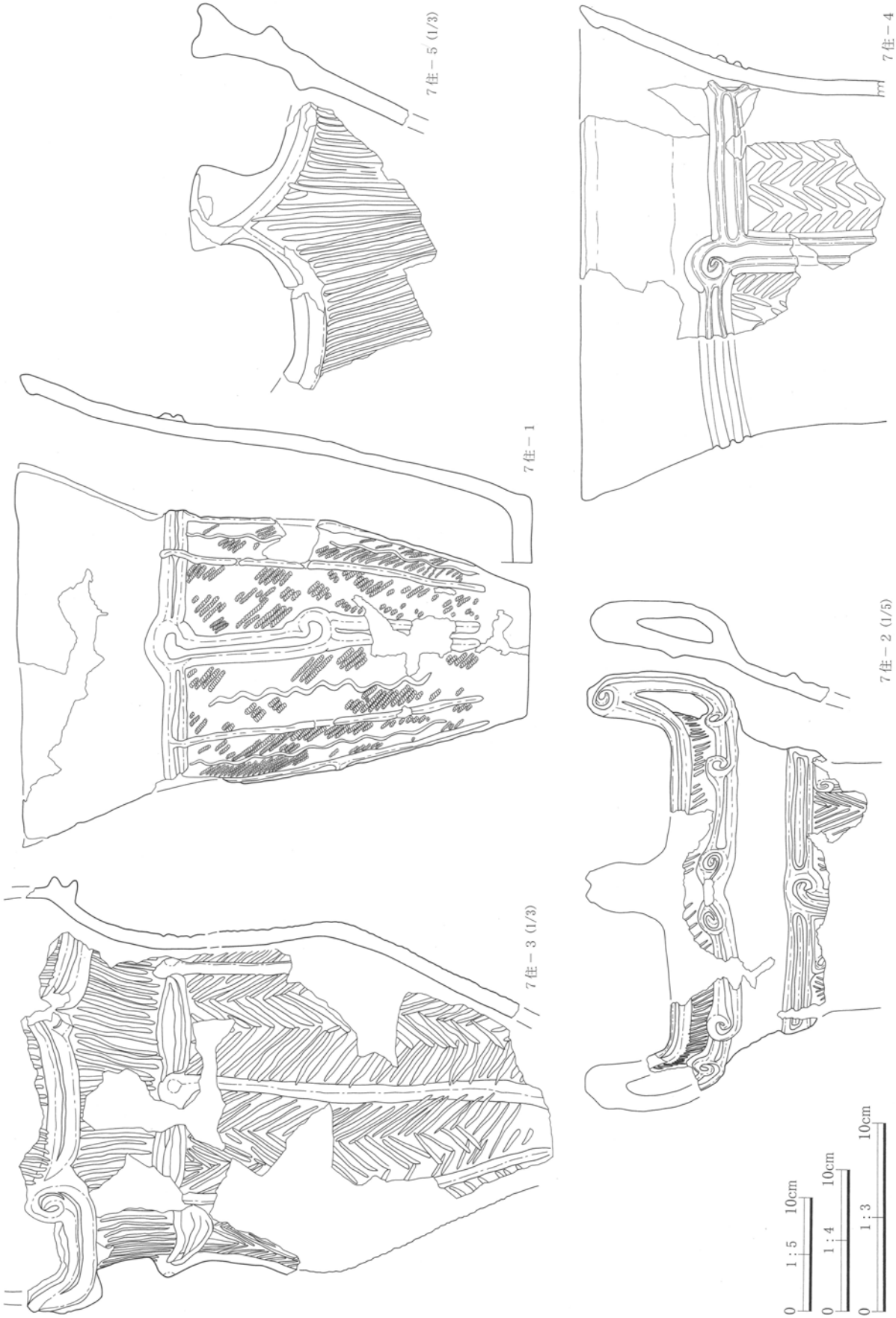
6住－17 (1/3)

0　1：3　10cm

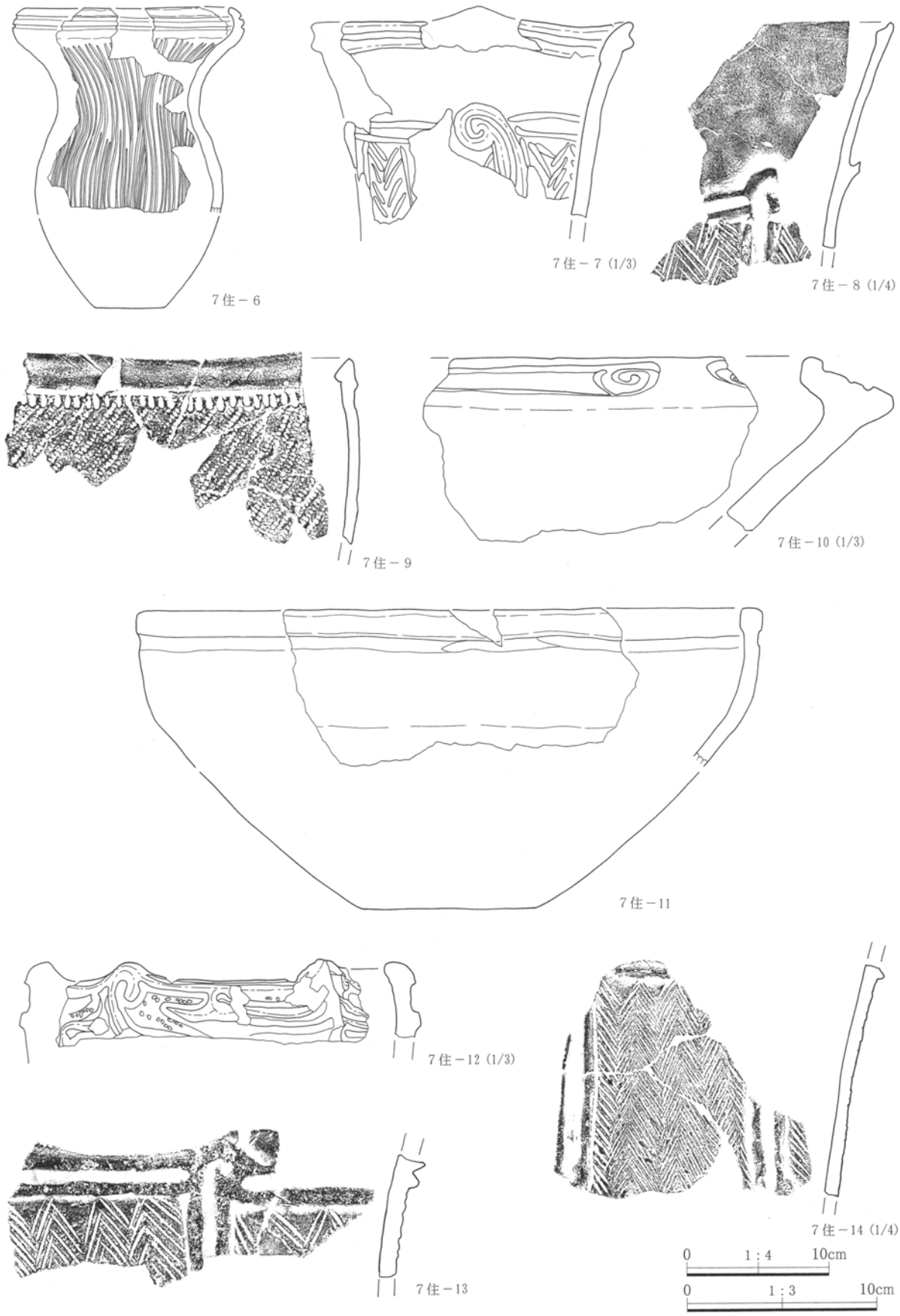
第76図　19区　６号住居出土遺物



第77図　19区　６号住居出土遺物

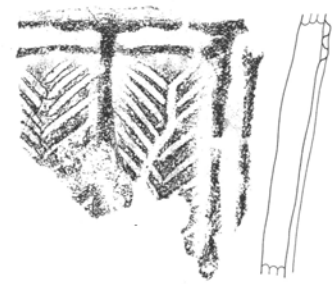


第78図　19区　7号住居出土遺物

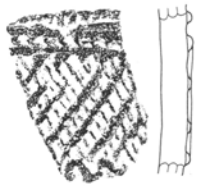


第79図　19区　７号住居出土遺物

7住－15

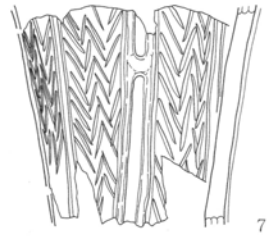


7住－16

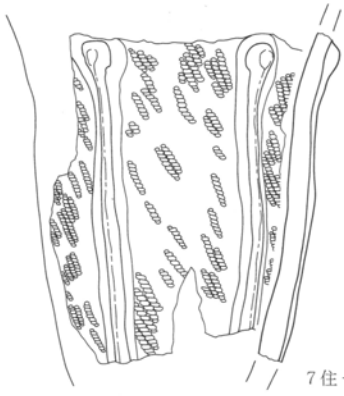


7住－17

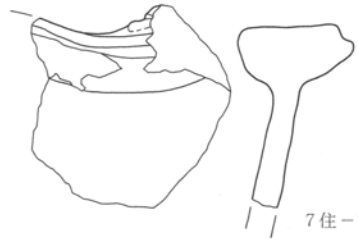
7住－18



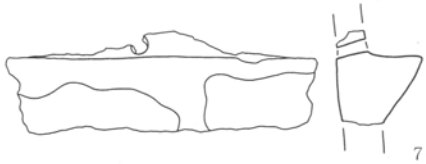
7住－19



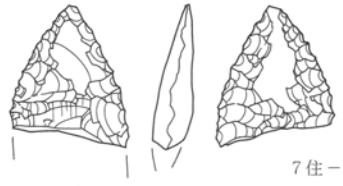
7住－20（1/3）



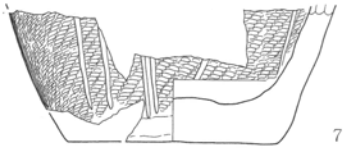
7住－22（1/3）



7住－21（1/3）



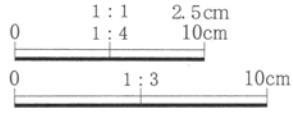
7住－24（1/1）



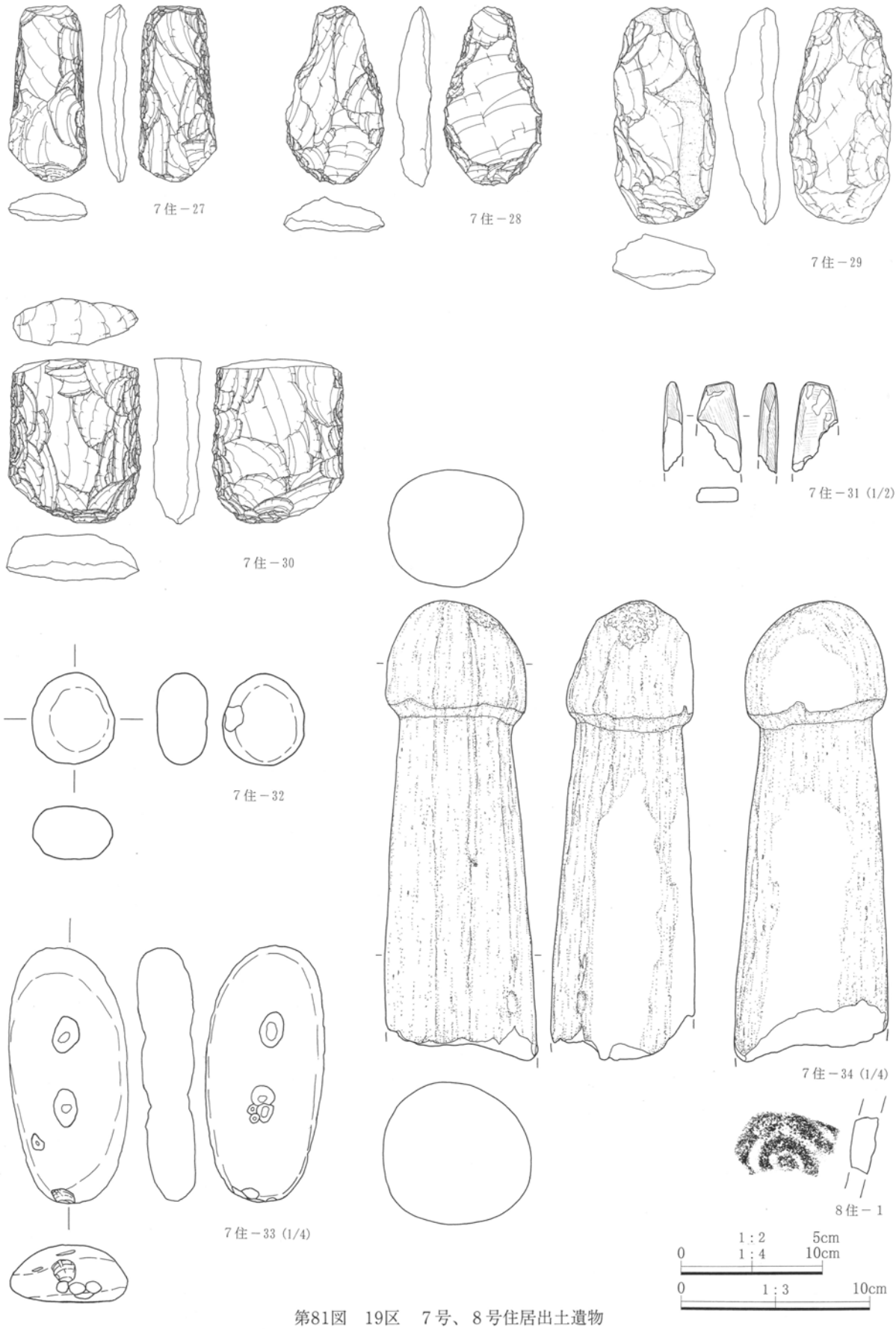
7住－23

7住－26（1/1）

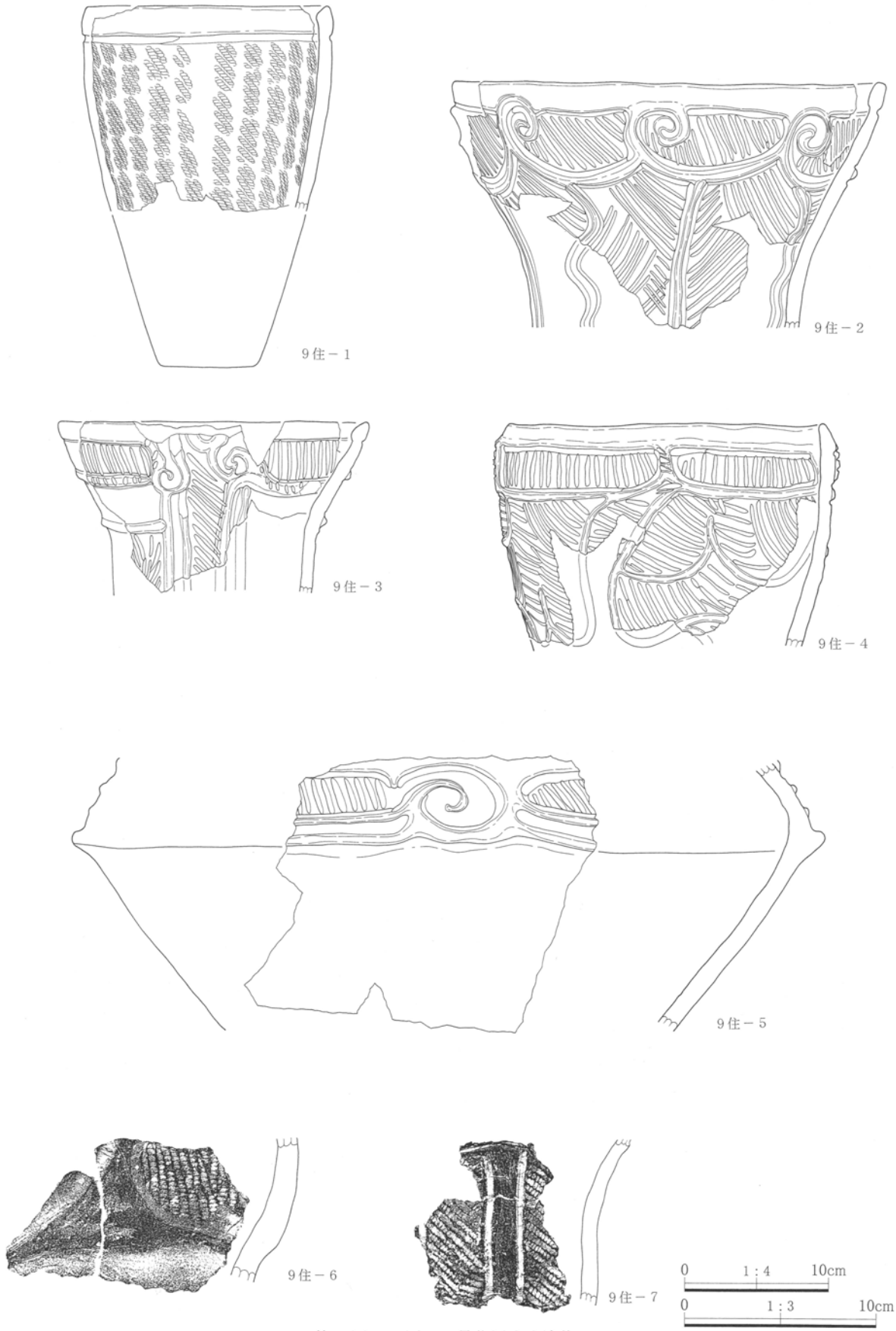
7住－25（1/1）



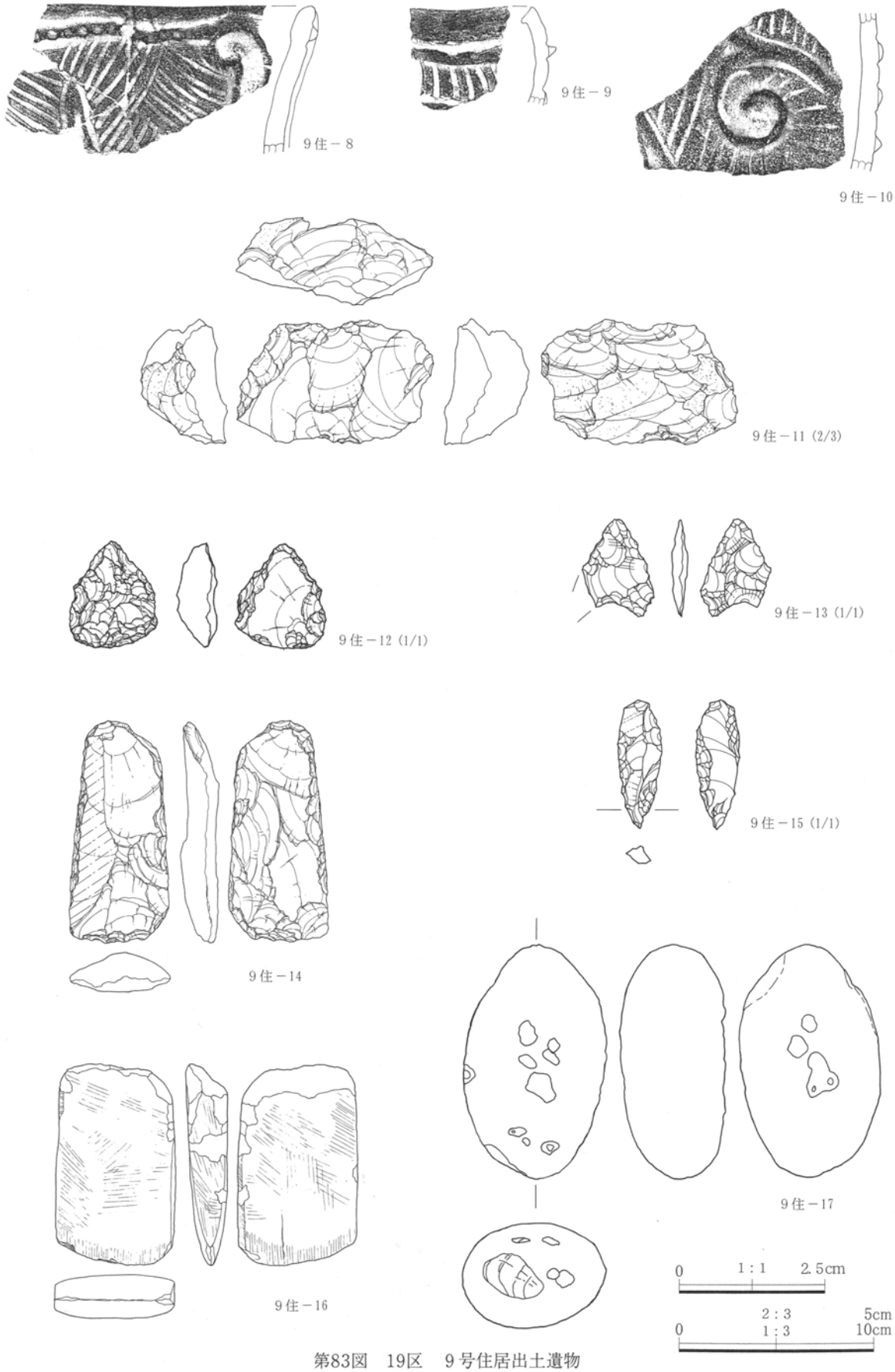
第80図　19区　７号住居出土遺物



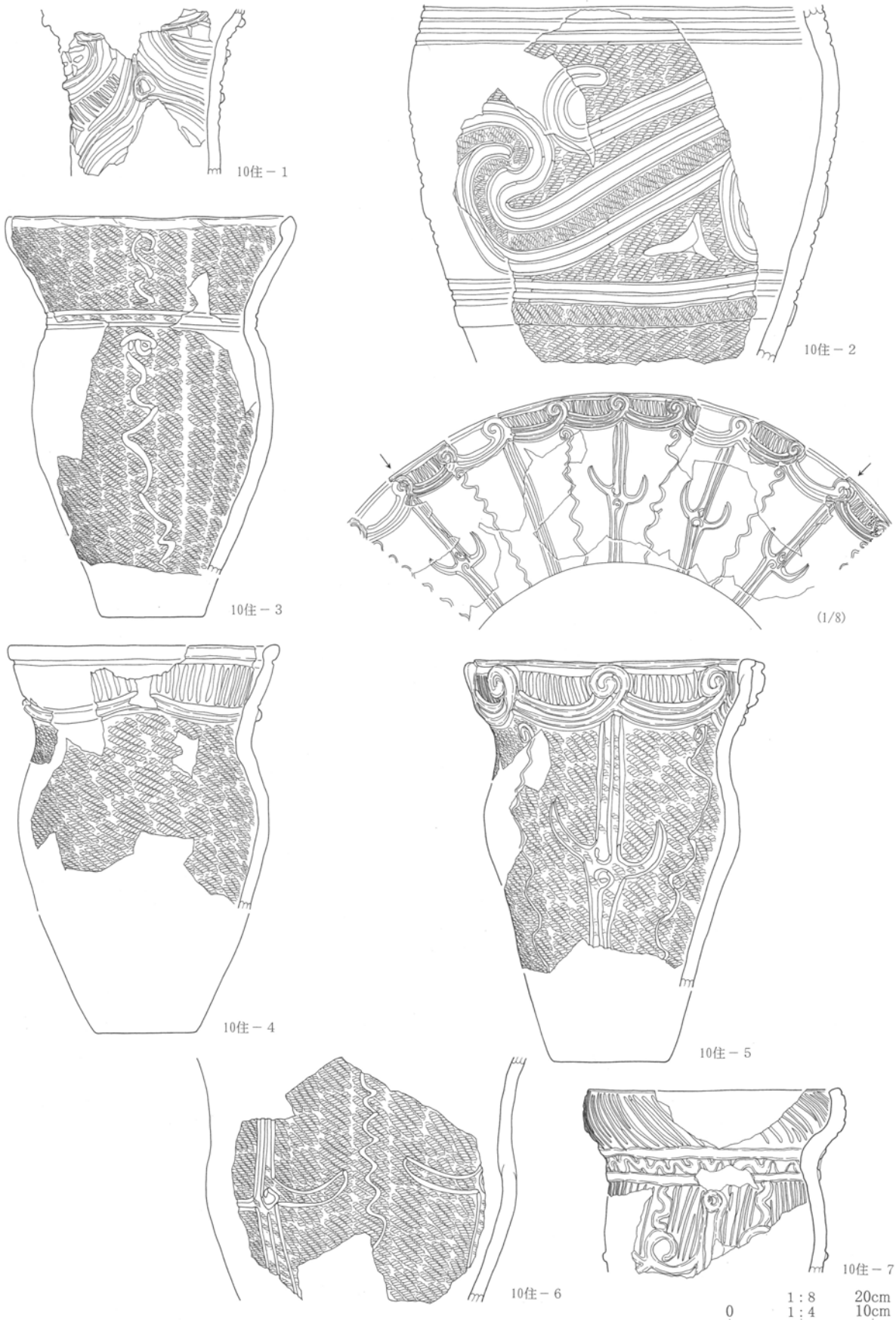
第81図　19区　７号、８号住居出土遺物



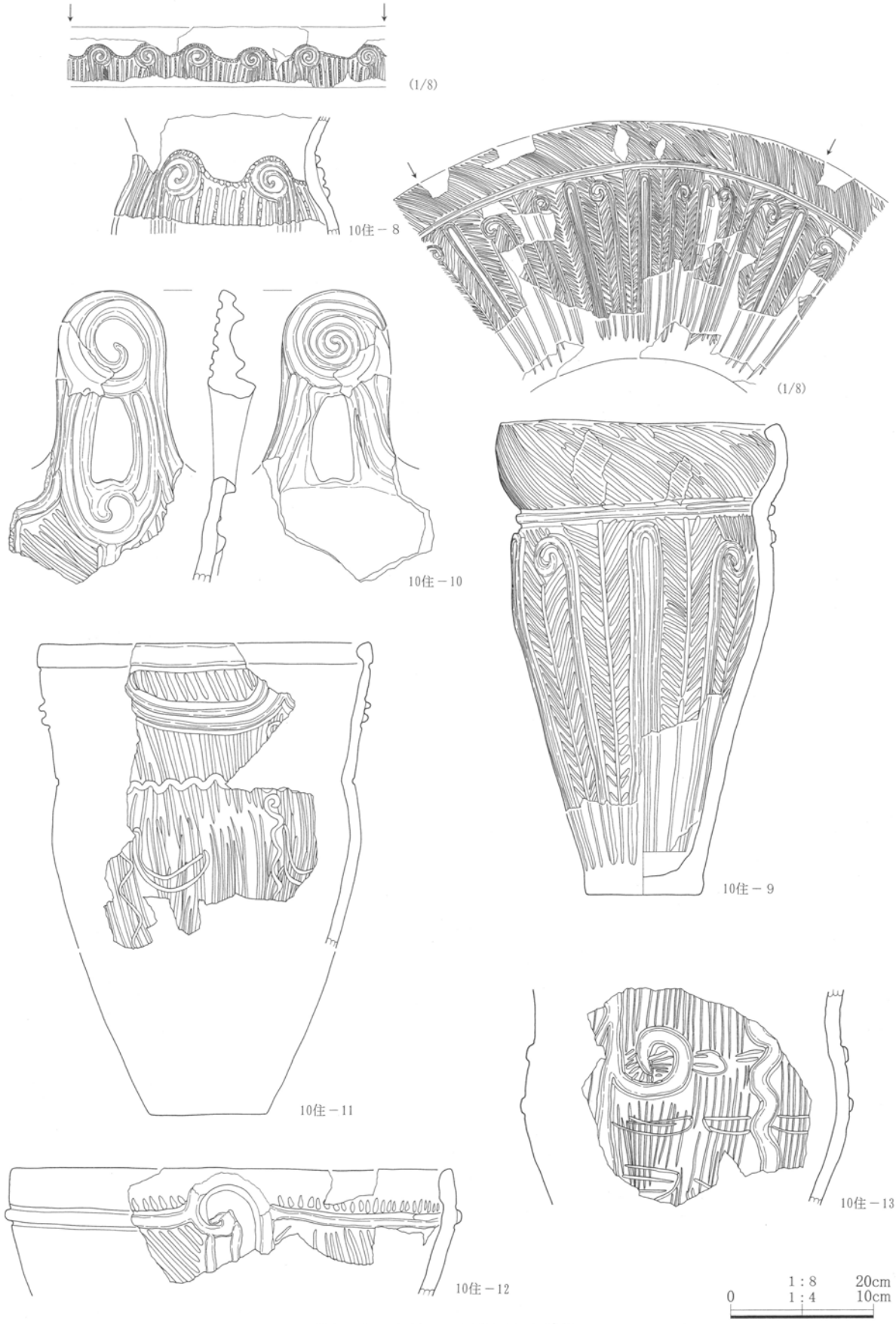
第82図　19区　９号住居出土遺物



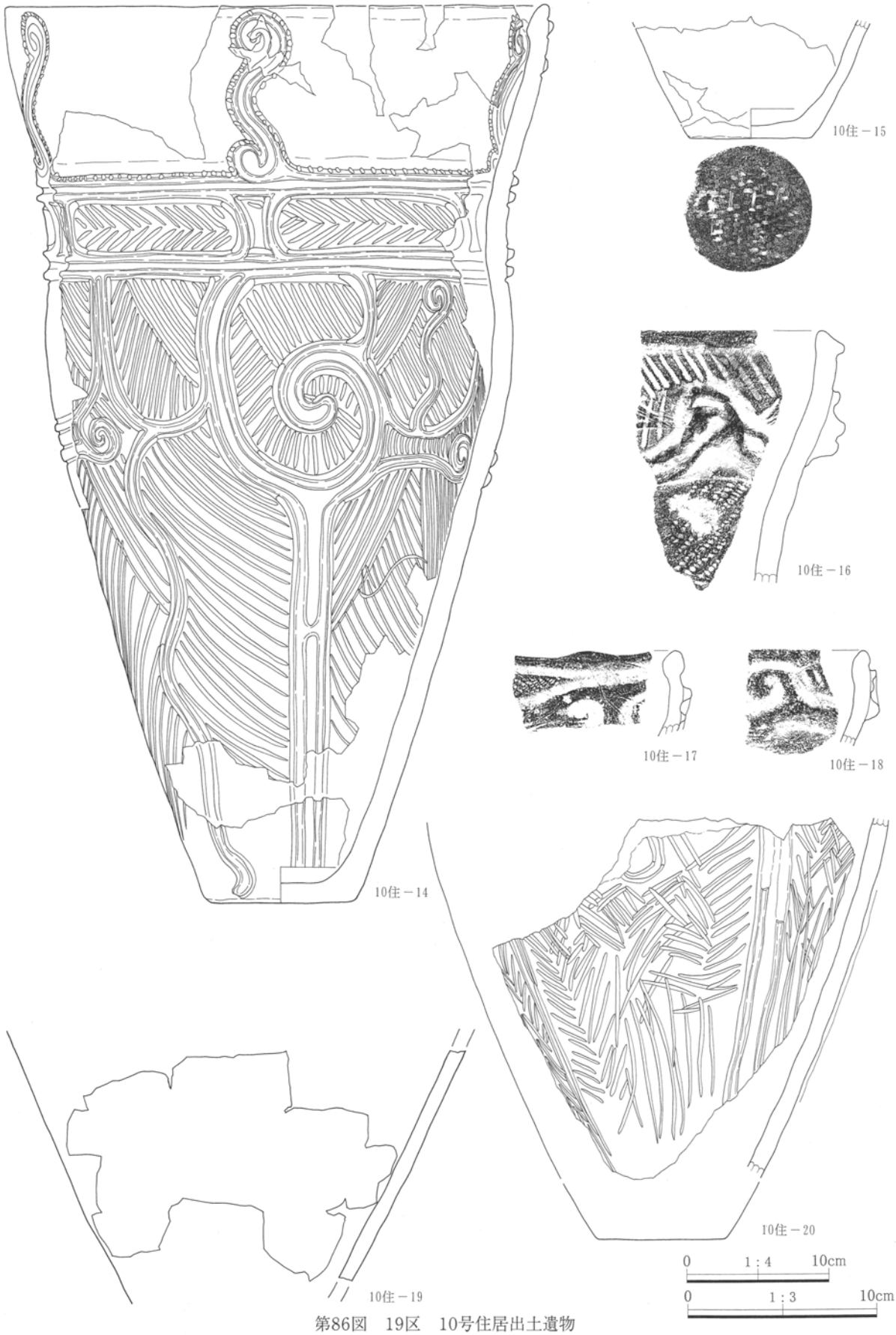
第83図　19区　９号住居出土遺物



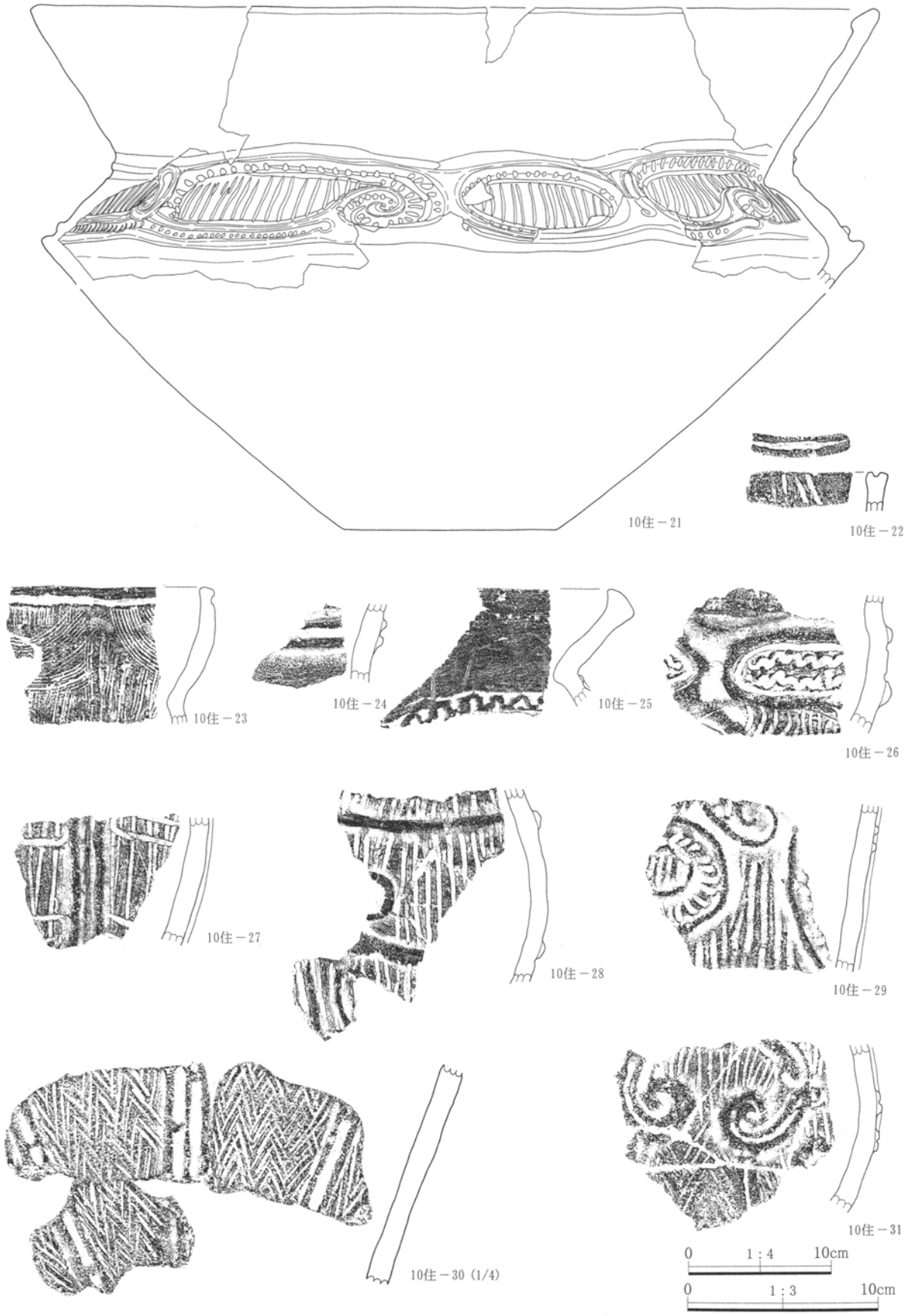
第84図　19区　10号住居出土遺物



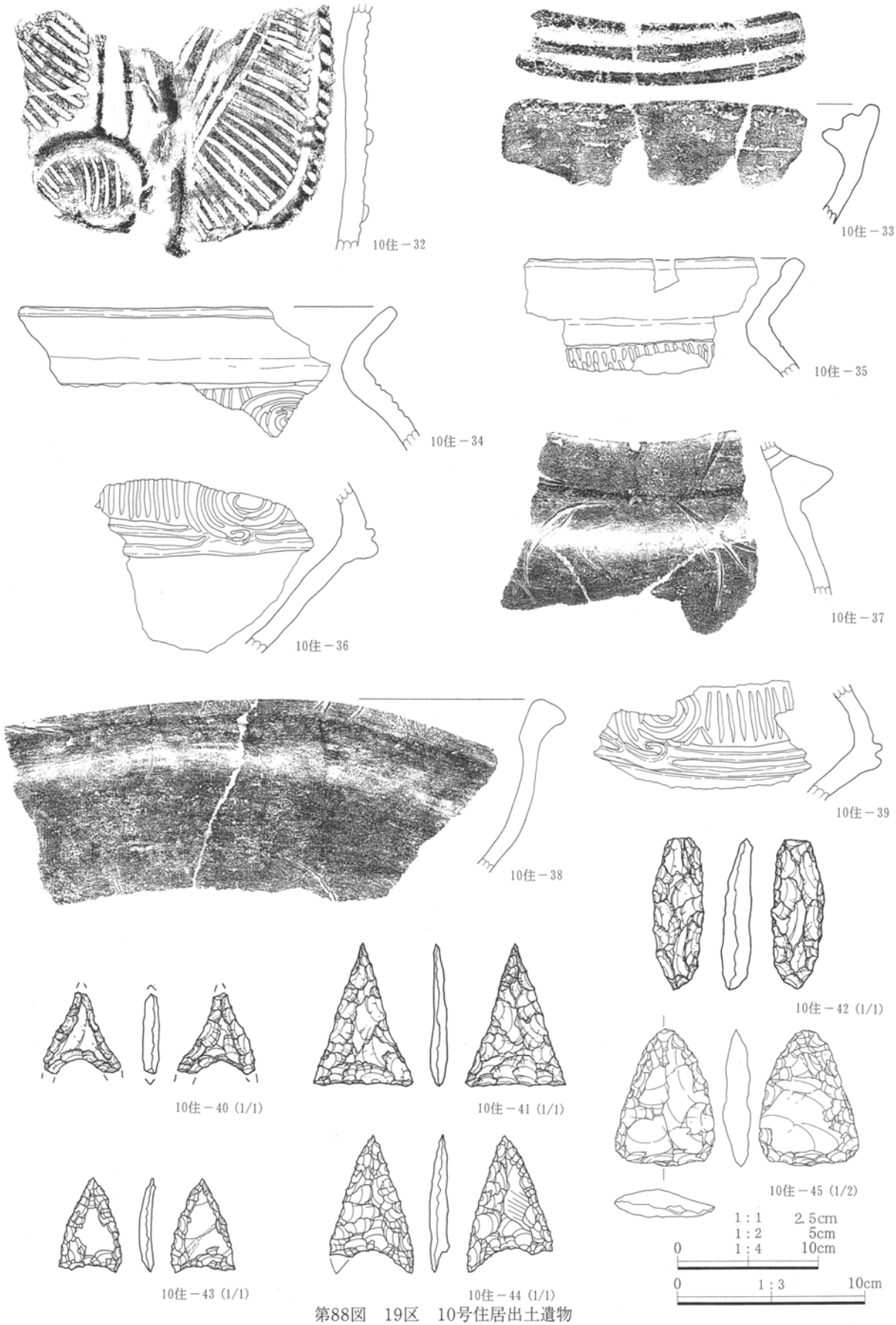
第85図　19区　10号住居出土遺物



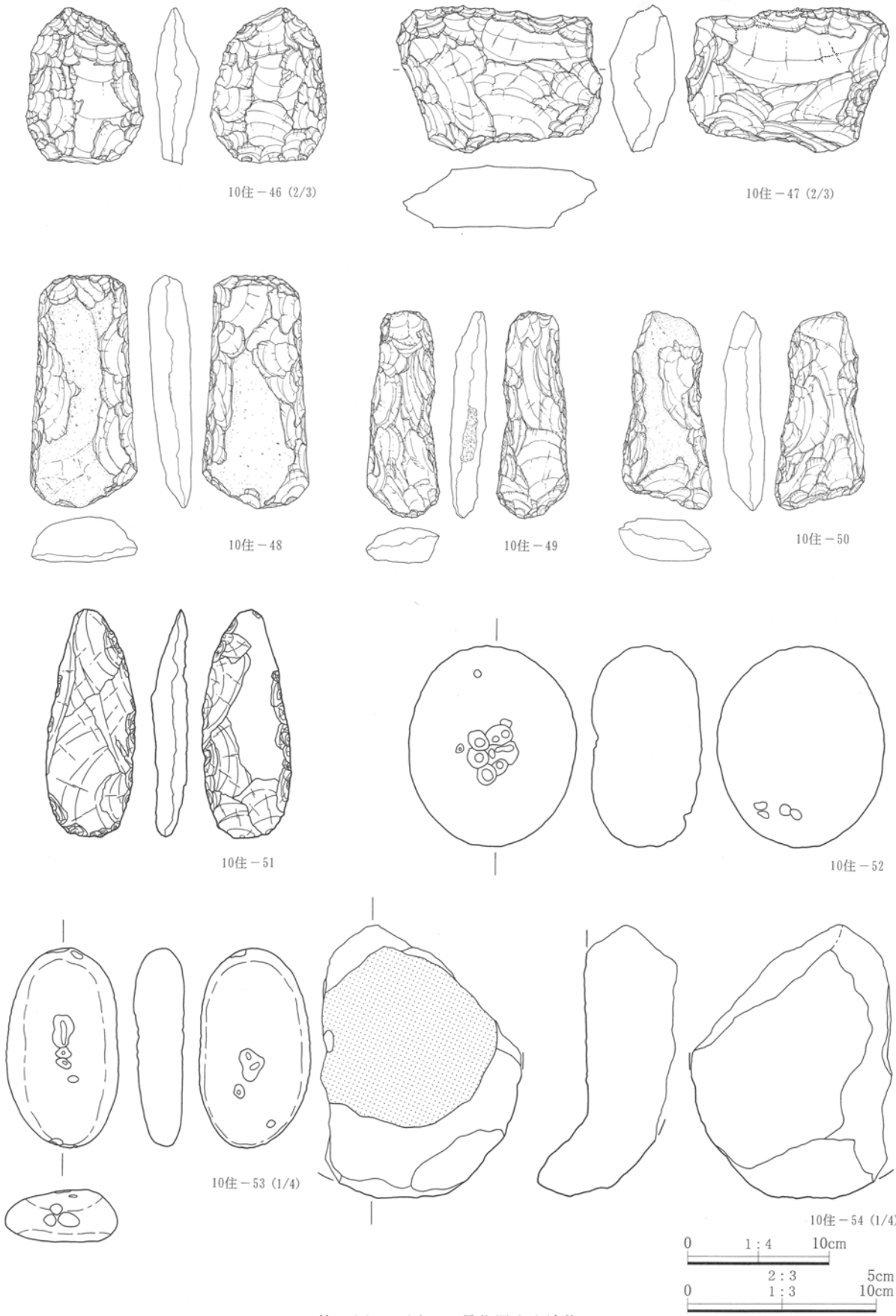
第86図　19区　10号住居出土遺物



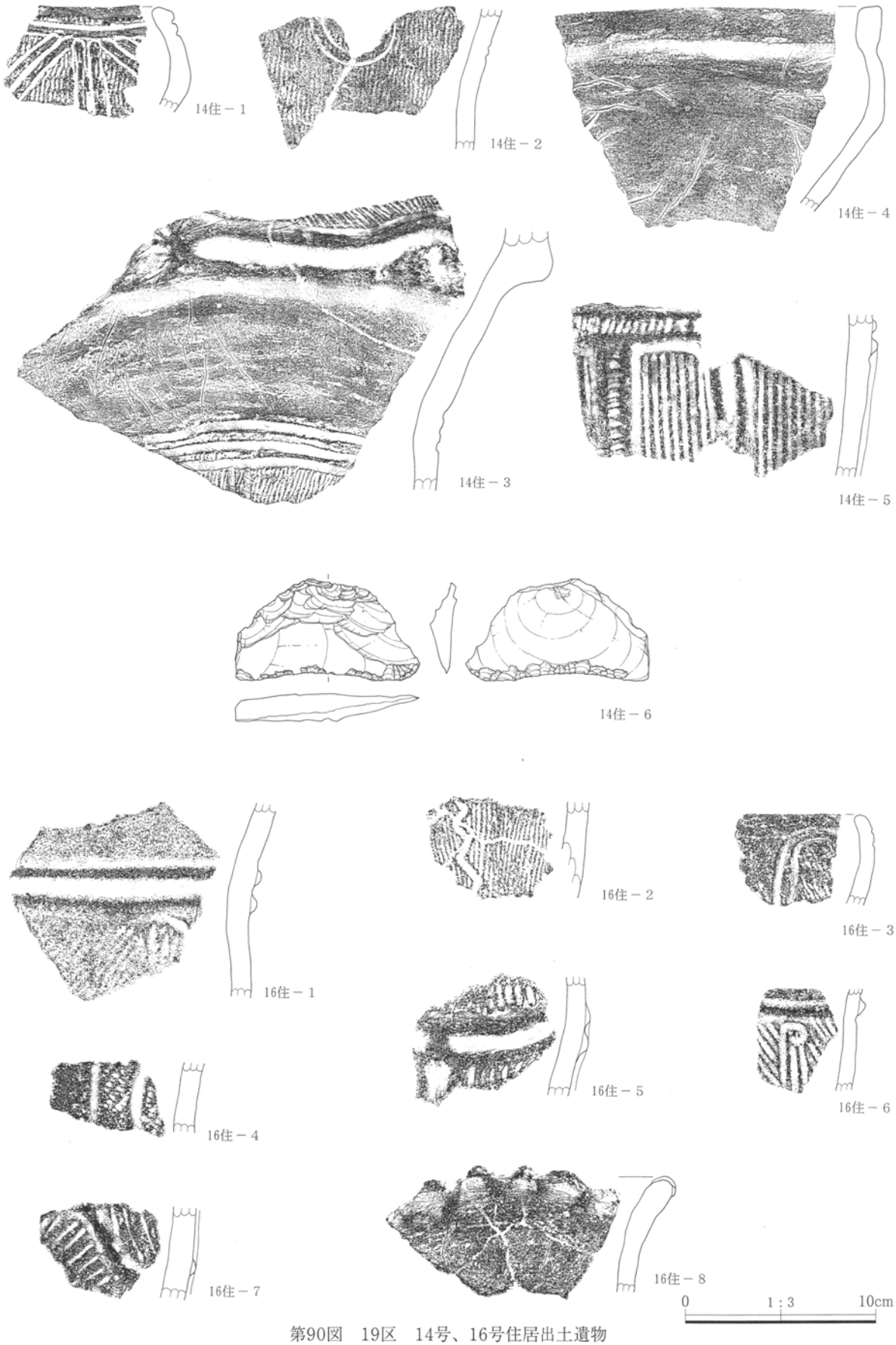
第87図　19区　10号住居出土遺物



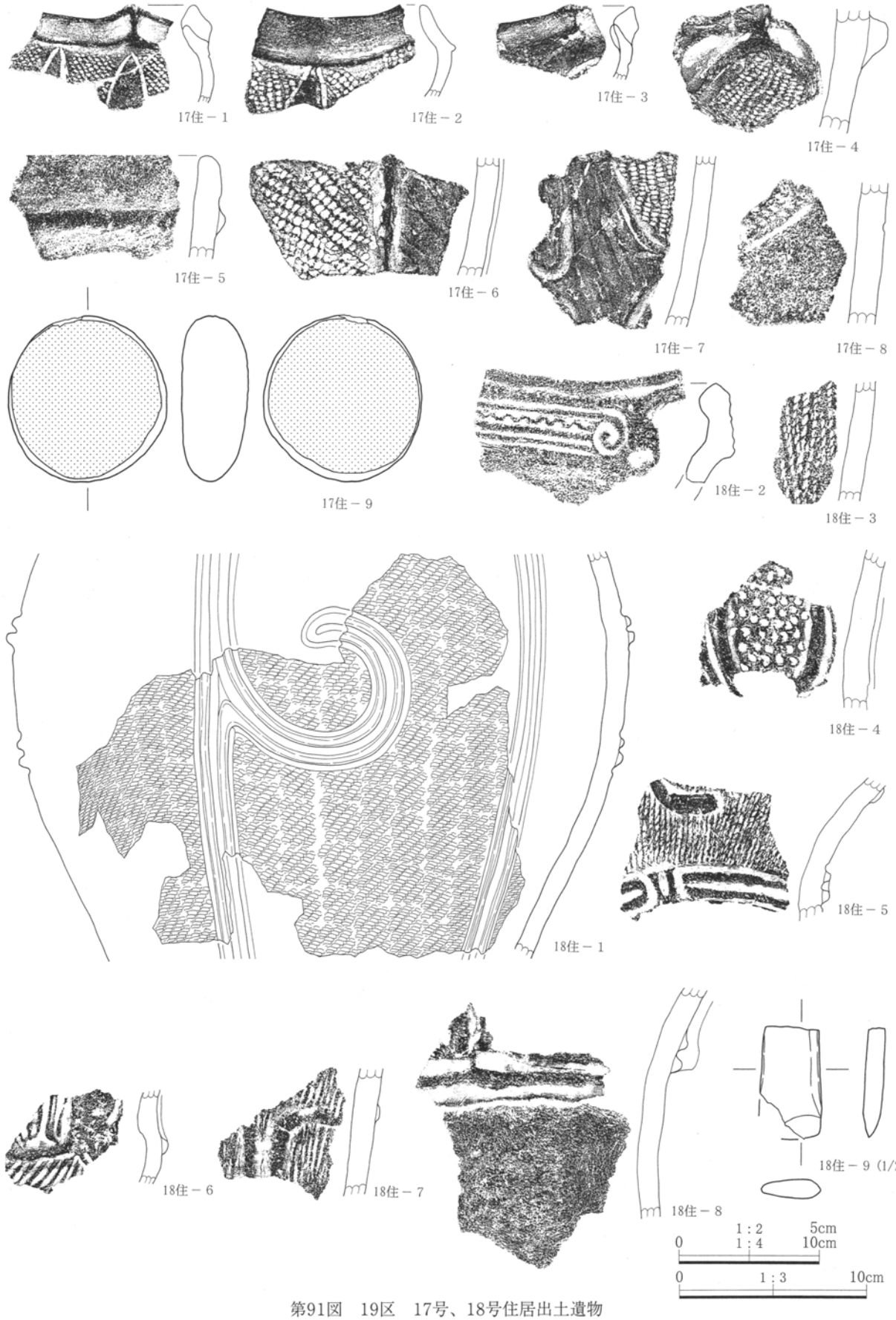
第88図　19区　10号住居出土遺物



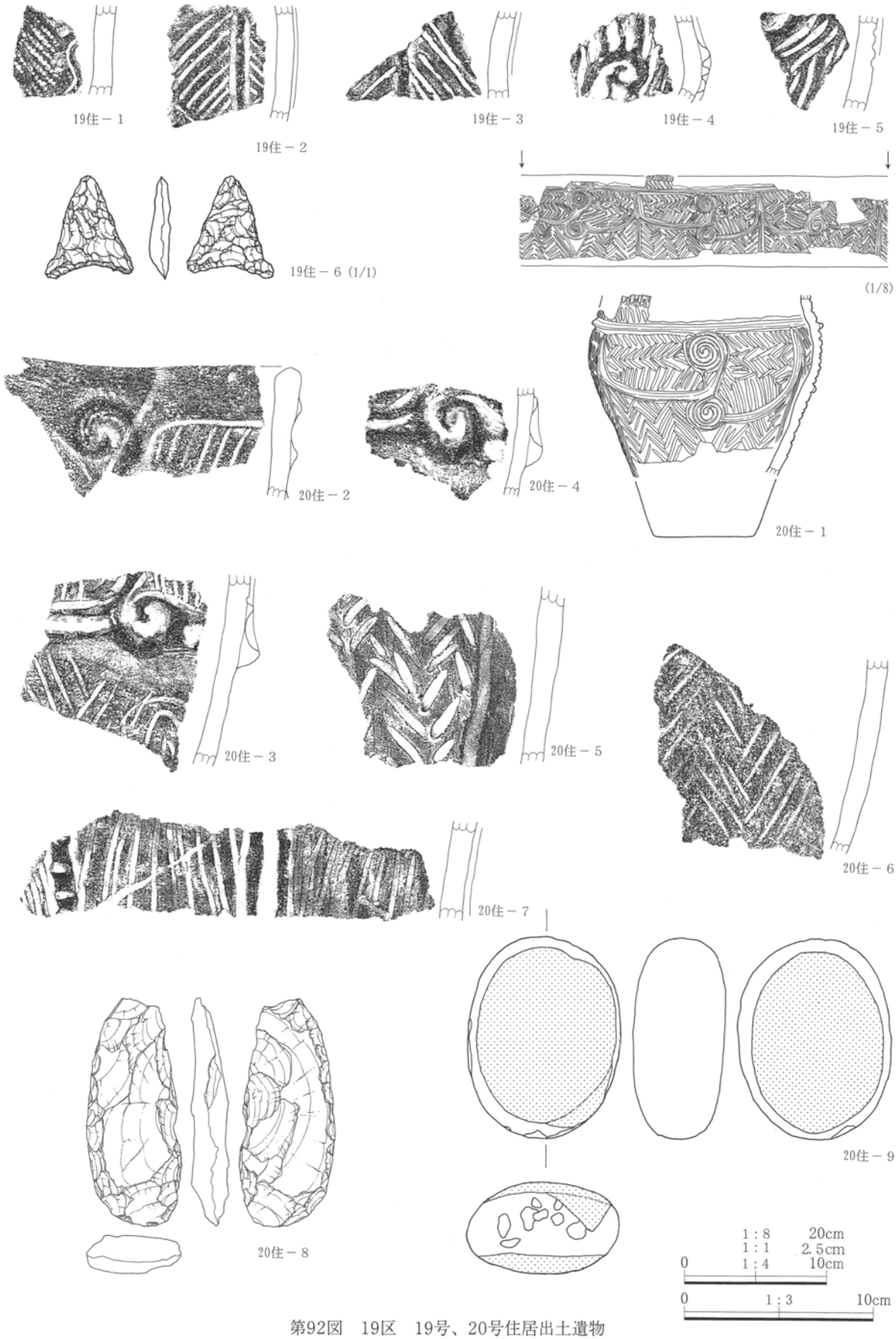
第89図　19区　10号住居出土遺物



第90図　19区　14号、16号住居出土遺物

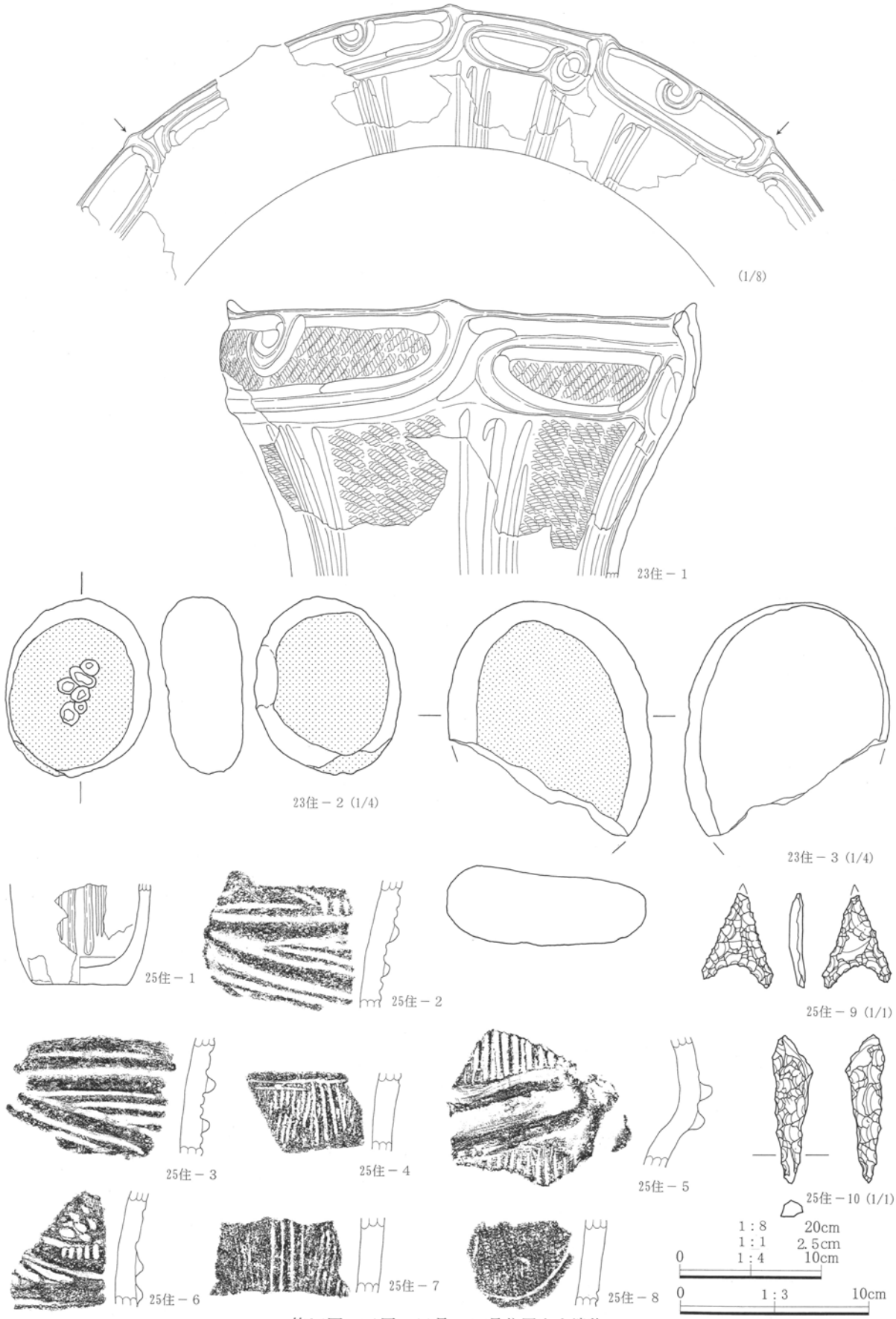


第91図　19区　17号、18号住居出土遺物

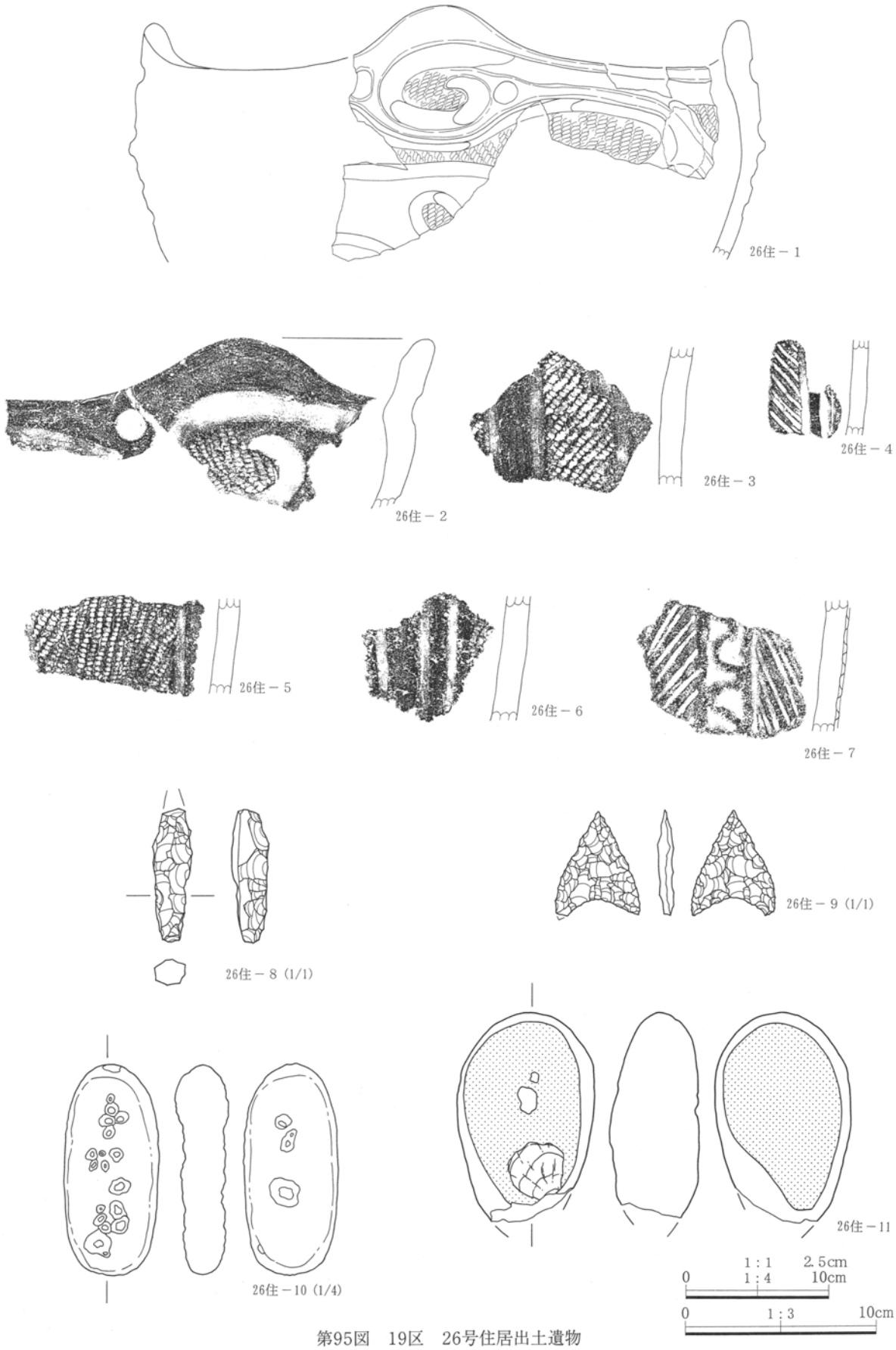


第92図　19区　19号、20号住居出土遺物

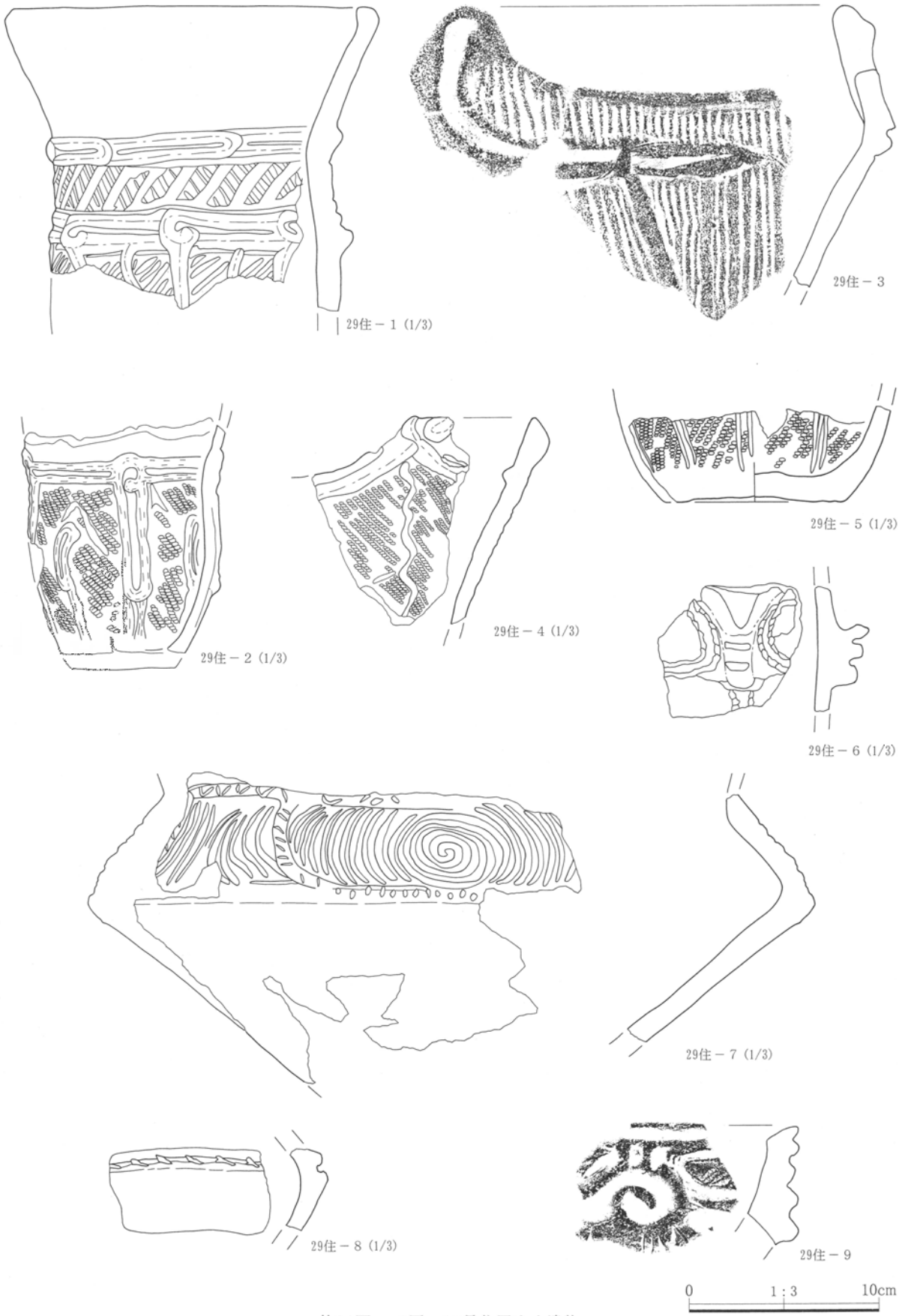
第93図　19区　22号住居出土遺物



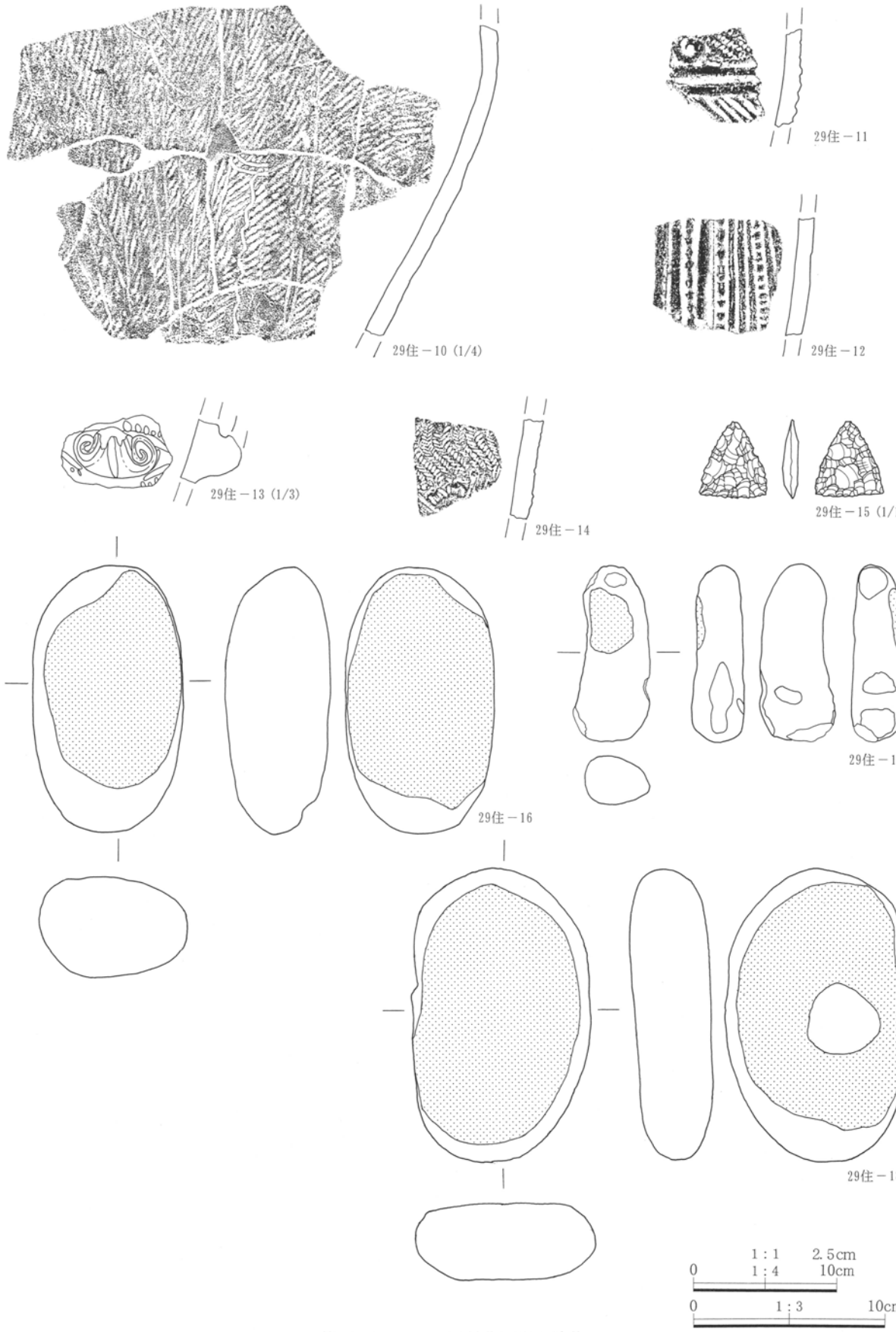
第94図　19区　23号、25号住居出土遺物



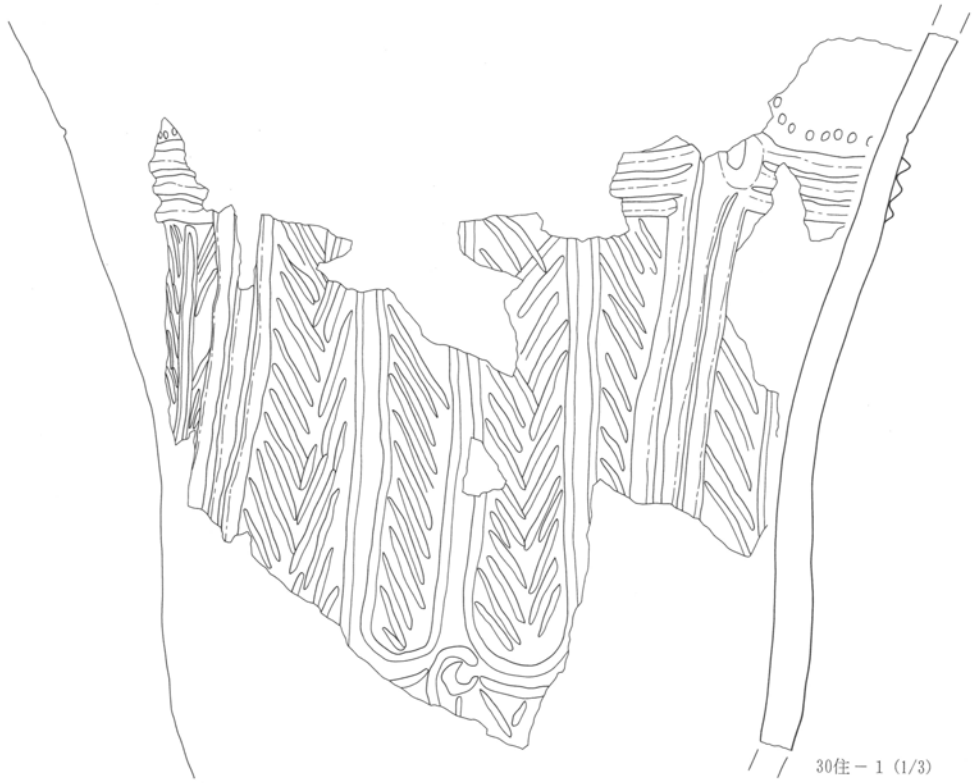
第95図　19区　26号住居出土遺物

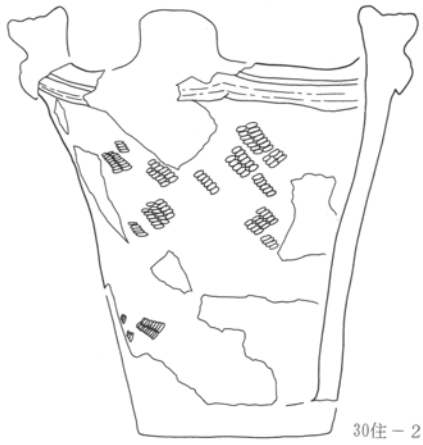


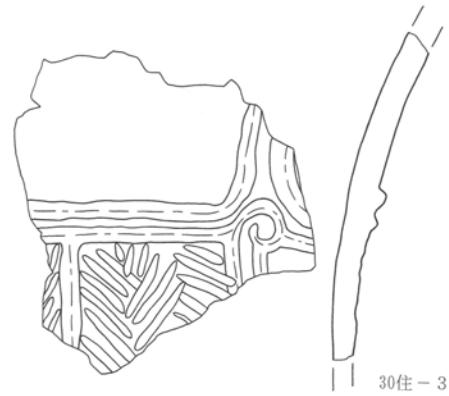
第96図　19区　29号住居出土遺物

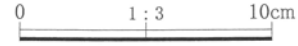


第97図　19区　29号住居出土遺物

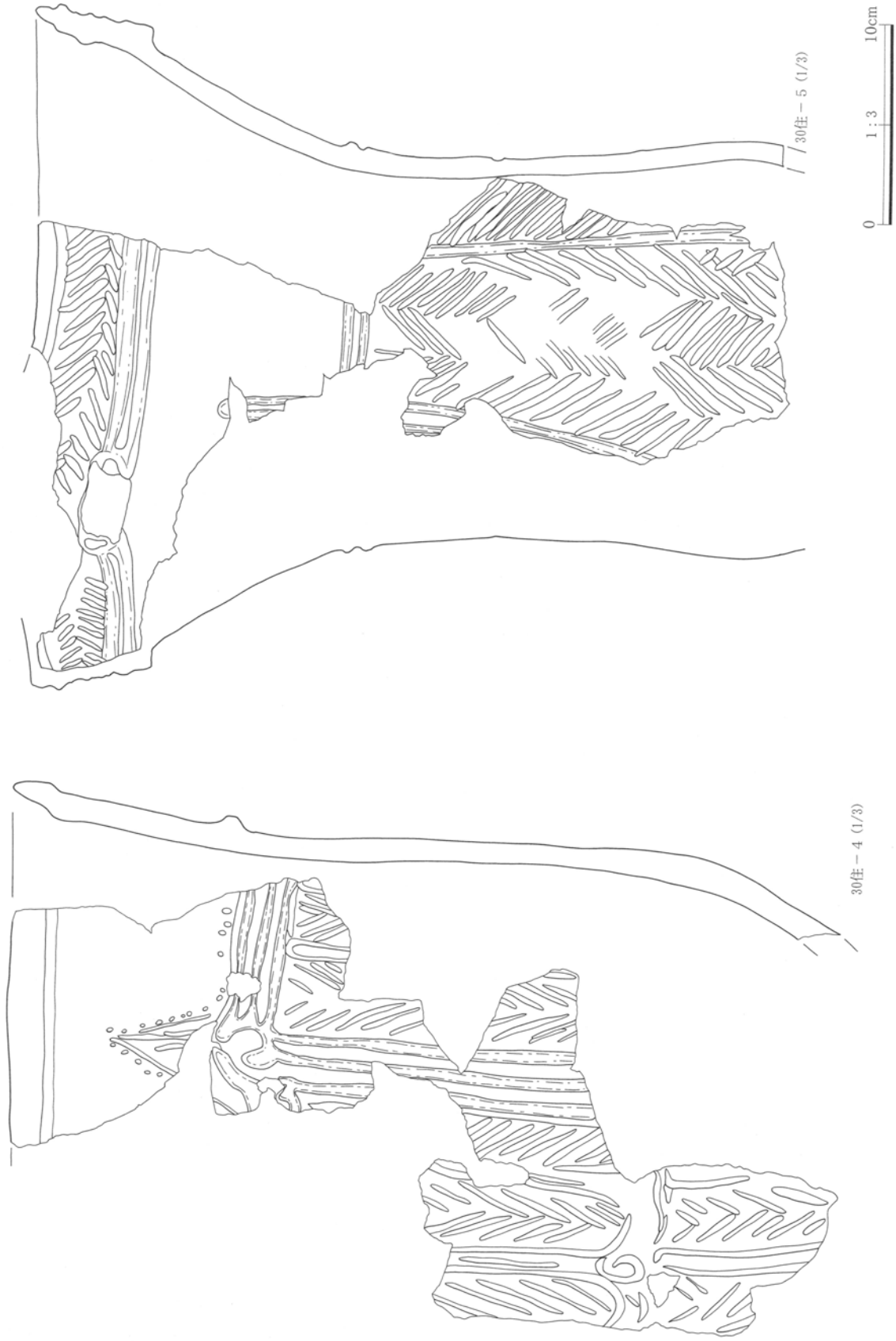




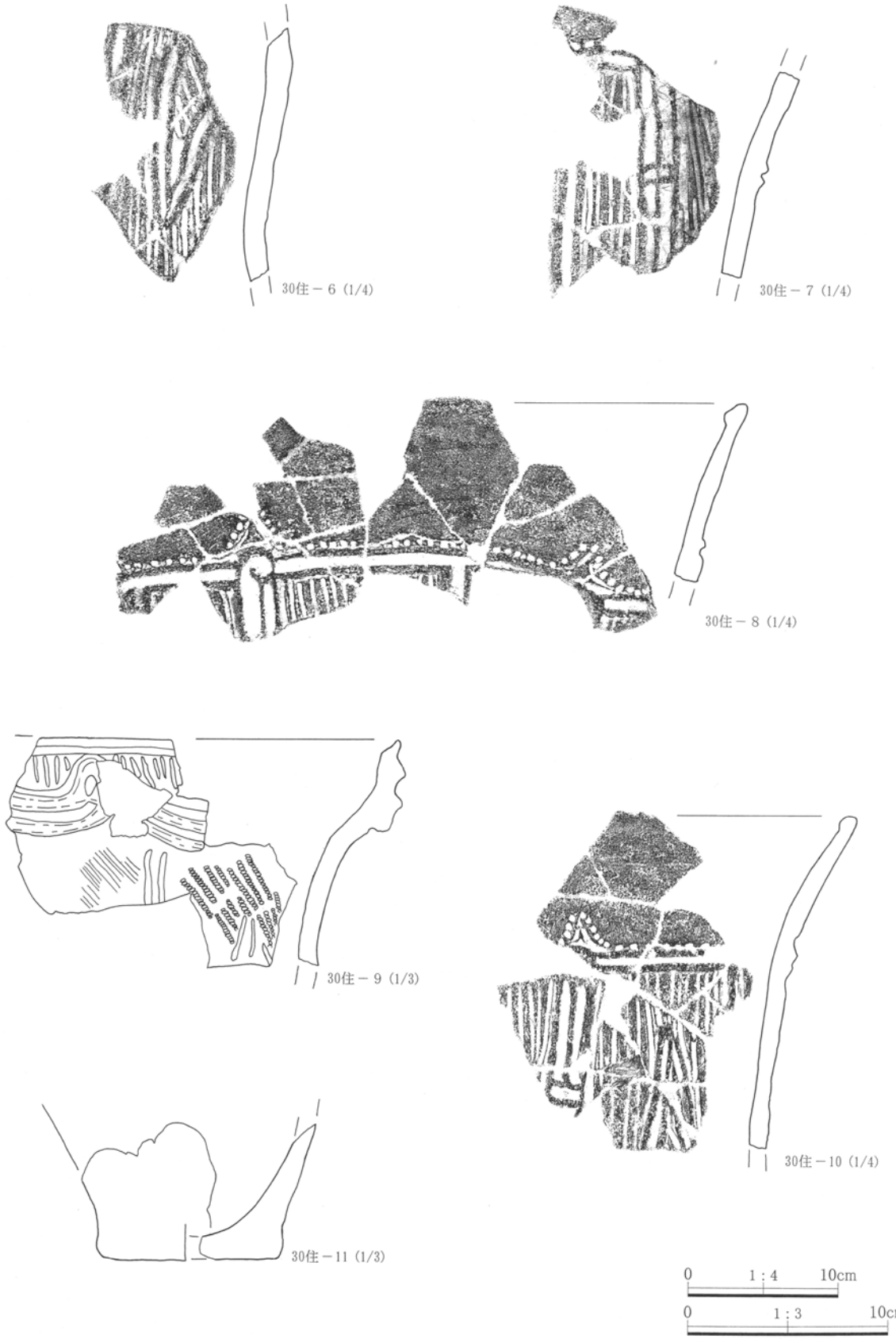




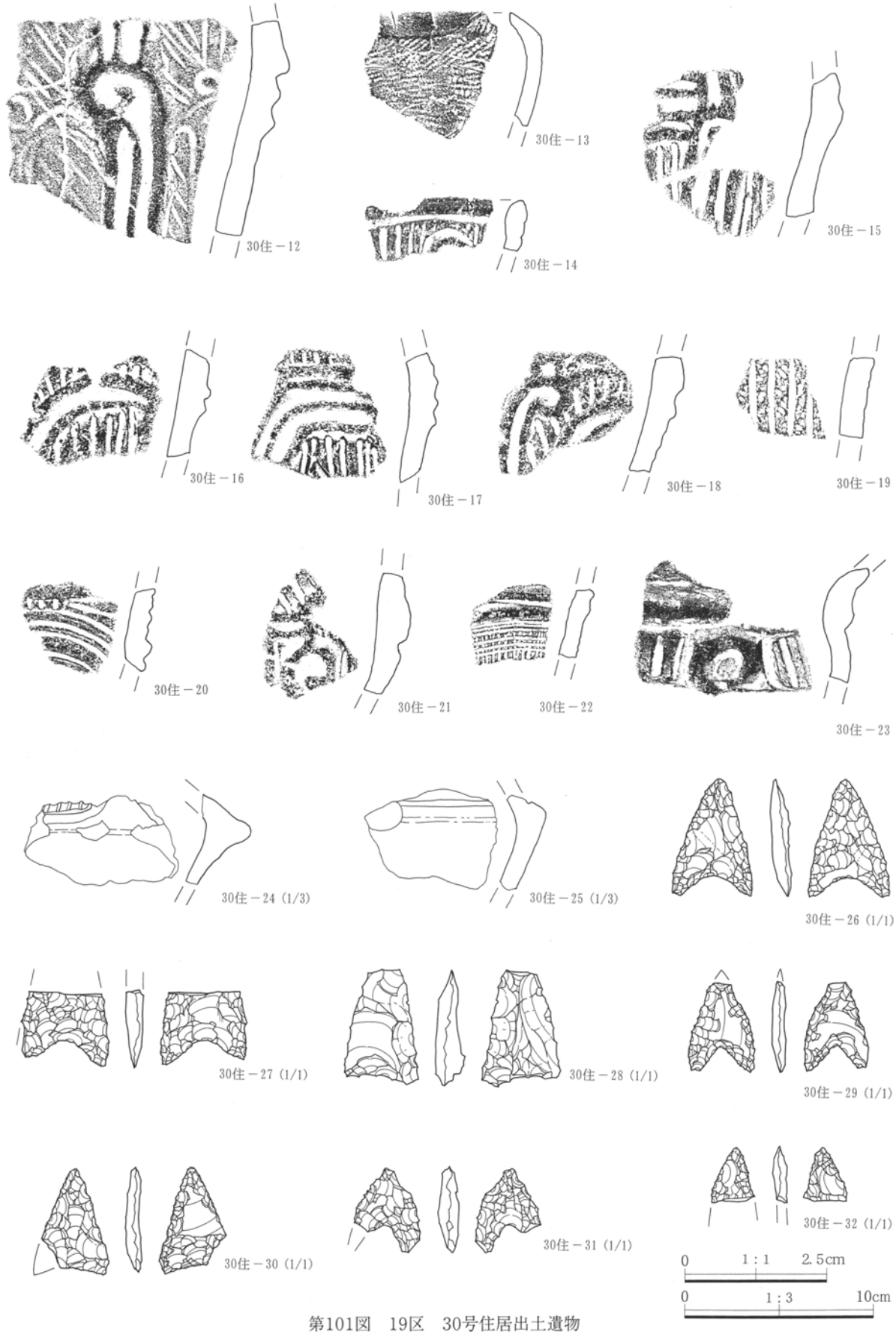
第98図　19区　30号住居出土遺物



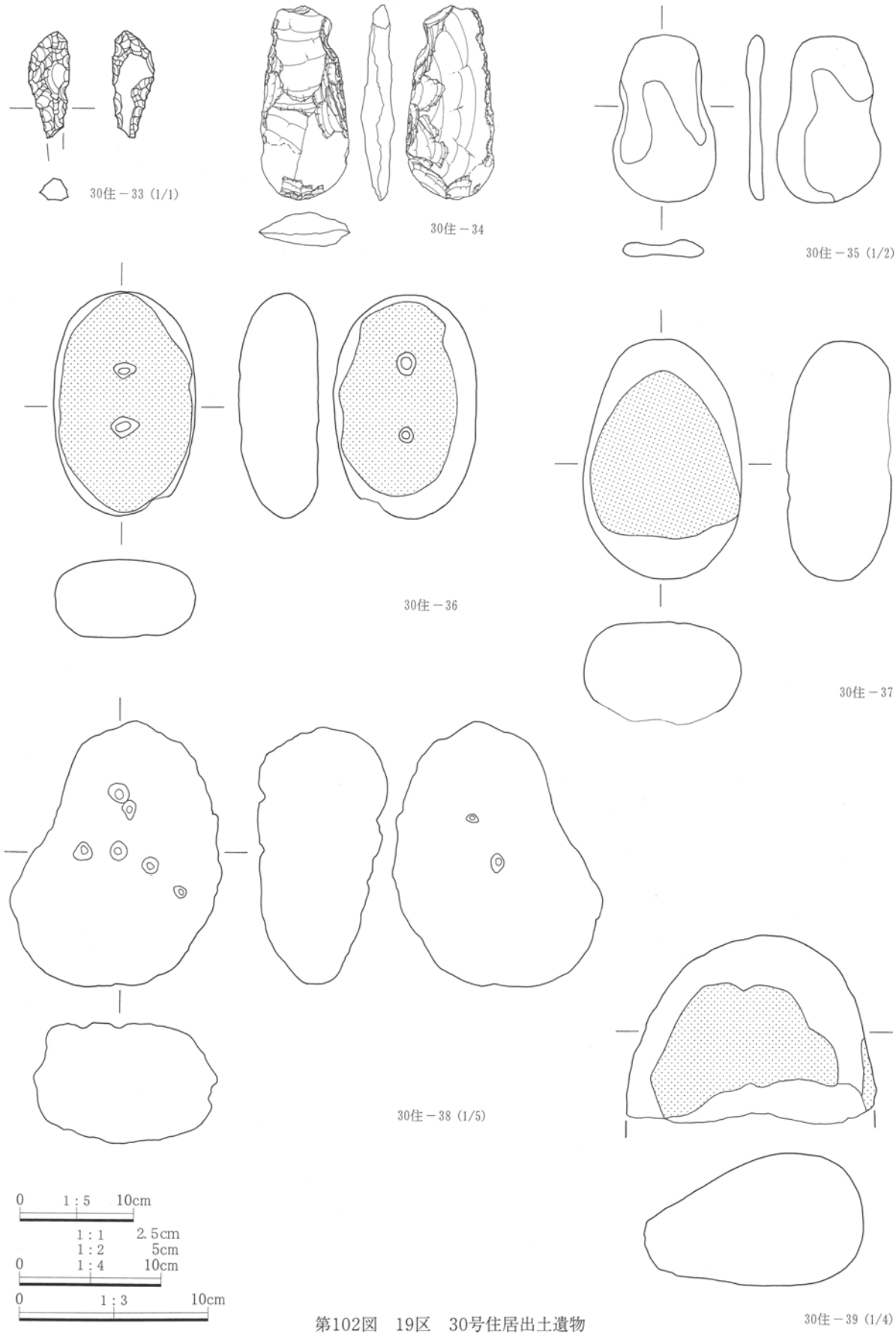
第99図　19区　30号住居出土遺物



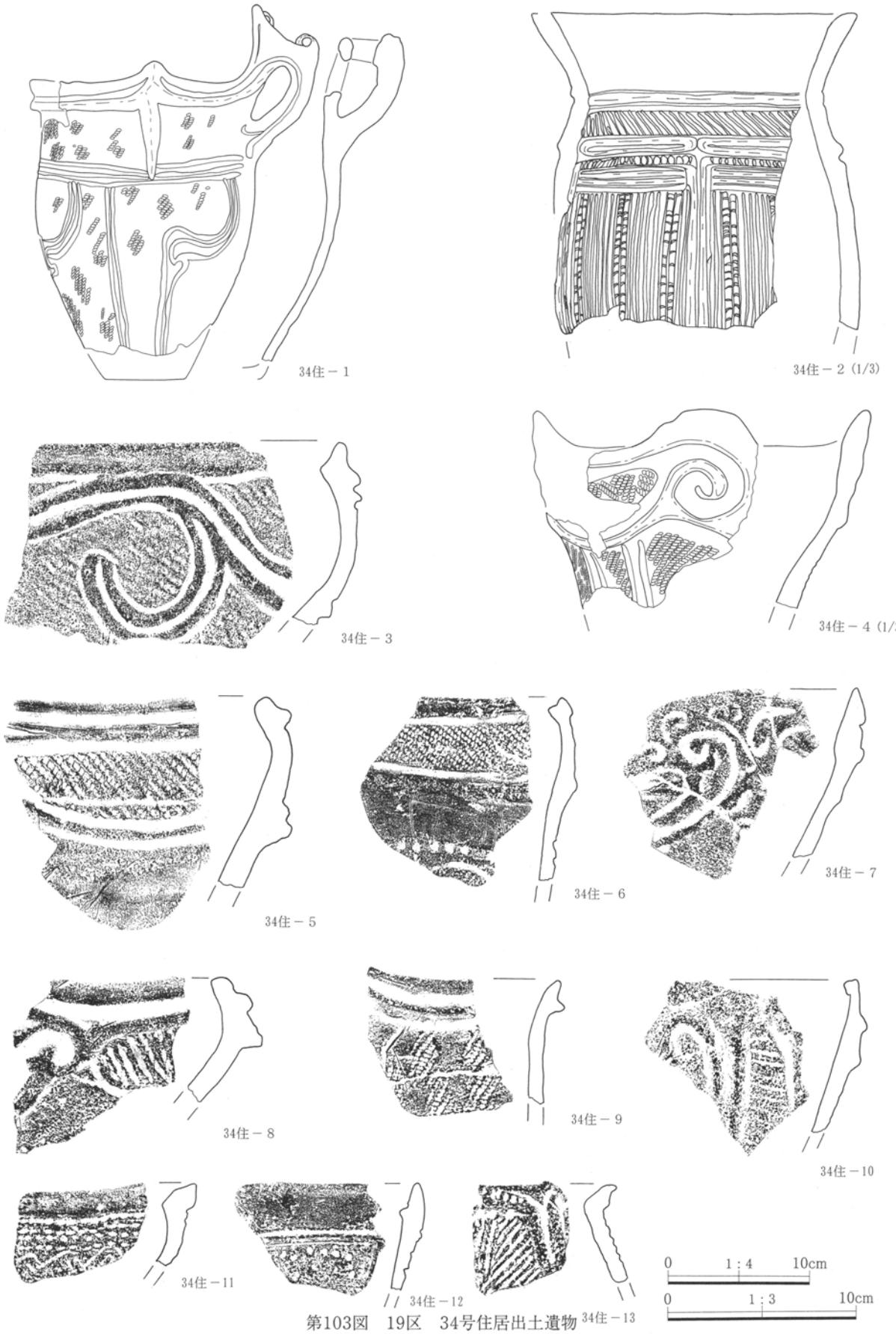
第100図　19区　30号住居出土遺物



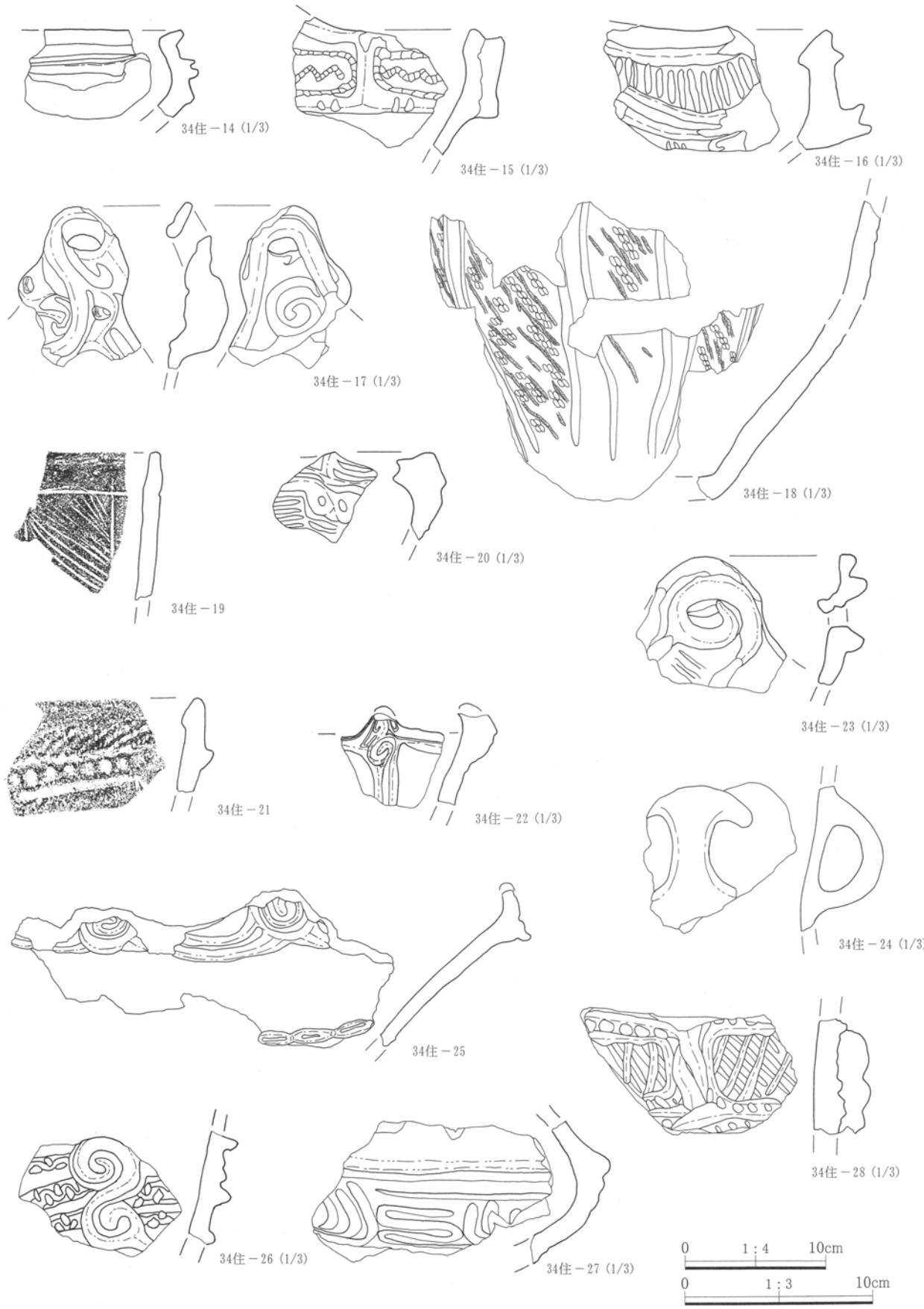
第101図　19区　30号住居出土遺物



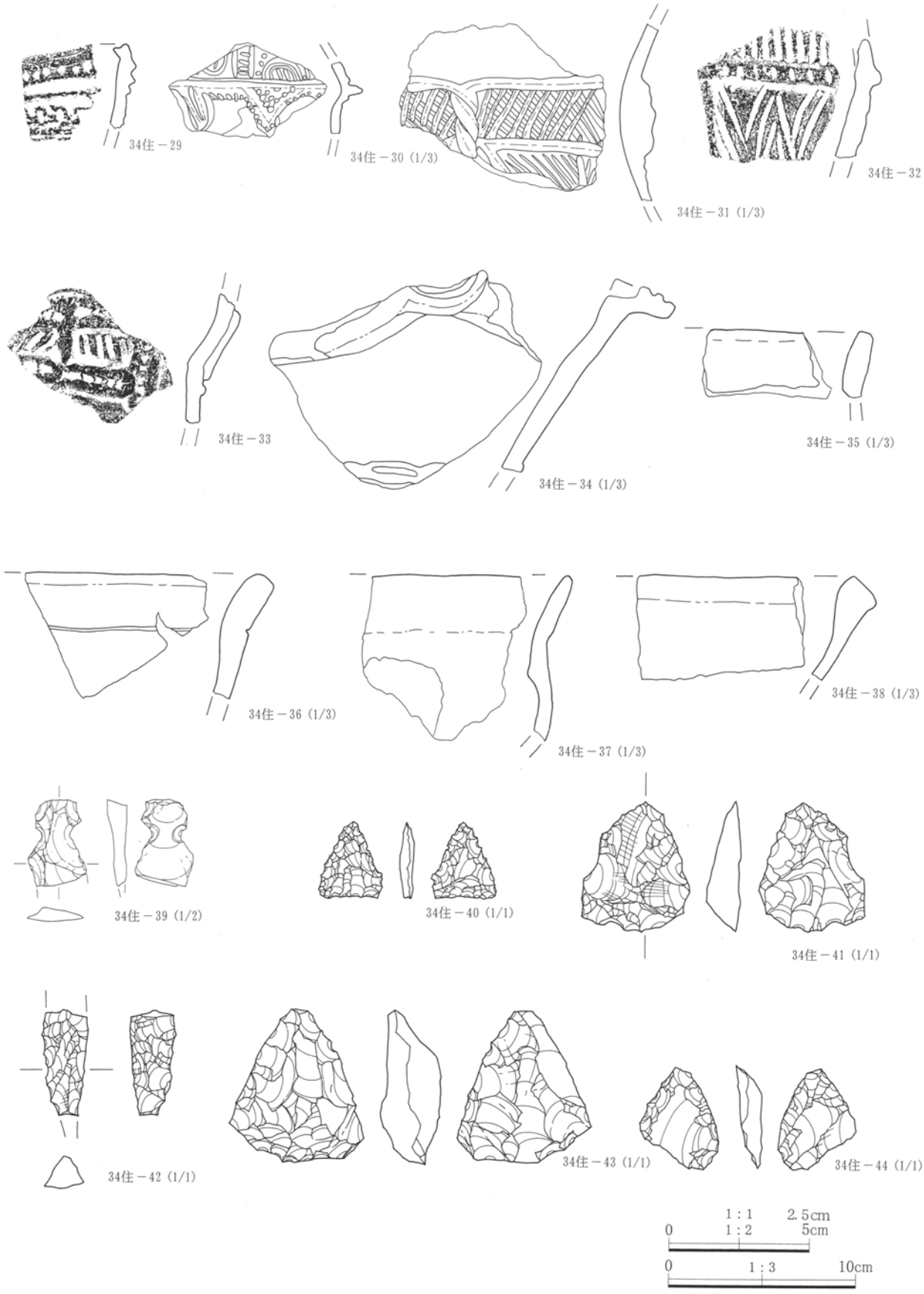
第102図　19区　30号住居出土遺物



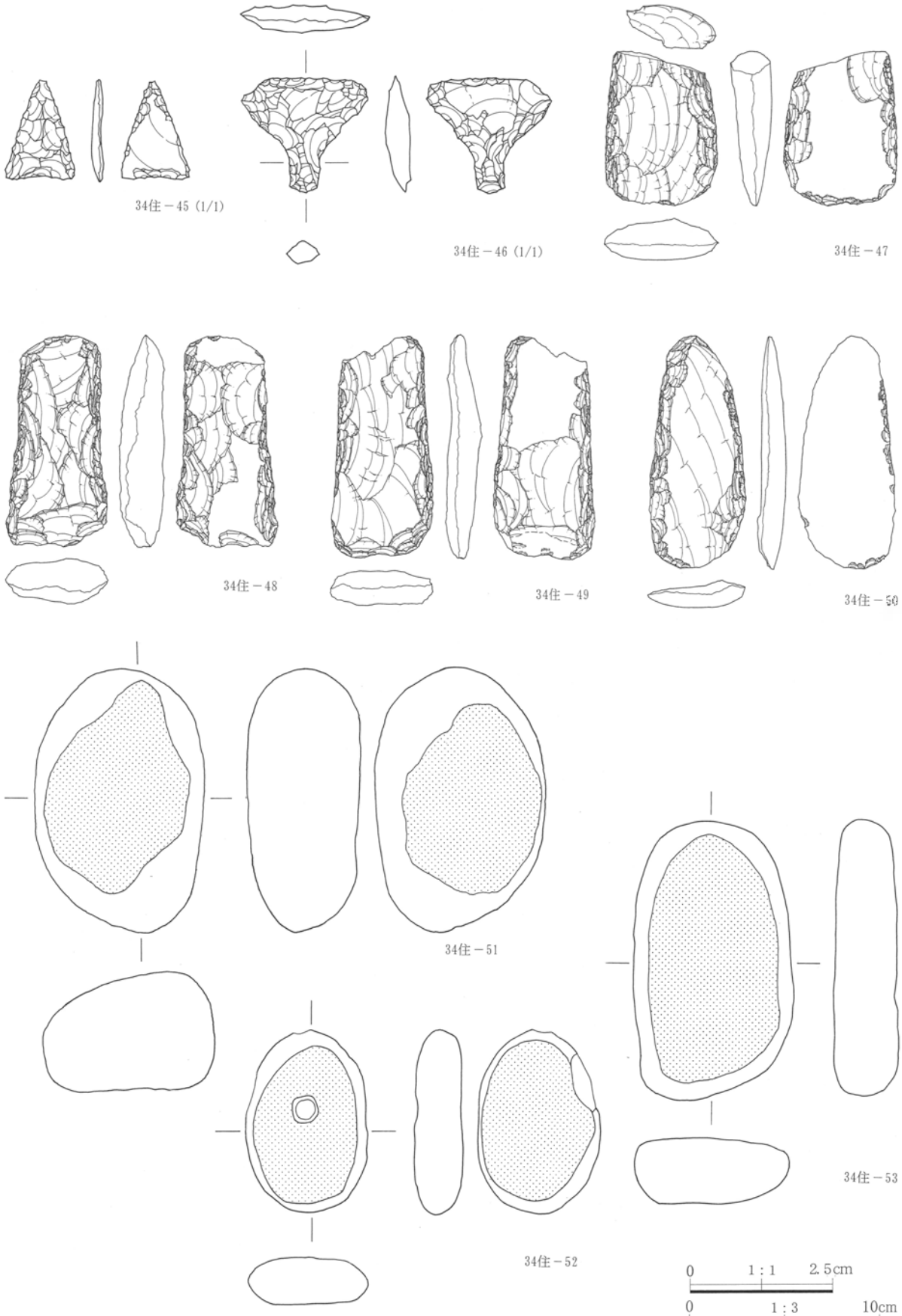
第103図　19区　34号住居出土遺物



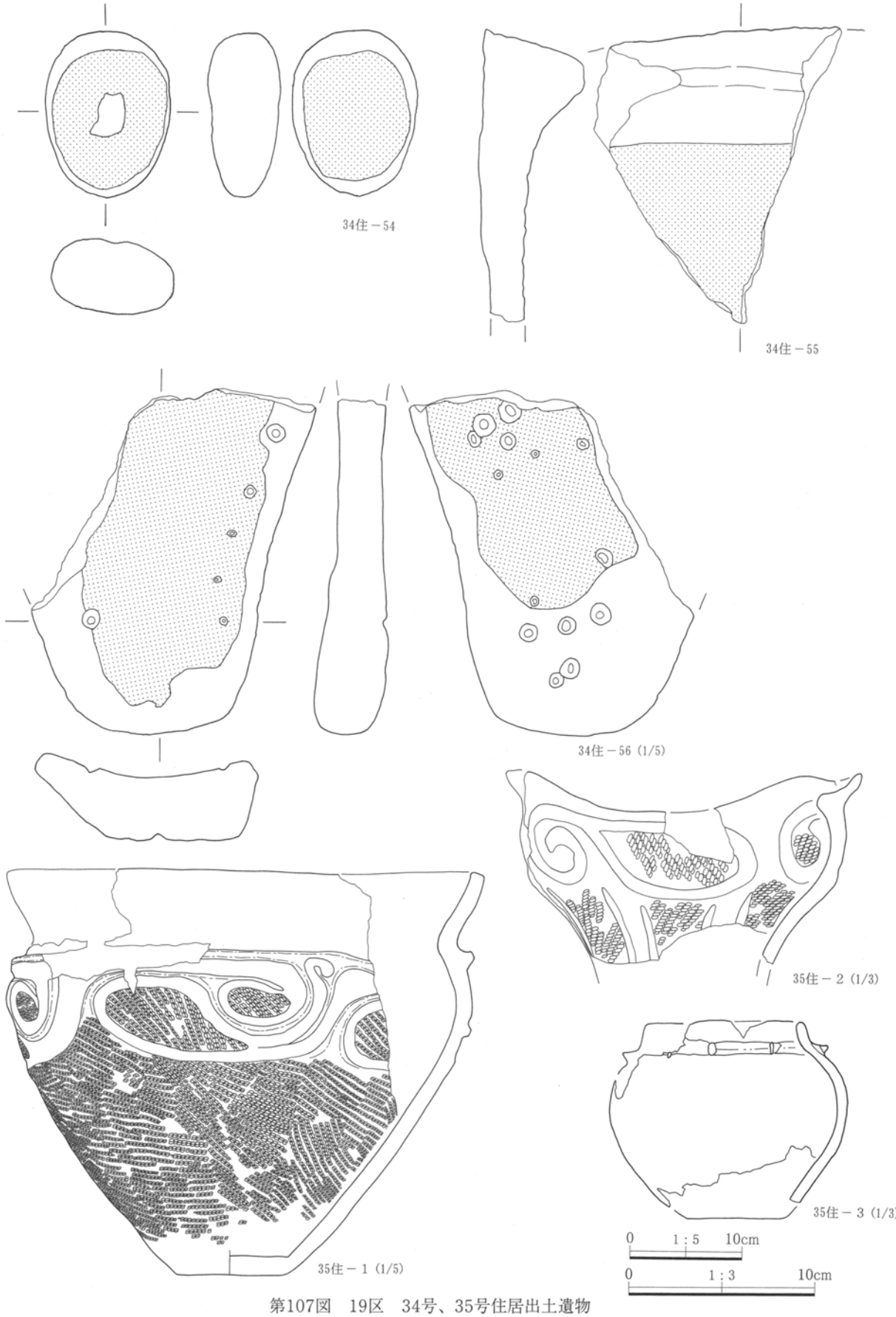
第104図　19区　34号住居出土遺物



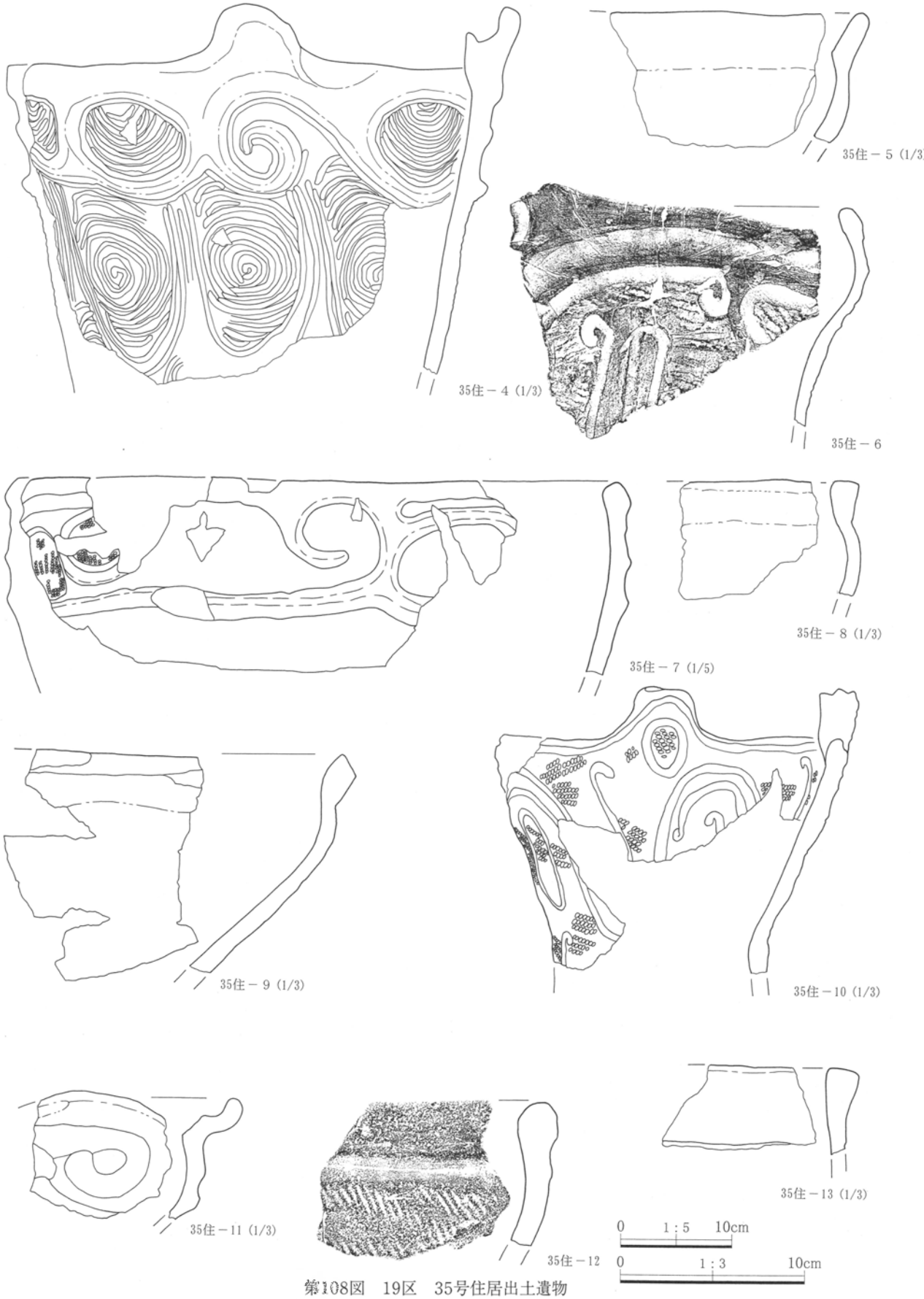
第105図　19区　34号住居出土遺物



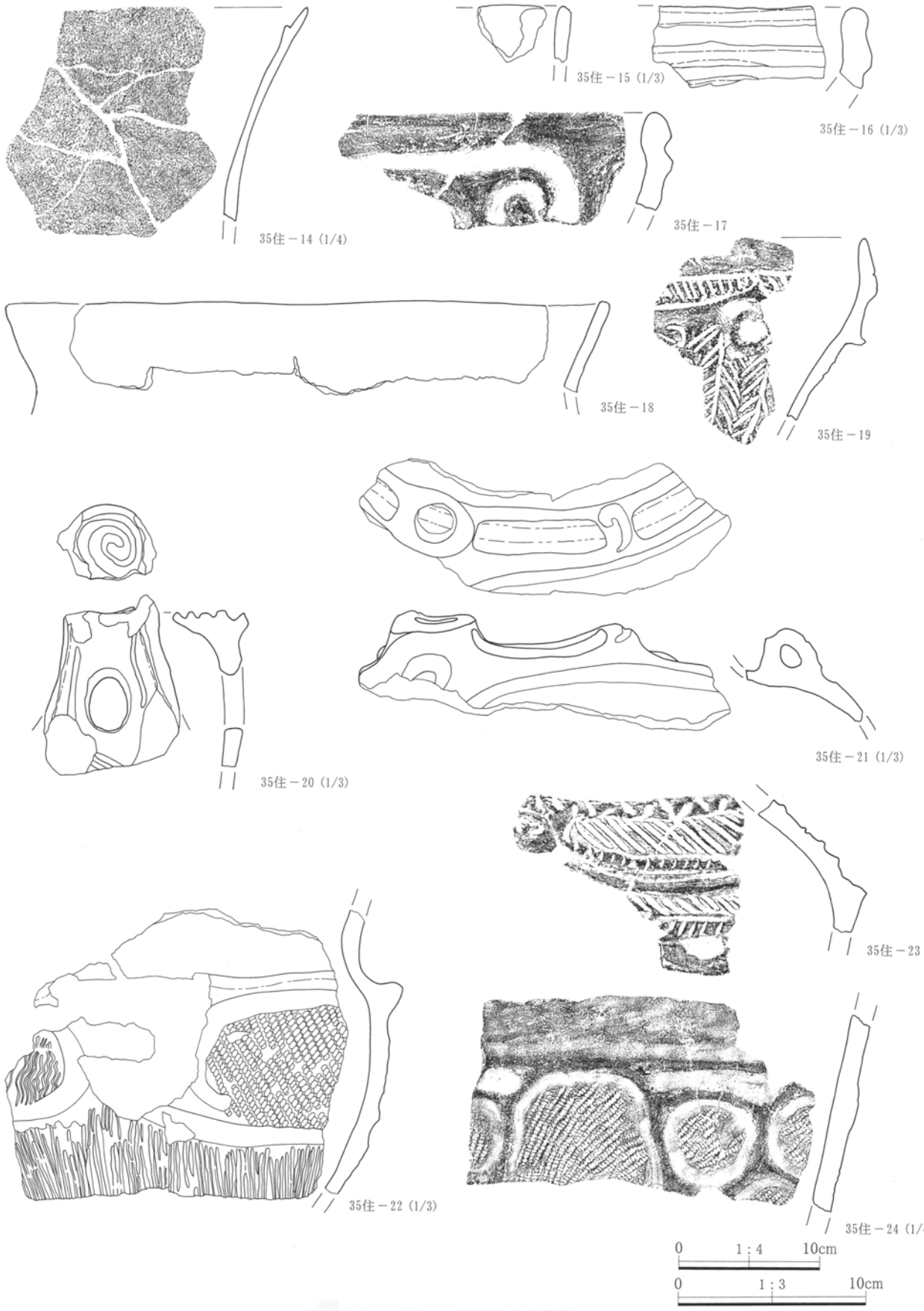
第106図　19区　34号住居出土遺物



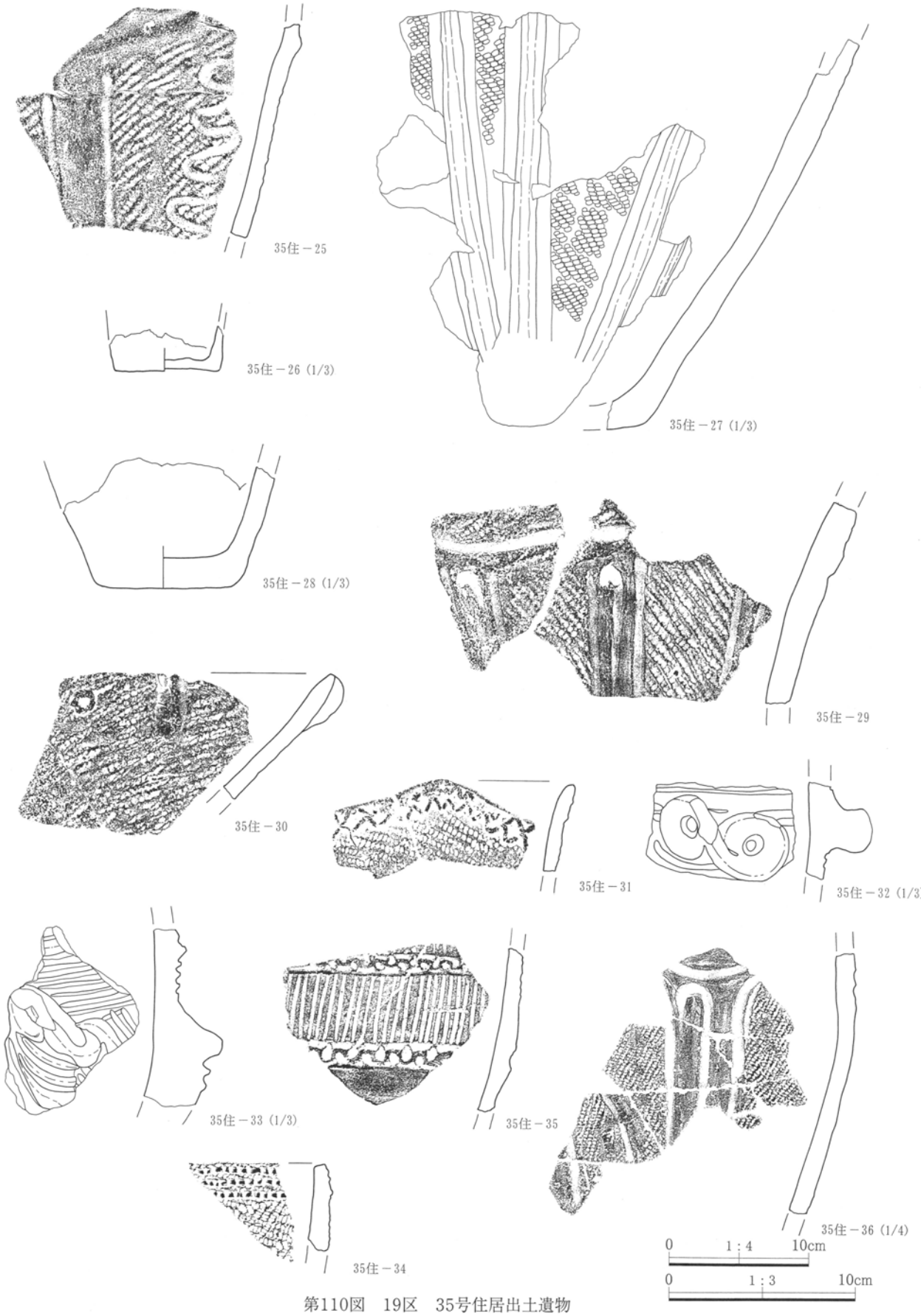
第107図　19区　34号、35号住居出土遺物



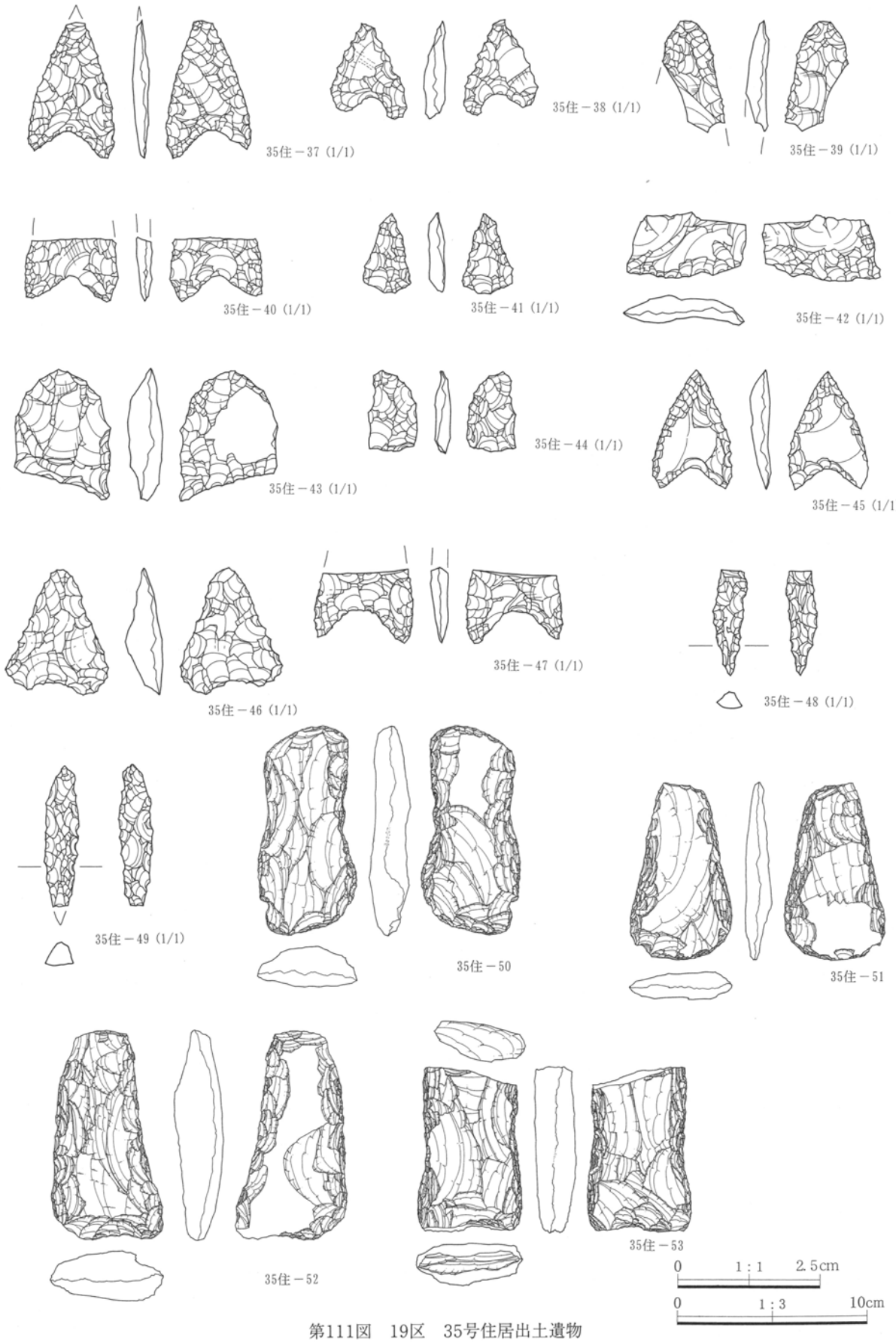
第108図　19区　35号住居出土遺物



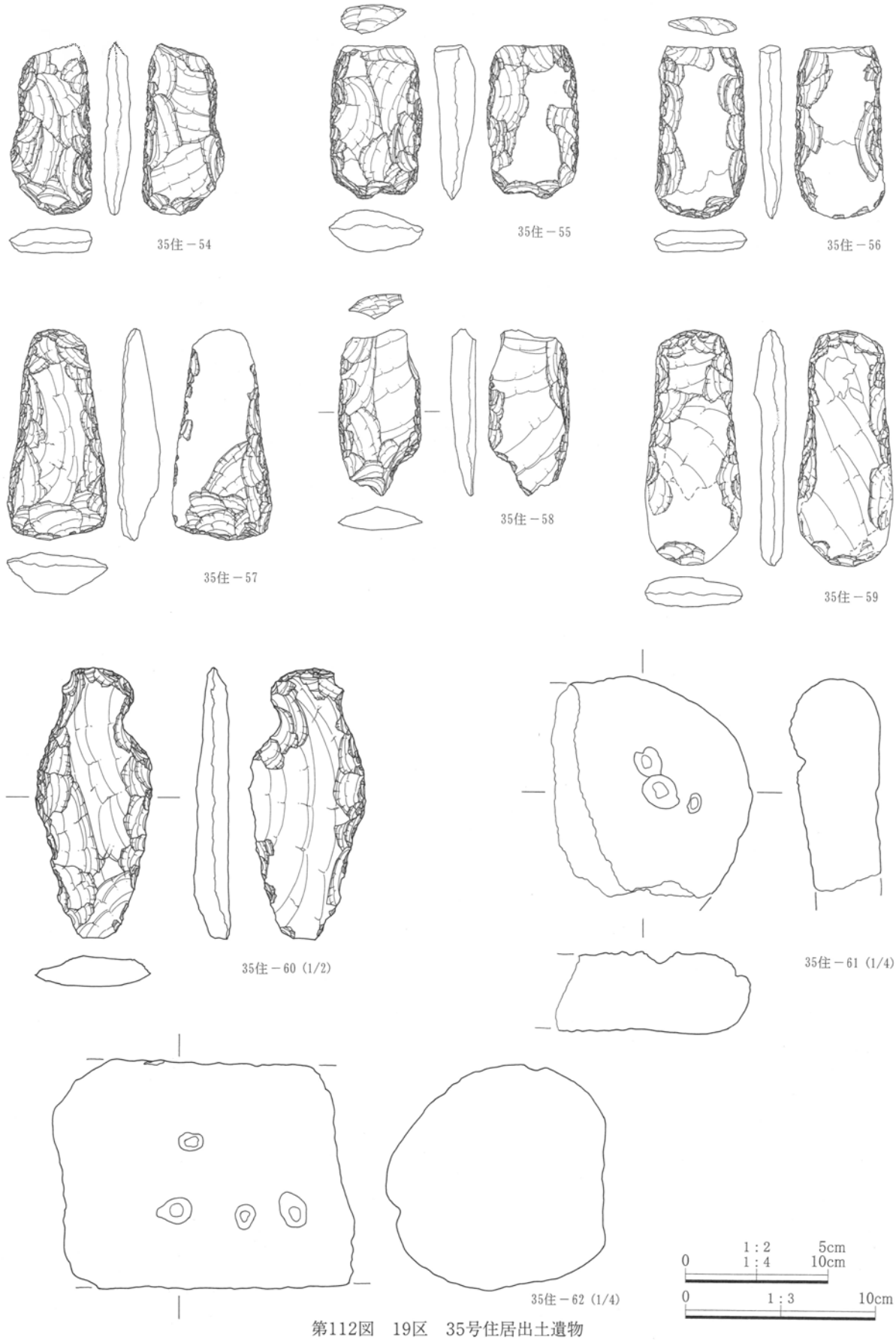
第109図　19区　35号住居出土遺物



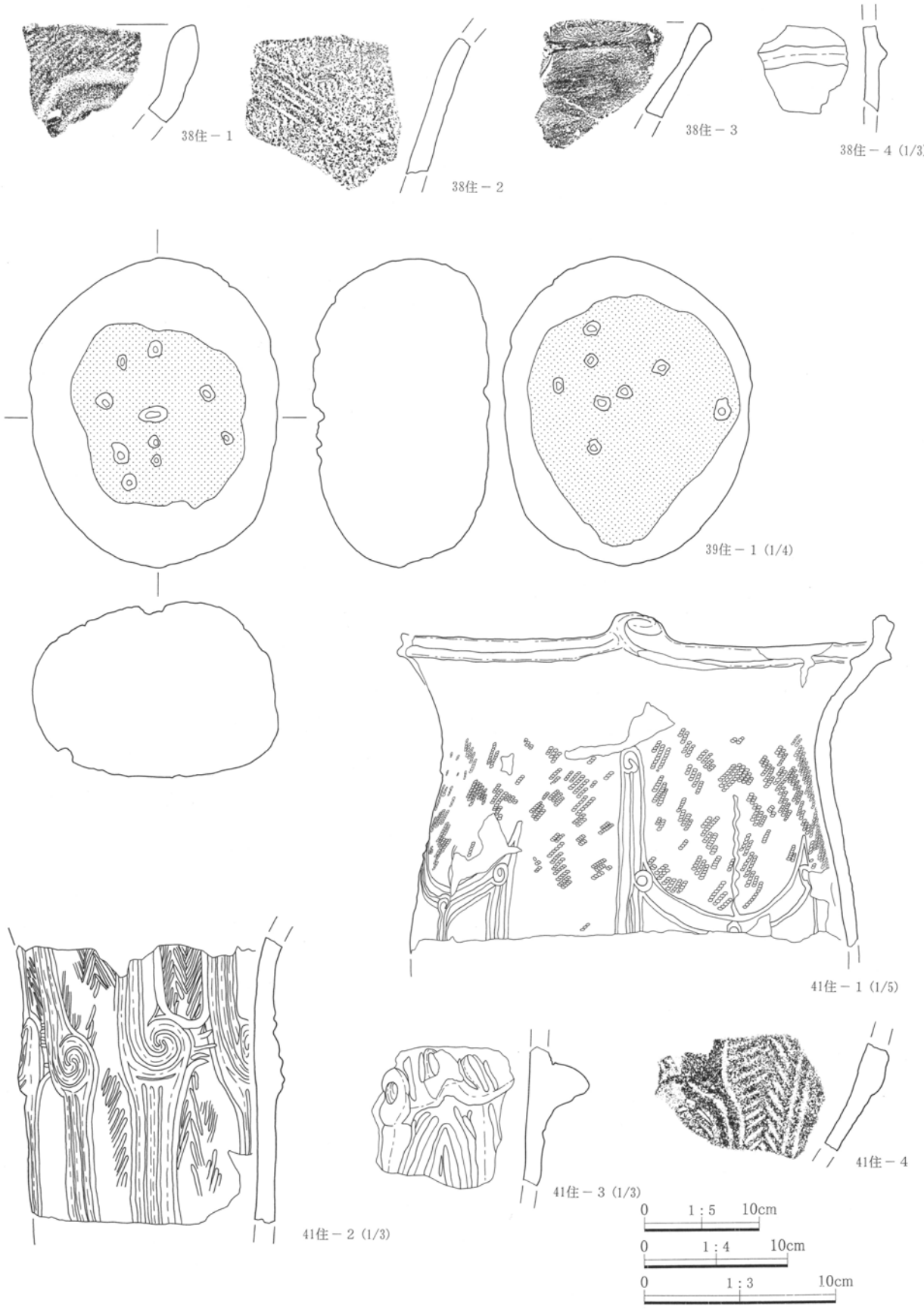
第110図　19区　35号住居出土遺物



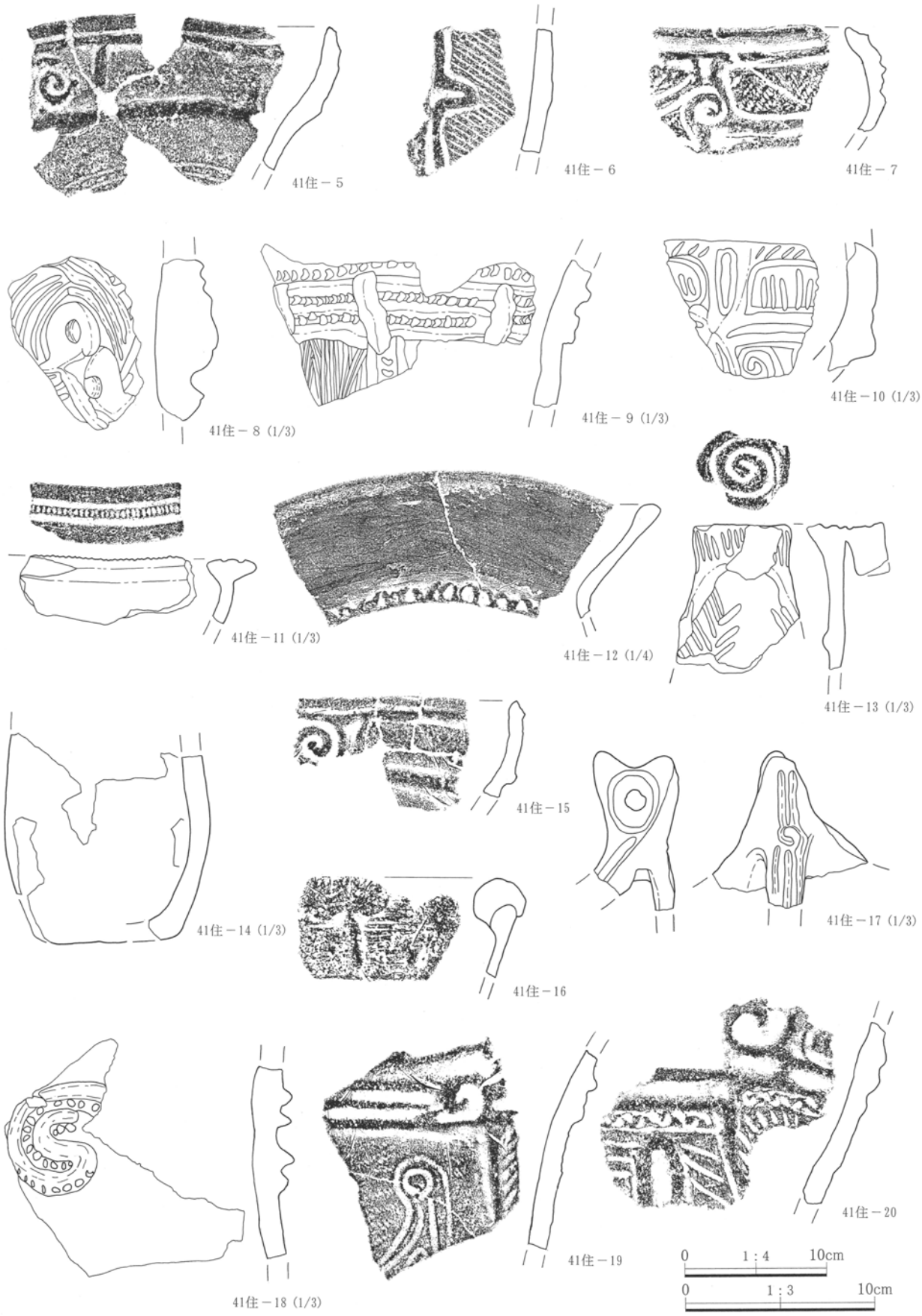
第111図　19区　35号住居出土遺物



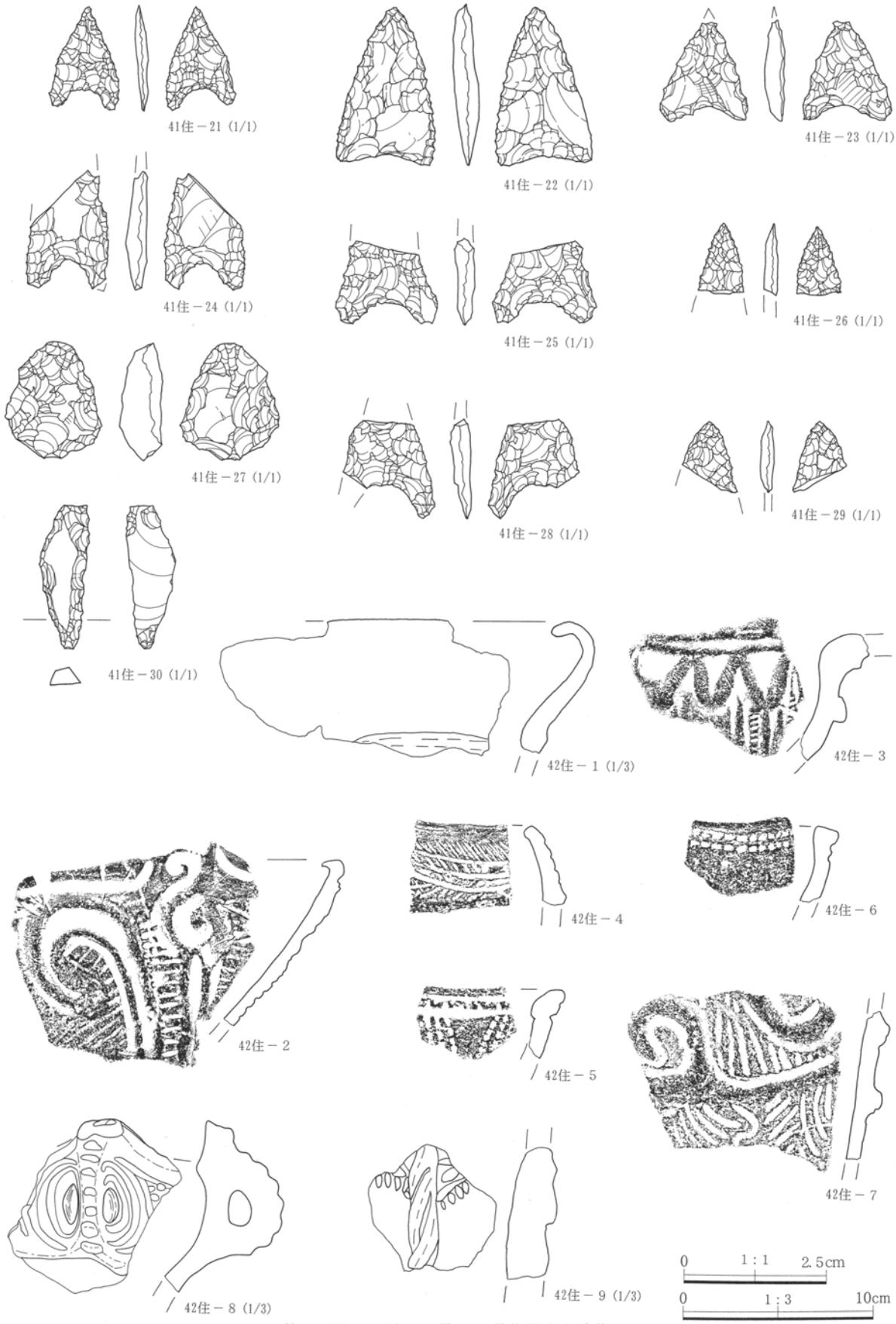
第112図　19区　35号住居出土遺物



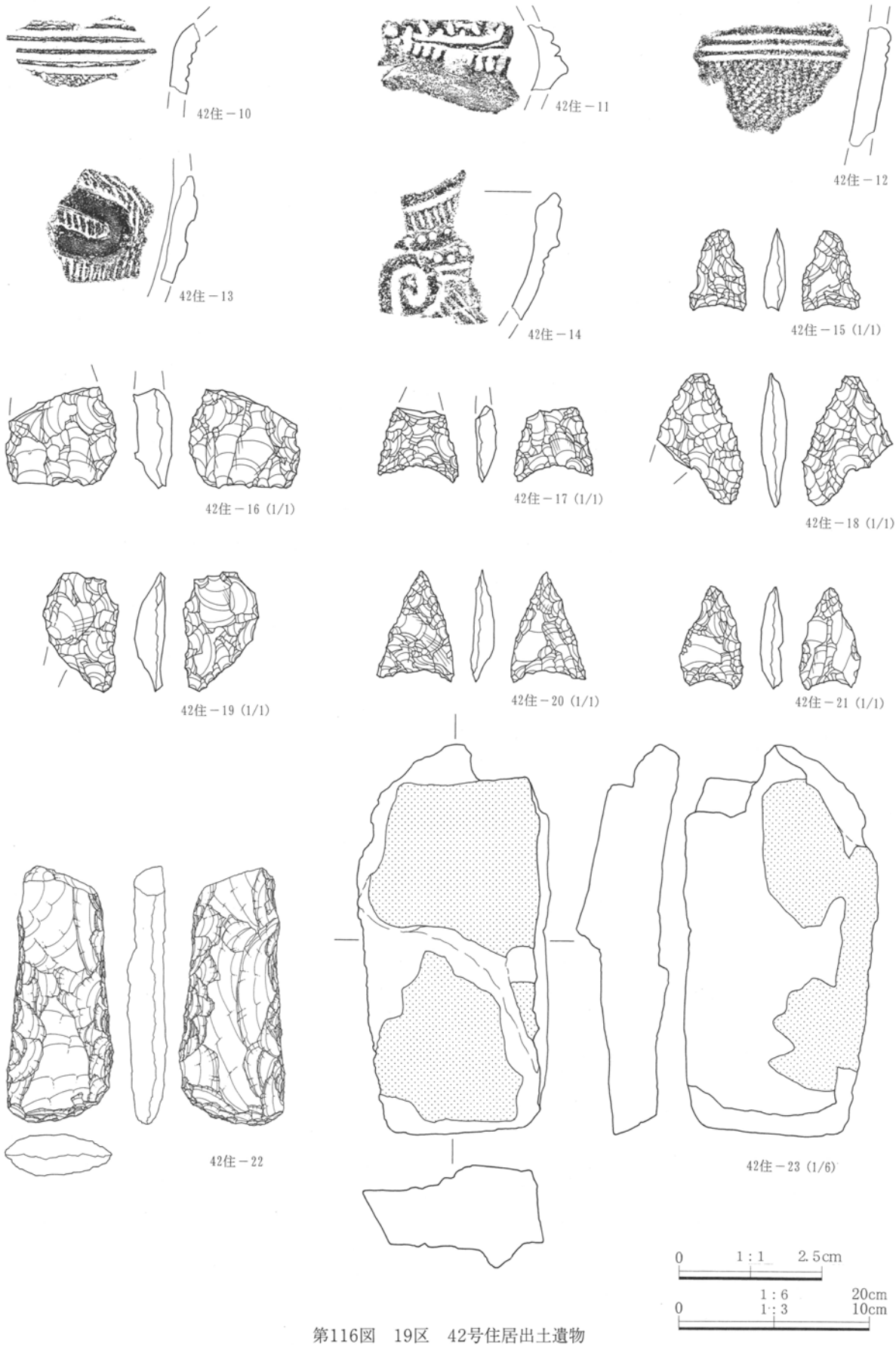
第113図　19区　38号、39号、41号住居出土遺物



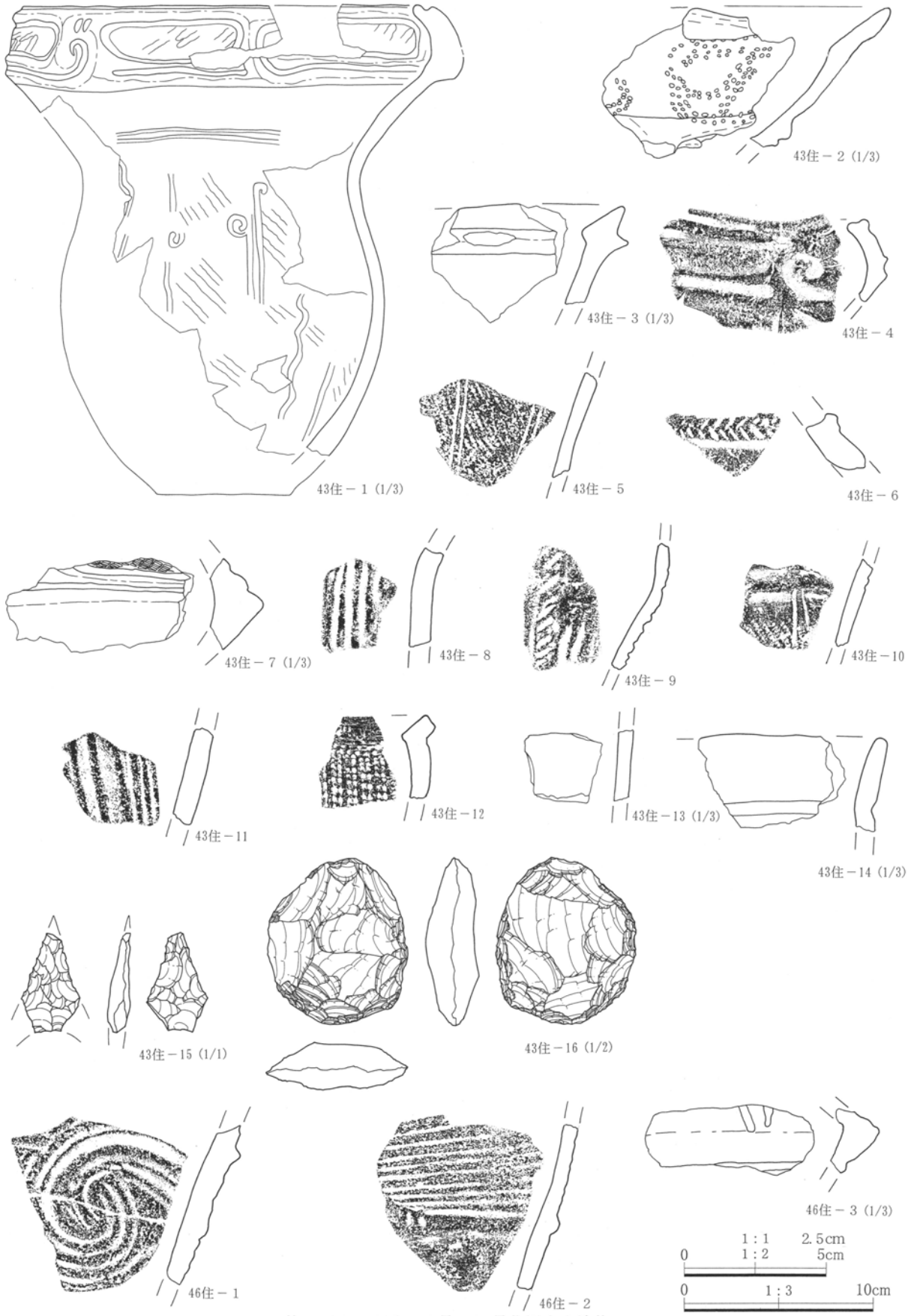
第114図　19区　41号住居出土遺物



第115図　19区　41号、42号住居出土遺物

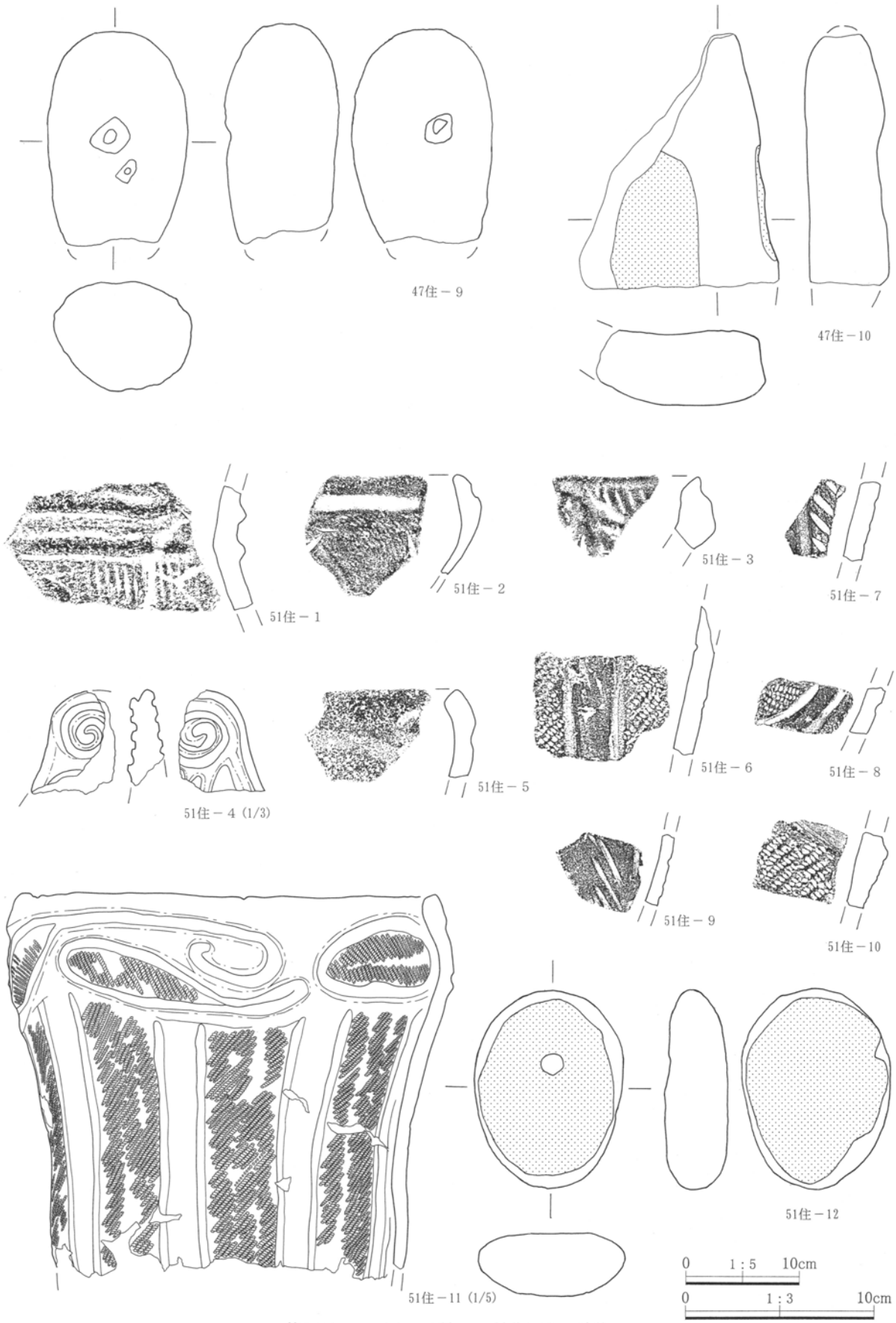


第116図　19区　42号住居出土遺物

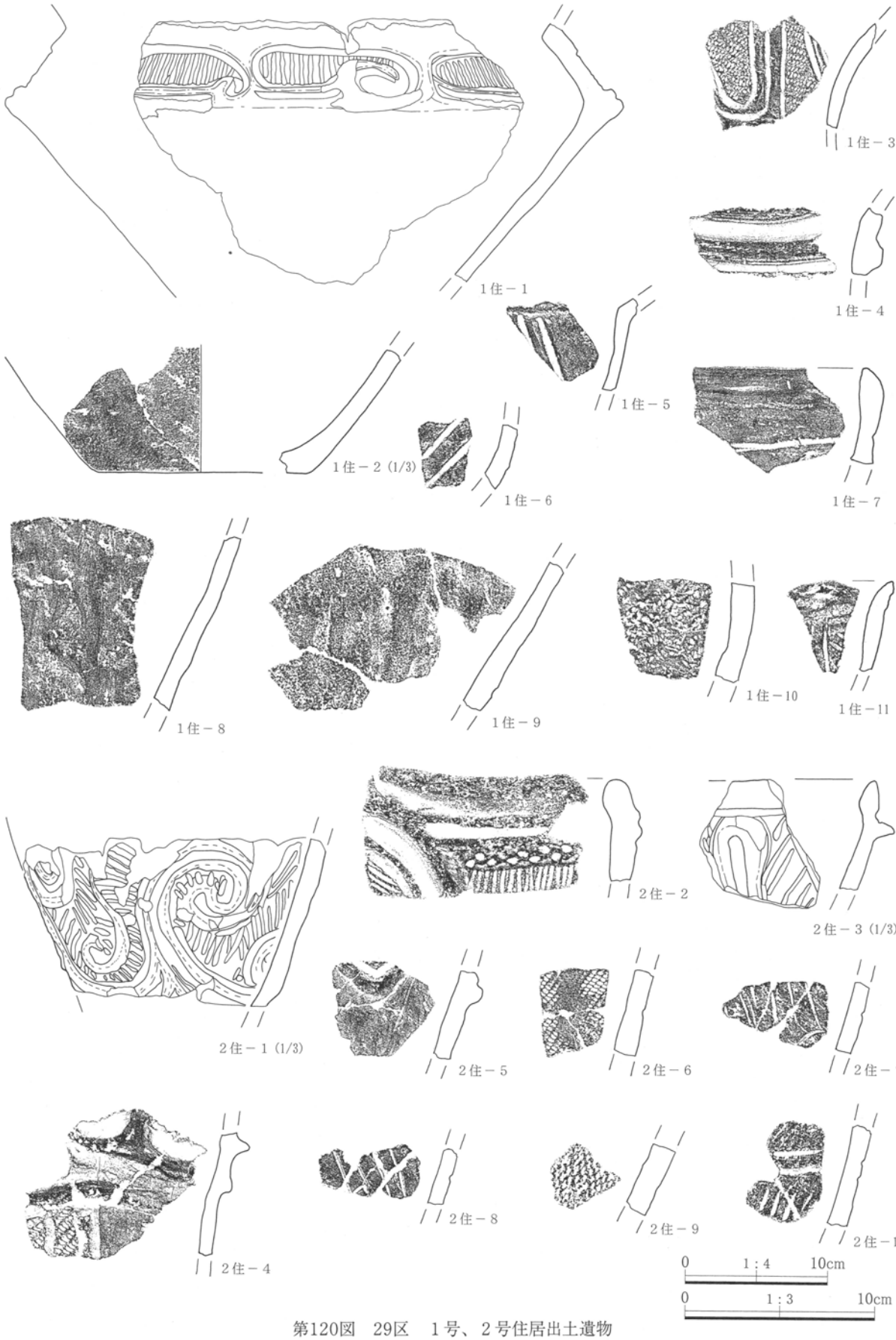


第117図　19区　43号、46号住居出土遺物

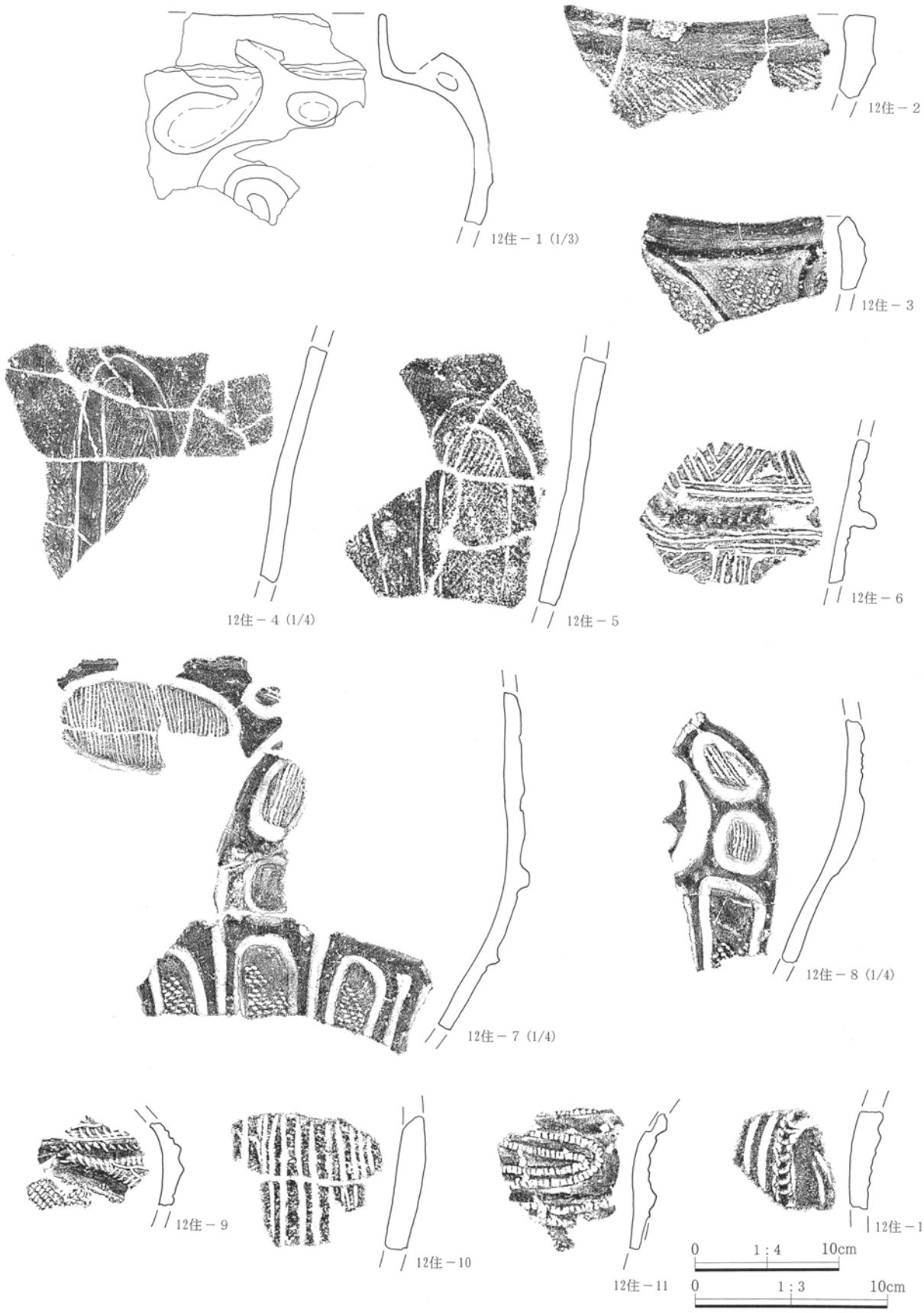
第118図　19区　46号、47号住居出土遺物



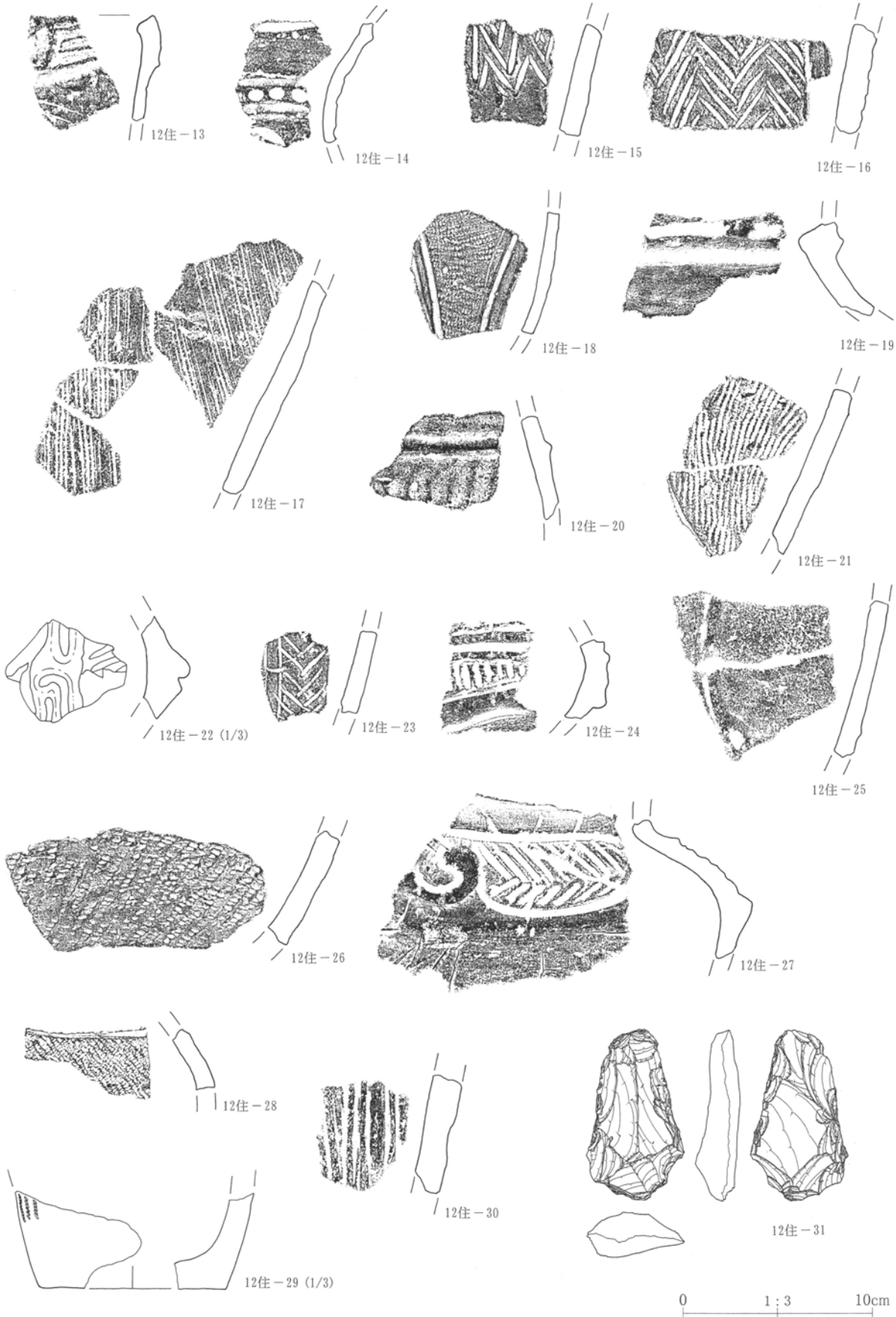
第119図　19区　47号、51号住居出土遺物



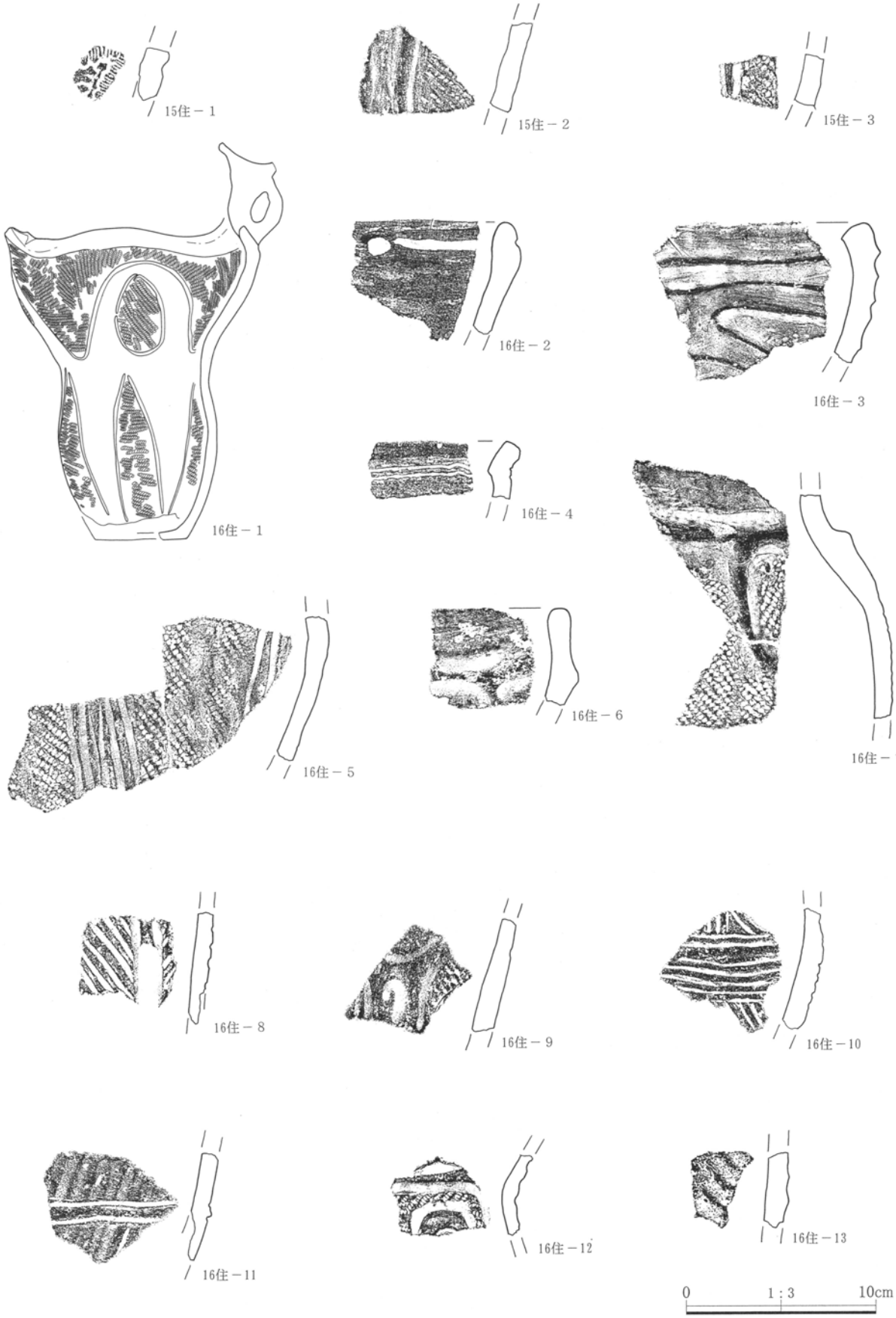
第120図　29区　1号、2号住居出土遺物



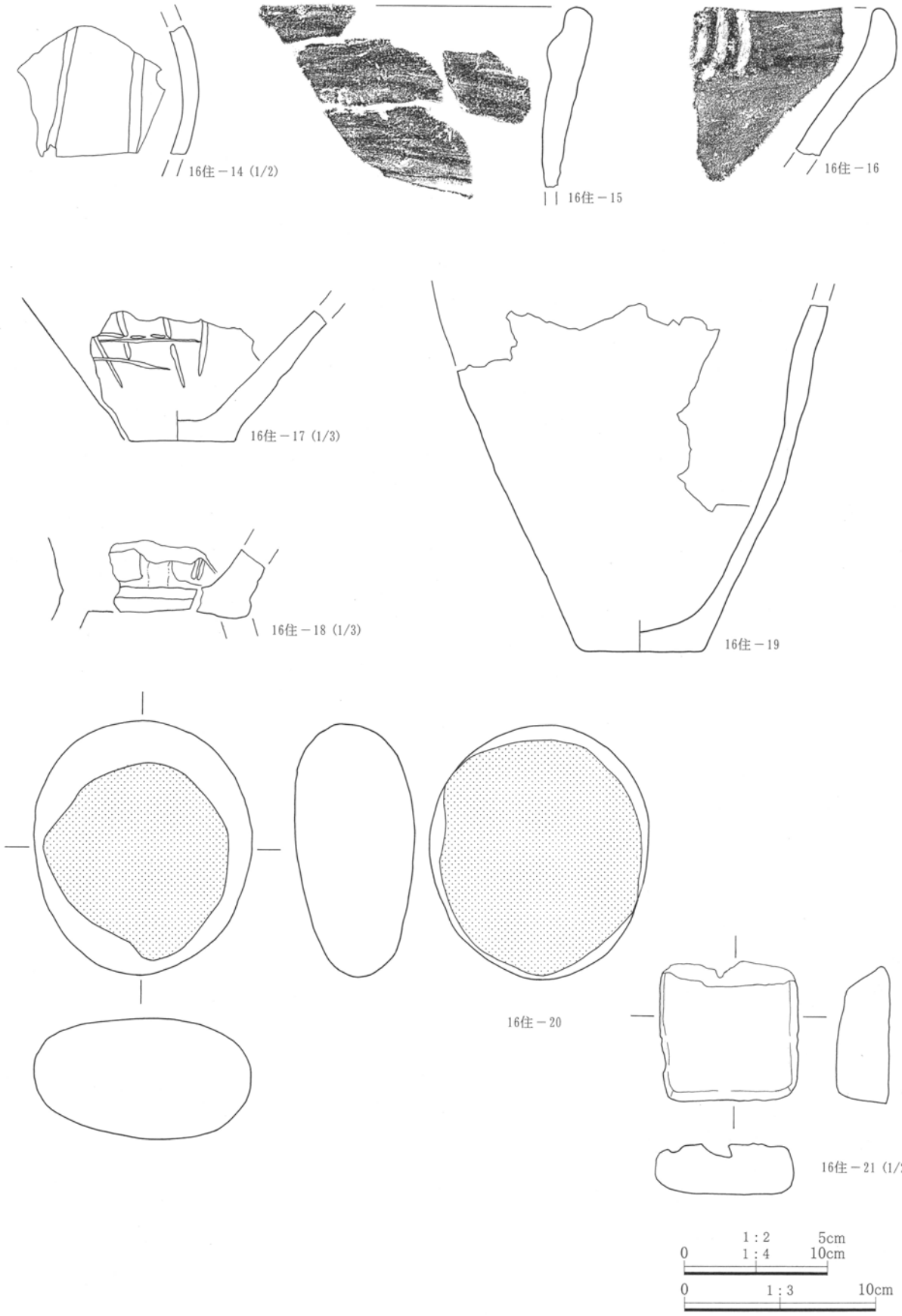
第121図　29区　12号住居出土遺物



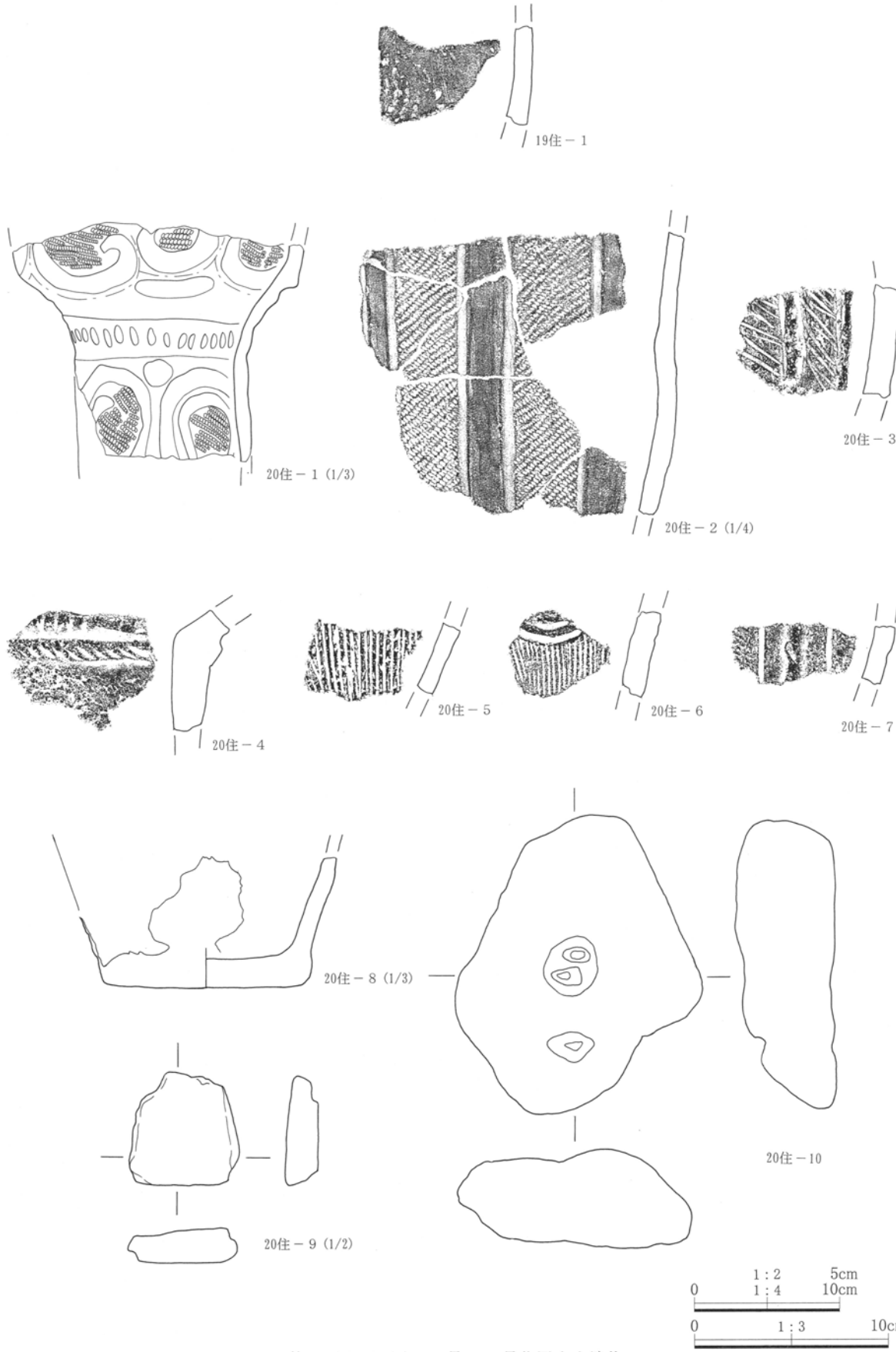
第122図　29区　12号住居出土遺物



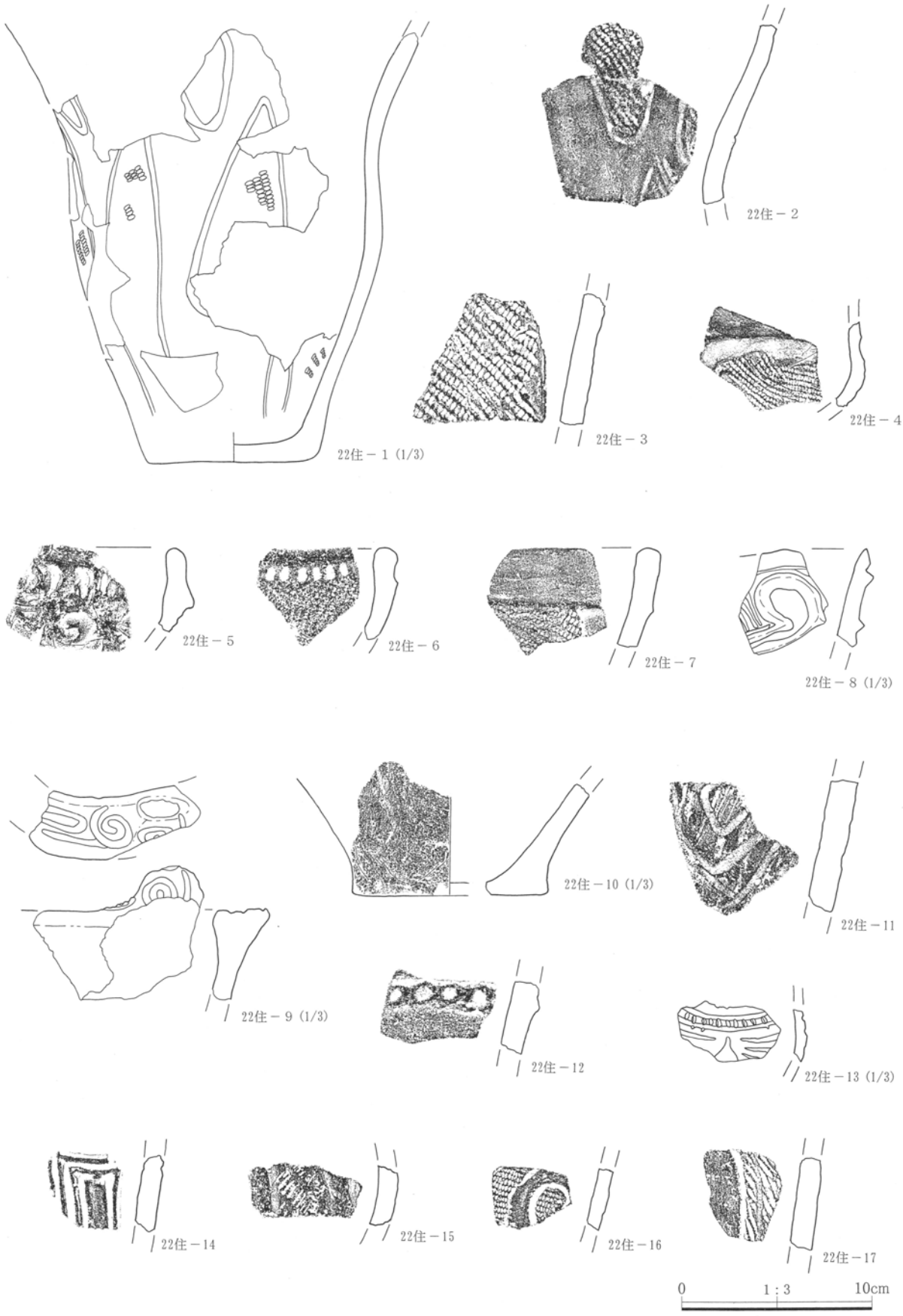
第123図　29区　15号、16号住居出土遺物



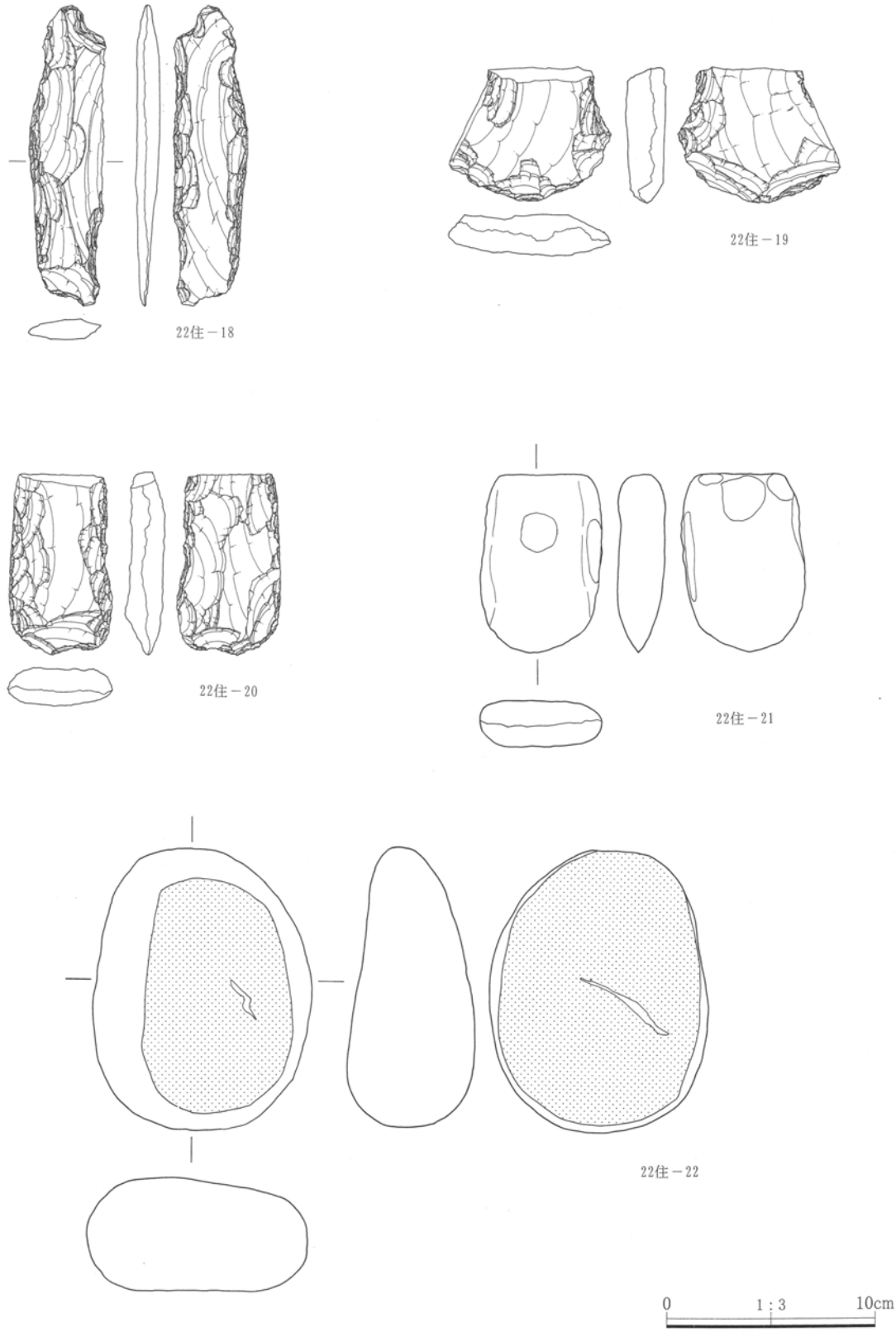
第124図　29区　16号住居出土遺物



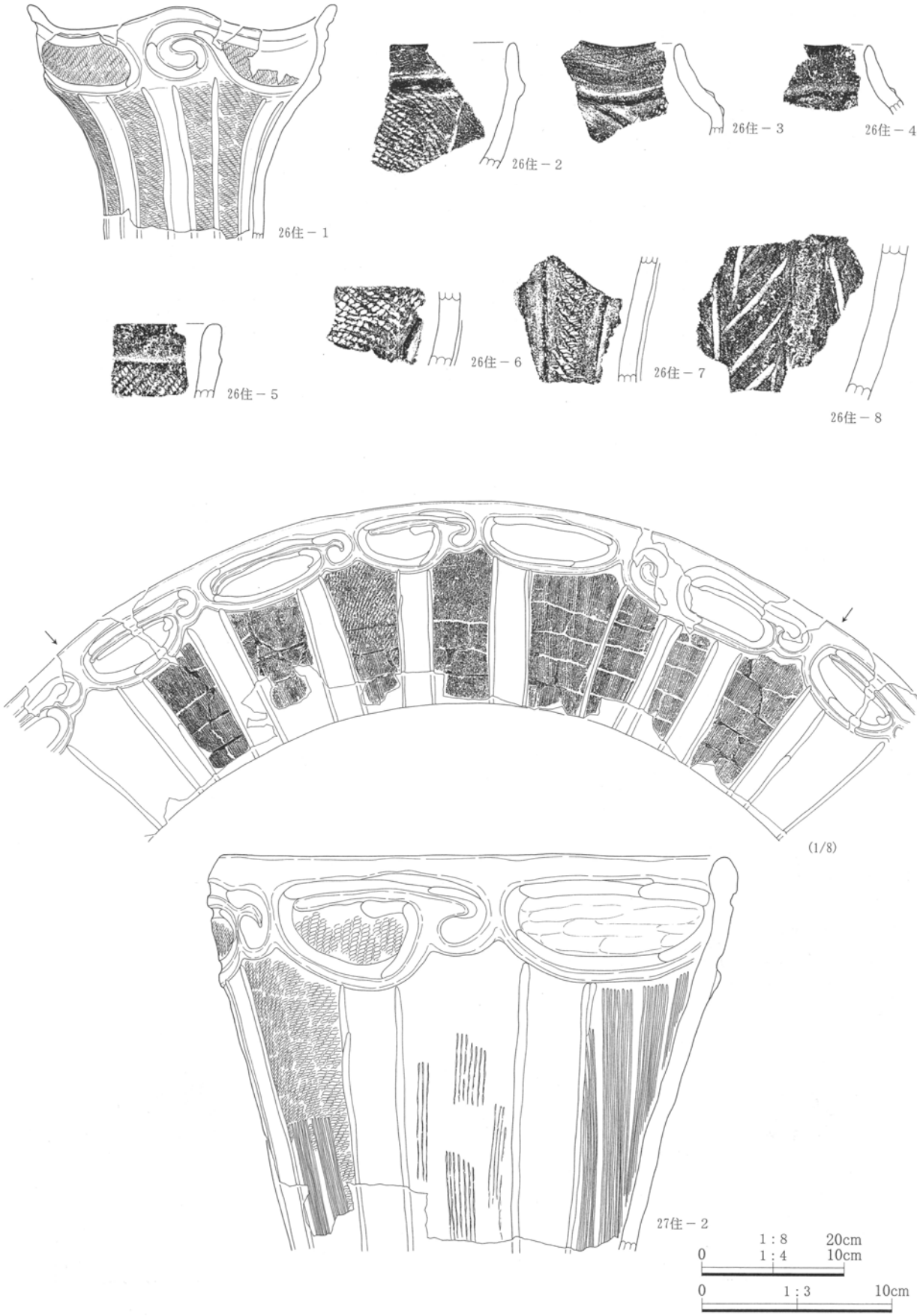
第125図　29区　19号、20号住居出土遺物



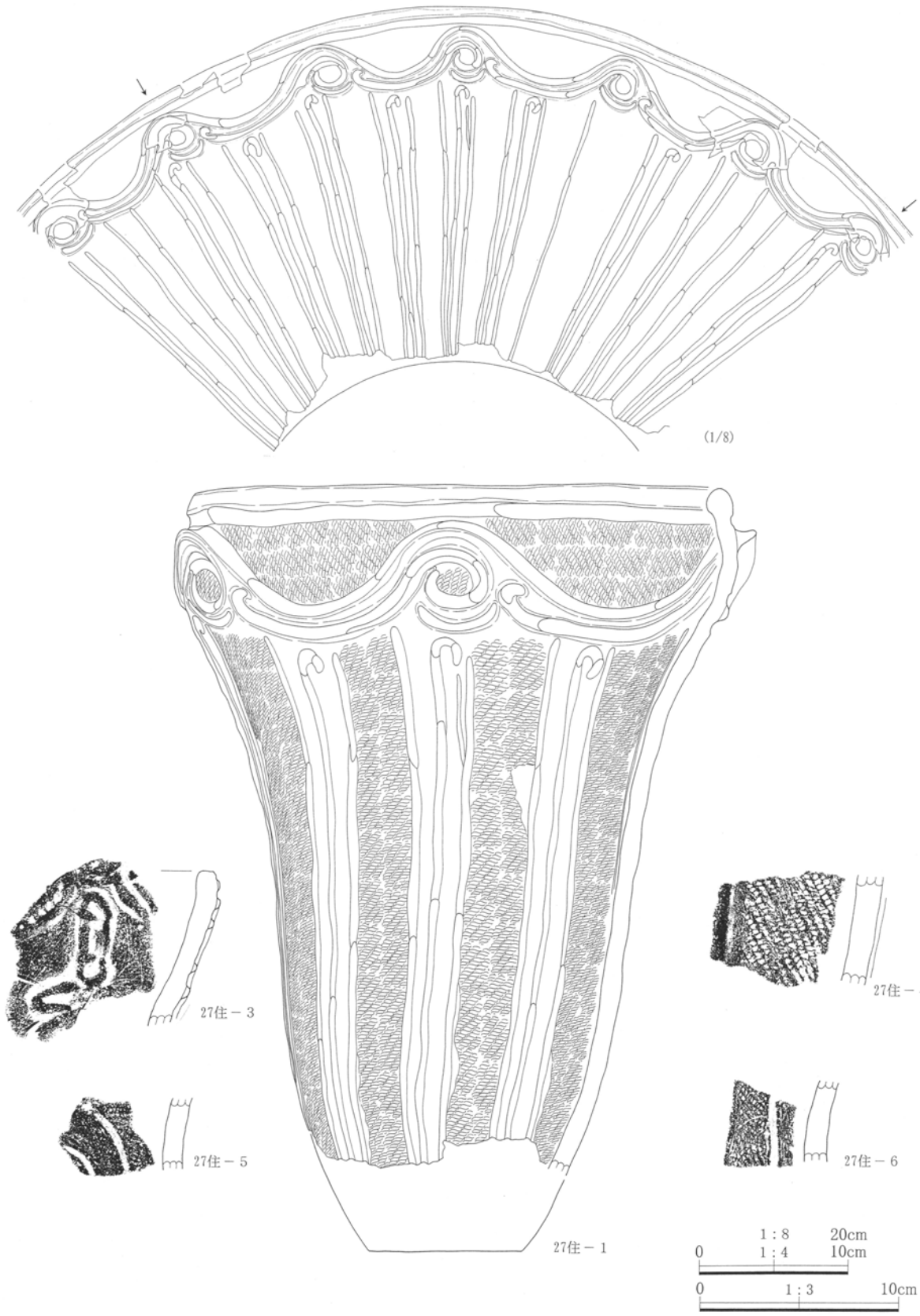
第126図　29区　22号住居出土遺物



第127図　29区　22号住居出土遺物

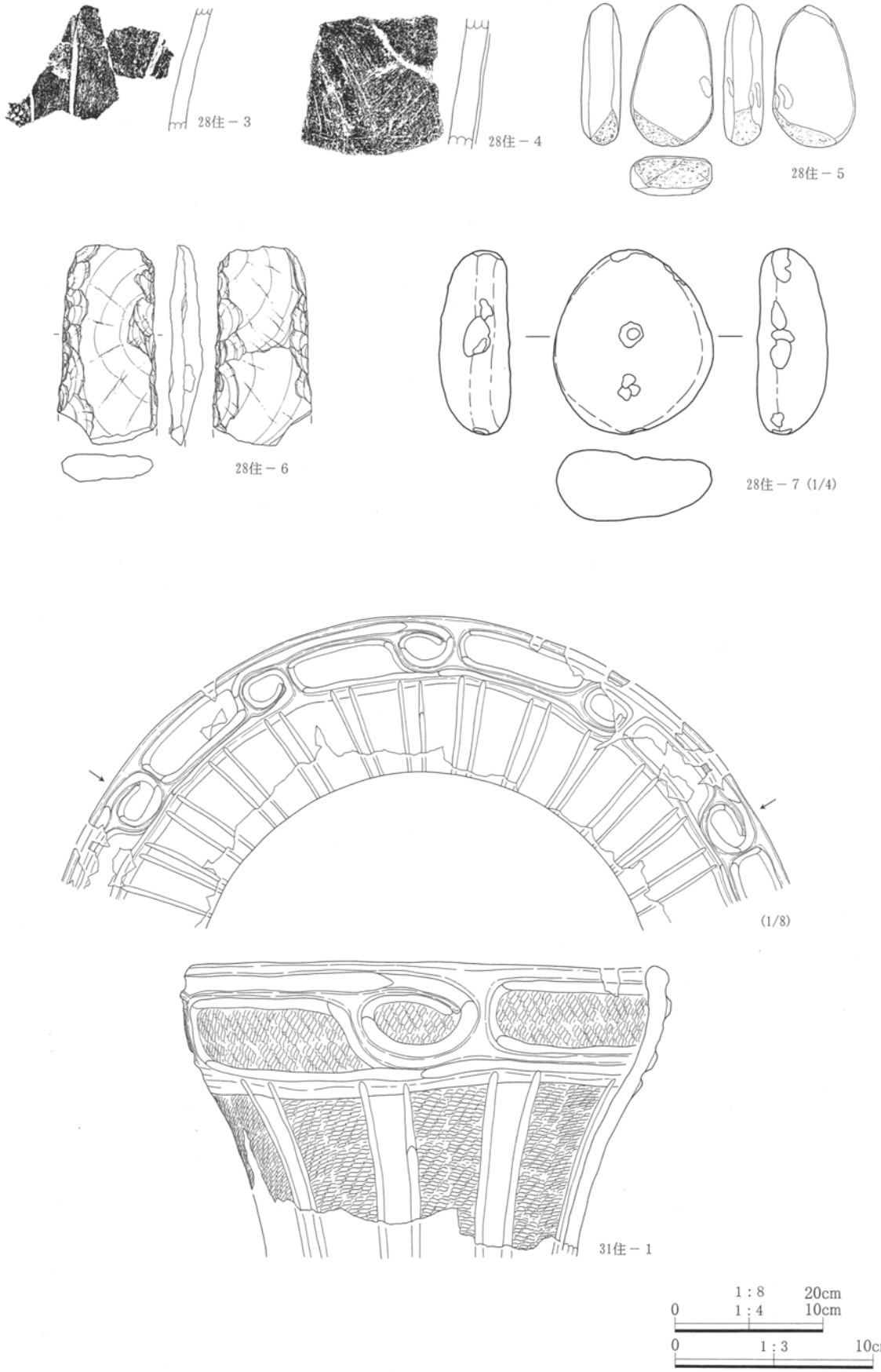


第128図　30区　26号、27号住居出土遺物

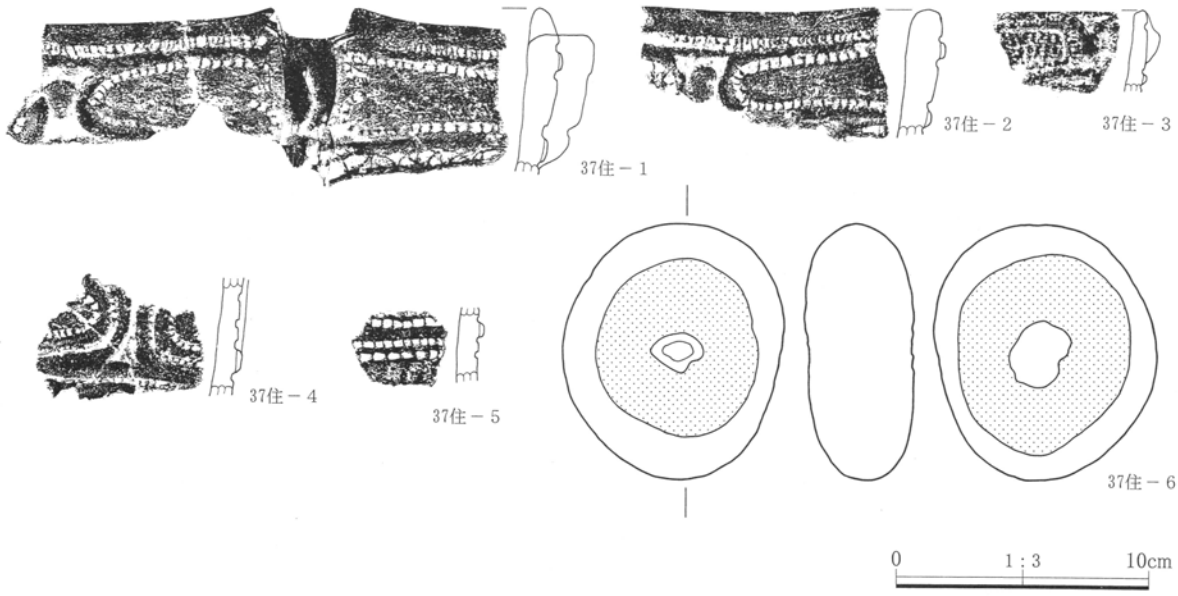


第129図　30区　27号住居出土遺物

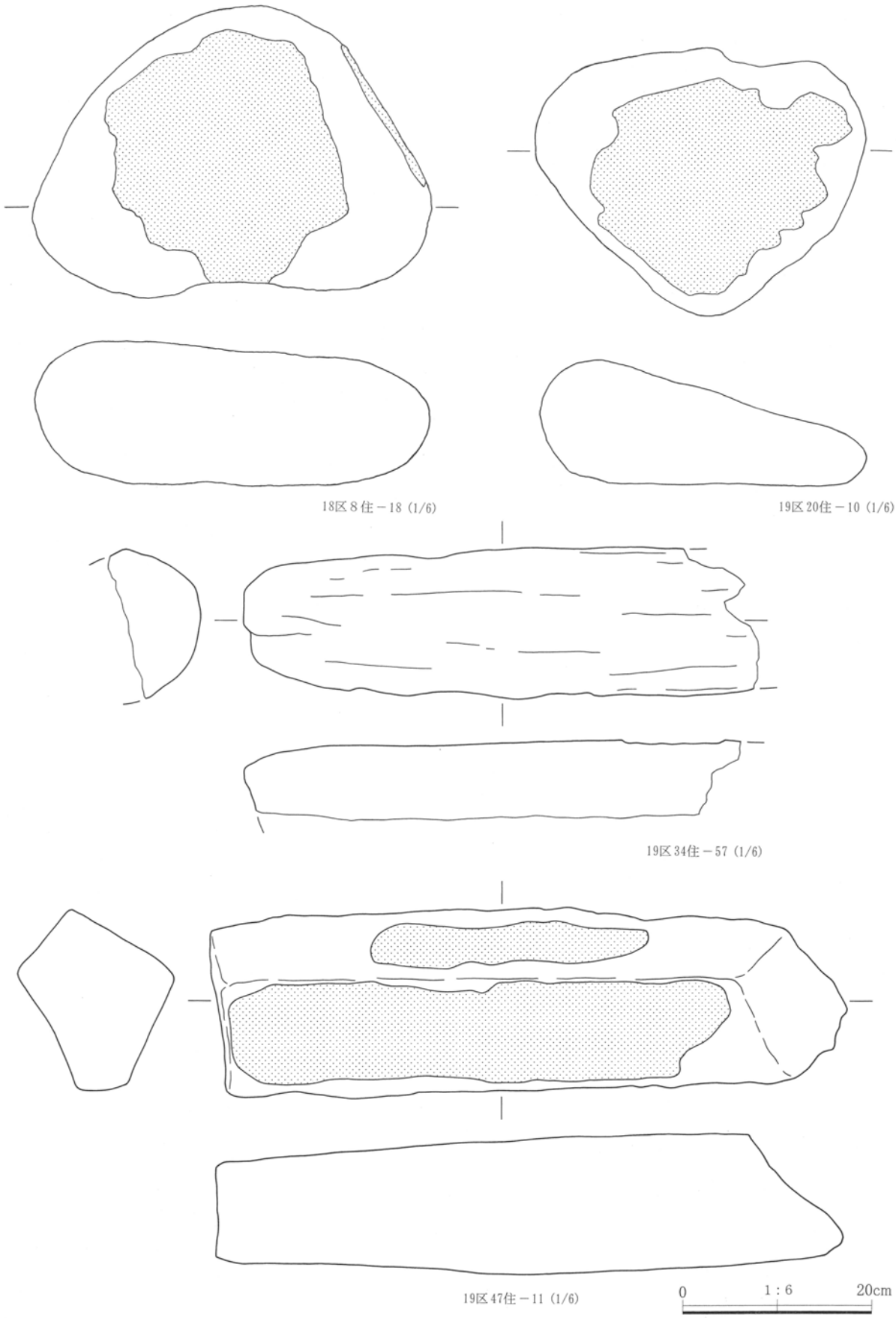
第130図　30区　28号住居出土遺物



第131図　30区　28号、31号住居出土遺物



第132図　30区　37号住居出土遺物



第133図　18区　８号住居　19区　20号、34号、47号住居出土遺物

第４節　遺物観察表

18区４号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	鉢形土器	口縁～胴部片	細砂粒を少量含む。良好。暗褐色。	無文の口縁部は外反する。胴上位には隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を充填する。その後隆帯に沿って磨り消し。胴部は棒状工具による沈線を縦位に施文する。	
2	深鉢	口縁部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	断面台形の隆帯を貼付して口縁部文様帯を区画し、区画内には原体ＬＲの単節斜縄文を充填する。胴部は原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、磨り消し文と沈線を垂下させる。	
3	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	波状口縁を呈するものと思われる。口唇部には円形の刺突文を巡らし、胴部は原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、端部が蕨手状の沈線と∩字状の沈線を施文する。	
4	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	櫛歯状工具による波状の沈線を縦位に施文する。	
5	深鉢	口縁部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	口縁部に隆帯を貼付し、隆帯上に円形の圧痕文を施す。胴部は原体Ｌの無節斜縄文を縦位に施文した後、沈線で文様を描出する。	
6	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。普通。明褐色。	原体ＬＲの単節斜縄文を横位に施文した後、沈線で同心円状の文様を描出するとともに、楕円形の刺突文を施す。	
7	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	断面三角の隆帯を貼付して渦巻き状の文様を描出した後、浅い沈線を鱗状に施文する。	
8	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	楕円形の圧痕を持つ隆帯を１条巡らす。無文部は磨きを施す。	
9	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	断面三角の隆帯を貼付し、それに沿って円形の刺突文を施す。表面に炭化物が付着する。	
10	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	浅い沈線を鱗状に施文した後、蛇行する沈線を施文するとともに磨り消し文と沈線を垂下させる。	
11	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。褐色。	強く蛇行する浅い沈線を施文した後、湾曲する浅い沈線を鱗状に施文する。	
12	深鉢	口縁～胴上部 推定口径　30.0	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	４単位の波状口縁。波頂部は橋状に透かし穴を持つ。口縁部に断面台形の隆帯で渦巻き文と文様帯を区画し、区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を充填する。胴部は同じ原体を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
13	深鉢	口縁～胴上部 口径　27.5	細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	隆帯を貼付して、口縁部に櫛形と円形の文様帯を交互に区画する。区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を充填する。口縁から頸部にかけて、沈線で文様を描出し、ここにも同様の原体を施文する。胴部は同じ原体を縦位に施文した後、端部が蕨手状になる沈線と磨り消し文を施す。	
14	深鉢	口縁～底部1/2 推定口径　22.0 器高　27.0	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄橙色。	１単位の小突起が付く。原体ＬＲＬの複節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文で文様を描出する。	

18区４号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(g)	石　材	備　考
15	石皿	破片	168	132.5	61	1888.0	粗粒輝石安山岩	
16	石冠	完	66	85	40	167.6	流紋岩	
17	磨石	完	138	55	42	524.4	粗粒輝石安山岩	
18	多孔石	完	280	235	105	9800	粗粒輝石安山岩	
19	多孔石	完	265	217	125	7700	粗粒輝石安山岩	

18区５号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁～胴下部 推定口径　22.5	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	断面半円の隆帯を逆「の」字状に貼付し、そこから∩字状に隆帯を垂下させる。これと垂下させる断面半円の１条の隆帯を交互に配した後、やや湾曲する浅い沈線を鱗状に施文する。	

18区５号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(g)	石　材	備　考
2	打斧	基部欠	92	55	17	83.6	細粒輝石安山岩	

18区８号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁部片　推定口径 29.0	砂粒を少量含む。普通。褐色。	断面半円の隆帯で、端部が渦巻き状を呈する口縁部文様帯を区画し、区画内には原体ＬＲの単節斜縄文を充填する。胴部には原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、磨り消し文と沈線を垂下させる。	
2	深鉢	口縁部片　推定口径 38.0	砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	断面半円の隆帯を貼付して口縁部文様帯を区画し、区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を充填する。胴部は原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、磨り消し文と沈線を垂下させる。	
3	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	断面台形の隆帯を貼付して口縁部文様帯を区画し、区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を充填する。胴部は原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、磨り消し文と沈線を垂下させる。	
4	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄橙色。	波状口縁を呈するものと思われる。口唇部内面には隆帯を１条貼付する。断面半円の隆帯を逆Ｕ字状に貼付した後、棒状工具による沈線を斜位に施文する。隆帯に沿って磨り消しを施すとともに口縁部に沈線を１条巡らす。	
5	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	断面三角の隆帯を２条頸部に巡らす。そこから２条１単位の隆帯による腕骨文を垂下させた後、棒状工具による浅い沈線を綾杉状に施文する。	
6	深鉢	口縁部片	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	無文の口唇部の下位に篦状工具による沈線を１条巡らす。隆帯を１条垂下させた後、棒状工具による浅い沈線を斜位に施文する。	
7	深鉢	口縁部片	石英を含む砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	波状口縁を呈するものと思われる。隆帯を貼付して口縁部に文様帯を区画する。区画内には棒状工具による沈線を縦位に施文する。	
8	浅鉢	頸部片	細砂粒を少量含む。良好。浅黄色。	原体Ｌの撚糸文を縦位に施文した後、屈曲部には平行沈線を巡らし、その上位には刺突文と篦状工具による刻みを付けて文様を描出する。	
9	浅鉢	底部　底径　8.3	石英を含む細砂粒を少量含む。良好。明褐色。	底部から直線的に開きながら立ち上がる。無文で、内面もていねいな磨きを施す。	
10	深鉢	口縁～胴部 推定口径　12.5	細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	口縁部は２次的に被熱する。２単位の突起が付していたものと思われる。突起下部は隆帯で逆Ｊ字状に描出され、そこから隆帯で楕円形の文様帯が区画される。区画内にはやや湾曲する沈線が縦位に施文される。胴部は渦巻き文を抱くように、Ｙ字型の隆帯によって大きく２分割される。この隆帯上には刺突文が施される。分割された区画の中央に同様の隆帯が垂下する。区画内には湾曲する沈線を綾杉状に施文する。	
11	深鉢	口縁～胴下位 口径　28.5	砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	２条１単位の断面三角の隆帯によって口縁部に櫛形の文様帯を区画する。区画の端部と中央には渦巻き文が配される。区画内には原体ＲＬの単節斜縄文が充填される。胴部には同じ原体が間隔をおいて縦位に施文される。口縁部に炭化物が付着する。	
12	深鉢	胴部	砂粒をやや多く含む。普通。赤褐色。	断面半円の隆帯で胴部をＵ字型に大きく４単位に区画する。それぞれの区画内に蛇行する沈線を垂下させた後、棒状工具による沈線を鱗状に施文するとともに「ん」字状の沈線を施文する。	

18区８号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(g)	石　材	備　考
13	石鏃	1/2	28	19	5	1.7	黒曜石	
14	磨斧	ほぼ完	106	48	28	291.7	蛇紋岩	
15	磨斧	刃部欠	88	58	33	284.2	閃緑岩	
16	磨石	完	205	120	90	3500	粗粒輝石安山岩	
17	磨石	完	202	149	56.5	2700	細粒輝石安山岩	
18	磨石	完	420	292	152	28680	粗粒輝石安山岩	

18区10号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	一部欠 口径 23.0 器高 40.7 底径 10.0	石英を含む細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	口縁部には２単位の橋状の把手が付く。この把手からは沈線の施された鰭状の把手が下に延びる。頸部に断面台形の流体を２条巡らした後、原体ＲＬの単節斜縄文を斜位に施文する。口唇部は無文だが、縄文を施文した後、沈線を３条巡らす。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
2	深鉢	口縁～胴上部 口径25.6	金雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	口縁は無文で緩やかに内彎する。１単位の嘴状の突起が付され、そこから鰭状の把手が胴上位まで延びる。把手上部は双環状を呈する。口縁には単位不明の小突起が付され、隆帯、有刻隆帯、沈線などで装飾されるものと思われる。頸部には角状の突起が２単位確認できるが、１単位は失われているものと思われる。胴部は隆帯によって横位に区画され、それぞれの区画内は、さらに半隆起線によって楕円形、三角形、方形などに区画される。また上位の区画には双環状突起が付される。	
3	深鉢	口縁～胴上部 推定口径　20.5	金雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	４単位の波状口縁を呈する。波頂部の下位には輪積状の突起が貼付され、それを含む鰭状の隆帯によって、８単位の楕円形の区画がなされる。その下位には断面半円の流体によって櫛形と三角形の区画が交互に配される。いずれの区画内も半隆起線を施文する。胴下位には４単位の有刻突起の付された隆帯を巡らし、その下位には横位の沈線を施文する。	
4	深鉢	口縁部片	石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	やや内彎する無文の口縁部の下位に、断面台形の低い隆帯を１条巡らす。そこに隆帯につながる把手が付していたものと思われる。隆帯の下位には沈線で文様を描出する。	
5	深鉢	口縁部片	金雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	外反する無文の口縁部。頸部の下位には原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文する。	
6	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。暗褐色。	口唇部外側には突帯を貼付し、突帯上には原体Ｌの無節斜縄文を横位に施文する。その下位には２本の隆帯を貼付して、渦巻き状の文様を描出する。胴部にも無節斜縄文を施文する。	
7	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	半隆起線で文様を描出し、円環状の突起を貼付する。半隆起線上には半裁竹管状工具による刻みを付す。	
8	深鉢	口縁部片	石英を含む細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	沈線と断面台形の低い隆帯を弧状に施文する。	
9	深鉢	胴部片	石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	沈線と断面台形の低い隆帯で文様を描出する。	
10	深鉢	頸部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	頸部に断面三角の隆帯を貼付した後、沈線を数条巡らす。胴部は原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文する。	

18区10号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(g)	石　材	備　考
11	ドリル	基部	12	31	6	1.6	チャート	
12	石鏃	先端部欠	11	12	4	0.3	黒曜石	

18区17号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	胴部	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	櫛歯状工具による条線を蛇行させて施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
2	深鉢	口縁～胴部 口径　21.5	細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	４単位の波状口縁を呈する。口縁部には隆帯による渦巻き文と沈線による楕円形の文様帯を配する。文様帯の区画内には原体ＬＲＬの複節斜縄文を充填する。頸部は沈線が１条巡る他は無文で磨きが施される。胴部は口縁部と同様の原体を縦位に施文した後、∩字型の沈線と磨り消し文を施す。	
3	深鉢	口縁部1/2 推定口径　28.5	砂粒を少量含む。良好。にぶい黄橙色。	無文の口縁部。わずかに外反する。	
4	深鉢	口縁部片	径３㎜程の小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	波状口縁を呈する。この波頂部は意図的に取り除かれ、欠け口を直線的に研削する。断面台形の隆帯を貼付して口縁部に文様帯を区画し、区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を充填する。胴部は原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、磨り消し文と沈線を垂下させる。	
5	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。良好。明褐色。	断面半円の隆帯を貼付して、口縁部に文様帯を区画し、区画内には原体ＬＲの単節斜縄文を横位に充填する。胴部は原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、磨り消し文と沈線を垂下させる。	
6	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	原体ＬＲの単節斜縄文を横位に施文した後、沈線を施す。口縁部文様帯の一部。	
7	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	原体ＬＲの単節斜縄文を横位に施文した後、沈線を施す。口縁部文様帯の一部。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
8	深鉢	口縁部片	石英を含む細砂粒を少量含む。普通。暗赤灰色。	棒状工具による沈線と篦状工具による沈線を同心円状に施文する。表面に炭化物付着。	
9	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。暗褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線を施す。口縁部文様帯の一部。表面に炭化物がわずかに付着する。	
10	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	波状口縁を呈するものと思われる。原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線を施す。口縁部文様帯の一部。	
11	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。暗褐色。	波状口縁を呈するものと思われる。隆帯を貼付して口縁部文様帯を区画し、区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を充填し、隆帯に沿って沈線を施す。	
12	深鉢	口縁部片	石英を含む細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	波状口縁を呈するものと思われる。隆帯を貼付して口縁部文様帯を区画し、区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を充填し、隆帯に沿って沈線を施す。表面に炭化物付着。	
13	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。普通。褐色。	わずかに内彎する口縁。棒状工具による沈線を波状に施文する。	
14	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	波状口縁の波頂部を欠く。口唇部に沿って円形の刺突文を施し、原体ＲＬの単節斜縄文を施文した後、棒状工具による沈線を山形に施文する。	
15	浅鉢	口縁部片	細砂粒をわずかに含む精製された胎土。良好。明黄褐色だが、下位は黒斑。	無文で直線的に開く。表面は磨きが施される。	
16	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	櫛歯状工具による条線を縦位に施文する。	
17	深鉢	口縁部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい橙色。	波状口縁を呈するものと思われる。原体ＲＬの単節斜縄文を施文した後、磨り消し文と沈線を∩字状に施文する。２次的な被熱のため器面が荒れる。	
18	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。暗褐色。	直立気味の無文の口縁。	
19	深鉢	胴部片	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	断面三角の隆帯で口縁部文様帯を区画し、区画内には棒状工具による沈線を充填する。	
20	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	断面三角の隆帯を貼付して区画をなし、区画内には原体ＬＲの単節斜縄文を施文する。	
21	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	原体Lの無節斜縄文を縦位に施文した後、磨り消し文と沈線を垂下させる。	
22	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	合撚と思われる原体を施文した後、磨り消し文と沈線を垂下させる。	
23	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。明黄褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、磨り消し文と沈線を垂下させる。	
24	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、磨り消し文を垂下させる。	
25	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。灰黄褐色。	原体ＬＲの細い単節斜縄文を縦位に施文した後、棒状工具による沈線を横位に施文する。沈線の上位には円形の押圧文が認められる。	
26	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。普通。橙色。	櫛歯状工具による条痕文を縦位に施文する。	
27	深鉢	胴部片	細砂粒をわずかに含む。良好。にぶい黄褐色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
28	深鉢	胴部片	石英を含む細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
29	深鉢	胴部片	石英を含む細砂粒を少量含む。良好。褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。28と同一個体と思われる。	
30	深鉢	胴部片	石英を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
31	深鉢	胴部片	石英を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。30と同一個体と思われる。	
32	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
33	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。普通。にぶい褐色。	器面が荒れているが、細い沈線を縦位に施文する。	
34	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。暗褐色。	断面台形の隆帯を横位に貼付した後、原体ＬＲの単節斜縄文を施文し、沈線を縦位に施す。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
35	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。普通。明赤褐色。	楕円形のモチーフを頸部に巡らした後、原体Ｒの撚糸文を縦位に施文する。	
36	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。普通。橙色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
37	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	原体Ｒの撚糸文を縦位に施文する。	
38	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。明褐灰色。	断面台形の上位に楕円形の凹みが横位に連続するものと思われる。外面の無文部はていねいな磨きが施される。	
39	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を横位に施文する。	
40	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。明褐色。	断面半円の隆帯で文様を描出した後、棒状工具による沈線を渦巻き状、弧状に施文する。	
41	深鉢	胴部片	石英、黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。暗褐色。	棒状工具による浅い沈線で区画をなした後、篦状工具による沈線を区画内に施文する。	
42	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	沈線を垂下させた後、角棒状工具による沈線を綾杉状に施文する。内面に焼成前に施された細沈線が認められる。	
43	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	断面半円の隆帯を弧状に貼付した後、隆帯に沿って沈線を施文する。40と同一個体か。	
44	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	沈線を垂下させた後、綾杉状の沈線を施文する。	
45	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。橙色。	沈線と細い粘土紐で籠目文をなした後、隆帯を２条、横位に貼付する。そこに棒状工具による刻みを付した後、隆帯に沿って沈線を施す。	
46	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。普通。黒褐色。	横位の沈線を施文した後、２条の沈線を垂下させる。その後、綾杉状の沈線を施文する。	
47	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	棒状工具による浅い沈線を縦位、あるいは斜位に施文する。	
48	深鉢	胴部片	石英、黒雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	弧状の沈線によって文様を区画した後、区画内にやや湾曲する沈線を施文する。	
49	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	棒状工具による短沈線を綾杉状に施文する。	
50	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文する。	
51	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。普通。明黄褐色。	断面半円の隆帯を同心円状に貼付する。	
52	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	沈線を弧状に施文する。47と同一個体か。	
53	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	非常に細い原体Ｌの撚糸を縦位に施文する。	
54	深鉢	胴部片	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。普通。にぶい褐色。	断面台形の隆帯の上に、楕円形の刺突文を施文する。	
55	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄橙色。	櫛歯状工具による沈線を縦位に施文する。	
56	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。褐灰色。	波状口縁を呈するものと思われる。低い隆帯によって区画をなし、区画内に原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文する。	
57	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	断面台形の隆帯を渦巻き状に貼付し、隆帯上、および隆帯に沿って沈線を施文する。	
58	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	櫛歯状工具による平行沈線で弧状の文様を描出する。内面は磨きを施す。	
59	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。褐灰色。	櫛歯状工具による平行沈線で弧状の文様を描出する。58と同一個体か。	
60	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。普通。明赤褐色。	粘土紐を波状に貼付した後、棒状工具による沈線を斜位に施文する。	
61	深鉢	胴部片	石英を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	平行する蛇行沈線を横位に施文する。	

18区17号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)②幅(㎜)③厚さ(㎜)④重量(g)				石　材	備　考
62	打斧	基部欠	108	47	17	92.0	黒色安山岩	
63	打斧	ほぼ完	104	47	13	92.0	変質安山岩	
64	磨石	完	114	66	27	321.9	粗粒輝石安山岩	

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)	②幅(mm)	③厚さ(mm)	④重量(g)	石　材	備　考
65	打斧	基部欠	73	50	16	67.9	細粒輝石安山岩	
66	打斧	刃部欠	80	46	16	66.4	変質安山岩	
67	スクレイパー	完	32	25	7	4.9	珪質変質岩	

18区18号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	胴部 胴径　30.0	砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	原体Ｒの撚糸文を縦位に施文した後、半裁竹管状工具による平行沈線を頸部に巡らすとともに、胴部には方形、あるいは渦巻き状に施文する。また、平行沈線で区画された一部には蛇行する沈線を横位に施文する。	
2	深鉢	胴上部～底部 底径　8.0	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	双環状の突起を付した後、粘土紐を幅広の「目」字状に貼付し、間にはＵ字状に貼付する。胴部は原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文する。	
3	深鉢	口縁部1/4 推定口径　38.0	細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	無文で磨きの施された口縁部の一部に、刻みの付された隆帯を弧状に貼付して区画をなす。区画内には沈線による渦巻き文と湾曲する沈線を施文する。	
4	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。褐色。	原体Ｒの撚糸文を縦位に施文する。	
5	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。普通。明赤褐色。	原体Ｒの撚糸文を縦位に施文した後、棒状工具による浅い沈線を３条、方形に施文する。	
6	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。普通。橙色。	原体Ｒの撚糸文を縦位に施文した後、棒状工具による浅い沈線を楕円に施文し、その中に沈線を１条、横位に施文する。５と同一個体か。	
7	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。普通。黒色。	原体Ｒの撚糸文を縦位に施文した後、棒状工具による浅い沈線を３条、方形に施文する。５、６と同一個体か。	
8	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	断面半円の隆帯を１条巡らし、その上に篦状工具による刻みを施す。その下位には原体Ｒの撚糸文を縦位に施文した後、棒状工具による浅い沈線を３条、隆帯に沿って横位に施文し、その後同じく３条の沈線を垂下させる。	
9	深鉢	口縁部突起	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	環状を呈すると思われる。突起の形状に沿って断面半円の隆帯を２条貼付した後、沈線と交互刺突文を施文する。内面にも断面三角の隆帯を貼付する。	
10	深鉢	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	口縁部は内面に稜を持つ。半裁竹環状工具による平行沈線と交互刺突文を横位に施文する。	
11	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	断面台形の隆帯を貼付した後、背割り状に沈線を施す。半隆起線を縦位に施文する。無文部はていねいに磨きを施す。	
12	深鉢	口縁部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。普通。灰黄褐色。	鋸歯状の口唇部は外反する。断面半円の隆帯を貼付した後、半裁竹管状工具による沈線で文様を描出する。	
13	深鉢	口縁部片	金雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	口唇部には棒状工具による刻みを付す。わずかな無文帯の下位に半裁竹管状工具による平行沈線を横位に施文する。	
14	深鉢	口縁部片	石英を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	口唇部は内側に肥厚し、口縁は波状口縁を呈するものと思われる。口縁部の無文帯の下位に棒状工具による沈線で文様を描出する。	
15	深鉢	頸部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。普通。褐色。	頸部の屈曲部と思われる。半裁竹管状工具による平行沈線を横位に施文する。	
16	台付鉢	台部1/3 推定底径　8.0	石英、金雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	緩やかに外側に開く台部。接合部には粘土を擦りつけた痕跡が認められる。	
17	深鉢	底部　底径　5.0	砂粒を少量含む。普通。にぶい褐色、内面は黒褐色。	原体１の無節斜縄文を縦位に施文した後、磨り消し文と沈線を垂下させる。	
18	深鉢	口縁部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	波状口縁の波頂部と思われる。幅広の凹線で渦巻き状の文様を描出する。無文部を経て頸部に凹線を１条巡らし、その下位には円形の刺突文を横位に施文する。	
19	深鉢	胴部片	金雲母を含む砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	断面三角の隆帯を貼付した後、隆帯に沿って沈線を施文する。隆帯上と沈線上に、同様の工具によると思われる刻みを付す。	
20	深鉢	口縁部片	石英を含む細砂粒を少量含む。良好。暗褐色。	角状の口縁部突起。口唇部には棒状工具による刻みが付され断面半円の隆帯を貼付した後、沈線を施文する。	
21	鉢形土器	口縁部片	細砂粒をわずかに含む。良好。にぶい褐色。	口唇部上に赤色塗彩の痕跡。内外面とも丁寧な撫で。	

18区18号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)	②幅(mm)	③厚さ(mm)	④重量(g)	石　材	備　考
22	石鏃	完	29	21	3	1.1	黒曜石	

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)	②幅(mm)	③厚さ(mm)	④重量(g)	石　材	備　考
23	石鏃	基部欠	24	17	5	1.3	黒曜石	
24	石鏃	基部欠	18	12	4	0.6	黒曜石	
25	凹石	完	89	75.5	52	468.2	粗粒輝石安山岩	

18区22号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	胴～底部 推定底径　6.5	細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	断面半円の隆帯を貼付して逆Ｊ字状の文様を描出した後、原体Ｒの撚糸を縦位および斜位に施文する。隆帯上にも撚糸文が乗るところがある。	
2	深鉢	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	半裁竹管状工具による平行沈線を横位に施文し、頸部には断面台形の隆帯を巡らした後、棒状工具による刺突文を３列施文する。	
3	深鉢	口縁部片	石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。	口唇部は内側に肥厚する。断面半円の隆帯を弧状に貼付した後、棒状工具による沈線を口縁および隆帯に沿って施文する。	
4	深鉢	口縁部片	黒雲母を含む砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	口縁はやや内彎する。断面台形の隆帯を半月状に貼付した後、隆帯上に背割り状の沈線を施すとともに刻みを付す。弧の端部は口縁から小さく突き出る。弧の中心は小さく瘤状に盛り上がり、ここから刻みの付いた隆帯が垂下される。弧の両側には棒状工具による短沈線を縦位に施文する。	
5	深鉢	胴部片	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	断面台形の隆帯を貼付した後、綾杉状に刻みを付す。その後棒状工具による浅い沈線で方形および弧状の文様を描出する。	
6	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	断面三角の隆帯を楕円形に貼付し、この区画の外側は棒状工具による沈線を斜位に施文する。この斜沈線の一部には角頭状の工具による刻みが施される。区画の内部は区画に沿った沈線が施文され、中心部には綾杉状の刻みが施される。	
7	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。橙色。	波状口縁を呈するものと思われる。波頂部は欠損。内面には稜を持つ。断面三角の隆帯を２条垂下させた後、棒状工具による沈線をやや弧状に施文する。	
8	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。良好。橙色。	橋状把手が付く突起部と思われる。両側および上部には渦巻き状の沈線、左右に横位の沈線と円形の刺突文が施文される。	
9	深鉢	胴部片	金雲母、石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	断面半円の隆帯を弧状に貼付し、その中央には三角形の瘤状の突起を貼付する。その後、半裁竹管状工具による平行沈線を隆帯に沿って施文し、原体ＲＬの単節斜縄文を施文する。	
10	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	原体Ｒの撚糸文を縦位に施文した後、棒状工具による沈線で区画をなす。	
11	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。普通。赤褐色。	小さな波状口縁。断面三角の低い隆帯を貼付した後、円形の刺突文を施す。一部には棒状工具による押し引き文を施す。	
12	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	原体Ｒの撚糸文を縦位に施文した後、沈線を同心円状および長方形の区画を施文する。	

18区22号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)	②幅(mm)	③厚さ(mm)	④重量(g)	石　材	備　考
13	石鏃	一部欠	25	18	7	2.3	黒曜石	
14	磨石	完	130	92	40	1011.6	閃緑岩	

18区23号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	底部　底径　11.2	石英を含む砂粒をやや多く含む。普通。明赤褐色。	一部に櫛歯状工具による斜沈線を施文する。	
2	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	磨きの施された無文部の下位に刻みの付された隆帯を貼付し、棒状工具による沈線を、縦位および横位に施文する。	
3	浅鉢	口縁部片	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	角頭状の口縁はわずかに外反する。断面台形の隆帯を円形に貼付する。外面に赤色塗彩の痕跡が認められる。	

18区23号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)	②幅(mm)	③厚さ(mm)	④重量(g)	石　材	備　考
4	磨石	完	103	71	62	571.8	粗粒輝石安山岩	

19区１号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁～胴上部 推定口径　21.0	砂粒をやや多く含む。普通。赤褐色。	４単位の波状口縁を呈するものと思われる。隆帯を貼付して口縁部に櫛形の文様帯を区画し、区画内には棒状工具による沈線を縦位に施文する。胴部は蛇行する沈線と綾杉状の沈線を施文する。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
2	鉢形土器	口縁～胴下部 推定口径　11.0	細砂粒を少量含む。良好。浅黄橙色。	頸部に隆帯と橋状の把手を貼付し、紐通し状の溝を作り出す。胴部は球形で、赤色塗彩の痕跡がわずかに認められる。	
3	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。普通。暗赤褐色。	口縁部は無文で、その下位に隆帯を渦巻き状に貼付する。そこから隆帯を垂下させた後、棒状工具による沈線を斜位に施文する。	
4	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線で文様を描出する。	
5	深鉢	胴部片	石英、金雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	断面半円の隆帯を垂下させた後、沈線を斜位に施文する。	
6	深鉢	口縁部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	口縁部に円形の刺突文を２段にわたって施文する。	
7	深鉢	口縁部片	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。灰オリーブ色。	口縁部の下位に沈線を１条巡らす。内外面とも磨きが施され、内面には赤色、外面には赤色と黒色の塗彩の痕跡が認められる。	

19区１号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(g)	石　材	備　考
8	石核？		74	82	5	306.4	変質安山岩	
9	打斧	ほぼ完	93	47	16	99.6	細粒輝石安山岩	
10	打斧	基部欠	96	39	17	86.7	細粒輝石安山岩	
11	打斧	刃部剥離	110	45	14	96.6	粗粒輝石安山岩	
12	凹石	完	98.5	92.5	47	587.1	粗粒輝石安山岩	
13	凹石	完	95.5	80.5	54	602.8	粗粒輝石安山岩	
14	磨石？	完	151	74	47	750.3	粗粒輝石安山岩	

19区４号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁～胴下部 口径　16.8 残存高　28.9	砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	器形は樽形を呈する。口縁部に渦巻き状の粘土紐による突起を、２段１組と１個のもので交互に貼付する。２段の突起から隆帯を貼付して大柄な渦巻き文を描出するとともに、そこから延びて剣先状を呈する。それぞれの渦巻き文の間は湾曲する沈線が施文され、渦巻き文の内部は放射状に沈線が施文される。口縁の突起を繋ぐように２条の隆帯を巡らし、それに沿って円形の刺突文が施文される。	
2	深鉢	口縁部　胴下部 推定口径　16.5	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	隆帯を大きくＵ字型に貼付して胴部を６単位に区画する。隆帯の端部は渦巻き状と∩字状が交互になり、隆帯の最下部からは１条の隆帯が垂下される。区画内は棒状工具による沈線を綾杉状に施文し、口縁に沿って沈線を施文する。	
3	深鉢	胴部 胴径　18.0	石英、金雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	器形は樽形を呈する。頸部に隆帯を１条巡らし、そこから隆帯を垂下させる。この隆帯の上端はＭ字状を呈する。胴部は緩やかに湾曲する沈線を鱗状に施文する。	
4	浅鉢	口縁～胴下部 推定口径　21.5	細砂粒を少量含む。良好。暗灰黄色。	口縁部は無文で下位に沈線を１条巡らす。波状口縁を呈し、波頂部には隆帯を貼付した後、沈線を施文して渦巻き文を描出する。胴部は原体ＲＬの単節斜縄文を横位に施文する。内面は磨きが施され、内面と、外面の無文部、渦巻き文部分に赤色塗彩の痕跡が認められる。	
5	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	隆帯を貼付して文様を描出した後、棒状工具による沈線を斜位に施文する。この破片の上端は欠損後に研削を受けている。	
6	深鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	隆帯を２条、横位に貼付した後、その下位に交互刺突文を施文し、細い沈線を施文する。それに重ねて沈線を蕨手状に施文する。	
7	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。暗褐色。	２条１単位の隆帯を弧状に貼付した後、棒状工具による沈線を施文する。	
8	深鉢	口縁部片	灰白色軽石粒を含む砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	隆帯を波状に貼付して口縁部に櫛形の文様帯を区画する。区画内には棒状工具による沈線を縦位に施文する。隆帯の波頂部には台状の突起を貼付し、そこから隆帯を垂下させる。	
9	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	２条の隆帯による腕骨文と蛇行する隆帯を貼付した後、やや湾曲する沈線を鱗状に施文する。内面に赤色塗彩の痕跡が明瞭に認められる。	
10	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	口縁部は無文。隆帯を貼付して大柄な渦巻き文と思われる文様を描出した後、棒状工具による沈線を斜位に施文する。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
11	深鉢	胴部片	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	沈線を横位に施文した後、その上位に円形の圧痕文を施文する。その下位には原体ＬＲの単節斜縄文を施文した後、∩字状の沈線と磨り消し文を施す。	

19区４号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)②幅(㎜)③厚さ(㎜)④重量(g)				石　材	備　考
12	石鏃	先端部欠	18	18	6	1.2	黒曜石	
13	打斧	基部欠	93	46	17	87.8	変質安山岩	
14	打斧	基部欠	63	41	15	40.5	黒色頁岩	
15	打斧	1/2	125	48	22	133.4	粗粒輝石安山岩	
16	打斧	ほぼ完	140	44	19	107.9	黒色安山岩	
17	磨斧	刃部欠	105	51	21	234.3	緑色片岩	
18	磨石	完	63	62	31.5	193.2	粗粒輝石安山岩	
19	磨石	完	119.5	72	51	654.6	粗粒輝石安山岩	

19区６号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁～胴上部 推定口径　39.0	砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	口縁部は無文で、内外に肥厚する。頸部をはさんで隆帯を２条巡らし、そこに文様帯を区画する。胴部は断面半円の隆帯で大柄な渦巻き文を描出する。頸部の文様帯、胴部の渦巻き文の内部にはやや湾曲する沈線を矢羽状、あるいは鱗状に施文する。	
2	深鉢	一部欠 口径　43.4 器高　63.5 底径　8.2	砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	断面半円の隆帯と沈線で口縁部に文様帯を区画し、区画内には原体ＬＲの単節斜縄文を施文する。胴部は同じ原体を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させるとともに蛇行する沈線を縄文の上に施文する。	
3	深鉢	胴部	砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	波状口縁を呈するものと思われる。断面台形の隆帯で楕円形の文様帯を区画するとともに渦巻き状の文様を描出する。区画内には原体ＲＬＲの複節斜縄文を充填する。胴部は同じ原体を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
4	深鉢	口縁～胴上部 口径　28.0	砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	４単位の波状口縁。波頂部は橋状に透かし穴を持つ。口唇部上に沈線が施される。断面台形の隆帯による渦巻き文と楕円形の文様帯を交互に配し、文様帯の区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を充填する。胴部は同じ原体を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
5	深鉢	口縁部片	石英を含む細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	口縁部に断面半円の隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には棒状工具による沈線を施文する。胴部は沈線を垂下させた後、緩やかに湾曲する沈線を綾杉状に施文する。この破片の下端は人為的な研磨を受けているものと思われる。	
6	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄橙色。	断面半円の隆帯を貼付して口縁部に文様帯を区画し、区画内には原体ＲＬの単節斜縄文および円形の押圧文を施文する。胴部は同じ原体を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
7	深鉢	口縁部片	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄橙色。	波状口縁の波頂部。断面台形の隆帯と沈線で口縁部に文様帯を区画し、区画内には原体ＬＲの単節斜縄文を充填する。隆帯上には円形の押圧文を施文する。胴部は原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
8	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	波状口縁の波頂部。断面三角の隆帯と沈線で口縁部に文様帯を区画し、区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を充填する。胴部は原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
9	深鉢	口縁部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	隆帯を貼付して、口縁部に渦巻き文と文様帯を区画する。区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を充填する。	
10	深鉢	口縁部片	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	口唇部は角頭状を呈し、内外面とも横方向の整形の痕跡が残る。	
11	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。褐色。	渦巻き状の突起を貼付した後、櫛歯状工具による条線を縦位に施文する。突起に沿って沈線を施文する。	
12	浅鉢か	口縁部片	石英を含む細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	２条の隆帯による腕骨文を貼付した後、凹線で文様を描出する。内外面とも丁寧な磨きが施され、赤色塗彩の痕跡が認められる。	
13	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	断面三角の隆帯で口縁部に文様帯を区画し、区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を充填する。胴部は同じ原体を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
14	鉢形土器か	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。灰黄褐色。	２条１単位の隆帯を腕骨文状に貼付した後、原体ＲＬの単節斜縄文を方向を変えて施文する。	
15	鉢形土器か	胴部片	石英を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄橙色。	断面台形の隆帯を貼付して、渦巻き文と口縁部文様帯を区画し、区画内には原体ＬＲの単節斜縄文を充填する。胴部は同じ原体を縦位に施文する。	
16	浅鉢か	口縁部片	石英を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄橙色。	内外面とも丁寧な磨きが施され、赤色塗彩の痕跡が明瞭に残る。	
17	浅鉢か	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	断面台形の低い隆帯を貼付して渦巻き文を描出する。隆帯上は赤色塗彩の痕跡が明瞭に残り、凹線部分には黒色の塗彩が施されていたものと思われる。内面も赤色塗彩が施される。	
18	浅鉢か	胴部片	石英、黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。灰黄色。	断面台形の低い隆帯を渦巻き状に貼付する。内面に赤色塗彩の痕跡が認められる。	
19	深鉢	胴部片	石英、金雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。明黄褐色。	断面半円の隆帯を渦巻き状に貼付した後、棒状工具による沈線を斜位に施文し、隆帯に沿って沈線を施文する。	
20	浅鉢か	口縁部1/4 推定口径　46.5	砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	内外面ともに丁寧な磨きが施され、赤色塗彩の痕跡が認められる。	
21	深鉢	口縁～胴上部 口径 19.4	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	櫛歯状工具による条線を斜位に施文した後、口唇部には円形の押圧文を２条巡らし、頸部には３条１単位の沈線を波状に巡らす。胴上位には円形の押圧文とそれを挟む横位の沈線が施文される。	

19区６号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(g)	石　材	備　考
22	石鏃	基部欠	12	11	3	0.3	黒曜石	
23	石鏃	完	27	18	4	1.1	ガラス質黒色安山岩	
24	磨斧	刃部欠	66	22.5	12.5	59.6	蛇紋岩	
25	磨斧	刃部欠	74	51	24	132.3	粗粒輝石安山岩	
26	打斧	基部欠	126	54	17	114.3	粗粒輝石安山岩	
27	磨石	完	142	55	42.5	399.5	粗粒輝石安山岩	
28	石皿	1/4？	181.5	130.5	113.5	2811.2	粗粒輝石安山岩	

19区７号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	一部欠 口径　26.0 器高　36.7 底径　9.0	砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	口縁部は無文で頸部に断面半円の隆帯を２条巡らす。胴部には原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、頸部の隆帯から２条１単位の隆帯による腕骨文と１条の隆帯を交互に垂下させる。縄文の上には蛇行する沈線を垂下させる。	
2	深鉢	口縁～胴上部 口径　37.0	石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	口縁には４単位の橋状把手が付くものと思われる。この把手を繋ぐように２条の隆帯が貼付され、中間には渦巻き状の突起を貼付する。口唇部とこの隆帯の間には沈線を斜位に施文する。頸部には３条１単位の隆帯を巡らし、４単位の、腕骨文になると思われる隆帯を垂下させる。隆帯の間には棒状工具による沈線を綾杉状に施文する。	
3	深鉢	口縁～胴下部 推定口径　22.0	細砂粒を少量含む。良好。褐色。	口縁部に２条１単位の隆帯によって渦巻き文と櫛形の文様帯を区画する。区画内には棒状工具による沈線を縦位に施文する。胴部は端部に瘤状の突起が付された隆帯を垂下させた後、頸部には縦位の沈線、胴部は綾杉状の沈線を施文する。また、瘤状の突起をつなぐように楕円形のモチーフを沈線で描出する。	
4	深鉢	口縁部1/5 推定口径　34.5	砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	口縁部は無文で口唇部は内側に肥厚する。頸部に２条１単位の隆帯を巡らし、そこから２条１単位の隆帯による腕骨文を垂下させる。その後、棒状工具による沈線を綾杉状に施文する。	
5	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	スタンプ状の突起。そこから断面三角の隆帯を口縁に沿って貼付する。その後、棒状工具による細沈線を縦位に施文する。	
6	深鉢	口縁～胴部1/4 推定口径　14.5	砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	口縁は内彎し、強いキャリパー型の器形。口唇部には沈線を２条巡らし、櫛歯状工具による条線を縦位に施文する。	
7	深鉢	口縁～胴上部1/3 推定口径　14.5	砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	波状口縁を呈するか、突起が付すものと思われる。口唇部に沿って隆帯を貼付し、口縁部は無文である。頸部に沈線を２条巡らし、そこから２条１単位の隆帯による腕骨文を垂下させる。その後、棒状工具による沈線を綾杉状に施文する。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
8	深鉢	口縁部片	金雲母、石英を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	口縁部は無文で口唇部は内側に断面半円の隆帯を１条巡らす。頸部に２条１単位の隆帯を巡らし、そこから２条１単位の隆帯による腕骨文を垂下させる。その後、棒状工具による沈線を綾杉状に施文する。	
9	深鉢	口縁部片	砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	口唇部は内側に傾斜する。直立気味の口縁部で、原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、棒状工具による刺突文を口縁に沿って施文する。	
10	浅鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	口縁部を１段下げて長楕円形の文様帯を区画し、区画に沿った沈線が端部で渦巻き文を描出する。無文部は磨きを施す。	
11	浅鉢	口縁部片 推定口径　34.0	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。橙色。	口唇部は角頭状を呈する。外面は丁寧な磨きが施され、赤色塗彩の痕跡が認められる。	
12	深鉢	口縁部片 推定口径　18.0	細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	４単位の小突起を持つと思われる口縁。突起からは渦巻き状に隆帯を貼付する。横位の沈線と隆帯で文様を描出し、その間に小刺突文を施す。口唇部と沈線内に赤色塗彩の痕跡が認められる。	
13	深鉢	胴部片	金雲母、石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	頸部に２条１単位の隆帯を巡らし、そこから２条１単位の隆帯による腕骨文を垂下させる。その後、棒状工具による沈線を綾杉状に施文する。	
14	深鉢	胴部片	金雲母、石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	頸部に隆帯を巡らし、そこから２条１単位の隆帯による腕骨文を垂下させる。その後、棒状工具による沈線を綾杉状に施文する。	
15	深鉢	胴部片	金雲母、石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	２条１単位の隆帯を垂下させた後、棒状工具による沈線を縦位に施文する。その後、肋骨状の横位の沈線を施文する。	
16	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	頸部に２条１単位の隆帯を巡らし、そこから２条１単位の隆帯による腕骨文と１条の隆帯を交互に垂下させる。その後、棒状工具による沈線を綾杉状に施文する。	
17	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	斜沈線に細い粘土紐を貼付して籠目文を描出する。籠目文の上位には連続刺突文を巡らす。下位には粘土紐を蛇行させて貼付する。	
18	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	斜沈線に細い粘土紐を貼付して籠目文を描出する。籠目文の上位、下位には隆帯を巡らす。	
19	深鉢	胴部	金雲母、石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	炉体土器のため２次的な被熱。２条１単位の隆帯による腕骨文を垂下させた後、棒状工具による沈線を綾杉状に施文する。	
20	深鉢	胴部1/3	金雲母、石英を含む細砂粒をやや多く含む。良好。明褐色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、端部が瘤状になる隆帯を垂下させ、隆帯に沿って磨り消しを施す。	
21	有孔鍔付土器	鍔部片	砂粒をやや多く含む。良好。灰黄褐色。	径６㎜の孔が外面から穿孔される。内外面とも磨きが施され、赤色塗彩の痕跡が認められる。	
22	釣手土器か	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	口唇部は面を持ち、沈線を渦巻き状に施文する。内面に炭化物が付着する。	
23	深鉢	底部 推定底径　17.0	砂粒をやや多く含む。普通。橙色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線を垂下させる。	

19区７号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(g)	石　材	備　考
24	石鏃	完	19	15	5	1.1	黒曜石	
25	石鏃	完	15	14	3	0.4	黒曜石	
26	石鏃	完	18	16	3	0.7	黒曜石	
27	打斧	刃部剥離	93	41.5	15	62.7	変質安山岩	
28	打斧	完？	94	52.5	19	79.4	変質安山岩	
29	打斧	完	114	54	29	187.7	粗粒輝石安山岩	
30	打斧	基部欠	87	70	25	203.4	細粒輝石安山岩	
31	磨斧	刃部欠	31	16	6	3.7	緑色片岩	
32	磨石か	完	48	43	28	71.8	粗粒輝石安山岩	
33	凹石	完	181	84	40	742.3	粗粒輝石安山岩	
34	石棒	基部欠	327	104.5	101	2811.2	緑色片岩	

19区８号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。普通。明赤褐色。	断面台形の低い隆帯を渦巻き状に貼付する。	

19区９号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁～胴上部1/3 推定口径17．0	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、口唇部下位に沈線を１条巡らす。	
2	深鉢	口縁～胴上部2/3 口径　29.5	石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	端部が渦巻き状を呈する隆帯で、口縁部に櫛形の文様帯を区画する。区画内には棒状工具による沈線を斜位に施文する。胴部は垂下する隆帯と蛇行する隆帯を交互に配した後、わずかに湾曲する沈線を鱗状に施文する。	
3	深鉢	口縁～胴上部1/3 推定口径　21.5	金雲母、石英を含む砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	断面台形の低い隆帯で口縁部に楕円形の文様帯を区画する。この隆帯上には棒状工具による押圧文が施される。文様帯の端部は渦巻き状を呈する。区画内は棒状工具による沈線を縦位に施文する。文様帯の端部から２条１単位の隆帯を垂下させるとともに、隆帯を横位に貼付して区画をなす。この区画内には沈線を斜位に施文する。	
4	深鉢	口縁～胴上部2/3 口径　21.6	石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	断面半円の隆帯で口縁部に長楕円形の文様帯を区画する。区画内には沈線を縦位に施文する。文様帯を区画する隆帯の接点は縄状を呈する突起が付される。胴部は隆帯を弧状に貼付して文様を描出した後、やや湾曲する沈線を斜位に施文する。	
5	浅鉢	胴部 推定最大径　52.5	細砂粒を少量含む。良好。橙色。	屈曲部には沈線を１条巡らし、その上位には断面半円の隆帯による渦巻き文と楕円形の文様帯を交互に配する。文様帯の内部には棒状工具による沈線を斜位に施文する。	
6	深鉢	胴部片	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄橙色。	口縁部文様帯の一部。文様帯の区画内には原体ＬＲの単節斜縄文を充填する。	
7	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
8	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	２条１単位の隆帯による腕骨文を垂下させた後、口唇部に沿って隆帯を巡らし、この隆帯上には押圧文を施す。胴部は緩やかに湾曲する沈線を鱗状に施文する。	
9	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。明褐色。	口縁は内折する。断面三角の隆帯で口縁部に文様帯を区画し、区画内には棒状工具による沈線を縦位に施文する。	
10	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい橙色。	断面半円による隆帯を大柄の渦巻き状に貼付した後、棒状工具による沈線を施文する。	

19区９号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(g)	石　材	備　考
11	石核か		32	51	21	28	黒曜石	
12	石鏃	基部欠	18	15	7	1.5	黒曜石	
13	石鏃	基部欠	17	12	3	0.4	黒曜石	
14	打斧	基部欠	113	51	20.5	117.1	変質安山岩	
15	ドリル	完？	22	7	3	0.6	黒曜石	
16	磨斧	刃部欠	103	61	22	249.8	変質蛇紋岩	
17	磨石	完	119	73	54	598.9	粗粒輝石安山岩	

19区10号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	胴部	石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。普通。赤褐色。	断面半円の隆帯、沈線を弧状に施文して文様を描出する。沈線の間には棒状工具による細沈線を斜位に施文する。円環状突起を隆帯の交点に貼付する。	
2	深鉢	胴部	砂粒をやや多く含む。普通。明赤褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、断面台形の幅広で低い隆帯を横位に貼付するとともに蕨手状に貼付し、この隆帯上にも原体ＲＬの単節斜縄文を施文する。隆帯に沿って平行沈線を施文し、また沈線を蕨手状に施文する。	
3	深鉢	口縁～胴下部 口径　19.6	石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。明褐色。	口唇部は内折する。原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、頸部には沈線を２条巡らし、口縁から胴下位にかけて、端部が蕨手状を呈する、蛇行する沈線を垂下させる。	
4	深鉢	口縁～胴上部 推定口径　19.0	金雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	緩く蛇行する沈線を貼付して、口縁部に文様帯を区画する。区画内には沈線を縦位に施文する。胴部には原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文する。	
5	深鉢	口縁～胴下部 口径　18.7	砂粒をやや多く含む。普通。明褐色。	端部が渦巻き状を呈する２条１単位の隆帯によって、口縁部に櫛形の文様帯を区画する。区画内には沈線を縦位に施文する。胴部は原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、腕状の張り出しを持つ３条１単位の沈線と蛇行する沈線を交互に垂下させる。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
6	深鉢	胴部	金雲母、石英を含む砂粒をやや多く含む。普通。明褐色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、腕状の張り出しを持つ３条１単位の沈線を垂下させるとともに、蛇行する沈線を垂下させる。	
7	深鉢	口縁～胴上部1/2 推定口径　17.5	金雲母、石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。明褐色。	頸部に蛇行する隆帯を貼付した後、それを挟むように隆帯を貼付する。胴部にも蛇行する沈線を貼付して文様を描出した後、沈線を縦位に施文する。口縁部は緩やかに内彎し、沈線を斜位に施文する。	
8	深鉢	胴部	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	３条１単位の隆帯による渦巻き文を、向きを変えて交互に配した後、沈線と連続刺突文を交互、あるいは２本間隔で縦位に施文する。また、渦巻き文の上端に沿って連続刺突文を施文する。	
9	深鉢	口縁～胴下部 口径　19.4 推定器高　33.5 底径　8.0	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	口縁部は緩やかに内彎し、口唇部は内側に肥厚する。頸部に断面台形の隆帯を１条巡らした後、口縁部には棒状工具による沈線を斜位に施文する。胴部は端部が蕨手状を呈する隆帯と端部が∩字状を呈する隆帯を交互に貼付した後、綾杉状の沈線とその中心に垂下する沈線を施文する。	
10	深鉢	口縁部突起	細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	脚を持つ円環状の突起。表面には断面三角の隆帯を渦巻き状に貼付し、棒状工具による沈線を斜位に施文する。内面にも断面三角の隆帯を貼付するとともに沈線を渦巻き状に施文する。	
11	深鉢	口縁～胴上部 推定口径　23.0	金雲母、石英を含む細砂粒を少量含む。良好。橙色。	口唇部は内側に肥厚する。２条１単位の隆帯によって口縁部に櫛形の文様帯を区画し、区画内には棒状工具による沈線を斜位に施文する。胴部は棒状工具による沈線を縦位に施文した後、頸部には蛇行する沈線を１条巡らす。胴部には蛇行する沈線を垂下させるとともに、三日月型のモチーフを沈線で描出する。	
12	深鉢	口縁部1/5 推定口径　31.0	金雲母、石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	断面半円の隆帯を１条巡らし、そこから３条１単位の隆帯による腕骨文を垂下させた後、棒状工具による沈線を斜位に施文する。口縁部には棒状工具による刺突文を隆帯に沿って施文する。	
13	深鉢	胴部	黒雲母を含む砂粒をやや多く含む。普通。橙色。	蛇行する隆帯と渦巻き状の張り出しを持つ隆帯を貼付した後、細沈線を縦位に施文し、楕円形のモチーフを肋骨状に施文する。	
14	深鉢	口縁～底部1/2 推定口径　39.0 器高　63.5 底径　10.0	細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	頸部に隆帯を貼付して隅丸長方形の文様帯を区画する。区画内には沈線を矢羽状に施文する。口縁部にはそこから延びる２条の隆帯をＳ字状に貼付する。この隆帯に沿って円形の刺突文を施文する。胴部は２条１単位の隆帯を貼付して大柄な渦巻き文を描出するとともに蛇行する隆帯、垂下する隆帯を貼付した後、棒状工具による沈線を斜位に施文する。	
15	深鉢	底部 底径　8.4	石英を含む砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	無文の底部。底面には網代痕が認められる。	
16	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	口唇部には断面台形の隆帯を１条巡らす。２条１単位の隆帯を貼付して口縁部文様帯を区画し、区画内には棒状工具による沈線を矢羽状に施文する。胴部は原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文する。	
17	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。灰黄褐色。	緩やかな波状口縁の波頂部。断面台形の隆帯と沈線で文様帯を区画する。区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を充填する。	
18	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。普通。橙色。	断面半円の隆帯を貼付して渦巻き状の文様を描出する。	
19	深鉢	胴部	石英を含む砂粒を少量含む。良好。にぶい黄橙色。	直線的に開く無文の胴部。縦位に整形の痕跡が認められる。	
20	深鉢	胴部	石英を含む細砂粒をやや多く含む。良好。明褐色。	２条１単位の隆帯と２条１単位の沈線を交互に垂下させた後、棒状工具による浅い沈線を乱雑な綾杉状に施文する。	
21	鉢形土器	口縁～胴上部 推定口径　59.0	細砂粒を少量含む。良好。明黄褐色。	屈曲部の上位に断面半円の隆帯を貼付して楕円形の文様帯と渦巻き文を配する。文様帯内部には棒状工具による沈線を施文し、周囲には棒状工具による刺突文を施文する。	
22	深鉢	口縁部片	金雲母、石英を含む細砂粒をやや多く含む。普通。暗赤褐色。	口唇部上には沈線を１条巡らす。棒状工具による沈線を斜位に施文する。	
23	深鉢	口縁部片	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	口唇部に沈線を１条巡らせた後、櫛歯状工具による条線を縦位、あるいは弧状に施文する。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
24	深鉢	胴部片	金雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	断面半円の隆帯を２条、横位に貼付する。	
25	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。橙色。	無文の口縁部は外反し、口唇部は内側に肥厚する。屈曲部には蛇行する沈線を貼付し、交互刺突文状の文様を描出する。	
26	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	断面半円の隆帯を貼付して楕円形の区画をなし、区画内には半裁竹管状工具によるコンパス文を横位に施文する。区画の下位には沈線を縦位に施文する。	
27	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	断面半円の隆帯を２条垂下させた後、棒状工具による沈線を縦位に施文し、長楕円形の文様を描出する。	
28	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	隆帯を貼付して文様を描出した後、棒状工具による沈線を縦位に施文する。	
29	深鉢	胴部片	砂粒を多く含む。普通。にぶい橙色。	断面半円の細い隆帯を貼付した後、縦位の沈線および楕円形の押圧文を施文する。	
30	深鉢	胴部片	金雲母、石英を含む砂粒をやや多く含む。普通。明赤褐色。	２条１単位の隆帯と３条１単位の隆帯を交互に垂下させた後、棒状工具による沈線を綾杉状に施文する。	
31	深鉢	胴部片	金雲母と石英を含む砂粒をやや多く含む。普通。橙色。	背割り状の沈線を持つ断面台形の隆帯を渦巻き状に貼付した後、棒状工具による沈線を施文する。	
32	深鉢	胴部片	金雲母、石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	断面半円の隆帯を弧状、あるいは渦巻き状に貼付した後、棒状工具による沈線を斜位に施文する。一部の隆帯の上面には棒状工具による刻みを付す。	
33	浅鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄橙色。	口唇部は面を持ち、沈線が２条施される。外面は磨き。	
34	鉢形土器	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄橙色。	口縁は屈曲して外反する。隆帯を貼付して沈線を渦巻き状に施文した後、沈線を縦位に施文する。36、39と同一個体。	
35	鉢形土器	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。浅黄橙色。	口縁は屈曲して外反する。沈線を１条巡らした下位に、短沈線を縦位に施文する。	
36	鉢形土器	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。浅黄色。	屈曲部には２条の隆帯を貼付した後、棒状工具による沈線を縦位、および渦巻き状に施文する。34、39と同一個体。	
37	有孔鍔付土器	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄橙色。	断面三角の鍔が巡り、径５㎜の孔が開けられる。	
38	浅鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄橙色。	口唇部は内外に肥厚する。	
39	鉢形土器	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。浅黄橙色。	屈曲部には２条の隆帯を貼付した後、棒状工具による沈線を縦位、および渦巻き状に施文する。34、36と同一個体。	

19区10号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ㎜	②幅㎜	③厚さ㎜	④重量(g)	石　材	備　考
40	石鏃	先端部欠	15	14	3	0.4	黒色頁岩	
41	石鏃	完	25	18	3	1.3	ガラス質黒色安山岩	
42	ドリル	先端部欠	27	9	5	1.3	ガラス質黒色安山岩	
43	石鏃	完	17	11	3	0.4	黒曜石	
44	石鏃	基部欠	24	16	3.5	0.7	黒曜石	
45	石鏃か	完か	48	35	1	16.7	凝灰岩	
46	スクレイパー	完か	41	31	11	13.4	チャート	
47	石核	－	55	39	17	39.3	黒色頁岩	
48	打斧	刃部欠	123	56	24	199.9	粗粒輝石安山岩	
49	打斧	刃部欠	109	38.5	19	89.6	黒色頁岩	
50	打斧	刃部欠	105	49	22	121.3	黒色頁岩	
51	打斧	完	120	45	19	124.3	粗粒輝石安山岩	
52	凹石	完	106	87.5	58	701.4	粗粒輝石安山岩	
53	凹石	完	141	79	37	608.3	粗粒輝石安山岩	
54	石皿	破片	193	141	98.5	2270.3	粗粒輝石安山岩	

19区14号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁部片	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を斜位に施文した後、半裁竹管状工具による平行沈線を、口唇部に巡らすとともに、そこから放射状に施文する。	
2	深鉢	胴部片	黒雲母、石英を含む砂粒をやや多く含む。普通。赤褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を斜位に施文した後、半裁竹管状工具による平行沈線を弧状に施文する。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
3	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄橙色。	断面半円の隆帯を２条貼付して口縁部に区画をなしているものと思われる。この隆帯の上部には櫛歯状工具による条線を斜位に施文する。無文の頸部を経て胴部には原体Ｒの撚糸文を縦位に施文した後、３条の浅い沈線を巡らすとともに２条の沈線を垂下させる。	
4	浅鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄橙色。	口唇部はやや肥厚して、角頭状を呈する。内外面とも丁寧な磨きを施し、外面には赤色塗彩の痕跡が認められる。	
5	深鉢	胴部片	砂粒を多く含む。良好。にぶい褐色。	断面半円の隆帯を２条貼付して区画をなし、２条の隆帯の間には篦状工具による刻みを充填する。区画内は棒状工具による沈線を縦位に施文する。	

19区14号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(g)	石　材	備　考
6	スクレイパー	完	53	96	12	59.2	黒色頁岩	

19区16号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	胴部片	石英、金雲母を含む砂粒を多く含む。良好。にぶい赤褐色。	頸部に断面半円の隆帯を２条巡らす。その下位に原体ＲＬの単節斜縄文と思われる縄文を施文する。器面が荒れて原体の確認が困難である。	
2	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	櫛歯状工具による条線を縦位に施文した後、蛇行する沈線を垂下させる。	
3	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。橙色。	やや内彎する口縁。沈線を２条、∩形に施文し、その内部に原体不明の縄文を施文する。	
4	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒を少量含む。普通。にぶい橙色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を施す。	
5	深鉢	胴部片	石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。明褐色。	２条１単位の隆帯を貼付した後、棒状工具による浅い沈線を縦位に施文する。	
6	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。普通。褐色。	断面三角の隆帯を横位に貼付した後、斜位の沈線と腕骨文状の沈線を施文する。	
7	深鉢	胴部片	黒雲母を含む砂粒をやや多く含む。普通。明褐色。	断面三角の隆帯を弧状に貼付した後、棒状工具による浅い沈線を施文する。	
8	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。橙色。	指頭によると思われる押圧を、口縁の内外から交互に施すことによって口唇部が波状を呈する。	

19区17号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	口縁は小さく波状を呈する。無文の口縁部の下位に断面三角の隆帯を巡らし、胴部は原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、∧形の沈線と磨り消し文を施す。	
2	深鉢	口縁部片	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	波状口縁を呈するものと思われる。無文の口縁部の下位に断面三角の隆帯を巡らし、胴部は原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、∧形の沈線と磨り消し文を施す。	
3	深鉢	口縁部片	石英を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	波状口縁の波頂部。無文の口縁部の下位に原体ＬＲの単節斜縄文を施文した後、沈線を施文する。	
4	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	断面三角の隆帯を貼付し、隆帯の交点は瘤状の突起になる。隆帯の内側に原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文する。	
5	深鉢	口縁部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい黄橙色。	無文の口縁部の下位に断面半円の隆帯を巡らす。隆帯の下位には縄文が施文されていたものと思われるが不明。	
6	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。明褐色。	断面三角の隆帯を垂下させた後、原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文し、隆帯を挟んで磨り消す。	
7	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。橙色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、∪字状の沈線と磨り消し文を施す。	
8	深鉢か	胴部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。やや不良。にぶい黄色。	原体不明の縄文を施文した後、沈線と磨り消し文を施す。	

19区17号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(g)	石　材	備　考
9	磨石	完	88	84	38	408.7	閃緑岩	

19区18号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	胴部	石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	最大径がやや上位にある樽形の器形。渦巻き状の張り出しを持つ隆帯を貼付した後、原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文する。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
2	深鉢	口縁部片	黒雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	隆帯を貼付して口縁部に長方形の文様帯を区画する。区画内には半裁竹管状工具による平行沈線と沈線による渦巻き文、交互刺突文を施文する。区画の接点には突起を貼付する。	
3	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。普通。赤褐色。	原体Ｒの撚糸文を縦位に施文する。	
4	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	断面三角の隆帯を貼付して、楕円形の区画をなす。区画内には棒状工具による刺突文を施文する。	
5	深鉢	口縁部片	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	原体Ｒの撚糸文を縦位に施文した後、頸部には２条１単位の隆帯を貼付し、撚糸文の上には断面半円の隆帯を弧状に貼付する。	
6	深鉢	胴部片	石英、金雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	断面三角の隆帯を貼付した後、棒状工具による沈線を斜位に施文する。	
7	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。普通。橙色。	棒状工具による沈線を縦位に施文した後、断面半円の隆帯を貼付する。	
8	深鉢か	胴部片	石英、金雲母を含む砂粒を多く含む。良好。暗赤褐色。	２条１単位の隆帯を巡らし、そこに同じく２条１単位の隆帯を垂下させる。	

19区18号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(g)	石　材	備　考
9	磨斧	刃部欠	39	21	7	10.5	蛇紋岩	

19区19号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、蛇行する沈線を施文する。	
2	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	断面半円の隆帯を垂下させた後、棒状工具による沈線を斜位に施文し、隆帯に沿って磨り消す。	
3	深鉢	胴部片	石英、黒雲母を含む砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	断面半円の隆帯を貼付した後、棒状工具による沈線を斜位に施文する。	
4	深鉢	胴部片	石英、金雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	３条１単位の隆帯による腕骨文を貼付した後、沈線を施文する。	
5	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	断面半円の隆帯を弧状に貼付した後、湾曲する沈線を鱗状に施文する。	

19区19号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(g)	石　材	備　考
6	石鏃	完	18	15.5	4	0.7	黒曜石	

19区20号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	胴部1/3	砂粒を少量含む。良好。橙色。	隆帯を貼付して３単位の渦巻き文と６単位の文様帯を区画する。胴部はそこから垂下する隆帯によって３単位に区画される。いずれも区画内は棒状工具による沈線を施文するが、口縁部の文様帯は矢羽状、胴部は綾杉状に施文される。	
2	深鉢	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。普通。にぶい黄褐色。	隆帯の貼付と陰刻によって、口縁部に渦巻き文と文様帯の区画をなす。区画内は棒状工具による沈線を斜位に施文する。	
3	深鉢	胴部片	石英を含む細砂粒を少量含む。良好。橙色。	２条１単位の隆帯による腕骨文を横位に施文した後、棒状工具による沈線を弧状あるいは斜位に施文する。	
4	深鉢	胴部片	金雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。橙色。	隆帯を貼付して渦巻き文を描出する。	
5	深鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	棒状工具による短沈線を綾杉状に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
6	深鉢	胴部片	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。明褐色。	棒状工具による沈線を綾杉状に施文する。	
7	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。良好。褐色。	２条１単位の隆帯と刻みの付された隆帯を交互に垂下させた後、棒状工具による沈線をやや乱雑に施文する。	

19区20号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(g)	石　材	備　考
8	打斧	完か	120	50	20	124.5	変質安山岩	
9	磨石	完	105.5	81	48.5	640.8	粗粒輝石安山岩	
10	磨石	完	346	284	136	15860	粗粒輝石安山岩	

19区22号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁～胴下部 推定口径　24.0	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	隆帯を貼付して楕円形の区画をなし、それらを繋ぐように隆帯を弧状に貼付する。区画内には弧状の沈線を施文するが、1単位の区画は縦位の沈線が施文される。胴部は湾曲する沈線を鱗状に施文した後、蛇行する沈線を垂下させる。	
2	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	波状口縁の波頂部。隆帯を貼付して渦巻き文と小さな区画をなし、区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を充填する。	
3	深鉢	胴部片	石英、黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
4	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。良好。にぶい黄橙色。	隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を充填する。文様帯の上位に赤色塗彩の痕跡がわずかに認められる。	
5	深鉢	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	波状口縁を呈するものと思われる。隆帯の貼付と陰刻によって口縁部に文様帯を区画する。区画内には棒状工具による沈線を弧状に施文する。	
6	鉢形土器	口縁～胴部片 推定口径　39.0	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄橙色。	無文の口縁部の下位に断面台形の隆帯を巡らす。その下位には隆帯の貼付と沈線によって渦巻き文を描出する。隆帯の間には原体ＲＬの単節斜縄文を横位に施文する。口縁の一部と沈線内に赤色塗彩の痕跡が認められる。	
7	深鉢	口縁部片	黒雲母を含む砂粒をやや多く含む。普通。明赤褐色。	波状口縁の波頂部を欠くものと思われる。波頂部に隆帯を貼付して渦巻き文を描出し、そこから隆帯を貼付して口縁部に櫛形の文様帯を区画する。区画内には棒状工具による沈線を縦位に施文する。胴部は隆帯を垂下させた後、沈線を斜位に施文する。	
8	深鉢	口縁部片	砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	波状口縁の波頂部を欠くものと思われる。口縁に沿って隆帯を貼付し、波頂部から３条１単位の隆帯を垂下させる。隆帯の外は沈線を斜位に施文する。	
9	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	断面三角の隆帯を弧状に貼付した後、棒状工具による沈線を斜位に施文する。	
10	深鉢	胴部片	黒雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	断面半円の隆帯をＵ字状に貼付した後、角棒状工具による沈線を斜位に施文する。	
11	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。褐色。	断面三角の隆帯を貼付して渦巻き文を描出した後、櫛歯状工具による条線を弧状に施文する。	

19区22号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)	②幅(mm)	③厚さ(mm)	④重量(g)	石　材	備　考
12	磨石	完	46	33.5	33	68.1	閃緑岩	
13	凹石	完	121	79	40	594.1	粗粒輝石安山岩	

19区23号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁～胴上部 口径　33.0	小礫を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	４単位の小さい波状口縁を呈する。隆帯を貼付して口縁部に４単位の文様帯を区画する。この文様帯は渦巻き文を持ち、楕円と長楕円の区画が交互に配される。区画内は原体ＬＲの単節斜縄文を充填する。胴部は同じ原体を縦位に施文した後、３条１単位の沈線と磨り消し文を垂下させる。	

19区23号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)	②幅(mm)	③厚さ(mm)	④重量(g)	石　材	備　考
2	凹石	完	127	103	58	1033. 6	粗粒輝石安山岩	
3	磨石	1/2	166	145	62	1799. 6	粗粒輝石安山岩	

19区25号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	底部 底径　6.5	石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	円筒形の器形を呈する。２条１単位の隆帯を垂下させた後、細沈線を縦位に施文する。	
2	深鉢	胴部片	石英、金雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	断面台形の低い隆帯を貼付した後、それに沿って沈線を施文するとともに、棒状工具による刻みを付す。	
3	深鉢	胴部片	石英、金雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	断面台形の低い隆帯を貼付した後、それに沿って沈線を施文する。２と同一個体と思われる。	
4	深鉢	胴部片	黒雲母を含む砂粒をやや多く含む。普通。褐色。	細沈線を横位に施文した後、半裁竹管状工具による平行沈線を縦位に施文する。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
5	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	２条１単位の隆帯を貼付した後、半裁竹管状工具による平行沈線を斜位に施文する。	
6	深鉢	胴部片	石英、金雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	断面半円の隆帯を貼付した後、ペン先状工具による刺突文と沈線を施文する。	
7	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	原体Ｒと思われる撚糸文を縦位に施文した後、半裁竹管状工具による平行沈線を垂下させる。	
8	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄橙色。	平行沈線を弧状に施文した後、原体不明の縄文を施文する。	

19区25号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(g)	石　材	備　考
9	石鏃	完	17	12	3	0.3	黒曜石	
10	ドリル	完か	26	7	3	0.6	黒曜石	

19区26号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁部1/5 推定口径　41.0	砂粒を少量含む。良好。浅黄色。	４単位の波状口縁を呈するものと思われる。口縁部には断面台形の隆帯と沈線で渦巻き文を描出するとともに、文様帯を区画する。区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を充填する。胴部も沈線で文様を区画し、区画内には同様の原体を施文する。	
2	深鉢	口縁部片	砂粒を少量含む。良好。浅黄橙色。	波状口縁の波頂部。沈線で渦巻き文が描出され、その内部には原体ＲＬの単節斜縄文を充填する。円形の押圧文を施文する。１と同一個体と思われる。	
3	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
4	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	隆帯を２条垂下させた後、沈線を斜位に施文する。	
5	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。良好。にぶい黄橙色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
6	深鉢	胴部片	白色鉱物粒を含む砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	沈線を３条垂下させる。沈線の右側に原体ＲＬの単節斜縄文と思われる縄文を施文する。	
7	深鉢	胴部片	石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	隆帯を２条垂下させ、その間に蛇行する隆帯を貼付するとともに、棒状工具による沈線を斜位に施文する。	

19区26号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(g)	石　材	備　考
8	ドリル	先端部欠	23	6.5	4.5	0.9	黒曜石	
9	石鏃	基部欠	18.5	14.5	3	0.5	黒曜石	
10	凹石	完	148	67	39	507.2	粗粒輝石安山岩	
11	磨石	一部欠	109.5	71	46	489	粗粒輝石安山岩	

19区29号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁～胴上部 口径　19.0	細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	口縁部は無文。頸部には２条１単位の隆帯を巡らし、６単位に突起を配する。その下位には斜位の沈線と、粘土紐を貼付することで籠目文を描出する。その下位にも２条１単位の隆帯を巡らし、８単位と思われる渦巻き状の突起を配する。そこから隆帯を垂下させるとともに、この隆帯の間には蛇行する隆帯を垂下させる。隆帯の間には棒状工具による沈線を斜位に施文する。	
2	深鉢	胴上部～胴下部	石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	口縁は無文で、頸部には２条１単位の隆帯を巡らし、そこから２条１単位の隆帯による腕骨文を垂下させる。腕骨文の間には隆帯を湾曲する楕円形に貼付したのち、原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文する。	
3	深鉢	口縁部片	白色鉱物粒を含む砂粒を多く含む。普通。暗赤褐色。	舌状の突起を持つ口縁。そこから鍵の手状に２条の隆帯を貼付し、１条の隆帯を垂下させる。その後、棒状工具による沈線を縦位に施文する。	
4	深鉢	口縁部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	波状口縁を呈する。口縁に沿って隆帯を貼付した後、原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文し、蛇行する沈線を垂下させる。口縁部内側に隆帯を横位に貼付する。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
5	深鉢	底部 底径　9.5	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、２条１単位の沈線を垂下させる。	
6	深鉢	胴部片	金雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	断面三角の隆帯と棒状工具による圧痕で輪積状を表現した突起を貼付した後、それに沿って押し引き文を施文する。	
7	浅鉢	胴部片	赤褐色粘土粒を含む砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	刻みを付した断面半円の隆帯を貼付して文様帯を区画する。区画内には棒状工具による沈線を渦巻き状、弧状に施文する。	
8	浅鉢？	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	屈曲部の上位に断面半円の隆帯を貼付することで沈線を表現する。この沈線状に半裁竹管状工具による刺突文を施文する。	
9	深鉢	口縁部片	砂粒を少量含む。良好。褐色。	隆帯を貼付して渦巻き状の文様を描出する。	
10	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、２条１単位の沈線を垂下させ、それを繋ぐように弧状の沈線を施文するとともに、蛇行する沈線を垂下させる。	
11	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文し、その下位に棒状工具による沈線を斜位に施文した後、断面半円の隆帯を２条、横位に貼付するとともに、渦巻き状の隆帯を貼付する。	
12	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	断面半円の隆帯を２条垂下させた後、押し引き文と沈線を垂下させる。	
13	深鉢	胴部片	白色鉱物を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	橋状の把手と思われる。背割り状の沈線と渦巻き状の沈線が施文され、この把手を囲むように沈線と刺突文を施文する。	
14	深鉢	胴部片	繊維と細砂粒を少量含む。良好。褐色。	木目状撚糸文を施文した後、施文具不明の押圧文を施文する。	

19区29号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(g)	石　材	備　考
15	石鏃	完	13.5	12	2.5	0.3	黒曜石	
16	磨石	完	139	77	52.5	861	粗粒輝石安山岩	
17	磨石	完	92	40	25	150.5	粗粒輝石安山岩	
18	磨石	完	152	93	42	952.4	粗粒輝石安山岩	

19区30号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	胴部1/3	砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	頸部に３条１単位の隆帯を巡らし、そこから腕骨文になると思われる３条の隆帯を垂下させる。腕骨文は頸部の隆帯を超えて上位に延びる。口縁部は無文だが、頸部の隆帯に沿って円形の刺突文を施文する。胴部は沈線で楕円形の区画をなし、区画内には斜位および綾杉状の沈線を施文する。	
2	深鉢	口縁～胴上部 推定口径　16.2	砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	４単位のスタンプ状の突起が付すものと思われる。口唇部に沿って断面半円の隆帯を巡らす。胴部は原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文する。	
3	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	頸部には断面三角の隆帯を２条巡らし、そこから２条の隆帯による腕骨文と１条の隆帯を垂下させた後、棒状工具による沈線を綾杉状に施文する。腕骨文は頸部より上位に延びる。	
4	深鉢	口縁～胴下部	石英、黒雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	口唇部は外側に肥厚するとともに、内面には断面三角の隆帯を貼付する。頸部に３条の隆帯を巡らし、そこから腕骨文になると思われる３条の隆帯を垂下させる。口縁部は隆帯に沿って沈線と刺突文を施文するが、縦横の隆帯の交点の上位では剣先文状になる。胴部は沈線を腕骨文状、綾杉状に施文する。	
5	深鉢	口縁～胴下部 推定口径　33.5	砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	隆帯を貼付して口縁部に文様帯を区画する。区画内には棒状工具による沈線を矢羽状に施文する。単位は不明だが橋状の把手が付していたものと思われる。文様帯の下位は無文で、頸部には２条の隆帯を巡らし、そこから２条１単位の隆帯と1条の隆帯を垂下させる。２条の隆帯は頸部の上位へも延びる。胴部は隆帯を垂下させた後、棒状工具による沈線を綾杉状に施文する。	
6	深鉢	胴部片	石英、金雲母を含む砂粒を多く含む。良好。暗赤褐色。	２条１単位の隆帯をＶ字状に貼付した後、棒状工具による沈線を施文する。	
7	深鉢	胴部片	石英、金雲母を含む砂粒を多く含む。良好。暗赤褐色。	頸部には２条１単位の隆帯を巡らし、そこから３条１単位の隆帯を垂下させた後、棒状工具による沈線を縦位に施文する。横位の隆帯の上位には円形の刺突文が連続して施文される。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
8	深鉢	口縁部片	石英、金雲母を含む砂粒を多く含む。良好。暗赤褐色。	口縁部は無文で内折する。頸部には２条１単位の隆帯を巡らし、そこから３条１単位の隆帯を垂下させた後、棒状工具による沈線を縦位に施文する。横位の隆帯の上位には円形の刺突文が連続して施文される。７と同一個体と思われる。	
9	深鉢	口縁部片	細砂粒と明褐色の粘土粒をやや多く含む。良好。褐色。	２条１単位の断面半円の隆帯によって、口縁部に櫛形の文様帯を区画し、区画内には棒状工具による沈線を縦位に施文する。胴部は原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、２条１単位の沈線を垂下させる。	
10	深鉢	口縁部片	石英、金雲母を含む砂粒を多く含む。良好。暗赤褐色。	口縁部は無文で内折する。頸部には２条１単位の隆帯を巡らし、そこから３条１単位の隆帯を垂下させるとともに、２条１単位の隆帯による剣先文を描出する。その後、棒状工具による沈線を縦位に施文する。横位の隆帯の上位には円形の刺突文が連続して施文される。７、８と同一個体と思われる。	
11	深鉢	底部片 推定底径　9.0	石英を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい黄橙色。	深鉢の底部であろう。２次的な被熱のためか、器面が荒れて文様の確認が困難であるが、無文と思われる。	
12	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	３条１単位の隆帯による腕骨文を垂下させた後、沈線で∩字や蕨手状の文様を描出した後、浅い沈線を斜位に施文する。	
13	深鉢	口縁部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。灰黄褐色。	波状口縁を呈するものと思われる。口唇部は直線的に内傾する。原体ＲＬの単節斜縄文を方向を変えて施文する。	
14	深鉢	口縁部片	砂粒を少量含む。良好。橙色。	断面半円の隆帯を弧状に貼付した後、口唇部には沈線を１条巡らし、その下位には縦位に沈線を施文する。その後、隆帯に沿って沈線を施す。	
15	深鉢	胴部片	石英、金雲母を含む砂粒を多く含む。普通。にぶい赤褐色。	３条１単位の隆帯を貼付した後、棒状工具による沈線を縦位に施文する。	
16	深鉢	胴部片	石英、金雲母を含む砂粒を多く含む。普通。暗赤褐色。	２条１単位の隆帯を弧状に貼付した後、棒状工具による沈線を縦位に施文する。	
17	深鉢	胴部片	石英、金雲母を含む砂粒を多く含む。普通。暗赤褐色。	２条１単位の隆帯を貼付した後、棒状工具による沈線を縦位に施文する。	
18	深鉢	胴部片	石英、金雲母を含む砂粒を多く含む。普通。暗赤褐色。	２条１単位の隆帯を弧状、あるいは蕨手状に貼付した後、短沈線を施文する。	
19	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒を多く含む。良好。灰黄褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線を垂下させる。	
20	深鉢	胴部片	石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄橙色。	断面半円の隆帯を弧状に貼付した後、それに沿って沈線を同心円状に施文する。沈線の一部に棒状工具による刺突文を施文する。	
21	深鉢	胴部片	石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。普通。明赤褐色。	断面半円の隆帯を貼付して、腕骨文と思われる文様を描出した後、棒状工具による沈線を斜位、あるいは縦位に施文する。	
22	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。良好。褐色。	断面台形の隆帯を巡らし、その下位に細沈線を縦位に施文した後、横位に施文し、籠目状の文様を描出する。	
23	鉢形土器か	胴部片	細かい石英と小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	沈線で楕円形の文様帯を区画し、区画内には浅い沈線を縦位に施文する。文様帯の間には断面半円の隆帯を渦巻き状に貼付する。	
24	浅鉢？	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	屈曲部の上位に楕円形と思われる文様帯を区画し、区画内には棒状工具による沈線を施文した後、区画に沿って沈線を施文する。	
25	浅鉢	胴部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	屈曲部の上位には沈線を２条巡らす。内面に赤色塗彩の痕跡が認められる。	

19区30号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(g)	石　材	備　考
26	石鏃	完	21	14.5	4	0.8	黒曜石	
27	石鏃	先端部欠	13	15	3	0.6	黒曜石	
28	石鏃	先端部欠	20	13.5	5	1.0	黒曜石	
29	石鏃	先端部欠	15.5	11.5	2.5	0.4	黒曜石	
30	石鏃	基部欠	18.5	12	3	0.5	黒曜石	
31	石鏃	基部欠	15	11.5	3.5	0.4	黒曜石	
32	石鏃	先端部欠	9.5	7.5	2.5	0.1	黒曜石	
33	ドリル	先端部欠	19	7.5	4	0.6	黒曜石	
34	石匙か	ほぼ完	102	47	18	85.8	細粒輝石安山岩	
35	磨石	完	87	54	10	51.5	凝灰質砂岩	

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)	②幅(mm)	③厚さ(mm)	④重量(g)	石 材	備 考
36	凹石	一部欠	118	75	42	579.8	粗粒輝石安山岩	
37	磨石	完	126	83	54	855.7	粗粒輝石安山岩	
38	多孔石	完	232	180	114	5000	粗粒輝石安山岩	
39	磨石	1/2	125	175	90	3000	粗粒輝石安山岩	

19区34号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁～胴下部1/2 推定口径　20.0	砂粒を多く含む。良好。明赤褐色。	沈線で装飾された１単位の橋状把手を持つ。口縁は３単位と思われる小突起が付され、口唇部に沿って沈線を１条巡らす。胴部は原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、３条１単位の横位の沈線と２条１単位の縦位の沈線によって４分割される。分割された区画内には３条１単位の波状の沈線が施文される。	
2	深鉢	口縁～胴下部 推定口径　16.5	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	口縁は無文で頸部には細沈線を２条巡らす。その下位には低い隆帯を長楕円形に貼付した後、半裁竹管状工具による平行沈線を斜位に施文する。隆帯の下位にも２条１単位の断面三角の隆帯を垂下させた後、半裁竹管状工具による平行沈線と押し引き文を縦位に施文する。	
3	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。普通。明赤褐色。	２条１単位の隆帯を弧状に貼付して文様を描出した後、原体ＲＬと思われる単節斜縄文を施文する。	
4	深鉢	口縁部1/4 推定口径　18.0	細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	４単位の波状口縁を呈するものと思われる。波頂部下位には沈線による渦巻き文を配する。断面台形の低い隆帯で口縁部に楕円形の文様帯を区画し、区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を方向を変えて施文する。胴部は同じ原体を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
5	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	断面半円の隆帯で口縁部に文様帯を区画する。区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を充填する。文様帯の下位は無文。	
6	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。褐色。	隆帯で口縁部に文様帯を区画し、区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を充填する。文様帯の下位は無文で、頸部に連続刺突文を巡らす。	
7	深鉢	口縁部片	砂粒を多く含む。良好。暗褐色。	波状口縁の波頂部。蕨手状の沈線を方向を変えて施文する。	
8	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	隆帯を貼付して渦巻き状の突起をなす。口縁部に隆帯と沈線で楕円形の文様帯を区画し、区画内には、撚りのゆるい原体ＲＬの単節斜縄文を横位に施文する。	
9	深鉢	口縁部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	波状口縁を呈するものと思われる。口唇部に沿って断面三角の隆帯を貼付し、胴部には原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文する。	
10	深鉢	口縁部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。黄褐色。	断面三角の隆帯を貼付して、蕨手状、∩字状の文様を描出した後沈線を横位に施文する。	
11	深鉢	口縁部片	金雲母、石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	口唇部はやや外傾する。口唇部下位にペン先状工具による連続刺突文を４条巡らせ、その下位には沈線を横Ｓ字状に連続して施文する。	
12	深鉢	口縁部片	砂粒を多く含む。良好。明褐色。	口唇部内面に断面三角の隆帯を１条巡らす。外面は断面三角の隆帯を貼付して文様を描出した後、円形の刺突文を施文する。	
13	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。普通。暗褐色。	口縁は小さく外反する。背割り状の沈線を持つ隆帯を貼付した後、棒状工具による沈線を斜位、あるいは縦位に施文する。	
14	深鉢	口縁部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	口縁は小さく外反する。その下位に、背割り状の沈線を持つ断面三角の隆帯を２条巡らす。	
15	深鉢	口縁部片	金雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	波状口縁を呈するものと思われる。断面三角の隆帯を貼付して口縁部に楕円形の文様帯を区画する。区画内には区画に沿って押し引き文を施文し、区画中央部には蛇行する押し引き文を施文する。区画の下位の隆帯には棒状工具による押圧文を施文する。	
16	深鉢	口縁部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	波状口縁を呈するものと思われる。断面三角の隆帯を貼付して口縁部に楕形の文様帯を区画する。区画内には棒状工具による沈線を縦位に施文する。区画の下位には蕨手状の沈線文と縦位の沈線を施文する。	
17	深鉢	口縁部突起	砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	円環状の突起。外面はＳ字状に隆帯を貼付した後、沈線と円形の刺突文で文様を描出する。内面は渦巻き状の沈線と刺突文で文様を描出する。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
18	深鉢	胴下部	砂粒を少量含む。良好。褐色。	胴部に直前段－前々段合撚の原体を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
19	深鉢	口縁部片	石英を含む砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	直立気味の器形で、棒状工具による細沈線を斜位に施文した後、沈線を頸部に巡らし、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
20	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。普通。にぶい黄褐色。	断面三角の隆帯と双環状の突起を貼付した後、棒状工具による沈線を横位に施文する。	
21	深鉢	口縁部片	金雲母、石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	断面台形の隆帯を横位に貼付した後、隆帯の上下位に原体ＬＲの単節斜縄文を横位に施文する。また、隆帯の上には棒状工具による押圧文を施文する。	
22	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。明黄褐色。	小突起の付く波状口縁か。口唇部上は面をもち、沈線で文様を描出する。隆帯を渦巻き状に貼付し、そこから２条１単位の隆帯を垂下させる。	
23	深鉢	口縁部片	石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	円環状の突起。内外面とも断面三角の隆帯を渦巻き状に貼付する。外面はその下位に原体不明の縄文が施文されていると思われる。	
24	深鉢	把手	細砂粒を少量含む。普通。明黄褐色。	橋状の把手。内外面とも無文で器面はやや荒れる。	
25	浅鉢？	胴部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	隆帯を弧状に貼付して、端部は渦巻き文を呈する。頸部には隆帯による楕円形のモチーフを連続して施文する。	
26	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。普通。明赤褐色。	断面三角の隆帯をＳ字状に貼付した後、その左右に交互刺突文を施文する。	
27	鉢形土器	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。橙色。	屈曲部の下位に、蛇行する沈線、弧状の沈線を施文して文様を描出する。	
28	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	２条の隆帯を貼付して、文様帯を区画する。区画する隆帯の間には円形の刺突文を施文する。区画内には斜位の沈線の上に粘土紐を貼付することで籠目文を描出する。区画の接点には撚紐状を呈する突起を貼付する。	
29	深鉢	口縁部片	砂粒を多く含む。やや不良。黒褐色。	波状口縁を呈するものと思われる。隆帯を２条、横位に貼付した後、その上位には円形の刺突文を、下位には交互刺突文を施文する。口唇部内側には隆帯を１条貼付する。	
30	深鉢	胴部片	石英、金雲母を含む細砂粒をやや多く含む。普通。黒褐色。	屈曲部に隆帯を巡らし、その上位には沈線と円形の刺突文で文様を描出する。下位はＵ字型と三角形に隆帯を貼付し、三角形の区画の内部には円形の刺突文を充填する。この隆帯に沿って刺突文を施文する。	
31	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。普通。暗褐色。	隆帯を貼付して、文様帯を区画する。区画内には斜位の沈線の上に粘土紐を貼付することで籠目文を描出する。区画の接点には撚紐状を呈する突起を貼付する。胴部には篦状工具による沈線を斜位に施文した後、沈線を垂下させる。	
32	深鉢	胴部片	石英、金雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	断面台形の隆帯を横位に貼付し、そこから隆帯を垂下させた後、横位の隆帯の上位には縦位の沈線、下位には綾杉状の沈線をそれぞれ施文する。	
33	深鉢	胴部片	石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	２条１単位の隆帯を貼付して方形の区画をなす。区画内には棒状工具による短沈線を、隆帯の間には棒状工具による刺突文を施文する。	
34	浅鉢？	口縁部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	隆帯を弧状に貼付して、端部は渦巻き文を呈する。頸部には隆帯による楕円形のモチーフを連続して施文する。25と同一個体と思われる。	
35	深鉢	口縁部片	砂粒を少量含む。良好。にぶい黄橙色。	口唇部は角頭状を呈し、内外面とも磨きが施される。内外面ともに赤色塗彩の痕跡が認められる。	
36	浅鉢	口縁部片	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	口縁部の下位に細沈線を１条巡らす。外面に赤色塗彩の痕跡が認められる。	
37	浅鉢	口縁部片	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。橙色。	やや外反する口縁。口縁内面に段を持つ。内外面とも赤色塗彩の痕跡が認められる。	
38	浅鉢	口縁部片	白色鉱物粒を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	口唇部は内側に肥厚する。外面と口唇部上面に赤色塗彩の痕跡が認められる。	

19区34号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)	②幅(mm)	③厚さ(mm)	④重量(g)	石　材	備　考
39	石匙	1/2	31	21	7	4.1	変質安山岩	
40	石鏃	完	13.5	11	3	0.4	黒曜石	
41	石鏃	基部欠	22.5	19	6	2.4	黒曜石	

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(g)	石　材	備　考
42	ドリル	基部欠	18.5	8	6	1.0	黒曜石	
43	石鏃	基部欠	27	24	10.5	5.5	珪化変質岩	
44	石鏃	基部欠	18	13	4.5	0.5	珪化ホルンフェルス	
45	石鏃	完	17.5	12	2	0.4	黒色安山岩	
46	ドリル	先端部欠	20	22	4.5	1.7	チャート	
47	打斧	基部欠	81	59.5	21.5	115.8	粗粒輝石安山岩	
48	打斧	刃部欠	111	53	23.5	170.5	粗粒輝石安山岩	
49	打斧	基部欠	116.5	54	19	135.9	変質安山岩	
50	打斧	完	121.5	50	15	94.3	粗粒輝石安山岩	
51	磨石	完	136.5	89.5	61	1078.8	粗粒輝石安山岩	
52	磨石	完	96	64	25	203.5	粗粒輝石安山岩	
53	磨石	完	144	82	34	704.9	粗粒輝石安山岩	
54	磨石	完	88	65	40	309.6	粗粒輝石安山岩	
55	石皿	破片	123	155	58	807.3	粗粒輝石安山岩	
56	石皿	1/2？	300	202	80	5100	粗粒輝石安山岩	
57	石棒	1/3？	544	156	86	13240	緑色片岩	

19区35号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	鉢形土器	口縁～底部2/3 推定口径　41.0 器高　36.5 底径　9.4	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	口縁は無文で、口唇部は角頭状を呈する。口縁部の下位に断面半円の隆帯と沈線で文様帯を区画し、区画内には原体ＬＲＬの複節斜縄文を施文する。胴部も同じ原体を縦位からやや方向を変えて施文する。	
2	深鉢	口縁～胴上部1/2 推定口径　18.5	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。黄褐色。	４単位の波状口縁。波頂部は外反し、内面にくぼみをつける。沈線で口縁部文様帯と渦巻き文を描出し区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を充填する。胴部は同じ原体を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
3	有孔鍔付土器	口縁～胴下部 推定口径　8.5	細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	直立気味の口縁の下位に、断面三角の鍔が巡り、鍔に径３㎜の孔があけられる。孔の中と鍔の下位に赤色塗彩の痕跡が認められる。	
4	深鉢	口縁～胴上部1/3 推定口径　27.0	砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	内面にくぼみを持つ舌状の突起が付く。隆帯を貼付して、渦巻き文と楕円形の区画をなし、区画内には弧状の沈線を充填する。胴部は沈線を渦巻き状、弧状に施文する。	
5	浅鉢	口縁部片	金雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄橙色。	口縁内側に段を持ち、そこから外反する。内外面とも磨きが施され、赤色塗彩の痕跡が認められる。	
6	深鉢	口縁部片	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	波状口縁を呈すると思われる。撚りの緩い原体ＬＲの単節斜縄文を施文した後、沈線で文様を描出する。	
7	深鉢	口縁部片 推定口径　55.0	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。にぶい黄橙色。	大型の深鉢。断面三角の隆帯を貼付して口縁部に文様帯を区画する。区画内は一部に原体ＲＬの単節斜縄文を施文するが、それ以外は無文である。	
8	深鉢	口縁部片	金雲母と白色鉱物粒を含む砂粒を少量含む。良好。にぶい黄橙色。	口縁部に段を持ち、角頭状を呈する。内外面ともに磨きが施され、赤色塗彩の痕跡が認められる。	
9	深鉢	口縁部片	砂粒を少量含む。良好。灰黄褐色。	小さく外反する角頭状の口縁。口唇部上面と内面に赤色塗彩の痕跡が認められる。	
10	深鉢	口縁～胴上部 推定口径　18.0	砂粒をやや多く含む。普通。にぶい黄褐色。	スタンプ状の突起が付く。原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線を弧状、あるいは同心円状に施文して文様を描出する。	
11	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	波状口縁の波頂部で、小さく外反する。口唇部内面には渦巻き状のくぼみが付される。外面は断面台形の隆帯と沈線で渦巻き文を描出する。	
12	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	隆帯で口縁部に文様帯を区画する。区画内は原体ＲＬの単節斜縄文を充填する。その後、区画に沿って磨り消し。	
13	浅鉢？	口縁部片	砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	外側に肥厚する角頭状の口縁。内外面ともに磨きが施され、赤色塗彩の痕跡が認められる。	
14	深鉢	口縁部片	砂粒を多く含む。普通。灰褐色。	無文の口縁部。内面に隆帯を貼付し、その上に篦状工具による沈線を施文する。	
15	浅鉢か	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	無文の口縁で、内外面ともに磨きが施され、赤色塗彩の痕跡が認められる。	
16	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	断面半円の低い隆帯を貼付した後、その上下に沈線を巡らす。内外面とも赤色塗彩の痕跡が認められる。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
17	深鉢	口縁部片	石英を含む砂粒を少量含む。良好。灰褐色。	沈線で口縁部に渦巻き文とともに文様帯が区画されるものと思われる。	
18	浅鉢	口縁部1/3 推定口径　41.0	黒色鉱物を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	無文の口縁部。内外面とも横位の整形痕が顕著に認められる。	
19	深鉢	口縁部片	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	小さい波状口縁の波頂部。つまみ状の突起を貼付した後、棒状工具による沈線で、口縁部には楕円形の文様帯を区画し、区画内には斜位の沈線を充填する。胴部は沈線を垂下させた後、沈線を綾杉状に施文する。	
20	深鉢	口縁部突起	細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	透かし穴を持つスタンプ状の突起。内外面とも断面三角の隆帯を貼付して文様を描出する。上面は沈線を渦巻き状に施文する。	
21	鉢形土器	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。オリーブ黒色。	隆帯を貼付し、橋状の把手を持つ紐通し状の溝を作り出す。その下位には沈線で文様を描出する。内外面ともに赤色塗彩の痕跡が比較的明瞭に残る。	
22	深鉢	胴部片	炭化したような黒色の鉱物粒を含む砂粒を少量含む。良好。暗褐色。	無文の口縁部の下位に断面半円の隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を充填した後、区画に沿って磨り消し。中央の欠損部には橋状の把手が付していたものと思われる。胴部は櫛歯状工具による条線を縦位に施文する。	
23	浅鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	隆帯を貼付して文様を区画し、区画内には棒状工具による沈線を斜位に施文する。隆帯の上には篦状工具による刻みを付ける。屈曲部の下位は無文。	
24	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。良好。黄褐色。	無文の口縁部の下位に断面台形の隆帯で文様帯を区画する。区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を充填し、区画に沿って磨り消し。	
25	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。普通。橙色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。縄文の上には強く蛇行する沈線を施文する。	
26	深鉢	底部片 底径　5.5	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	円筒状の器形。内面に横位の整形痕が認められる。	
27	深鉢	胴下部片	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。明褐色。	断面台形の低い隆帯を垂下させた後、原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文し、磨り消し文を垂下させる。内面は丁寧な磨きを施す。	
28	深鉢	底部片 底径　7.0	砂粒をやや多く含む。普通。赤褐色。	無文で直線的に開く。	
29	深鉢	胴部片	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	口縁部には沈線で文様帯を区画し、区画内には原体ＬＲの単節斜縄文を充填する。胴部は同じ原体を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
30	深鉢	口縁部片	黒雲母を含む砂粒をやや多く含む。普通。褐色。	口縁部に耳朶状の突起を貼付した後、撚りの緩い原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文する。口縁部にはボタン状の突起を貼付し、そこに円形の刺突文を施す。	
31	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。褐色。	波状口縁の波頂部。口唇部は角頭状を呈する。原体ＲＬの単節斜縄文を施文した後、細い粘土紐を口縁に沿って鋸歯状に貼付する。	
32	深鉢	胴部片	石英、金雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	連続する円環状突起を貼付した後、棒状工具による沈線を施文する。	
33	深鉢	胴部片	黒雲母を含む砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	円環状突起と輪積状突起を貼付した後、棒状工具による半隆起線を横位、斜位に施文する。	
34	深鉢	口縁部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	角頭状の口縁。原体０段多状ＲＬの単節斜縄文を方向を変えて施文した後、半裁竹管による連続爪形文を３条、口唇部に巡らす。	
35	深鉢	胴部片	石英を含む細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	浅い沈線を縦位に施文した後、その上下に連続刺突文を施文する。表面に炭化物が付着する。	
36	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。地文の縄文の上には蛇行する沈線を施文する。	

19区35号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(g)	石　材	備　考
37	石鏃	先端部欠	24	15.5	3	0.8	黒曜石	
38	石鏃	ほぼ完	17	13	4	0.5	黒曜石	
39	石鏃	1/2	19	11	4	0.5	黒曜石	
40	石鏃	先端部欠	10.5	16.5	3	0.5	黒曜石	

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(g)	石　材	備　考
41	石鏃	基部欠	14	9	3	0.3	黒曜石	
42	石鏃	先端部欠	11.5	21	5	1.0	黒曜石	
43	石鏃	－	22.5	17	6	2.1	黒曜石	未製品か
44	石鏃	基部欠	14	7.5	3	0.3	黒曜石	
45	石鏃	完	20.5	14	4	0.7	チャート（変質？）	
46	石鏃	基部欠	22	18	7	1.5	チャート（変質？）	
47	石鏃	先端部欠	13	17	3	0.5	黒曜石	
48	ドリル	基部欠	18	6	3	0.3	黒曜石	
49	ドリル	先端部欠	25	6	4	0.7	黒曜石	
50	打斧	刃部欠	110	51.5	21.5	117.9	デイサイト	
51	打斧	基部欠か	93	53.5	14.5	73.3	変質安山岩	
52	打斧	刃部欠	110	59	26	167.8	粗粒輝石安山岩	
53	打斧	基部欠	87	55	22	144.4	変質安山岩	
54	打斧	基部欠	90	43	14	66.9	粗粒輝石安山岩	
55	打斧	基部欠	80	49	22	100.1	変質安山岩	
56	打斧	基部欠	90.5	48	12	67.9	変質安山岩	
57	打斧	完か	111	53	22	124.3	粗粒輝石安山岩	
58	打斧	刃部欠	88	43.5	14	57.5	黒色頁岩	
59	打斧	完	123.5	50	17	136.8	粗粒輝石安山岩	
60	石匙	完	95.5	41.5	13	49.3	粗粒輝石安山岩	
61	多孔石？	1/4？	150	135	70	1614.2	粗粒輝石安山岩	
62	石棒	基部？	202	160	155	7200	デイサイト	

19区38号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁部片	砂粒を少量含む。普通。明赤褐色。	原体不明の縄文を施文した後、浅い沈線を弧状に施文する。	
2	深鉢	胴部片	砂粒を多く含む。良好。橙色。	器面が荒れて文様の確認が困難だが、不明の縄文を施文した後、平行沈線を施文していると思われる。	
3	浅鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄橙色。	内外面とも磨きを施す。	
4	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。普通。橙色。	断面三角の隆帯を横位に貼付する。	

19区39号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(g)	石　材	備　考
1	多孔石	完	215	170	123	6700	粗粒輝石安山岩	

19区41号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁～胴上部 口径　45.0	細砂粒を多く含む。普通。明赤褐色。	口縁には４単位の渦巻き状の突起が配されるものと思われる。そこから断面三角の隆帯を口縁に沿って貼付する。胴部は原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、３条１単位の沈線を腕骨文状に施文し、そこから弧状に延びる沈線は剣先文状を呈する。	
2	深鉢	胴部	砂粒をやや多く含む。普通。明赤褐色。	円筒形の胴部。３条１単位の隆帯による腕骨文を垂下させた後、細沈線を綾杉状に施文する。	
3	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	円環状の突起と瘤状の突起を貼付した後、断面三角の隆帯を垂下させる。その後、棒状工具による沈線を施文する。	
4	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。普通。橙色。	２条１単位の隆帯による腕骨文を貼付した後、沈線を綾杉状に施文するとともに２条１単位の沈線を垂下させる。	
5	深鉢	口縁部片	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。普通。にぶい黄橙色。	断面半円の隆帯を貼付して口縁部に文様帯を区画する。胴部には平行沈線を１条、横位に施文する。	
6	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	腕状の張り出しを持つ隆帯を貼付させた後、篦状工具による沈線を斜位に施文する。	
7	深鉢	口縁部片	石英、金雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	隆帯を貼付して口縁部に渦巻き文とともに文様帯を区画する。区画内には原体ＬＲの単節斜縄文を横位に施文し、隆帯に沿って沈線を施す。	
8	深鉢	胴部片	石英、金雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄橙色。	円環状突起と輪積状突起を貼付した後、半隆起線を弧状に施文する。	
9	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。灰褐色。	断面半円の隆帯を３条巡らした後、棒状の突起を貼付する。この隆帯の間には半裁竹管による連続する刺突文を施文する。胴部には半裁竹管状工具による平行沈線を縦位に施文する。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
10	深鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	山型の突起から２条１単位の隆帯を貼付する。上位には方形の文様帯が区画され、区画内には沈線を縦位に施文する。下位には渦巻き状の沈線が施文される。	
11	浅鉢	口縁部片	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	口唇部は内外に肥厚し、上側に面を持つ。この面上には2条の沈線とそれを繋ぐような押圧文が施文される。外面には赤色塗彩の痕跡が認められる。	
12	深鉢	口縁部片	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	無文の口縁部は磨きが施される。頸部には蛇行する隆帯を貼付した後、隆帯上の一部に円形の押圧文を施文する。	
13	深鉢	口縁部突起	金雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	スタンプ状の突起で、上面には沈線を渦巻き状に施文する。外面には綾杉状の沈線と縦位の沈線を施文する。	
14	深鉢	胴下部	砂粒をやや多く含む。普通。赤褐色。	樽型の器形で、器面が荒れて文様の確認が困難だが、2条1単位の沈線を垂下させる。	
15	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	断面半円の隆帯を貼付して口縁部に文様帯を区画する。区画の内部は無文と思われる。５と同一個体か。	
16	深鉢	口縁部片	石英、黒雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	横位の条線を施文した後、口唇部には瘤状の突起を貼付し、その下位には棒状の突起を貼付する。	諸磯ｃ式か
17	深鉢	口縁部突起	砂粒を多く含む。良好。にぶい褐色。	透かし穴を持つ角状の突起。外面には沈線で腕骨文を描出する。	
18	浅鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	２条１単位の隆帯を蕨手状に貼付し、それに沿って円形の刺突文を施文する。	
19	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	３条１単位による腕骨文を横位に施文し、そこから隆帯を１条垂下させる。胴部には沈線で文様を描出する。	
20	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。明褐色。	隆帯を貼付して文様を描出した後、沈線と交互刺突文を施文する。	

19区41号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(g)	石　材	備　考
21	石鏃	完	18	12.5	2	0.3	黒曜石	
22	石鏃	完	27.5	17.5	5	1.9	細粒輝石安山岩	
23	石鏃	完	17.5	15.5	4	0.7	黒曜石	
24	石鏃	先端部欠	20.5	14	4	1.2	チャート	
25	石鏃	先端部欠	14.5	18	3.5	0.8	黒曜石	
26	石鏃	基部欠	12	8	2.5	0.2	黒曜石	
27	石鏃	－	20.5	17	7.5	2.2	黒曜石	未製品か
28	石鏃	基部・先端部欠	17	16.5	3.5	0.7	黒曜石	
29	石鏃	基部欠	12.5	9.5	2.5	0.2	黒曜石	
30	ドリル	基部欠か	25	8.5	3	0.9	黒曜石	

19区42号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁部片	石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	口唇部は内側に巻き込むように湾曲する。頸部に断面半円の隆帯を巡らす。	
2	深鉢	口縁部片	石英を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	波状口縁の波頂部。２条１単位の隆帯を蕨手状、腕骨状に貼付した後、棒状工具による沈線を施文する。口唇部は内折する。	
3	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	口縁は外反する。断面台形の隆帯を鋸歯状に貼付した後、棒状工具による沈線を縦位に施文し、篦状工具による刻みを付す。	
4	深鉢	口縁部片	白色鉱物粒を含む細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	やや内彎する口縁。篦状工具による沈線を矢羽状に施文した後、棒状工具による沈線を３条横位に施文する。	
5	深鉢	口縁部片	金雲母を含む砂粒を多く含む。良好。褐色。	外反する口縁の下位に横位の押し引き文を２条巡らせた後、斜位の押し引き文を２条施文する。	
6	深鉢	口縁部片	金雲母を含む砂粒を多く含む。良好。にぶい褐色。	口唇部の直下に押し引き文を２条、横位に施文する。	
7	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	隆帯を貼付して蕨手状の文様を描出した後、やや湾曲する沈線を施文する。	
8	深鉢	口縁部把手	石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。明褐色。	波状口縁の波頂部に付く橋状の把手。把手上には楕円形の押圧文が施され、左右には沈線を同心円状に施文する。	
9	深鉢	胴部片	金雲母を含む砂粒をやや多く含む。普通。赤褐色。	撚り紐状の突起を貼付した後、棒状工具による沈線と刺突文を施文する。	
10	深鉢	胴部片	白色鉱物粒を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、棒状工具による沈線を横位に施文する。内外面とも赤色塗彩が施されていたと思われる。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
11	浅鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	棒状工具による沈線を施文した後、沈線の上位には同様の工具による交互刺突文を、下位には連続する刺突文を施文する。	
12	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を方向を変えて施文した後、半裁竹管状工具による平行沈線を横位に施文する。	
13	深鉢	胴部片	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	原体Ｒの撚糸文を縦位に施文した後、断面台形の低い隆帯をＵ字状に貼付する。	
14	深鉢	口縁部片	石英、金雲母を含む細砂粒をやや多く含む。普通。暗褐色。	波状口縁を呈するものと思われる。隆帯を渦巻き状に貼付した後、沈線と円形の刺突文を施文する。	

19区42号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(g)	石　材	備　考
15	石鏃	一部欠	14	10	4	0.4	黒曜石	
16	石鏃	先端部欠	17.5	19	6.5	2.2	黒曜石	
17	石鏃	先端部欠	13	14	3.5	0.6	黒曜石	
18	石鏃	基部欠	23	15.5	4	1.1	黒曜石	
19	石鏃	基部・先端部欠	21	13.5	5	1.2	黒曜石	
20	石鏃	完	19.5	13	4	0.6	黒曜石	
21	石鏃	完か	18	11	4	0.6	黒曜石	
22	打斧	基部欠	134	56	21.5	175.1	粗粒輝石安山岩	
23	磨石	完か	405	200	105	9300	粗粒輝石安山岩	

19区43号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁～胴下部1/3 推定口径21．0	小礫を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。	口縁部には断面半円の隆帯によって渦巻き文と楕円形の文様帯を区画する。区画内には原体ＬＲの単節斜縄文を充填する。胴部は器面が荒れて文様の確認が困難であるが、原体ＬＲと思われる単節斜縄文を縦位に施文した後、頸部には２条１単位の沈線を巡らし、胴部には腕骨文および蛇行する沈線を垂下させる。	
2	深鉢	口縁部片	金雲母、石英を含む砂粒を多く含む。良好。黒褐色。	口縁は波状を呈するものと思われる。橋状の把手が付く断面三角の隆帯を巡らした後、円形の刺突文で文様を描出する。	
3	深鉢	口縁部片	砂粒を多く含む。普通。暗褐色。	口唇部は内側に段を持つ。断面三角の隆帯を１条巡らす。	
4	深鉢	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。普通。明赤褐色。	隆帯を貼付して、口縁部に文様帯と渦巻き文を描出する。文様帯の区画内は器面が剥落して文様は不明。	
5	深鉢	胴部片	金雲母を含む細砂粒を少量含む。普通。明赤褐色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、２条１単位の細い沈線を垂下させる。	
6	深鉢	胴部片	黒色鉱物粒を含む細砂粒を少量含む。良好。橙色。	断面三角の隆帯の上に棒状工具で矢羽状の刻みを付す。	
7	浅鉢	胴部片	白色鉱物粒を含む砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	浅鉢の屈曲部であろう。沈線で文様帯を区画し、区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を施文する。	
8	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒を多く含む。普通。褐色。	棒状工具による沈線を縦位に施文する。	
9	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒を多く含む。普通。明赤褐色。	３条１単位の隆帯による腕骨文を垂下させた後、沈線を斜位に施文し、１条の沈線を垂下させる。	
10	深鉢	胴部片	白色鉱物粒を含む砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	断面半円の隆帯を巡らした後、原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文し、細沈線を垂下させる。	
11	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。普通。明赤褐色。	断面半円の隆帯と半裁竹管による平行沈線を垂下させる。	
12	深鉢	口縁部片	金雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	口唇部は小さく外反し、角頭状を呈する。口縁部の下位に２条１単位の押し引き文を横位に施文した後、同様の押し引き文を縦位に施文する。	
13	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	丁寧な磨きが施され、内面には赤色塗彩の痕跡が明瞭に残る。	
14	深鉢	口縁部片	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。橙色。	無文の口縁部の下位に沈線が１条巡る。内面に赤色塗彩の痕跡が認められる。	

19区43号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(g)	石　材	備　考
15	石鏃	基部欠	17.5	10	4	0.5	細粒輝石安山岩	
16	スクレイパー	完か	59.5	49.5	18.5	53.9	頁岩	

19区46号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	胴部片	石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。普通。暗赤褐色。	断面半円の隆帯を弧状に貼付した後、半裁竹管状工具による平行沈線をそれに沿って施文する。	
2	深鉢	胴部片	白色鉱物粒を含む砂粒をやや多く含む。普通。暗褐色。	刻みの付された断面半円の隆帯を貼付した後、棒状工具による沈線を横位に施文する。	
3	浅鉢？	胴部片	炭化したような黒色鉱物粒を含む細砂粒を少量含む。良好。橙色。	鋭い稜を持つ屈曲部。沈線が２条垂下される。	
4	深鉢	口縁部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	角頭状を呈する口唇部の下位に、沈線が１条巡る。	
5	深鉢	口縁部突起か	白色鉱物粒を含む砂粒をやや多く含む。普通。明赤褐色。	舌状の口縁部突起と思われる。外面は鰭状の突起に隆帯が２条貼付される。内面には断面台形の低い隆帯を円形に貼付する。	
6	深鉢	口縁部片	黒雲母を含む砂粒をやや多く含む。普通。明赤褐色。	細い沈線を縦位に施文した後、断面半円の隆帯を渦巻き状に貼付する。	
7	深鉢	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。普通。暗赤褐色。	口唇部の下位に隆帯を向かい合わせの弧状に貼付する。	
8	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒を多く含む。普通。明赤褐色。	リボン状の突起を貼付する。	
9	深鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、隆帯を貼付して文様を描出する。頸部には刻みの付された隆帯を１条巡らす。	
10	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。	２条の隆帯を横位に貼付した後、原体Ｒの撚糸文を縦位に施文する。	
11	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。良好。赤褐色。内面は黒色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線で楕円形のモチーフを描出する。	

19区46号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(g)	石　材	備　考
12	スクレイパー	完	20	15.5	8	1.9	黒曜石	
13	石鏃	先端部欠	17	19	5	1.3	黒曜石	
14	ドリル	完	45	11	5.5	2.7	粗粒輝石安山岩	
15	磨斧？	刃部欠	85	50	35	239.6	変質安山岩	

19区47号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	台付鉢	台部 底径　12.3	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	外径２～３㎝の透かし穴を４単位配する。原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文する。	
2	深鉢	胴部片	砂粒を多く含む。普通。明黄褐色。	棒状工具による沈線を斜位に施文した後、頸部に隆帯を1条巡らせ、そこから押圧文を施した隆帯を垂下させる。	
3	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい黄橙色。	頸部に沈線を3条巡らす。	
4	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒を多く含む。普通。赤褐色。	刻みを付した隆帯を弧状に貼付した後、隆帯の内側と隆帯に沿って沈線を施文する。	
5	深鉢	胴部片	金雲母を含む砂粒をやや多く含む。普通。赤褐色。	沈線を渦巻き状に施文する。	

19区47号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(g)	石　材	備　考
6	石鏃	先端部欠	15.5	12.5	4	0.6	黒曜石	
7	石鏃	先端部欠	18	15	5	1.1	黒曜石	
8	磨石	完	71	54	40	222.9	粗粒輝石安山岩	
9	磨石	一部欠	116	73	58	602.5	デイサイト	
10	石皿	破片	134	105	44	532.5	凝灰岩	
11	磨石	完	662	192	150	30040	粗粒輝石安山岩	

19区51号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	頸部に断面三角の隆帯を２条巡らした後、棒状工具による沈線を縦位に施文する。	
2	深鉢	口縁部片	小礫を含む細砂粒を少量含む。普通。オリーブ黒色。	小さく波状口縁を呈するものと思われる。口唇部に沈線を１条巡らし、その下位には原体不明の縄文を施文する。	
3	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。普通。明赤褐色。	棒状の突起を付した後、沈線を斜位に施文する。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
4	深鉢	口縁部突起	金雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	粘土紐を渦巻き状に丸め、それを２つ貼り合わせて舌状の突起を作り出す。	
5	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。普通。褐色。	口縁部文様帯の一部と思われる。区画内には縄文が施文されるが、原体の種類は不明。	
6	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
7	深鉢	胴部片	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄橙色。	沈線を斜位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
8	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	沈線で文様を区画し区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を施文する。	
9	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	浅い沈線を斜位に施文する。	
10	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線を弧状に施文する。	
11	深鉢	口縁～胴下部 口径　36.5	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	断面台形の隆帯と沈線で口縁部に文様帯を区画し、区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を施文する。胴部も同じ原体を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	

19区51号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(g)	石　材	備　考
12	磨石	完	105	78	33	422.4	粗粒輝石安山岩	

29区１号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	浅鉢	屈曲部破片 推定最大径　41.0	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	隆帯と沈線で、端部が渦巻き状になる文様帯を区画し、区画内には棒状工具による沈線を縦位に施文する。その後、区画に沿った沈線を施文する。	
2	深鉢	底部片 推定底径　11.5	砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	無文の底部。外面は磨きが施され、内面には炭化物が付着する。	
3	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文で文様を描出する。	
4	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	断面台形の隆帯を貼付する。口縁部文様帯の一部と思われる。	
5	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。灰黄褐色。	口縁部が外反する器形か。頸部から棒状工具による沈線を斜位に施文する。	
6	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。灰黄褐色。	棒状工具による沈線を斜位に施文する。	
7	深鉢	口縁部片	石英を含む砂粒を少量含む。良好。灰黄褐色だが、表面は黒斑。	無文の口縁部の下位に沈線が１条巡る。	
8	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	無文だが、縦方向に指で撫でたような痕跡が認められる。	
9	深鉢	胴部片	金雲母と石英を含む細砂粒をやや多く含む。にぶい赤褐色。	指で撫でたような浅い凹線が縦位に施文される。	

29区２号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	胴部	細砂粒を少量含む。良好。橙色。	炉体土器のため、上部は２次的に被熱する。上位と下位は打ち欠いているものと思われる。断面半円の隆帯を大きく弧状に貼付し、胴部を４分割する。それぞれの区画の中には隆帯を蕨手状、あるいは渦巻き状に貼付する。その後、隆帯の間に棒状工具による短沈線を施文する。	
2	深鉢	口縁部片	金雲母、石英を含む砂粒を多く含む。良好。にぶい赤褐色。	波状口縁を呈するものと思われる。断面三角の隆帯を貼付して大柄の渦巻き文を描出するとともに、口縁に２条の隆帯を巡らす。その隆帯の下位には交互刺突文を施文し、渦巻き文の中と交互刺突文の下位には棒状工具による沈線を施文する。	
3	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	無文の口縁部の下位に断面三角の隆帯を∩字状に貼付した後、棒状工具による沈線を斜位に施文する。	
4	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	断面台形の隆帯を貼付した後、原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文し、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
5	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	断面半円の隆帯を弧状に貼付した後、隆帯に沿って沈線を施文する。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
6	深鉢	胴部片	金雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を、間隔を開けて縦位に施文する。	
7	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	細い沈線を斜位に施文する。	
8	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。灰褐色。	細い沈線を斜位に施文する。７と同一個体。	
9	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。普通。明赤褐色。	原体Ｒの撚糸文を縦位に施文する。	
10	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。普通。赤褐色。	横位の沈線を施文した後、沈線を斜位に施文する。	
11	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文する。	
12	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	波状口縁の波頂部か。垂下する沈線と斜位の沈線が施文される。	

29区12号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	鉢形土器	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。黒色。	口縁はほぼ直立する。隆帯を貼付して文様を描出し、頸部の隆帯に橋状把手が付くものと思われる。表面は丁寧な磨きが施され、一部は光沢を持つ。内面には赤色塗彩の痕跡が明瞭に残る。	
2	深鉢	口縁部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	波状口縁を呈するものと思われる。無文の口唇部の下位に低い隆帯を１条巡らした後、原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文する。	
3	深鉢	口縁部片	石英を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	断面三角の隆帯を貼付して文様を区画した後、原体ＲＬの単節斜縄文を充填する。その後、隆帯に沿って磨り消しを施す。	
4	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、∩型の磨り消し文とそれに沿った沈線を施文する。	
5	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、∩型の磨り消し文とそれに沿った沈線を施文する。４と同一個体と思われる。内面に炭化物付着。	
6	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	鍔状の突帯を貼付した後、棒状工具による細い沈線を施文する。突帯の端部には圧痕文が施される。	
7	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	断面台形の隆帯と沈線で楕円形の文様帯を区画し、区画内には櫛歯状工具による条線を充填する。胴下位には∩字状に文様を区画し、区画内には原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文する。	
8	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄橙色。	７と同一個体。	
9	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	断面三角の隆帯を貼付し、それに沿ってキャタピラ文を施す。その下位には原体ＲＬの単節斜縄文を横位に施文する。	
10	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。	棒状工具による沈線を縦位に施文する。	
11	深鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	押し引き文で楕円形の文様を描出する。	
12	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。普通。灰褐色。	沈線と半裁竹管文を弧状に施文する。	
13	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。良好。褐灰色。	口縁は小さく波状を呈するものと思われる。波頂部には隆帯を貼付して文様を描出した後、沈線を３条巡らす。胴部には浅い沈線を斜位に施文する。	
14	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	円形の圧痕文を巡らした後、沈線で文様を描出する。	
15	深鉢	胴部片	金雲母、石英を含む細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	棒状工具による沈線を綾杉状に施文する。	
16	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。灰褐色。	棒状工具による沈線を綾杉状に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
17	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	櫛歯状工具による条線を縦位に施文する。	
18	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
19	深鉢	頸部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	屈曲部に断面三角の隆帯を貼付する。無文の胴部は磨きが施される。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
20	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	断面三角の隆帯を１条巡らした後、指撫で状の凹線を縦位に施文する。	
21	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線を垂下させる。	
22	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	２条の隆帯による腕骨文の突起部。胴部には棒状工具による沈線を斜位に施文する。	
23	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	棒状工具による沈線を綾杉状に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
24	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	隆帯を貼付して文様帯を区画する。区画内には棒状工具による沈線を縦位に施文する。	
25	深鉢	胴部片	砂粒を多く含む。普通。にぶい褐色。	一部に圧痕文を持つ隆帯を貼付して文様を描出する。	
26	浅鉢か	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。橙色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文する。内面は磨きを施す。	
27	浅鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄橙色。	沈線で文様帯を区画し、区画内には棒状工具による沈線を矢羽状に施文する。区画の端部は渦巻き状の隆帯を貼付する。	
28	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を横位に施文した後、沈線を１条巡らす。	
29	深鉢	底部片 推定底径　12.0	石英を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。	わずかに開いて立ち上がる胴部。原体Ｌの撚糸文を縦位に施文する。	
30	深鉢	胴部片	石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	棒状工具による沈線を縦位に施文する。	

29区12号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(g)	石　材	備　考
31	打斧	刃部欠か	90	51	23.5	87.4	黒色頁岩	

29区15号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	胴部片	片岩を含む砂粒をやや多く含む。普通。赤褐色。	半裁竹管文と櫛歯状工具による条線を施文する。	
2	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	断面半円の低い隆帯を垂下させた後、原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文し、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
3	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。橙色。	２と同一個体と思われる。	

29区16号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	底部一部欠 口径　18.5 器高　27.6	白色鉱物粒を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	橋状の把手が付くスタンプ形の突起が１単位付く。口縁は緩やかな波状を呈する。胴部は原体ＬＲの単節斜縄文を方向を変えて施文した後、波状、あるいは鋸歯状に磨り消す。	
2	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	口唇部に円形の刺突文と沈線を１条施す。外面は磨きを施す。	
3	深鉢	口縁部片	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	細い隆帯の間を磨り消して文様を描出する。一部に原体不明の単節斜縄文を施文する。	
4	深鉢	口縁部片	金雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。褐灰色。	一部に押し引き文を含む細い沈線を２条巡らす。	
5	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
6	深鉢	口縁部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。普通。褐灰色。	断面三角の隆帯を貼付して文様を描出する。	
7	鉢形土器	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。灰褐色。	口縁部は無文と思われる。断面三角の隆帯を貼付して文様を区画した後、原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文する。区画内には同じ原体を横位に施文する。	
8	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。灰褐色。	断面半円の隆帯を貼付した後、棒状工具による沈線を斜位に施文する。	
9	深鉢	胴部片	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。普通。褐灰色。	原体不明の単節斜縄文を施文した後、沈線で文様を描出する。	
10	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。普通。褐色。	半裁竹管状工具による平行沈線で文様を描出する。	
11	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	磨り消し文を斜位に施文した後、棒状工具による沈線を横位に２条と斜位に施文する。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
12	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	原体ＬＲの単節斜縄文を横位に施文した後、沈線で文様を描出する。	
13	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	指で撫でたと思われる凹線を斜位に施文する。	
14	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	断面台形の隆帯を２条、縦位に貼付する。内外面とも丁寧な磨きが施され、赤色塗彩を施す。	
15	浅鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄橙色。	口唇部内面に段を有する。表面は指撫で状の凹線が横位に施される。	
16	浅鉢	口縁部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄橙色。	口唇部に短沈線を縦位に施文する。緩やかな波状口縁を呈するものと思われる。	
17	浅鉢か	底部片 推定底径　6.0	細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	浅い沈線を格子状に施文する。	
18	台付土器	接合部片 接合部の推定径 10.0	金雲母、石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	断面台形の隆帯を垂下させ、沈線を縦位に施文する。接合部には沈線を１条巡らす。	
19	深鉢	胴下半～底部 底径　8.2	小礫を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい黄橙色。	器面が荒れているが、無文と思われる。底部にかすかに植物の繊維の痕跡が認められる。	

29区16号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(g)	石　材	備　考
20	磨石	完	132	114	62	1368.6	粗粒輝石安山岩	
21	石製品	完か	48	48	19	16.7	軽石	

29区19号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。良好。橙色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、磨り消し。	

29区20号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	胴上部～胴下部	石英を含む細砂粒を少量含む。良好。橙色。	円筒形の胴部から口縁は大きく開く。口縁部は断面三角の隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を充填した後、隆帯に沿って磨り消す。胴部は同じ原体を縦位に施文した後、∩形に沈線と磨り消し文を施文する。頸部には棒状工具による刺突文を巡らす。	
2	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。橙色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
3	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	断面半円の隆帯を垂下させた後、棒状工具による沈線を斜位に施文する。	
4	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。普通。明赤褐色。	屈曲部には断面台形の隆帯を貼付し、その隆帯上には斜位の刻みを付す。隆帯の上位には沈線を縦位に施文する。	
5	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	櫛歯状工具による条線を縦位に施文する。	
6	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	原体Ｒの撚糸文を縦位に施文した後、沈線を同心円状に施文する。	
7	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	原体不明の縄文を施文した後、断面半円の隆帯と沈線を垂下させる。隆帯上に楕円形の圧痕文が施される。	
8	深鉢	底部　底径　10.1	小礫を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	わずかに開いて直線的に立ち上がる底部。器面がかなり荒れる。	

29区20号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(g)	石　材	備　考
9	石製品	完か	39	38	11	5.8	軽石	
10	磨石	完	147	117	52	1112.7	粗粒輝石安山岩	

29区22号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	胴上部～底部 底径　8.0	砂粒とともに黄橙色の粘土粒を含む。良好。にぶい橙色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線をＵ形、∧形に施文し、その間を磨り消す。	
2	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。灰褐色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線で文様を区画し、区画外は磨り消す。	
3	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線を垂下させる。	
4	深鉢	胴部片	石英を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	口縁部文様帯と思われる区画の中に原体ＬＲの単節斜縄文を充填し、区画に沿って磨り消す。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
5	深鉢	口縁部片	砂粒を少量含む。普通。にぶい褐色。	口縁部には指頭痕と思われる圧痕文を巡らし、その下位には隆帯を渦巻き状に貼付する。	
6	深鉢	口縁部片	砂粒を少量含む。普通。橙色。	波状口縁を呈するものと思われる。口縁に沿って棒状工具による刺突文を巡らし、その下位には原体ＲＬの単節斜縄文を方向を変えて施文する。	
7	深鉢	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	無文の口縁部の下位に断面三角の隆帯を巡らすとともに、垂下する隆帯を貼付した後、原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文する。	
8	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	口唇部は外折する。断面三角の隆帯を渦巻き状に貼付した後、棒状工具による沈線を斜位に施文する。	
9	浅鉢か	口縁部片	黒雲母、石英を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	釣り手土器の口縁部とも思われる。口縁正面には沈線で文様が描出される。	
10	深鉢	底部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	やや外反して開く底部。縄文、磨り消し文、および垂下する沈線が施文されていたと思われる。	
11	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	櫛歯状工具による条線を斜位に施文した後、浅い沈線を∨字状に施文する。	
12	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	円形の圧痕文を施した隆帯を1条巡らす。	
13	浅鉢か	胴部片	細砂粒をわずかに含む。良好。にぶい橙色。	角棒状工具による刻みを付した後、沈線で文様を描出する。赤色塗彩の痕跡が認められる。	
14	深鉢	胴部片	石英を含む細砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	棒状工具による沈線を方形に施文する。	
15	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。灰褐色。	篦状工具による刻みを綾杉状に施文した後、沈線を垂下させる。	
16	深鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を弧状に施文する。	
17	深鉢	胴部片	石英を含む細砂粒を少量含む。良好。灰褐色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	

29区22号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(g)	石　材	備　考
18	スクレイパー	完か	143	36	11.5	60.4	黒色安山岩	
19	打斧	基部欠	65	77.5	20	126.7	細粒輝石安山岩	
20	打斧	基部欠	86.5	50	19	101	細粒輝石安山岩	
21	磨斧	基部欠か	85	57	22	218.5	蛇紋岩	
22	磨石	完	134	104	57	1325.6	粗粒輝石安山岩	

30区26号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁～胴部 推定口径　21.5	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	４単位の波状口縁。隆帯と沈線により口縁部文様帯を区画し、区画内には原体ＬＲの単節斜縄文を充填する。波頂部の下位には隆帯を渦巻き状に貼付する。胴部は原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
2	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	口縁部は無文。断面三角の隆帯を巡らし、原体１の無節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
3	鉢形土器	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	無文の口縁部の下位に、断面三角の隆帯を貼付して文様を描出する。	
4	鉢形土器	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。普通。明褐色。	無文の口縁部の下位に、断面三角の隆帯を貼付する。	
5	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	断面三角の隆帯を貼付した後、原体ＬＲの単節斜縄文を横位に施文する。	
6	深鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位および斜位に施文した後、断面台形の隆帯を貼付する。	
7	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	原体１の無節斜縄文を縦位に施文した後、断面三角の隆帯と磨り消し文を垂下させる。	
8	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	貼付した隆帯が剥落している。棒状工具による沈線を縦位あるいは斜位に施文する。	

30区27号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	底部欠 口径　35.0 残存高　45.5	砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	断面台形の隆帯と沈線で口縁部に櫛形の文様帯を５単位配する。区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を施文する。胴部は同じ原体を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
2	深鉢	口縁～胴上部 口径　35.5	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	隆帯と沈線で口縁部に文様帯を５単位配する。５単位の文様帯の内、４つまでは原体ＲＬの単節斜縄文が施文されるが、１つだけは指撫で状の整形痕が横位に残されている。胴部は８単位に分割され、６単位は櫛歯状工具による条線が縦位に施文されるが、原体ＲＬの単節斜縄文が縦位に施文した後、一部に縦位の条線が施文されている区画と、弧状の条線が施文される区画が１つずつ配される。	
3	深鉢	口縁部片	黒雲母、石英を含む砂粒をやや多く含む。普通。赤褐色。	波状口縁の波頂部。口唇部の直下に隆帯を貼付し、隆帯と口唇部の間に円形の刺突文を施文する。波頂部の下位には断面半円の隆帯を貼付して蕨手状の文様を描出する。	
4	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、隆帯と磨り消し文を垂下させる。	
5	深鉢	胴部片	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。普通。にぶい褐色。	原体不明の縄文を施文した後、沈線を弧状に施文する。	
6	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	

30区28号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	一部欠 口径　34.0 器高　53.5	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	口縁部には沈線を１条巡らす。原体ＲＬの単節斜縄文を方向を変えて施文した後、沈線を方形に施文して胴部を６分割し、端部が蕨手状を呈する沈線と磨り消し文を垂下させる。	
2	深鉢	胴上部～胴下部	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。一部には蛇行する沈線を垂下させる。	
3	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。普通。明赤褐色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
4	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。普通。にぶい橙色。	断面半円の低い隆帯を貼付した後、原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文する。	

30区28号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(g)	石　材	備　考
5	磨斧か	完か	71	41.5	20	112.9	閃緑岩	
6	打斧	刃部欠	100.5	50.4	16.5	90.9	細粒輝石安山岩	
7	凹石	完	125	108	48	883.4	細粒輝石安山岩	

30区31号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁～胴上部 口径　31.0	小礫を含む砂粒をやや多く含む。普通。淡黄色。	断面半円の隆帯と沈線で、口縁部に方形と円形の文様帯を区画し、区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を横位に施文する。胴部は原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	

30区37号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴等	時期・備考
1	深鉢	口縁部片	金雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	波状口縁の波頂部で角状を呈する。その下位に「の」字状の突起が付され、その左右には断面半円の隆帯と押し引き文によって楕円形の文様帯が区画される。口唇部には竹管状工具による刺突文を連続させる。	
2	深鉢	口縁部片	金雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	断面半円の隆帯と押し引き文によって楕円形の文様帯が区画され、区画の間には円形の粘土板を貼付する。口唇部には竹管状工具による刺突文を連続させる。１と同一個体。	
3	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。普通。灰黄色。	V字状の突起が付され、その左右に連続刺突文によって楕円形の区画がなされる。区画内には施文原体不明の文様が施文される。	
4	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	断面半円の隆帯を貼付した後、押し引き文を弧状に施文する。	
5	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。普通。暗赤褐色。	押し引き文を横位に施文する。	

30区37号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(g)	石　材	備　考
6	凹石	完	101	88	43	583.1	粗粒輝石安山岩	

第５節　土層説明

18区４号住居

Ａ－Ａ′

１：暗褐色土　しまりやや弱く軽石を含まない。やや粘性あり。小礫をわずか含む。（Ⅱ層相当か）

２：暗褐色土　しまりやや弱い。白色および褐色軽石をやや多く含む。粘性しまり弱い。（Ⅲ層相当か）

３：暗褐色土　２に比べて炭化物を含む。ブロック状に締まった土が含まれる。

４：暗褐色土　３に比べて色調明るい。しまり２より弱い。

５：暗褐色土　４より粘性強い。しまりやや強い。

Ｂ－Ｂ′　Ｄ－Ｄ′

ａ：暗褐色土　白色黄褐色軽石を含む。しまりやや強い。(炉掘り方と床土との区別できない。)

Ｈ－Ｈ′　Ｉ－Ｉ′

１：暗褐色土　しまりややなし。炭化物少量含む。白色、黄褐色軽石をやや多く含む。

２：暗褐色土　しまり１よりなし。炭化物少量含む。白色、黄褐色軽石をやや多く含む。

３：暗褐色土　しまり１よりやや強い。炭化物を１、２より多く含む。粘性は１、２に較べてやや強い。白色、黄褐色軽石１、２より少ない。

ａ：暗褐色土　白色黄褐色軽石を含む。ややしまり強い。(炉、掘り方と床土との区別はできない。)

Ｊ－Ｊ′

１：暗褐色土　白色、黄褐色軽石を少量含む。しまりやや強い。

２：暗褐色土　１に加えて地山砂質土を含む。しまりやや強い。

３：暗褐色土　１と似るが炭化物少量含まれる。しまりやや弱い。

４：暗褐色土　３より軽石の割合が少ない。しまりやや弱い。３よりも色調やや暗い。

Ｋ－Ｋ′

１：暗褐色土　５㎜大の小礫をわずかに含む。均質。黄褐、白色の軽石を少量含む。しまり強い。(埋甕内は分層できない。)

２：暗褐色土　１と同様で白色軽石の混ざりやや多い。

18区５号住居

Ａ－Ａ′　Ｆ－Ｆ′

１：暗褐色土　ややしまりあり。軽石をほとんど含まない。砂礫をわずか含む。

Ｆ－Ｆ′

１：暗褐色土　ややしまりあり。軽石をほとんど含まない。砂礫をわずか含む。

18区８号住居

Ｆ－Ｆ′

１：暗黒褐色土　しまりややなし。わずかに白色軽石を含む。

Ｈ－Ｈ′　Ｉ－Ｉ′

１：暗褐色土　しまりを欠く。わずかに軽石を含み不均質。

２：暗褐色土　しまりが強く、軽石、炭化物を多く含む。黄褐色軽石が特に多い。

３：暗褐色土　２に加えてかなりしまりが強く、炭化粒の大粒を含む。しまりは住居床面より強い。

４：暗褐色土　しまりは２、３に比べて弱い。白色、灰色軽石をわずかに含む。(土器は炉使用面よりかなり下部に埋設されていると考えられる。)

Ｊ－Ｊ′

１：暗褐色土　しまりやや弱く、均質。軽石混入なし。

２：暗褐色土　１より色調やや暗い。軽石混入せず。

３：暗褐色土　１、２に比べて黄褐色軽石を多く含

含む。

18区17号住居

A－A′

1：暗褐色土　石粒（φ３㎜）を少量含む。しまり低い。粘性低い。

2：暗褐色土　1よりも色調暗い。サラサラした土。

B－B′

1：暗褐色土　炭化物粒子少量含む。ローム土を少量含む。

F－F′　G－G′

1：暗褐色土　赤褐色微石粒を少量含む。しまり弱くサラサラした土。

2：暗褐色土　1よりやや色調明るい。

H－H′

1：暗黄褐色土　赤褐色石粒を少量含む。

2：暗褐色土　石粒（φ２～５㎜）を多量に含む。サラサラした砂質の層。

3：暗褐色土　1より色調暗い。

I－I′　K－K′

1：暗褐色土　白色石粒（φ１～２㎜）を少量含む。

J－J′

1：暗褐色土　黄褐色土粒子少量含む。

2：暗黄褐色土　地山のローム土を多量に含む。

18区18号住居

B－B′　K－K′

1：暗褐色土　炭化粒子と焼土粒子を少量含む。サラサラでやわらかい。

2：褐色土　やや灰色味がかった土。砂質土を混入しサラサラしてやわらかい土。

E－E′　F－F′

1：暗褐色土　白色石粒（φ１㎝）を少量含む。

H－H′

1：暗褐色土　黄褐色土粒子を多量に含む。なし。

19区１号住居

D－D′

1：淡褐色土　細粒でしまり弱い。

2：淡褐色土　1と似るがしまり良く夾雑物少ない。

3：淡褐色土　色調やや明るく細粒。

E－E′

1：暗褐色土　若干の軽石粒混入。

2：暗褐色土　1と似るが黒味が強く、やや粘性がある。

3：暗褐色土　若干の小礫含む。

4：暗褐色土　地山黄褐色土を含む。

5：暗黄褐色土　黄褐色土ブロック多く含む。

19区４号住居

A－A′

1：暗褐色土　径１㎝以下の黄色土粒を少量含む。径３㎝以下の礫を少量含む。粘性はほとんどなく、締まりは弱い。

2：暗褐色土　1に比べ径３㎝以下の礫をやや多く含む。

3：暗褐色土　1に比べ黄色土粒をやや多く含む。粘性弱く、締まり弱い。

4：暗褐色土　3に比べ締まりが強い。

B－B′

1：黒色土

2：褐色土　白い粒子が混入する。

C－C′　D－D′

1：暗褐色土　焼土粒、炭化物粒を少量含む。

2：黒褐色土　焼土粒、炭化物粒をわずかに含む。

F－F′

1：暗褐色土　粘性弱く、締まり弱い。径５㎝以下の小礫を少量含み、地山の黄褐色土粒で全体にうすく汚れる。

19区６号住居

A－A′　L－L′

1：黄褐色土　しまり強い。地山の黄褐色砂質土が黒褐色土で汚れた土に径５㎝以下の礫が充填されている。

２：黒褐色土　径１㎝以下の礫をやや多く含む。径５㎝以下の礫をわずかに含む。粘性、しまりともなし。

３：暗褐色土　径５㎝以下の礫を少量含む。締まり強い。

Ｂ－Ｂ′

１：黒褐色土　小礫、白色粒子、若干の炭化物が混入する。

２：黒褐色土　小礫、白色粒子、少量の黄色粒子を含み、１よりやや締まりあり。

Ｅ－Ｅ′

１：黒色土

２：褐色土

３：ローム混入土

Ｆ－Ｆ′　Ｈ－Ｈ′　Ｉ－Ｉ′　Ｊ－Ｊ′　Ｋ－Ｋ′

１：褐色土

Ｇ－Ｇ′

１：黒色土

２：褐色土

Ｍ－Ｍ′

１：くすんだ灰褐色土

19区７・18号住居

Ａ－Ａ′　Ｃ－Ｃ′

１：明灰褐色土

２：明褐色土炭化物と橙色鉱物粒を含む。

Ｄ－Ｄ′

１：灰黄褐色土　白色軽石粒を少量含む。

２：黄褐色土　黄褐色ローム土による貼り床。

３：淡褐色土　白色軽石粒を少量含む。

Ｅ－Ｅ′

１：暗褐色土　やや粘質。

２：淡褐色土　やや粘質。白色鉱物粒を少量含む。

Ｆ－Ｆ′

１：灰褐色土　黄褐色土を少量混入する。やや粘質。赤味のある暗褐色土。しまりはなく、粘性は弱い。径10～20㎝の礫を少量含む。

Ｃ－Ｃ′

１：暗褐色土　粘性はなく、締まり弱い。径１㎝以下の砂礫粒、径５㎝以下の地山の黄褐色砂質土ブロックを少量含む。径５㎝以下の礫をわずかに含む。

Ｆ－Ｆ′

１：全体に砂質な暗褐色土　径３㎝以下の礫を少量含む。

Ｇ－Ｇ′

１：Ｆ－Ｆ′の１に同じ

２：暗褐色土　粘性なし。締まり弱い。径１０㎝ほどの黒褐色土ブロックをやや多く含む。径１㎝以下の礫を少量含む。

Ｈ－Ｈ′

１：暗褐色土　層中の下位１／３が地山の黄褐色砂質土で汚れる。全体に砂質で粘性はなく、締まりは弱い。径５㎝ほどの礫を少量含む。

19区９号住居

住居埋没土

19区10号住居

Ｃ－Ｃ′

１：淡褐色土　締まりよく、白色鉱物粒を多く含む。

２：黄褐色土　黄褐色ローム土による貼り床。締まりはあまり強くない。

３：褐色土　やわらかく、黄褐色土のブロックを少量含む。

４：褐色土　３に近似するが、３よりも締まる。上部に黄褐色土による貼り床が確認できる。

Ｅ－Ｅ′　Ｆ－Ｆ′　Ｇ－Ｇ′　Ｈ－Ｈ′　Ｉ－Ｉ′　Ｊ－Ｊ′　Ｋ－Ｋ′

１：灰褐色土　礫多く、白色鉱物粒を少量含む。

Ｍ－Ｍ′

１：暗褐色土　炭化物含み、橙色鉱物粒少量含む。

２：暗褐色土　１に近似する。橙色鉱物粒がやや多い。

３：褐色土　　炭化物と焼土を含む。
４：暗褐色土　白色鉱物粒を少量含む。
５：赤褐色土　焼土層。
６：褐色土　焼土粒、白色鉱物粒を少量含む。
７：暗褐色土　焼土をわずかに含む。

19区16号住居

Ａ－Ａ′　Ｂ－Ｂ′　Ｃ－Ｃ′
１：黒褐色土　白色粒子を多く含む。地山に含まれる礫を含む。

19区17号住居

Ａ－Ａ′
１：黒褐色土　ぼそぼそした土で小礫を多く含む。炭化物を含む。
２：暗褐色土　粘性あり。小礫を多く含む。炭化物を少量含む。

Ｅ－Ｅ′
１：褐色土　　焼土粒をわずかに含む。焼骨が出土する。
２：暗赤褐色土　焼土層。
３：暗黄褐色土　白色鉱物粒を少量含む。やや焼けたような赤みを帯びる。
４：暗褐色土　やや粘質で、わずかに被熱している。

19区19号住居

Ａ－Ａ′
１：暗褐色土　径10㎝前後の礫をやや多く含む。粘性やや強い。しまり弱い。
２：暗褐色土　１より赤味が強い。粘性あるが１より弱く、しまり弱い。

19区23号住居

Ａ－Ａ′
１：黒褐色土　粘性なし。混入物なし。
２：黄褐色土　粘性あり。小石を少量含む。
３：黄褐色土　粘性なし。砂質土を少量含む。
４：黄色砂礫　粘性なし。
５：黄褐色土　粘性あり。混入物なし。

Ｂ－Ｂ′
１：少量の炭と焼土が検出。

Ｄ－Ｄ′
１：黄褐色土砂質土　小石が混入する。床面の土とほぼ変わらず。

19区30号住居

Ａ－Ａ′　Ｋ－Ｋ′
１：暗褐色土　白色鉱物粒を少量含む。
２：暗褐色土　白色鉱物粒を少量含む。暗黄褐色土を含む。
３：根による攪乱

19区34号住居

Ａ－Ａ′
１：暗褐色土　ややぼそぼそする。白色鉱物粒を全面に少量含む。
２：淡褐色土　やや粘質。炭化物、灰白色鉱物粒を少量含む。

Ｂ－Ｂ′　Ｃ－Ｃ′　Ｄ－Ｄ′　Ｅ－Ｅ′　Ｆ－Ｆ′　Ｇ－Ｇ′　Ｈ－Ｈ′
１：淡褐色土　しまりよく白色軽石粒を少量含む。
２：淡褐色土　軽石少なくやや粘質。炭化物をわずかに含む。

Ｉ－Ｉ′　Ｊ－Ｊ′
１：淡褐色土　軽石粒を少量含み、焼土をわずかに含む。
２：淡褐色土　締まりよく、軽石粒を少量含む。
３：明褐色土　焼土粒、炭化物１％含む。やや粘性あり。
４：明褐色土　焼土粒、炭化物１％含む。径５㎝程度の円礫をわずかに含む。
５：暗褐色土　径２㎝以下の小礫粒を多量に含む。
６：暗褐色土　３層よりもやや茶色が強く、礫が少ない。

19区35号住居

A－A′　E－E′

1：暗褐色土　柱穴１に近似するがやや暗い。

B－B′

1：暗褐色土　白色鉱物粒多く含む。しまりよい。

2：柱穴１と同じ。

C－C′

1：暗褐色土　径５～８㎝程の礫を多く含み、炭化物、白色鉱物粒を少量含む。

D－D′

1：暗褐色土　暗黄褐色土粒、炭化物を少量含む。

F－F′

1：暗褐色土　炭化物を少量含み、赤褐色土粒をわずかに含む。

2：暗褐色土　１層に比べ軟らかく、均質。内容物が少ない。

3：暗褐色土　炭化物と焼土をわずかに含む。

4：暗褐色土　３より明るい。軽石粒と白色鉱物粒をわずかに含む。

5：淡褐色土　焼土をわずかに含み粒径が細かい。

6：暗褐色土　３に似るが白色鉱物粒を少量含む。

19区41号住居

C－C′

1：暗褐色土　やや粘質で炭化物、黄褐色軽石粒、赤褐色土粒を少量含む。

D－D′　E－E′　F－F′

1：暗褐色土　白色軽石粒、黄褐色土粒をやや多く含み、しまりよい。

2：淡褐色土　焼土を少量含み、炭化物をわずかに含む。

19区42号住居

A－A′

1：明褐色土　地山よりやや暗い。軽石粒と黄褐色土粒を少量含む。

2：暗褐色土　炭化物をわずかに含む。ややぼそぼそした感じ。

3：淡褐色土　やや粘質。炭化物を少量含む。

D－D′

1：黄橙色土　焼土。しまりあり。

2：暗褐色土　焼土粒、炭化物が少量入る。

3：黒褐色土　締まりあり。径１㎜程度の小礫を少量含む。

E－E′

1：黒褐色土　ぼそぼそした土で小礫が混じる。

2：暗褐色土　焼土粒、炭化物を少量含む。

3：暗褐色土　２よりやや赤味が強い。炭化物を少量含む。

4：黄橙色土　焼土層。しまりあり。

5：暗褐色土　炭化物を少量含む。

6：黒褐色土　締まりあり。径１㎜程度の小礫を少量含む。

19区51号住居

E－E′

1：暗赤褐色土　焼土層。比熱の度合いは比較的強い。

29区１・２号住居

A－A′

1：暗褐色土　白色軽石をやや多く不規則に含む。

2：暗褐色土　白色軽石を含まない。褐色土をブロック状に含む。不均質土。

3：暗褐色土　径10㎝程度からそれ以上の礫を多く含み、色調は１、２より明るい砂礫層。

C－C′　D－D′　J－J′　K－K′

1：暗褐色土　白色軽石を含み、やや粘性あり。締まり弱い。

2：暗褐色土　１よりも色調が明るい。焼土、灰を含んでいる。

29区15号住居

A－A′　B－B′　C－C′　D－D′

1：暗褐色土　やや粘性あり。白色軽石粒を少量含

む。この層中では分層できない。
焼土は確認できない。
※炉石に煤はかなり明瞭に付着している。炉床等に焼土はまったく確認できていない。

２：暗褐色土　やや粘性あり。白色軽石粒（φ３㎜大）をやや多く含む。

29区22号住居

Ｂ－Ｂ′

１：黒色土　小礫、軽石を含む。

２：黒色土　小礫、軽石を含む。１と似るがやや黄色味を帯びる。

Ｄ－Ｄ′

１：黒色土　白色軽石粒を少量含む。

２：黒色土　１と似るが黒味強い。

３：暗褐色土　地山の黄褐色土ブロックを少量含む。

30区26号住居

Ａ－Ａ′

１：褐色土　黒味が強く暗い色調。Ⅳ層主体。炉石が抜かれた跡か。

２：褐色土　地山に見られるローム層がごくうすく焼土化した層。

30区27号住居

Ｃ－Ｃ′　Ｄ－Ｄ′　Ｅ－Ｅ′　Ｆ－Ｆ′　Ｇ－Ｇ′

１：褐色土　灰、橙色の軽石粒を含み、締まってやや固い。Ⅳ層主体の土。

２：褐色土　１に地山の砂質土が混入し、サラサラしている。

３：褐色土　１に黒褐色土のブロックが少量混入する。

４：褐色土　１の中にロームのブロックがやや多量に混入し、明るい色調。

Ｉ－Ｉ′

１：暗褐色土

２：暗褐色土と地山のブロック状混土。

30区28号住居

Ｅ－Ｅ′

１：褐色土と地山の混土

30区37号住居

Ａ－Ａ′

１：黒褐色土　白色鉱物粒、黄色鉱物粒をやや多く含む。

２：黒褐色土　白色鉱物粒、黄色鉱物粒を多く含む。１よりしまりあり。

３：黒褐色土　大粒の黄色鉱物粒を若干含む。締まり、粘性有す。

４：ロームブロック

Ｂ－Ｂ′

１：黒褐色土　黄褐色粘質土を少量含む。

２：黒褐色土　１に近似するが１より黒味が若干強い。

３：黄褐色土　黄褐色粘質土のブロック。地山に含まれるものか。

４：黄褐色土　黄褐色粘質土。

５：暗黄褐色土　黄褐色粘質土を少量含む。

報告書抄録

書名ふりがな	よこかべなかむらいせきかっこさん
書名	横壁中村遺跡（3）
副書名	八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	第5集
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	第368集
編著者名	池田政志
編集機関	財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20060228
作成法人ＩＤ	21005
郵便番号	377－8555
電話番号	0279－52－2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784－2
遺跡名ふりがな	よこかべなかむらいせき
遺跡名	横壁中村遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんあがつまぐんながのはらまちおおあざよこかべ
遺跡所在地	群馬県吾妻郡長野原町大字横壁
市町村コード	10424
遺跡番号	
北緯(日本測地系)	363210
東経(日本測地系)	1384025
北緯(世界測地系)	363221
東経(世界測地系)	1384013
調査期間	19960401－20051231
調査面積	30000
調査原因	ダム建設
種別	集落
主な時代	縄文
遺跡概要	集落－縄文-竪穴住居50-縄文土器＋石器
特記事項	縄文時代中期から後期にかけての拠点的集落

写　真　図　版

18区４号住居全景（東から）

18区４号住居遺物出土状況（北から）

18区４号住居炉全景（南から）

18区４号住居１号埋甕検出状況（西から）

18区４号住居２号埋甕検出状況（西から）

18区５号住居全景（南西から）

18区５号住居検出状況（南西から）

18区５号住居堀り方（南から）

18区５号住居１号炉検出状況（西から）

18区５号住居１号炉全景（南西から）

18区５号住居２号炉全景（北東から）

18区５号住居２号炉全景（南東から）

18区５号住居３号炉全景（南から）

18区８号住居全景（南東から）

18区８号住居内16号土坑（北から）

18区８号住居炉全景（北から）

18区８号住居１号埋甕検出状況（東から）

18区８号住居２号埋甕セクション（南から）

18区10号住居全景（東から）

18区10号住居遺物・礫出土状況（南から）

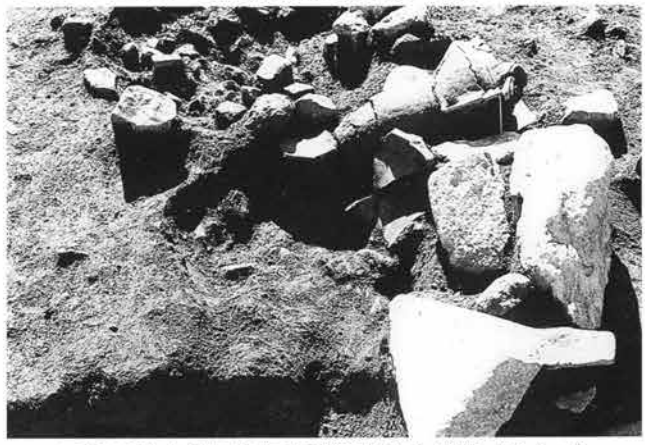
18区10号住居遺物出土状況（東から）

18区10号住居遺物出土状況（東から）

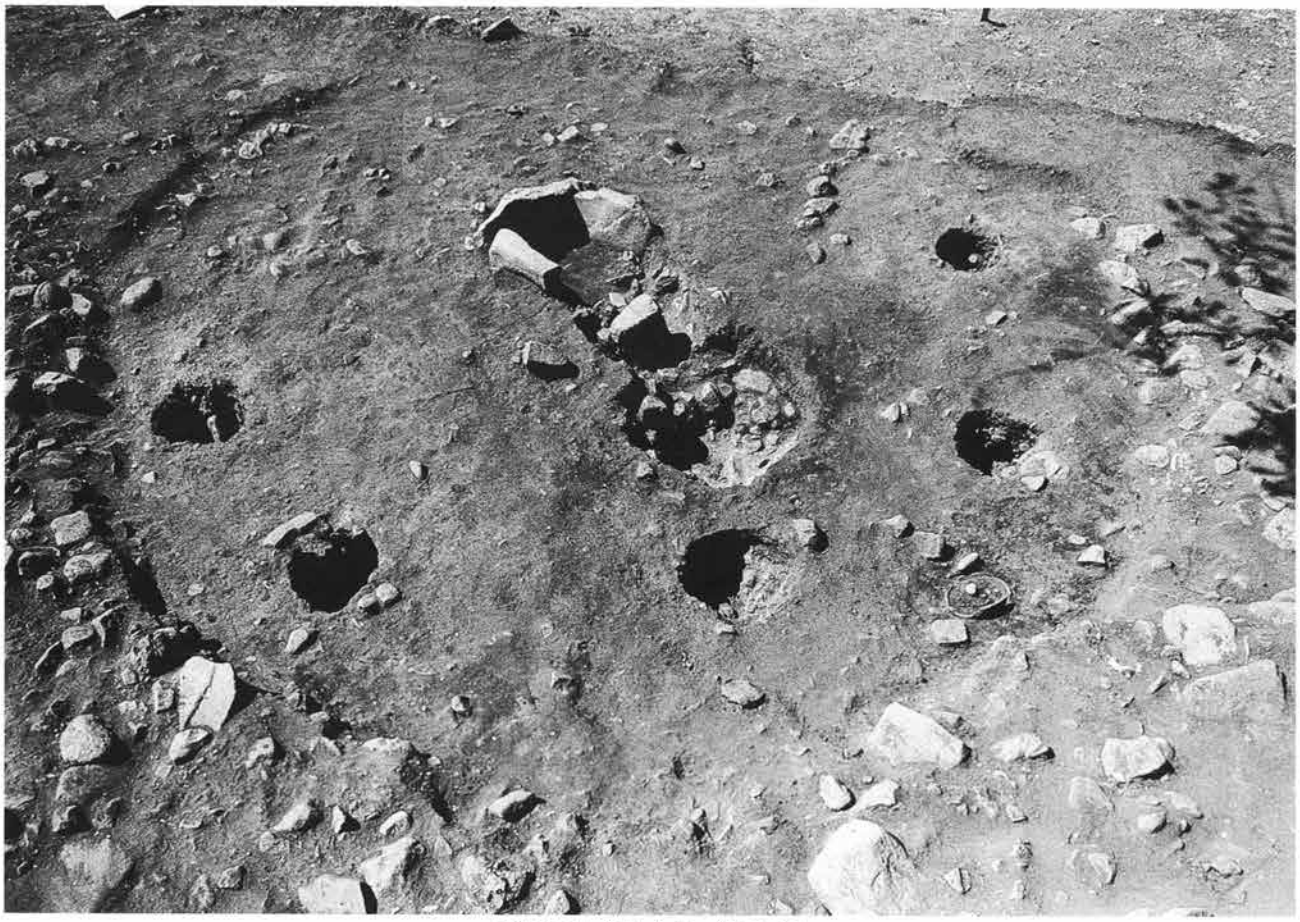
18区10号住居遺物出土状況（東から）

18区10号住居遺物出土状況（北から）

18区10号住居堀り方全景（東から）



18区10号住居炉全景及び遺物出土状況（北から）



18区17号住居全景（南から）

18区17号住居確認状況（南東から）

18区17号住居遺物出土状況（南から）

18区17号住居堀り方全景（東から）

18区17号住居堀り方全景（南西から）

18区17号住居埋設土器出土状況（西から）

18区17号住居石囲い炉（東から）

18区17号住居埋設土器出土状況（西から）

18区17号住居炉内埋甕近接（南から）

18区18号住居全景（東から）

18区18号住居遺物出土状況（南東から）

18区18号住居遺物出土状況（南東から）

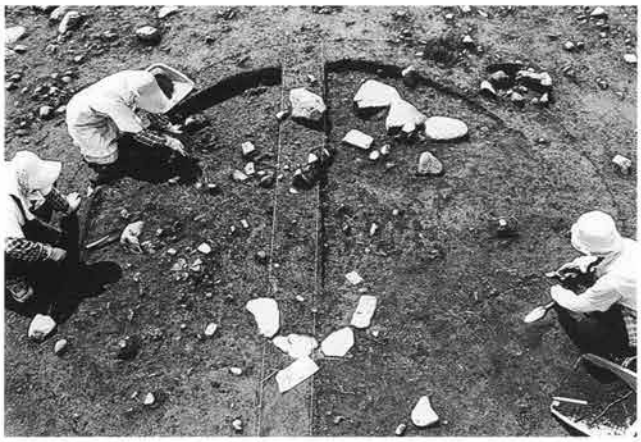
18区18号住居石囲い炉全景（東から）

18区18号住居炉堀り方全景（北から）

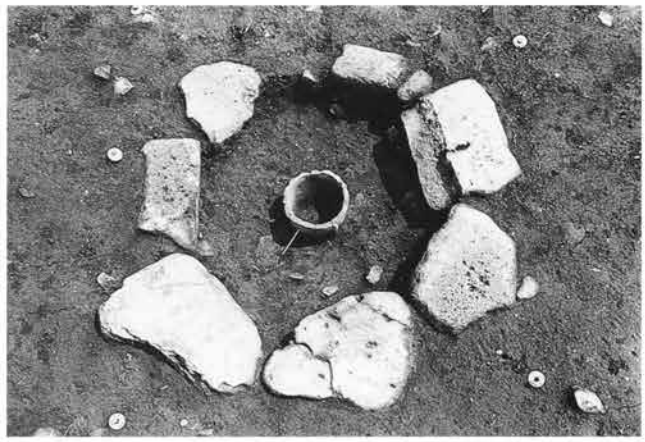
18区22号住居全景（北から）

18区22号住居礫出土状況（北から）

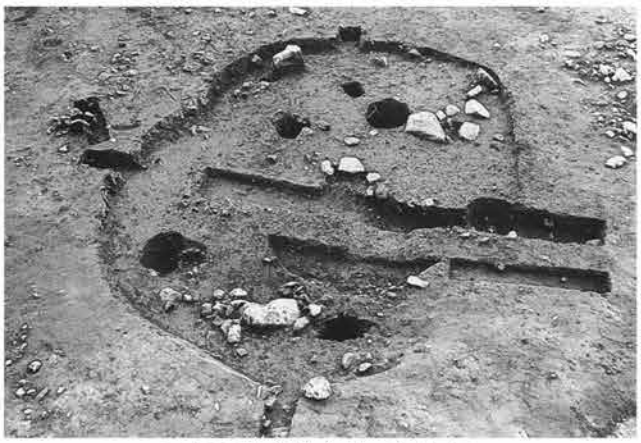
18区22号住居遺物出土状況（北から）



18区22号住居調査状況（北西から）



18区22号住居石囲い炉全景（北から）



18区23号住居全景（北から）

18区23号住居炉全景（南西から）

18区23号住居炉検出状況（南から）

18区23号住居炉全景（南西から）

19区１号住居全景（東から）

19区１号住居遺物出土状況（南から）

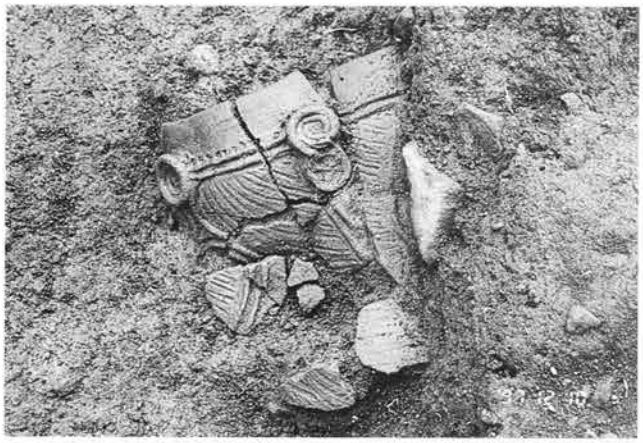
19区１号住居炉遺物出土状況（北東から）

19区４号住居全景（南から）

19区４号住居生活面（北から）

19区４号住居全景（北から）

19区４号住居礫出土状況（北から）

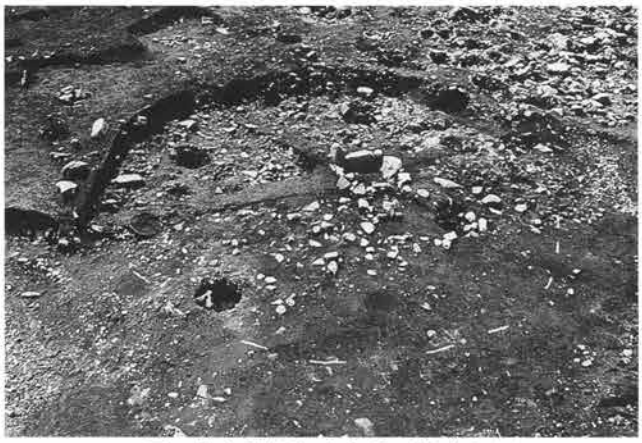


19区４号住居出土土器（北から）

19区４号住居炉全景（東から）

19区６号住居遺物出土状況（北から）

19区６号住居全景（北から）



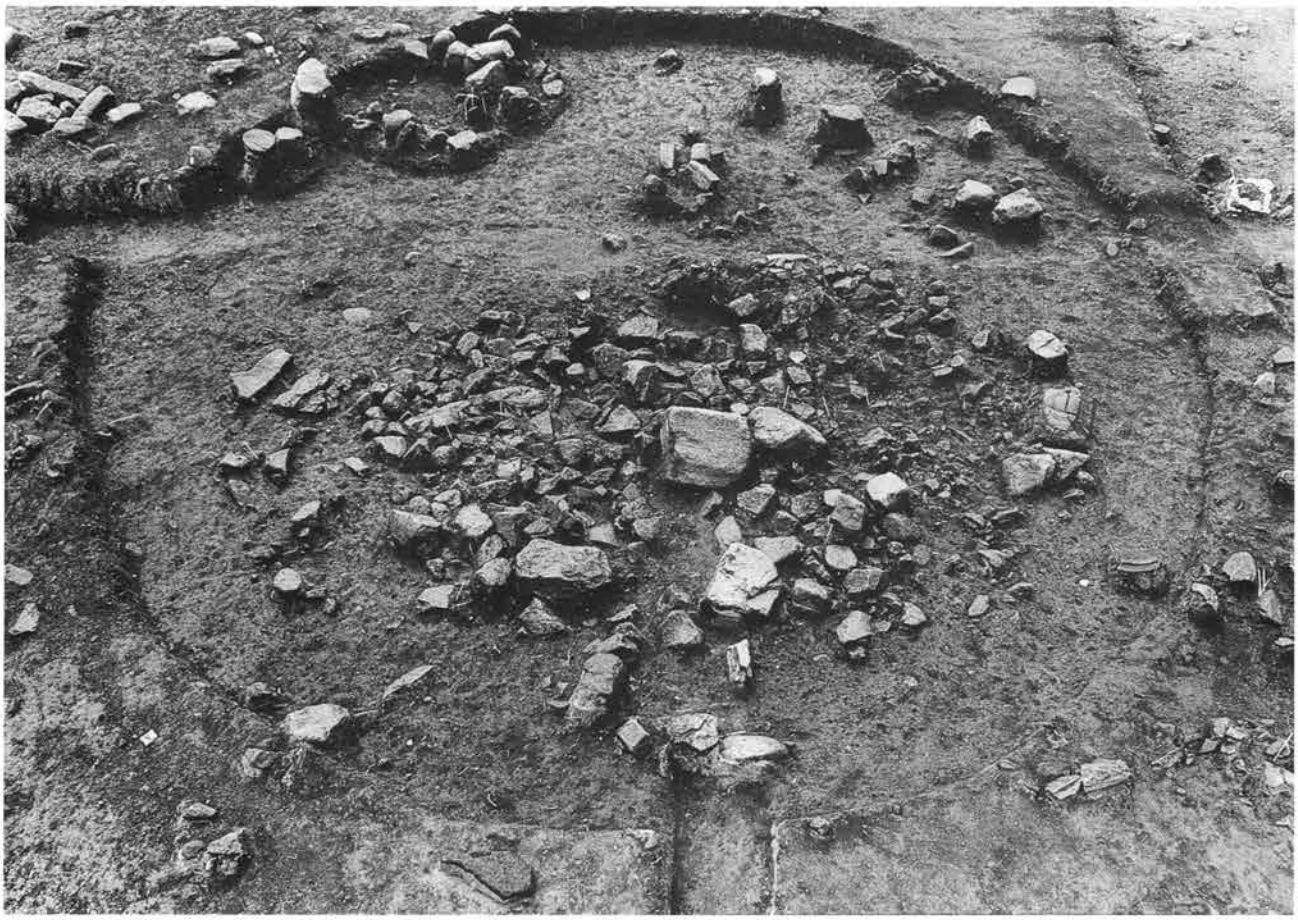
19区６号住居堀り方全景（北東から）

19区６号住居炉全景（南から）

19区６号住居埋甕セクション（北から）

19区６号住居遺物（近撮）

19区７号住居全景（南から）

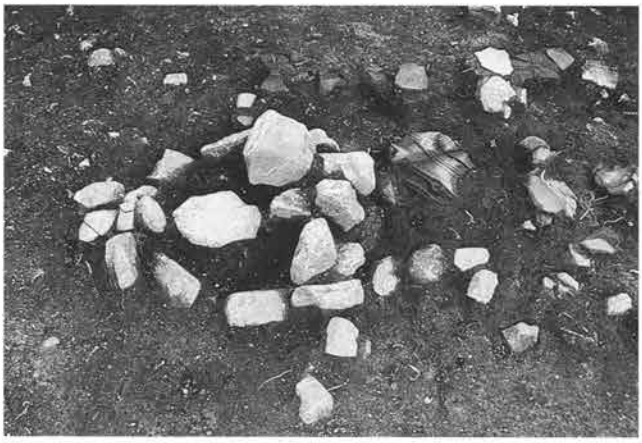


19区７号住居礫・遺物出土状況（東から）

19区７号住居遺物出土状況（西から）

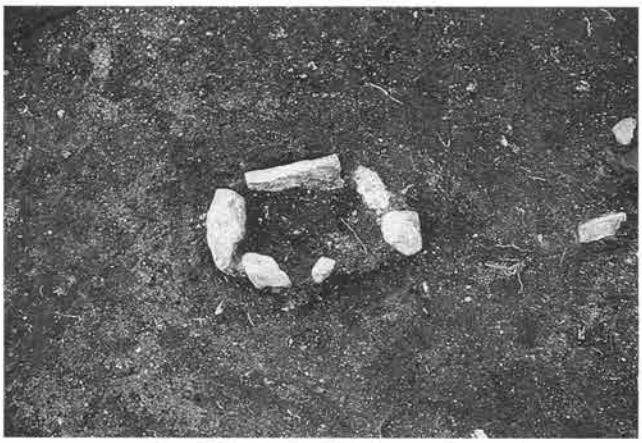
19区７号住居礫出土状況（東から）

19区７号住居遺物出土状況（南から）



19区７号住居炉確認状況（北から）

19区７号住居炉全景（南から）



19区７号住居石組検出状況（南から）

19区８号住居全景（北から）

19区８号住居炉堀り方セクションＥＰＡ（北から）

19区９号住居遺物出土状況（北から）

19区９号住居確認状況（東から）

19区９号住居遺物出土状況（北から）

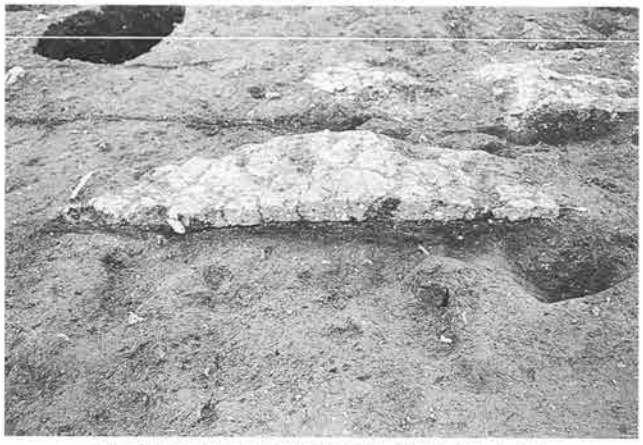
19区９号住居遺物出土状況（北から）

19区９号住居炉全景（南から）

19区10号住居生活面（北から）

19区10号住居遺物出土状況（北から）

19区10号住居遺物出土状況（南東から）



19区10号住居貼床断ち割り状況（北から）

19区10号住居炉全景（西から）

19区14号住居全景（北から）

19区14号住居遺物出土状況（北から）

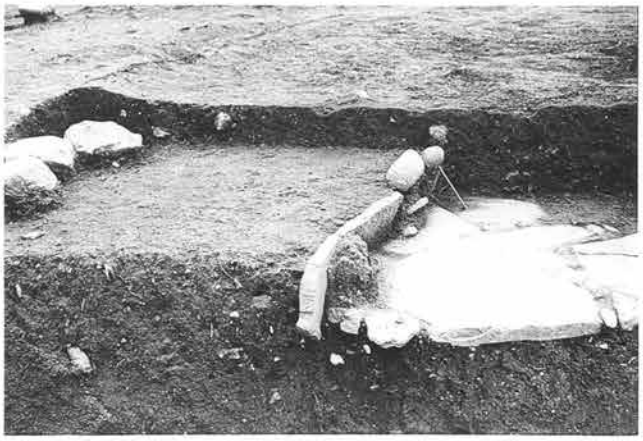
19区14号住居炉全景（北西から）

19区16号住居堀り方全景（東から）

19区16号住居炉全景（東から）

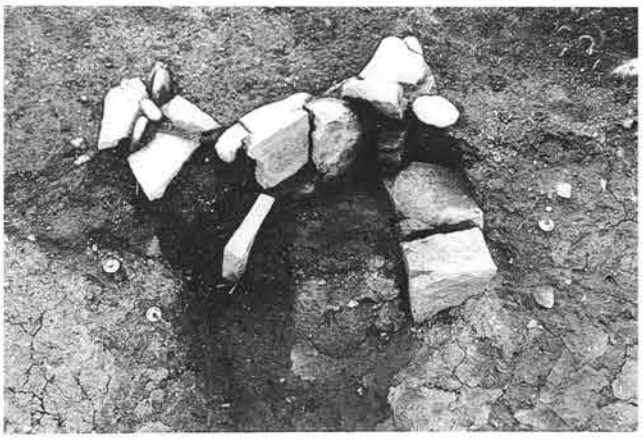
19区17号住居全景（東から）

19区17号住居配石確認状況（南東から）



19区17号住居埋没土断面（南東から）

19区17号住居壁石（東から）



19区17号住居炉全景（東から）

19区18号住居全景（北西から）

19区18号住居遺物出土状況（北から）

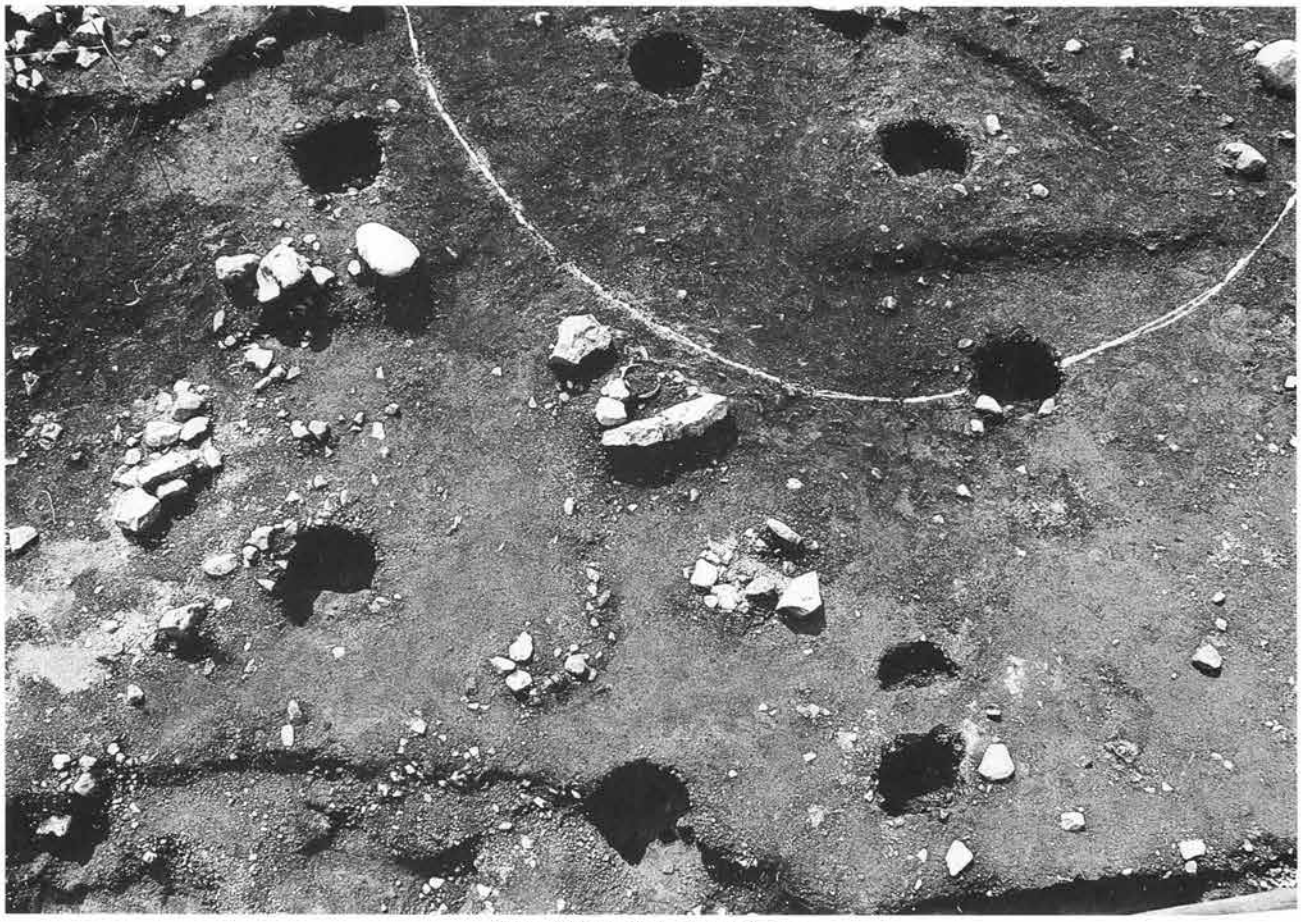
19区18号住居遺物出土状況（北から）

19区18号住居EP・Dライン貼床セクション東端（南から）

19区18号住居遺物出土状況（北から）

19区19号住居遺物出土状況（北から）

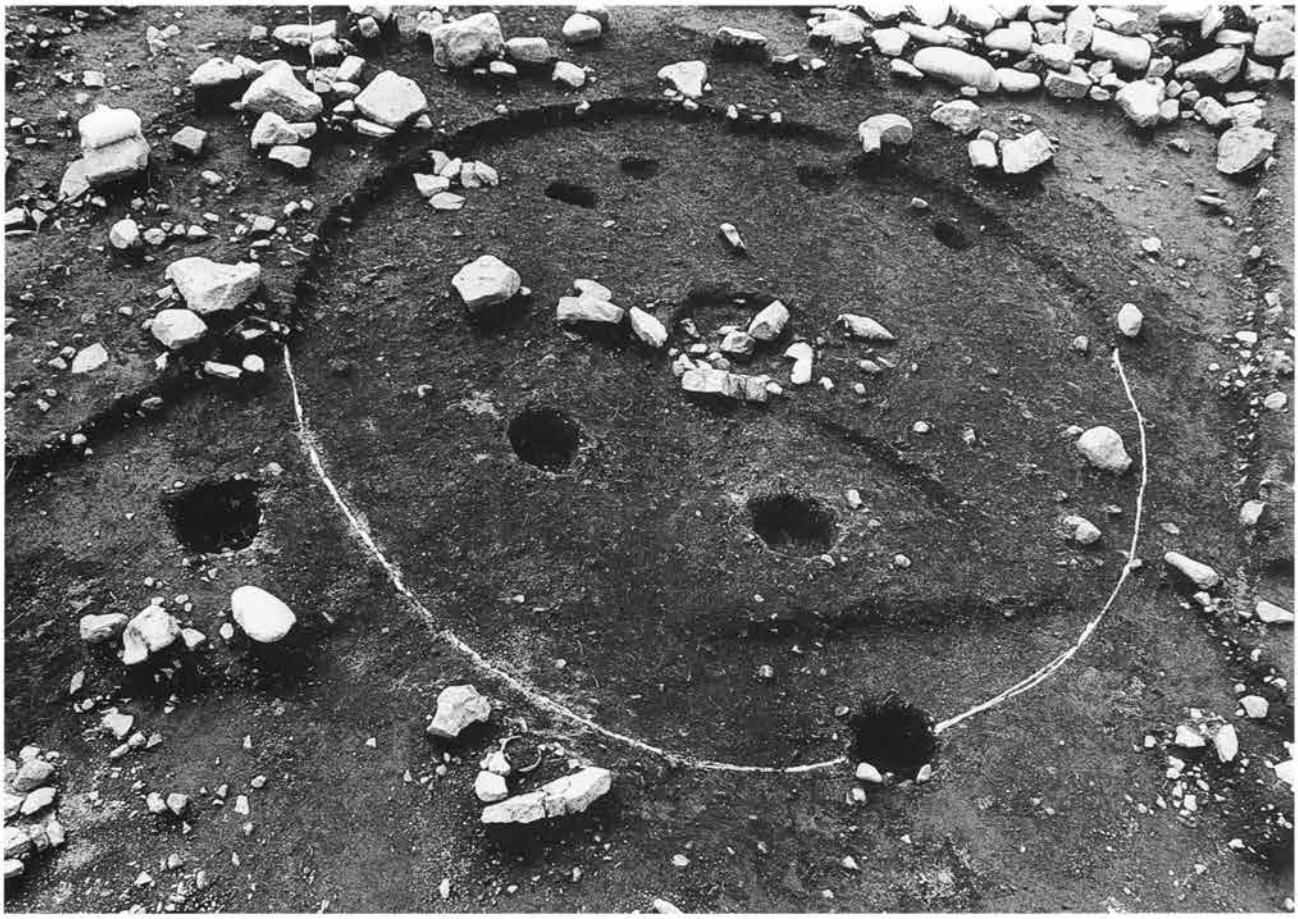
19区19号住居堀り方全景（北から）



19区20号住居全景（北から）

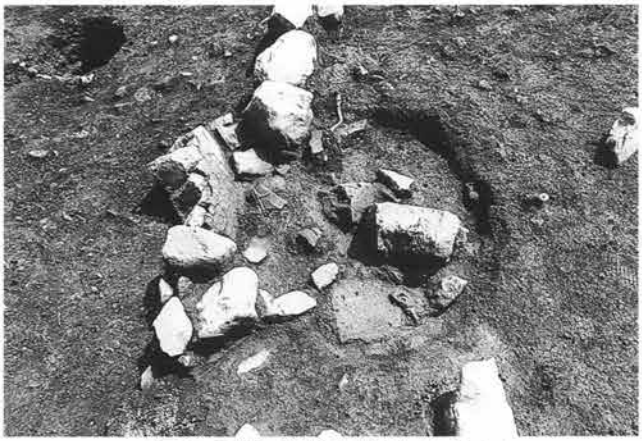
19区20号住居遺物出土状況（南から）

19区20号住居炉全景（南から）



19区22号住居全景（手前は20号住居）（北から）

19区22号住居遺物出土状況（南から）



19区22号住居炉検出状況（西から）

19区22号住居炉遺物出土状況（南から）

19区22号住居炉全景（西から）